

(様式4)

一般社団法人 薬学教育評価機構

(調 書)

基礎資料（薬学教育評価用）

(2023年5月1日現在)

星薬科大学 薬学部

「基礎資料」（様式４）作成上の注意事項

- 1 データの基準日は、記述の対象となる年度が指示されていない場合、大学が自己点検・評価を実施した年度（評価対象年度）の5月1日現在の数値を記入してください。
ただし、基礎資料3の進級・卒業状況ならびに基礎資料4の入試結果については、「草案」の提出時に未確定のデータは空欄のままかまいません。
- 2 記述に際しては、各シートの[注]、脚注を確認して、作成してください。なお、三つの方針については、煩雑さを避けるため「～ポリシー」と表記します。
- 3 各シートの表中の斜体文字の表記例は、消去して作成してください。また、各シートに付されている[注]、脚注は消去しないでください。
- 4 各表に記入する数値について小数点以下の端数が出る場合、特に指示のない限り、小数点以下第2位を四捨五入して小数点以下第1位まで表示してください。
- 5 説明を付す必要があると思われるものについては、備考欄に記述するか、欄外に大学独自の注をつけて説明を記してください。
- 6 提出形態について（印刷体とPDFファイルの作成・提出上の注意）
 - ・基本的に、ページ設定で**A4判**に作成してください。
 - ・表紙および目次を作成し、全体に通しページ番号（**基礎資料1から開始**）を付してください。
 - ・**両面印刷**して、加除が可能な体裁でファイル綴じにし、表紙と背表紙部分に「〇〇大学薬学部 基礎資料」と明記し、「自己点検・評価書」とは別冊にして提出してください。
 - ・カラー表記のあるページは、カラーで印刷してください。
 - ・PDFファイルに変換したデータを、「提出資料一覧」と「自己点検・評価書」と共に、電子メールに添付またはファイル転送サービス等により提出してください。
- 7 基礎資料7に記載の氏名・年齢・性別・学位称号・現職就任年月日は、個人情報保護の観点から、評価結果公表時には黒塗りにして当機構ホームページに掲載いたします。
調書提出時には、該当箇所（項目名以外）を黒塗りした基礎資料7を含む基礎資料全体のPDFファイルを公表用として別途作成してご提出ください。

薬学教育評価 基礎資料

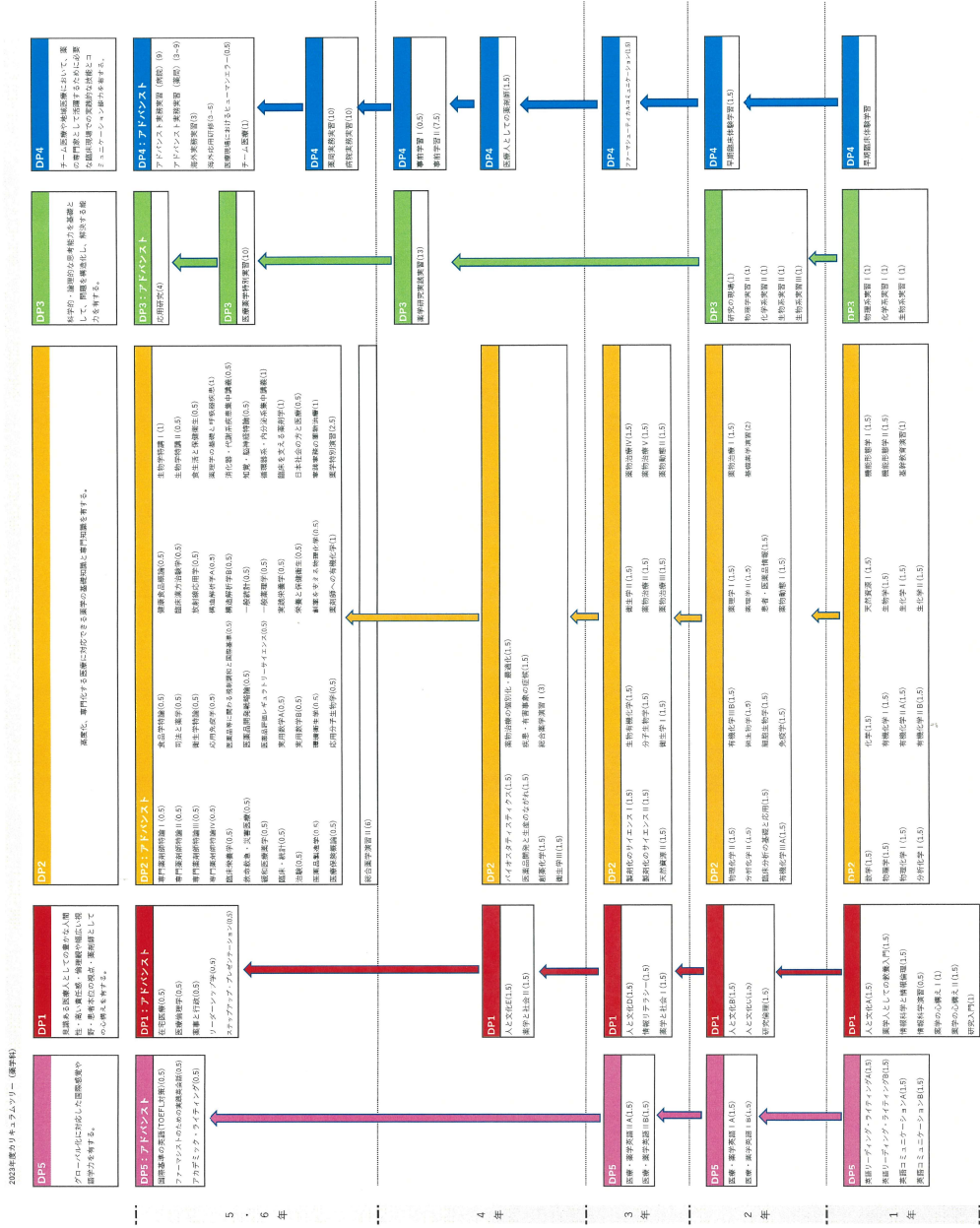
(目次)

	資料概要	項目	ページ
基礎資料 1	カリキュラム・ツリー	3	1
基礎資料 2	平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのSB0sを実施する科目	3	2
基礎資料 3	学生の修学状況 3-1 評価実施年度における学年別在籍状況 3-2 評価実施年度の直近5年間における6年制学科の学年別進級状況 3-3 評価実施年度の直近5年間における学士課程修了(卒業)状況の実態 3-4 直近6年間の定員充足状況と編入学生の動向	3	56
基礎資料 4	学生受入れ状況 (入学試験種類別)	4	60
基礎資料 5	教員・職員の数	5	61
基礎資料 6	専任教員の年齢構成・男女構成	5	62
基礎資料 7	教員の教育担当状況 (担当する授業科目と担当時間)	5	63
基礎資料 8	卒業研究の学生配属状況と研究室の広さ	7	77
基礎資料 9	専任教員の教育および研究活動の業績	5	78
基礎資料10	学生の健康管理	6	163
基礎資料11	薬学科の教育に使用する施設の状況 11-1 薬学科の教育に使用する施設の状況 11-2 卒業研究などに使用する施設	7	164
基礎資料12	学生閲覧室等の規模	7	166
基礎資料13	図書、資料の所蔵数および受け入れ状況	7	167

[注] ページ番号は、資料の枚数に応じて変更してください。

(基礎資料 1) カリキュラム・ツリー

[注] 資質・能力を卒業時に身につけるための、体系的性と科目の順次性(学年・学期進行による学習順序)がわかるような図を示してください。



(基礎資料2) 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsを実施する科目

[注] 1 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する内容の必修科目名を(シラバスの名称、選択科目の場合(選)をつける)実施学年の欄に記入してください。
 2 同じ科目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。

		該当科目				
		1年	2年	3年	4年	5年
A 基本事項						
(1) 薬剤師の使命						
【①医療人として】						
1)	常に患者・生活者の視点に立ち、医療の担い手としてふさわしい態度で行動する。(態度)	薬学の心構え I			医療人としての薬剤師	(選) 専門薬剤師特論Ⅲ 総合薬学演習Ⅱ
2)	患者・生活者の健康の回復と維持に積極的に貢献することへの責任感を持つ。(態度)	薬学の心構え I			医療人としての薬剤師	(選) 専門薬剤師特論Ⅲ 総合薬学演習Ⅱ
3)	チーム医療や地域保健・医療・福祉を担う一員としての責任を自覚し行動する。(態度)		ファーマシューティカルコミュニケーション		医療人としての薬剤師	(選) 専門薬剤師特論Ⅲ 総合薬学演習Ⅱ
4)	患者・患者家族・生活者が求める医療人について、自らの考えを述べる。(知識・態度)	薬学の心構え I			医療人としての薬剤師	(選) 専門薬剤師特論Ⅲ 総合薬学演習Ⅱ
5)	生と死を通して、生きる意味や役割について、自らの考えを述べる。(知識・態度)	薬学の心構え I			医療人としての薬剤師	(選) 専門薬剤師特論Ⅲ 総合薬学演習Ⅱ
6)	一人の人間として、自分が生きている意味や役割を問い直し、自らの考えを述べる。(知識・態度)	薬学の心構え I			医療人としての薬剤師	(選) 専門薬剤師特論Ⅲ 総合薬学演習Ⅱ
7)	様々な死生観・価値観・信条等を受容することの重要性について、自らの言葉で説明する。(知識・態度)	薬学の心構え I	(選) エコロジー論		医療人としての薬剤師	総合薬学演習Ⅱ
【②薬剤師が果たすべき役割】						
1)	患者・生活者のために薬剤師が果たすべき役割を自覚する。(態度)		ファーマシューティカルコミュニケーション			総合薬学演習Ⅱ
2)	薬剤師の活動分野(医療機関、薬局、製薬企業、衛生行政等)と社会における役割について説明できる。	薬学の心構えⅡ				総合薬学演習Ⅱ
3)	医薬品の適正使用における薬剤師の役割とファーマシューティカルケアについて説明できる。	薬学の心構えⅠ			医療人としての薬剤師	(選) 専門薬剤師特論Ⅲ 総合薬学演習Ⅱ
4)	医薬品の効果が確率的であることを説明できる。	薬学の心構えⅡ				総合薬学演習Ⅱ
5)	医薬品の創製(研究開発、生産等)における薬剤師の役割について説明できる。		薬学と社会Ⅰ		薬学と社会Ⅱ	総合薬学演習Ⅱ
6)	健康管理、疾病予防、セルフメディケーション及び公衆衛生における薬剤師の役割について説明できる。		(選) エコロジー論		薬学と社会Ⅱ	(選) 専門薬剤師特論Ⅲ 総合薬学演習Ⅱ
7)	薬物乱用防止、自殺防止における薬剤師の役割について説明できる。				医療人としての薬剤師	(選) 専門薬剤師特論Ⅲ 総合薬学演習Ⅱ
8)	現代社会が抱える課題(少子・超高齢社会等)に対して、薬剤師が果たすべき役割を提案する。(知識・態度)		ファーマシューティカルコミュニケーション			総合薬学演習Ⅱ
【③患者安全と薬害の防止】						
1)	医薬品のリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。(態度)				医療人としての薬剤師	総合薬学演習Ⅱ
2)	WHOによる患者安全の考え方について概説できる。				医療人としての薬剤師	総合薬学演習Ⅱ
3)	医療に関するリスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を説明できる。				医療人としての薬剤師	総合薬学演習Ⅱ
4)	医薬品に関わる代表的な医療過誤やインシデントの事例を列挙し、その原因と防止策を説明できる。				医療人としての薬剤師	総合薬学演習Ⅱ

	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
5) 重篤な副作用の例について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度)	薬学の心構え I					総合薬学演習 II
6) 代表的な薬害の例(サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジン等)について、その原因と社会的背景及びその後の対応を説明できる。	薬学の心構え I					総合薬学演習 II
7) 代表的な薬害について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度)	薬学の心構え I					総合薬学演習 II
【④薬学の歴史と未来】						
1) 薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割について説明できる。	薬学の心構え I					総合薬学演習 II
2) 薬物療法の歴史と、人類に与えてきた影響について説明できる。	薬学の心構え I					総合薬学演習 II
3) 薬剤師の誕生から現在までの役割の変遷の歴史(医薬分業を含む)について説明できる。				薬学と社会 II		総合薬学演習 II
4) 将来の薬剤師と薬学が果たす役割について討議する。(知識・態度)	薬学の心構え I					総合薬学演習 II
(2) 薬剤師に求められる倫理観						
【①生命倫理】						
1) 生命の尊厳について、自らの言葉で説明できる。(知識・態度)	薬学の心構え I	研究倫理		医療人としての薬剤師		(選)医療倫理学 総合薬学演習 II
2) 生命倫理の諸原則(自律尊重、無危害、善行、正義等)について説明できる。	薬学の心構え II	研究倫理				(選)医療倫理学 総合薬学演習 II
3) 生と死に関わる倫理的問題について討議し、自らの考えを述べる。(知識・態度)	薬学の心構え I	研究倫理				(選)医療倫理学 総合薬学演習 II
4) 科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。	薬学の心構え I	研究倫理				(選)医療倫理学 総合薬学演習 II
【②医療倫理】						
1) 医療倫理に関する規範(ジュネーブ宣言等)について概説できる。	薬学の心構え II	研究倫理				(選)医療倫理学 総合薬学演習 II
2) 薬剤師が遵守すべき倫理規範(薬剤師綱領、薬剤師倫理規定等)について説明できる。		研究倫理	ファーマシューティカルコミュニケーション			(選)医療倫理学 総合薬学演習 II
3) 医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。	薬学の心構え I	研究倫理				(選)医療倫理学 総合薬学演習 II
【③患者の権利】						
1) 患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。(態度)	薬学の心構え I	研究倫理				総合薬学演習 II
2) 患者の基本的権利の内容(リスボン宣言等)について説明できる。	薬学の心構え II	研究倫理				総合薬学演習 II
3) 患者の自己決定権とインフォームドコンセントの意義について説明できる。	薬学の心構え II	研究倫理				総合薬学演習 II
4) 知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。(知識・技能・態度)	薬学の心構え II	研究倫理				総合薬学演習 II
【④研究倫理】						
1) 臨床研究における倫理規範(ヘルシンキ宣言等)について説明できる。	薬学の心構え II	研究倫理				(選)医療倫理学 総合薬学演習 II
2) 「ヒトを対象とする研究において遵守すべき倫理指針」について概説できる。		研究倫理				(選)医療倫理学 総合薬学演習 II
3) 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。(態度)	薬学の心構え II	研究倫理				(選)医療倫理学 総合薬学演習 II
(3) 信頼関係の構築						
【①コミュニケーション】						
1) 意思、情報の伝達に必要な要素について説明できる。	薬学の心構え II		ファーマシューティカルコミュニケーション			(選)専門薬剤師特論 III 総合薬学演習 II
2) 言語的及び非言語的コミュニケーションについて説明できる。	薬学の心構え II		ファーマシューティカルコミュニケーション			(選)専門薬剤師特論 III 総合薬学演習 II
3) 相手の立場、文化、習慣等によって、コミュニケーションの在り方が異なることを例を挙げて説明できる。	薬学の心構え II		ファーマシューティカルコミュニケーション			(選)専門薬剤師特論 III 総合薬学演習 II

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
4) 対人関係に影響を及ぼす心理的要因について概説できる。		薬学の心構えⅡ		ファーマシューティカルビジネスコミュニケーション			(選) 専門薬剤師特論Ⅲ 総合薬学演習Ⅱ
5) 相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。(態度)		薬学の心構えⅡ		ファーマシューティカルビジネスコミュニケーション (選) エコロジー論			(選) 専門薬剤師特論Ⅲ 総合薬学演習Ⅱ
6) 自分の心理状態を意識して、他者と接することができる。(態度)		薬学の心構えⅡ		ファーマシューティカルビジネスコミュニケーション (選) エコロジー論			総合薬学演習Ⅱ
7) 適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。(技能・態度)		薬学の心構えⅡ		ファーマシューティカルビジネスコミュニケーション (選) エコロジー論			総合薬学演習Ⅱ
8) 適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。(技能・態度)		薬学の心構えⅡ		ファーマシューティカルビジネスコミュニケーション (選) エコロジー論			(選) 放射線応用学 総合薬学演習Ⅱ
9) 他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。(知識・技能・態度)		薬学の心構えⅡ		ファーマシューティカルビジネスコミュニケーション (選) エコロジー論			(選) 放射線応用学 総合薬学演習Ⅱ
【②患者・生活者と薬剤師】							
1) 患者や家族、周囲の人々の心身に及ぼす病気やケアの影響について説明できる。		薬学の心構えⅠ					総合薬学演習Ⅱ
2) 患者・家族・生活者の心身の状態や多様な価値観に配慮して行動する。(態度)		薬学の心構えⅡ		ファーマシューティカルビジネスコミュニケーション			総合薬学演習Ⅱ
(4) 多職種連携協働とチーム医療							
1) 保健、医療、福祉、介護における多職種連携協働及びチーム医療の意義について説明できる。				ファーマシューティカルビジネスコミュニケーション			(選) 専門薬剤師特論Ⅲ 総合薬学演習Ⅱ
2) 多職種連携協働に関わる薬剤師、各職種及び行政の役割について説明できる。				ファーマシューティカルビジネスコミュニケーション			(選) 専門薬剤師特論Ⅲ 総合薬学演習Ⅱ
3) チーム医療に関わる薬剤師、各職種、患者・家族の役割について説明できる。				ファーマシューティカルビジネスコミュニケーション			(選) 専門薬剤師特論Ⅲ 総合薬学演習Ⅱ
4) 自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。(態度)				ファーマシューティカルビジネスコミュニケーション			(選) 専門薬剤師特論Ⅲ 総合薬学演習Ⅱ
5) チームワークと情報共有の重要性を理解し、チームの一員としての役割を積極的に果たすように努める。(知識・態度)				ファーマシューティカルビジネスコミュニケーション			(選) 専門薬剤師特論Ⅲ 総合薬学演習Ⅱ
(5) 自己研鑽と次世代を担う人材の育成							
【①学習の在り方】							
1) 医療・福祉・医薬品に関わる問題、社会的動向、科学的動向、科学的進歩に常に目を向け、自ら課題を見出し、解決に向けて努力する。(態度)		薬学の心構えⅠ		(選) エコロジー論			総合薬学演習Ⅱ
2) 講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。(技能)		情報科学演習 研究入門 物理系実習Ⅰ 生物系実習Ⅰ	物理系実習Ⅱ 生物系実習Ⅱ				(選) 放射線応用学 総合薬学演習Ⅱ
3) 必要な情報を的確に収集し、信憑性について判断できる。(知識・技能)		情報科学演習 研究入門 物理系実習Ⅰ 生物系実習Ⅰ	物理系実習Ⅱ 生物系実習Ⅱ	(選) エコロジー論			(選) 放射線応用学 総合薬学演習Ⅱ
4) 得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。(技能)		情報科学演習 研究入門 物理系実習Ⅰ 生物系実習Ⅰ	物理系実習Ⅱ 生物系実習Ⅱ	(選) エコロジー論			(選) 放射線応用学 総合薬学演習Ⅱ
5) インターネット上の情報が持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティに配慮して活用できる。(知識・態度)		情報科学演習 情報科学演習		(選) エコロジー論			(選) 放射線応用学 総合薬学演習Ⅱ
【②薬学教育の概要】							
1) 「薬剤師として求められる基本的な資質」について、具体例を挙げて説明できる。							総合薬学演習Ⅱ
2) 薬学が総合科学であることを認識し、薬剤師の役割と学習内容を関連づける。(知識・態度)							総合薬学演習Ⅱ
【③生涯学習】							
1) 生涯にわたって自ら学習する重要性を認識し、その意義について説明できる。		薬学の心構えⅡ					総合薬学演習Ⅱ

	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
2) 生涯にわたって継続的に学習するために必要な情報を収集できる。(技能)	薬学の心構えⅡ					(選)放射線応用学 総合薬学演習Ⅱ
【④次世代を担う人材の育成】						
1) 薬剤師の使命に後輩等の育成が含まれることを認識し、ロールモデルとなるように努める。(態度)						総合薬学演習Ⅱ
2) 後輩等への適切な指導を実践する。(技能・態度)						総合薬学演習Ⅱ

1年	該当科目				6年																																																																																																																																																																																				
	2年	3年	4年	5年																																																																																																																																																																																					
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム(SBOs)																																																																																																																																																																																									
【③特別な管理を要する薬物等に係る法規範】																																																																																																																																																																																									
1) 麻薬、向精神薬、覚醒剤原料等の取扱いに係る規定について説明できる。																																																																																																																																																																																									
2) 覚醒剤、大麻、あへん、指定薬物等の乱用防止規制について概説できる。																																																																																																																																																																																									
3) 毒物劇物の取扱いに係る規定について概説できる。																																																																																																																																																																																									
(3) 社会保障制度と医療経済																																																																																																																																																																																									
【①医療、福祉、介護の制度】																																																																																																																																																																																									
1) 日本の社会保障制度の枠組みと特徴について説明できる。																																																																																																																																																																																									
2) 医療保険制度について説明できる。																																																																																																																																																																																									
3) 療養担当規則について説明できる。																																																																																																																																																																																									
4) 公費負担医療制度について概説できる。																																																																																																																																																																																									
5) 介護保険制度について概説できる。																																																																																																																																																																																									
6) 薬価基準制度について概説できる。																																																																																																																																																																																									
7) 脚利報酬、診療報酬及び介護報酬の仕組みについて概説できる。																																																																																																																																																																																									
【②医薬品と医療の経済性】																																																																																																																																																																																									
1) 医薬品の市場の特徴と流通の仕組みについて概説できる。																																																																																																																																																																																									
2) 国民医療費の動向について概説できる。																																																																																																																																																																																									
3) 後発医薬品とその役割について説明できる。																																																																																																																																																																																									
4) 薬物療法の経済評価手法について概説できる。																																																																																																																																																																																									
(4) 地域における薬局と薬剤師																																																																																																																																																																																									
【①地域における薬局の役割】																																																																																																																																																																																									
1) 地域における薬局の機能と業務について説明できる。																																																																																																																																																																																									
2) 医薬分業の意義と動向を説明できる。																																																																																																																																																																																									
3) かかりつけ薬局・薬剤師による薬学的管理の意義について説明できる。																																																																																																																																																																																									
4) セルフメディケーションにおける薬局の役割について説明できる。																																																																																																																																																																																									
5) 災害時の薬局の役割について説明できる。																																																																																																																																																																																									
6) 医療費の適正化に薬局が果たす役割について説明できる。																																																																																																																																																																																									
【②地域における保健、医療、福祉の連携体制と薬剤師】																																																																																																																																																																																									
1) 地域包括ケアの理念について説明できる。																																																																																																																																																																																									
2) 在宅医療及び在宅介護における薬局と薬剤師の役割について説明できる。																																																																																																																																																																																									
3) 学校薬剤師の役割について説明できる。																																																																																																																																																																																									
4) 地域の保健、医療、福祉において利用可能な社会資源について概説できる。																																																																																																																																																																																									
5) 地域から求められる医療提供施設、福祉施設及び行政との連携について討議する。(知識・態度)																																																																																																																																																																																									
<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:15%;"></td> <td style="width:25%;"></td> <td style="width:25%;"></td> <td style="width:25%;"></td> <td style="width:10%;"></td> <td style="width:10%;"></td> </tr> <tr> <td></td> <td>薬学と社会 I</td> <td>医療人としての薬剤師 総合薬学演習 I</td> <td></td> <td></td> <td>総合薬学演習 II</td> </tr> <tr> <td></td> <td>薬学と社会 I</td> <td>医療人としての薬剤師 総合薬学演習 I</td> <td></td> <td></td> <td>総合薬学演習 II</td> </tr> <tr> <td></td> <td>薬学と社会 I</td> <td>総合薬学演習 I</td> <td></td> <td></td> <td>総合薬学演習 II</td> </tr> <tr> <td colspan="6">(3) 社会保障制度と医療経済</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>薬学と社会 II 総合薬学演習 I</td> <td></td> <td></td> <td>総合薬学演習 II</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>薬学と社会 II 医薬品開発と生産のながれ 総合薬学演習 I</td> <td></td> <td></td> <td>総合薬学演習 II</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>薬学と社会 II 総合薬学演習 I</td> <td></td> <td></td> <td>総合薬学演習 II</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>薬学と社会 II 総合薬学演習 I</td> <td></td> <td></td> <td>総合薬学演習 II</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>薬学と社会 II 総合薬学演習 I</td> <td></td> <td></td> <td>総合薬学演習 II</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>薬学と社会 II 総合薬学演習 I</td> <td></td> <td></td> <td>総合薬学演習 II</td> </tr> <tr> <td colspan="6">【②医薬品と医療の経済性】</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>医療人としての薬剤師 薬学と社会 II 医薬品開発と生産のながれ 総合薬学演習 I</td> <td></td> <td>医療経済における薬局の役割</td> <td>総合薬学演習 II</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>薬学と社会 II 総合薬学演習 I</td> <td></td> <td></td> <td>総合薬学演習 II</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>医療人としての薬剤師 薬学と社会 II 医薬品開発と生産のながれ 総合薬学演習 I</td> <td></td> <td></td> <td>総合薬学演習 II</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>薬学と社会 II 総合薬学演習 I</td> <td></td> <td></td> <td>総合薬学演習 II</td> </tr> <tr> <td colspan="6">(4) 地域における薬局と薬剤師</td> </tr> <tr> <td colspan="6">【①地域における薬局の役割】</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>薬学と社会 II (選)アトピックスⅠ(薬物療法の経済性)</td> <td></td> <td></td> <td>総合薬学演習 II</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>薬学と社会 II (選)アトピックスⅠ(薬物療法の経済性)</td> <td></td> <td></td> <td>総合薬学演習 II</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>薬学と社会 II (選)アトピックスⅠ(薬物療法の経済性)</td> <td></td> <td></td> <td>総合薬学演習 II</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>薬学と社会 II (選)アトピックスⅠ(薬物療法の経済性)</td> <td></td> <td></td> <td>総合薬学演習 II</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>薬学と社会 II (選)アトピックスⅠ(薬物療法の経済性)</td> <td></td> <td></td> <td>総合薬学演習 II</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>薬学と社会 II (選)アトピックスⅠ(薬物療法の経済性)</td> <td></td> <td></td> <td>総合薬学演習 II</td> </tr> <tr> <td colspan="6">【②地域における保健、医療、福祉の連携体制と薬剤師】</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>薬学と社会 II (選)アトピックスⅠ(薬物療法の経済性)</td> <td></td> <td></td> <td>総合薬学演習 II</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>薬学と社会 II (選)アトピックスⅠ(薬物療法の経済性)</td> <td></td> <td></td> <td>総合薬学演習 II</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>薬学と社会 II (選)アトピックスⅠ(薬物療法の経済性)</td> <td></td> <td>物理系実習Ⅱ</td> <td>総合薬学演習 II</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>薬学と社会 II (選)アトピックスⅠ(薬物療法の経済性)</td> <td></td> <td></td> <td>総合薬学演習 II</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>薬学と社会 II (選)アトピックスⅠ(薬物療法の経済性)</td> <td></td> <td></td> <td>総合薬学演習 II</td> </tr> </table>													薬学と社会 I	医療人としての薬剤師 総合薬学演習 I			総合薬学演習 II		薬学と社会 I	医療人としての薬剤師 総合薬学演習 I			総合薬学演習 II		薬学と社会 I	総合薬学演習 I			総合薬学演習 II	(3) 社会保障制度と医療経済								薬学と社会 II 総合薬学演習 I			総合薬学演習 II			薬学と社会 II 医薬品開発と生産のながれ 総合薬学演習 I			総合薬学演習 II			薬学と社会 II 総合薬学演習 I			総合薬学演習 II			薬学と社会 II 総合薬学演習 I			総合薬学演習 II			薬学と社会 II 総合薬学演習 I			総合薬学演習 II			薬学と社会 II 総合薬学演習 I			総合薬学演習 II	【②医薬品と医療の経済性】								医療人としての薬剤師 薬学と社会 II 医薬品開発と生産のながれ 総合薬学演習 I		医療経済における薬局の役割	総合薬学演習 II			薬学と社会 II 総合薬学演習 I			総合薬学演習 II			医療人としての薬剤師 薬学と社会 II 医薬品開発と生産のながれ 総合薬学演習 I			総合薬学演習 II			薬学と社会 II 総合薬学演習 I			総合薬学演習 II	(4) 地域における薬局と薬剤師						【①地域における薬局の役割】								薬学と社会 II (選)アトピックスⅠ(薬物療法の経済性)			総合薬学演習 II			薬学と社会 II (選)アトピックスⅠ(薬物療法の経済性)			総合薬学演習 II			薬学と社会 II (選)アトピックスⅠ(薬物療法の経済性)			総合薬学演習 II			薬学と社会 II (選)アトピックスⅠ(薬物療法の経済性)			総合薬学演習 II			薬学と社会 II (選)アトピックスⅠ(薬物療法の経済性)			総合薬学演習 II			薬学と社会 II (選)アトピックスⅠ(薬物療法の経済性)			総合薬学演習 II	【②地域における保健、医療、福祉の連携体制と薬剤師】								薬学と社会 II (選)アトピックスⅠ(薬物療法の経済性)			総合薬学演習 II			薬学と社会 II (選)アトピックスⅠ(薬物療法の経済性)			総合薬学演習 II			薬学と社会 II (選)アトピックスⅠ(薬物療法の経済性)		物理系実習Ⅱ	総合薬学演習 II			薬学と社会 II (選)アトピックスⅠ(薬物療法の経済性)			総合薬学演習 II			薬学と社会 II (選)アトピックスⅠ(薬物療法の経済性)			総合薬学演習 II
	薬学と社会 I	医療人としての薬剤師 総合薬学演習 I			総合薬学演習 II																																																																																																																																																																																				
	薬学と社会 I	医療人としての薬剤師 総合薬学演習 I			総合薬学演習 II																																																																																																																																																																																				
	薬学と社会 I	総合薬学演習 I			総合薬学演習 II																																																																																																																																																																																				
(3) 社会保障制度と医療経済																																																																																																																																																																																									
		薬学と社会 II 総合薬学演習 I			総合薬学演習 II																																																																																																																																																																																				
		薬学と社会 II 医薬品開発と生産のながれ 総合薬学演習 I			総合薬学演習 II																																																																																																																																																																																				
		薬学と社会 II 総合薬学演習 I			総合薬学演習 II																																																																																																																																																																																				
		薬学と社会 II 総合薬学演習 I			総合薬学演習 II																																																																																																																																																																																				
		薬学と社会 II 総合薬学演習 I			総合薬学演習 II																																																																																																																																																																																				
		薬学と社会 II 総合薬学演習 I			総合薬学演習 II																																																																																																																																																																																				
【②医薬品と医療の経済性】																																																																																																																																																																																									
		医療人としての薬剤師 薬学と社会 II 医薬品開発と生産のながれ 総合薬学演習 I		医療経済における薬局の役割	総合薬学演習 II																																																																																																																																																																																				
		薬学と社会 II 総合薬学演習 I			総合薬学演習 II																																																																																																																																																																																				
		医療人としての薬剤師 薬学と社会 II 医薬品開発と生産のながれ 総合薬学演習 I			総合薬学演習 II																																																																																																																																																																																				
		薬学と社会 II 総合薬学演習 I			総合薬学演習 II																																																																																																																																																																																				
(4) 地域における薬局と薬剤師																																																																																																																																																																																									
【①地域における薬局の役割】																																																																																																																																																																																									
		薬学と社会 II (選)アトピックスⅠ(薬物療法の経済性)			総合薬学演習 II																																																																																																																																																																																				
		薬学と社会 II (選)アトピックスⅠ(薬物療法の経済性)			総合薬学演習 II																																																																																																																																																																																				
		薬学と社会 II (選)アトピックスⅠ(薬物療法の経済性)			総合薬学演習 II																																																																																																																																																																																				
		薬学と社会 II (選)アトピックスⅠ(薬物療法の経済性)			総合薬学演習 II																																																																																																																																																																																				
		薬学と社会 II (選)アトピックスⅠ(薬物療法の経済性)			総合薬学演習 II																																																																																																																																																																																				
		薬学と社会 II (選)アトピックスⅠ(薬物療法の経済性)			総合薬学演習 II																																																																																																																																																																																				
【②地域における保健、医療、福祉の連携体制と薬剤師】																																																																																																																																																																																									
		薬学と社会 II (選)アトピックスⅠ(薬物療法の経済性)			総合薬学演習 II																																																																																																																																																																																				
		薬学と社会 II (選)アトピックスⅠ(薬物療法の経済性)			総合薬学演習 II																																																																																																																																																																																				
		薬学と社会 II (選)アトピックスⅠ(薬物療法の経済性)		物理系実習Ⅱ	総合薬学演習 II																																																																																																																																																																																				
		薬学と社会 II (選)アトピックスⅠ(薬物療法の経済性)			総合薬学演習 II																																																																																																																																																																																				
		薬学と社会 II (選)アトピックスⅠ(薬物療法の経済性)			総合薬学演習 II																																																																																																																																																																																				

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					
該当科目					
1年	2年	3年	4年	5年	6年
C 薬学基礎					
C1 物質の物理的性質					
(1) 物質の構造					
【①化学結合】					
化学	臨床分析の基礎と応用				(選)薬師への有機化学 総合薬学演習 II
化学	臨床分析の基礎と応用 基礎薬学演習				(選)薬師への有機化学 総合薬学演習 II
化学	臨床分析の基礎と応用				(選)薬師への有機化学 総合薬学演習 II
【②分子間相互作用】					
化学	臨床分析の基礎と応用				総合薬学演習 II
化学 / 物理	臨床分析の基礎と応用				総合薬学演習 II
化学	臨床分析の基礎と応用				総合薬学演習 II
化学	臨床分析の基礎と応用				総合薬学演習 II
化学	臨床分析の基礎と応用				総合薬学演習 II
化学	臨床分析の基礎と応用				総合薬学演習 II
化学	臨床分析の基礎と応用				総合薬学演習 II
【③原子・分子の挙動】					
物理学	臨床分析の基礎と応用				総合薬学演習 II
	臨床分析の基礎と応用				総合薬学演習 II
	臨床分析の基礎と応用	(選)素粒子と放射線医療			総合薬学演習 II
	臨床分析の基礎と応用				総合薬学演習 II
	臨床分析の基礎と応用				総合薬学演習 II
	臨床分析の基礎と応用				総合薬学演習 II
【④放射線と放射能】					
物理学	臨床分析の基礎と応用 基礎薬学演習	(選)素粒子と放射線医療			(選)放射線応用学 総合薬学演習 II
物理学	臨床分析の基礎と応用 基礎薬学演習				(選)放射線応用学 総合薬学演習 II
物理学	臨床分析の基礎と応用 基礎薬学演習				(選)放射線応用学 総合薬学演習 II
物理学	臨床分析の基礎と応用 基礎薬学演習				(選)放射線応用学 総合薬学演習 II
物理学	臨床分析の基礎と応用 基礎薬学演習				(選)放射線応用学 総合薬学演習 II
(2) 物質のエネルギーと平衡					
【①気体の微視的状態と巨視的状態】					
物理化学 I	臨床分析の基礎と応用				総合薬学演習 II
物理化学 I	臨床分析の基礎と応用				総合薬学演習 II
	臨床分析の基礎と応用				総合薬学演習 II
【②エネルギー】					
物理化学 I	基礎薬学演習		総合薬学演習 I		(選)熱力学を支える物理化学 総合薬学演習 II
物理化学 I	基礎薬学演習		総合薬学演習 I		(選)熱力学を支える物理化学 総合薬学演習 II

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目				
		1年	2年	3年	4年	5年
3) 状態関数と経路関数の違いを説明できる。 4) 定圧過程、定容過程、等温過程、断熱過程を説明できる。 5) 定容熱容量および定圧熱容量について説明できる。 6) エンタルピーについて説明できる。 7) 化学変化に伴うエンタルピー変化について説明できる。	物理化学 I	基礎薬学演習			総合薬学演習 I	(選) 創薬を支える物理化学 総合薬学演習 II
	物理化学 I	基礎薬学演習			総合薬学演習 I	(選) 創薬を支える物理化学 総合薬学演習 II
	物理化学 I	基礎薬学演習			総合薬学演習 I	(選) 創薬を支える物理化学 総合薬学演習 II
	物理化学 I	基礎薬学演習			総合薬学演習 I	(選) 創薬を支える物理化学 総合薬学演習 II
	物理化学 I	基礎薬学演習			総合薬学演習 I	(選) 創薬を支える物理化学 総合薬学演習 II
	物理化学 I	基礎薬学演習			総合薬学演習 I	(選) 創薬を支える物理化学 総合薬学演習 II
	物理化学 I	基礎薬学演習			総合薬学演習 I	(選) 創薬を支える物理化学 総合薬学演習 II
【③自発的な変化】						
1) エントロピーについて説明できる。	物理化学 I	基礎薬学演習			総合薬学演習 I	(選) 創薬を支える物理化学 総合薬学演習 II
2) 熱力学第二法則について説明できる。	物理化学 I	基礎薬学演習			総合薬学演習 I	(選) 創薬を支える物理化学 総合薬学演習 II
3) 熱力学第三法則について説明できる。	物理化学 I	基礎薬学演習			総合薬学演習 I	(選) 創薬を支える物理化学 総合薬学演習 II
4) ギブズエネルギーについて説明できる。	物理化学 I	基礎薬学演習			総合薬学演習 I	(選) 創薬を支える物理化学 総合薬学演習 II
5) 熱力学関数を使い、自発的な変化の方向と程度を予測できる。	物理化学 I	基礎薬学演習			総合薬学演習 I	(選) 創薬を支える物理化学 総合薬学演習 II
【④化学平衡の原理】						
1) ギブズエネルギーと化学ポテンシャルの関係を説明できる。	物理化学 I	基礎薬学演習			総合薬学演習 I	総合薬学演習 II
2) ギブズエネルギーと平衡定数の関係を説明できる。	物理化学 I	基礎薬学演習			総合薬学演習 I	総合薬学演習 II
3) 平衡定数に及ぼす圧力および温度の影響について説明できる。	物理化学 I	基礎薬学演習			総合薬学演習 I	総合薬学演習 II
4) 共役反応の原理について説明できる。	物理化学 I	基礎薬学演習			総合薬学演習 I	総合薬学演習 II
【⑤相平衡】						
1) 相変化に伴う熱の移動について説明できる。	物理化学 I	基礎薬学演習			総合薬学演習 I	(選) 創薬を支える物理化学 総合薬学演習 II
2) 相平衡と相律について説明できる。	物理化学 I	基礎薬学演習			総合薬学演習 I	(選) 創薬を支える物理化学 総合薬学演習 II
3) 状態図について説明できる。	物理化学 I	基礎薬学演習			総合薬学演習 I	(選) 創薬を支える物理化学 総合薬学演習 II
【⑥溶液の性質】						
1) 希薄溶液の東一性について説明できる。	物理化学 II 基礎薬学演習	物理化学 II 基礎薬学演習			総合薬学演習 I	(選) 創薬を支える物理化学 総合薬学演習 II
2) 活量と活量係数について説明できる。	物理化学 II 基礎薬学演習	物理化学 II 基礎薬学演習			総合薬学演習 I	(選) 創薬を支える物理化学 総合薬学演習 II
3) 電解質溶液の電気伝導率およびモル伝導率の濃度による変化を説明できる。	物理化学 II 基礎薬学演習	物理化学 II 基礎薬学演習			総合薬学演習 I	(選) 創薬を支える物理化学 総合薬学演習 II
4) イオン強度について説明できる。	物理化学 II 基礎薬学演習	物理化学 II 基礎薬学演習			総合薬学演習 I	(選) 創薬を支える物理化学 総合薬学演習 II
【⑦電気化学】						
1) 起電力とギブズエネルギーの関係について説明できる。	物理化学 II 基礎薬学演習	物理化学 II 基礎薬学演習			総合薬学演習 I	総合薬学演習 II
2) 電極電位 (酸化還元電位) について説明できる。	物理化学 II 基礎薬学演習	物理化学 II 基礎薬学演習			総合薬学演習 I	総合薬学演習 II
(3) 物質の変化						
【①反応速度】						
1) 反応次数と速度定数について説明できる。	物理化学 II 基礎薬学演習	物理化学 II 基礎薬学演習			総合薬学演習 I	(選) 創薬を支える物理化学 総合薬学演習 II
2) 微分型速度式を積分型速度式に変換できる。(知識・技能)	物理化学 II 基礎薬学演習	物理化学 II 基礎薬学演習			総合薬学演習 I	(選) 創薬を支える物理化学 総合薬学演習 II

	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
3) 代表的な反応次数の決定法を列挙し、説明できる。		物理化学Ⅱ 基礎薬学演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ		(連) 創薬を支える物理化学 総合薬学演習Ⅱ
4) 代表的な(緩)一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求めることができる。(技能)		物理化学Ⅱ 物理系実習Ⅱ 基礎薬学演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ		(連) 創薬を支える物理化学 総合薬学演習Ⅱ
5) 代表的な複合反応(可逆反応、平行反応、連続反応など)の特徴について説明できる。		物理化学Ⅱ 基礎薬学演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ		(連) 創薬を支える物理化学 総合薬学演習Ⅱ
6) 反応速度と温度との関係を説明できる。		物理化学Ⅱ 基礎薬学演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ		(連) 創薬を支える物理化学 総合薬学演習Ⅱ
7) 代表的な触媒反応(酸・塩基触媒反応、酵素反応など)について説明できる。		物理化学Ⅱ 基礎薬学演習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ		(連) 創薬を支える物理化学 総合薬学演習Ⅱ
C2 化学物質の分析						
(1) 分析の基礎						
【①分析の基本】						
1) 分析に用いる器具を正しく使用できる。(知識・技能)	研究入門 分析化学Ⅰ 物理系実習Ⅰ	物理系実習Ⅱ				総合薬学演習Ⅱ
2) 測定値を適切に取り扱うことができる。(知識・技能)	研究入門 分析化学Ⅰ 物理系実習Ⅰ	物理系実習Ⅱ				総合薬学演習Ⅱ
3) 分析法のバリデーションについて説明できる。	分析化学Ⅰ					総合薬学演習Ⅱ
(2) 溶液中の化学平衡						
【①酸・塩基平衡】						
1) 酸・塩基平衡の概念について説明できる。	分析化学Ⅰ	基礎薬学演習				(連) 創薬を支える物理化学 総合薬学演習Ⅱ
2) pH および解離定数について説明できる。(知識・技能)	分析化学Ⅰ 物理系実習Ⅰ	基礎薬学演習				(連) 創薬を支える物理化学 総合薬学演習Ⅱ
3) 溶液の pH を測定できる。(技能)	物理系実習Ⅰ	基礎薬学演習				総合薬学演習Ⅱ
4) 緩衝作用や緩衝液について説明できる。	分析化学Ⅰ	基礎薬学演習				総合薬学演習Ⅱ
【②各種の化学平衡】						
1) 錯体・キレート生成平衡について説明できる。	分析化学Ⅰ	物理系実習Ⅱ 基礎薬学演習				総合薬学演習Ⅱ
2) 沈殿平衡について説明できる。	分析化学Ⅰ	基礎薬学演習				総合薬学演習Ⅱ
3) 酸化還元平衡について説明できる。	分析化学Ⅰ	基礎薬学演習				総合薬学演習Ⅱ
4) 分配平衡について説明できる。	分析化学Ⅰ	基礎薬学演習				総合薬学演習Ⅱ
(3) 化学物質の定性分析・定量分析						
【①定性分析】						
1) 代表的な無機イオンの定性反応を説明できる。	分析化学Ⅰ					総合薬学演習Ⅱ
2) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の確認試験を列挙し、その内容を説明できる。	分析化学Ⅰ					総合薬学演習Ⅱ
【②定量分析(容量分析・重量分析)】						
1) 中和滴定(非水滴定を含む)の原理、操作法および応用例を説明できる。	分析化学Ⅰ					総合薬学演習Ⅱ
2) キレート滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	分析化学Ⅰ	物理系実習Ⅱ				総合薬学演習Ⅱ
3) 沈殿滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	分析化学Ⅰ					総合薬学演習Ⅱ
4) 酸化還元滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	分析化学Ⅰ					総合薬学演習Ⅱ
5) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の容量分析を実施できる。(知識・技能)	分析化学Ⅰ 物理系実習Ⅰ					総合薬学演習Ⅱ
6) 日本薬局方収載の代表的な純度試験を列挙し、その内容を説明できる。	分析化学Ⅰ					総合薬学演習Ⅱ
7) 日本薬局方収載の重量分析法の原理および操作法を説明できる。	分析化学Ⅰ					総合薬学演習Ⅱ
(4) 機器を用いる分析法						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
【①分光分析法】							
1)	紫外可視吸光度測定法の原理および応用例を説明できる。	物理系実習 I	分析化学 II		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2)	蛍光光度法の原理および応用例を説明できる。		分析化学 II		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3)	赤外吸収 (IR) スペクトル測定法の原理および応用例を説明できる。	有機化学 II B	分析化学 II 有機化学 III A		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4)	原子吸光度法、誘導結合プラズマ (ICP) 発光分光分析法および ICP 質量分析法の原理および応用例を説明できる。		分析化学 II		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5)	旋光度測定法 (旋光分散) の原理および応用例を説明できる。		分析化学 II		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6)	分光分析法を用いて、日本薬局方収載の代表的な医薬品の分析を実施できる。(技能)	物理系実習 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【②核磁気共鳴 (NMR) スペクトル測定法】							
1)	核磁気共鳴 (NMR) スペクトル測定法の原理および応用例を説明できる。	有機化学 II B	分析化学 II 有機化学 III A		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【③質量分析法】							
1)	質量分析法の原理および応用例を説明できる。	有機化学 II B	分析化学 II 有機化学 III A		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【④X線分析法】							
1)	X線結晶解析の原理および応用例を概説できる。		分析化学 II				(選)放射線応用学 総合薬学演習 II
2)	粉末 X線回折測定法の原理と利用法について概説できる。		分析化学 II				(選)放射線応用学 総合薬学演習 II
【⑤熱分析】							
1)	熱重量測定法の原理を説明できる。		分析化学 II				総合薬学演習 II
2)	示差熱分析法および示差走査熱量測定法について説明できる。		分析化学 II				総合薬学演習 II
(5) 分離分析法							
【①クロマトグラフィー】							
1)	クロマトグラフィーの分離機構を説明できる。	物理系実習 I	分析化学 II				総合薬学演習 II
2)	薄層クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。	物理系実習 I	分析化学 II				総合薬学演習 II
3)	液体クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。	物理系実習 I	分析化学 II				総合薬学演習 II
4)	ガスクロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。		分析化学 II				総合薬学演習 II
5)	クロマトグラフィーを用いて試料を定性・定量できる。(知識・技能)	物理系実習 I					総合薬学演習 II
【②電気泳動法】							
1)	電気泳動法の原理および応用例を説明できる。		分析化学 II				総合薬学演習 II
(6) 臨床現場で用いる分析技術							
【①分析の準備】							
1)	分析目的に即した試料の前処理法を説明できる。		臨床分析の基礎と応用		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2)	臨床分析における精度管理および標準物質の意義を説明できる。		臨床分析の基礎と応用		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【②分析技術】							
1)	臨床分析で用いられる代表的な分析法を列挙できる。		臨床分析の基礎と応用		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2)	免疫化学的測定法の原理を説明できる。		臨床分析の基礎と応用		総合薬学演習 I	(選)応用免疫学	総合薬学演習 II
3)	酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明できる。		臨床分析の基礎と応用		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4)	代表的なドラッグミストリーについて概説できる。		臨床分析の基礎と応用		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5)	代表的な画像診断技術 (X線検査、MRI、超音波、内視鏡検査、核医学検査など) について概説できる。		臨床分析の基礎と応用		総合薬学演習 I		(選)放射線応用学 総合薬学演習 II
C3 化学物質の性質と反応							

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					
該当科目					
1年		2年		3年	
4年		5年		6年	
(1) 化学物質の基本的性質					
【①基本事項】					
1) 代表的な化合物を IUPAC 規則に基づいて命名することができる。	有機化学Ⅰ／ⅡA／ⅡB	有機化学ⅢA 基礎薬学演習			総合薬学演習Ⅱ
2) 薬学領域で用いられる代表的な化合物を慣用名で記述できる。	有機化学Ⅰ／ⅡA	基礎薬学演習			総合薬学演習Ⅱ
3) 基本的な化合物を、ルイス構造式で書くことができる。	有機化学Ⅰ／ⅡA	基礎薬学演習			(選) 薬剤師への有機化学 総合薬学演習Ⅱ
4) 有機化合物の性質と共鳴の関係について説明できる。	有機化学Ⅰ／ⅡA				(選) 薬剤師への有機化学 総合薬学演習Ⅱ
5) ルイス酸・塩基、フレンステッド酸・塩基を定義することができる。	化学	基礎薬学演習			総合薬学演習Ⅱ
6) 基本的な有機反応 (置換、付加、脱離) の特徴を理解し、分類できる。	有機化学Ⅰ／ⅡA	有機化学ⅢB			総合薬学演習Ⅱ
7) 炭素原子を含む反応中間体 (カルボカチオン、カルボアニオン、ラジカル) の構造と性質を説明できる。	有機化学Ⅰ／ⅡA	有機化学ⅢB			総合薬学演習Ⅱ
8) 反応の過程を、エネルギー図を用いて説明できる。	有機化学Ⅰ／ⅡA				総合薬学演習Ⅱ
9) 基本的な有機反応機構を、電子の動きを示す矢印を用いて表すことができる。(技能)	化学 有機化学Ⅰ／ⅡA				総合薬学演習Ⅱ
【②有機化合物の立体構造】					
1) 構造異性体と立体異性体の違いについて説明できる。	有機化学Ⅰ	基礎薬学演習		総合薬学演習Ⅰ	(選) 薬剤師への有機化学 総合薬学演習Ⅱ
2) キラリティーと光学活性の関係を観説できる。	有機化学Ⅰ	基礎薬学演習		総合薬学演習Ⅰ	(選) 薬剤師への有機化学 総合薬学演習Ⅱ
3) エナンチオマーとジアステレオマーについて説明できる。	有機化学Ⅰ	基礎薬学演習		総合薬学演習Ⅰ	(選) 薬剤師への有機化学 総合薬学演習Ⅱ
4) ラセミ体とメソ体について説明できる。	有機化学Ⅰ	基礎薬学演習		総合薬学演習Ⅰ	(選) 薬剤師への有機化学 総合薬学演習Ⅱ
5) 絶対配置の表示法を説明し、キラリ化合物の構造を書くことができる。(知識、技能)	有機化学Ⅰ	基礎薬学演習		総合薬学演習Ⅰ	(選) 薬剤師への有機化学 総合薬学演習Ⅱ
6) 炭素-炭素二重結合の立体異性 (cis, trans ならびに E, Z 異性) について説明できる。	有機化学Ⅰ／ⅡA	基礎薬学演習		総合薬学演習Ⅰ	(選) 薬剤師への有機化学 総合薬学演習Ⅱ
7) フィッシャー投影式とニュウマン投影式を用いて有機化合物の構造を書くことができる。(技能)	有機化学Ⅰ 化学実習Ⅰ	基礎薬学演習		総合薬学演習Ⅰ	(選) 薬剤師への有機化学 総合薬学演習Ⅱ
8) エタン、ブタン、ブタンの立体配置とその安定性について説明できる。	有機化学Ⅰ	基礎薬学演習			(選) 薬剤師への有機化学 総合薬学演習Ⅱ
(2) 有機化合物の基本骨格の構造と反応					
【①アルカン】					
1) アルカンの基本的な性質について説明できる。	有機化学Ⅰ				総合薬学演習Ⅱ
2) アルカンの構造異性体を図示することができる。(技能)	有機化学Ⅰ				総合薬学演習Ⅱ
3) シクロアルカンの環のひずみを決定する要因について説明できる。	有機化学Ⅰ			総合薬学演習Ⅰ	総合薬学演習Ⅱ
4) シクロヘキサンのいす形配座における水素の結合方向 (アキシアル、エクアトリアル) を図示できる。(技能)	有機化学Ⅰ			総合薬学演習Ⅰ	総合薬学演習Ⅱ
5) 置換シクロヘキサンの安定な立体配座を決定する要因について説明できる。	有機化学Ⅰ				総合薬学演習Ⅱ
【②アルケン・アルキン】					
1) アルケンへの代表的な付加反応を列挙し、その特徴を説明できる。	有機化学ⅡA	有機化学ⅢB 基礎薬学演習		総合薬学演習Ⅰ	総合薬学演習Ⅱ
2) アルケンの代表的な酸化、還元反応を列挙し、その特徴を説明できる。	有機化学ⅡA	基礎薬学演習		総合薬学演習Ⅰ	総合薬学演習Ⅱ
3) アルキンの代表的な反応を列挙し、その特徴を説明できる。	有機化学ⅡA	有機化学ⅢB 基礎薬学演習		総合薬学演習Ⅰ	総合薬学演習Ⅱ
【③芳香族化合物】					
1) 代表的な芳香族炭化水素化合物の性質と反応性を説明できる。	有機化学ⅡB	基礎薬学演習		総合薬学演習Ⅰ	(選) 薬剤師への有機化学 総合薬学演習Ⅱ
2) 芳香族性の概念を説明できる。	有機化学ⅡB	基礎薬学演習		総合薬学演習Ⅰ	(選) 薬剤師への有機化学 総合薬学演習Ⅱ
3) 芳香族炭化水素化合物の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。		基礎薬学演習		総合薬学演習Ⅰ	(選) 薬剤師への有機化学 総合薬学演習Ⅱ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
4)	代表的な芳香族複素環化合物の性質を芳香族性と関連づけて説明できる。	有機化学ⅡB	基礎薬学演習 有機化学ⅢB 基礎薬学演習				(選)薬理師への有機化学 総合薬学演習Ⅱ 総合薬学演習Ⅱ
5)	代表的な芳香族複素環の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。						総合薬学演習Ⅱ
(3)	官能基の性質と反応						
	【①概説】						
1)	代表的な官能基を列挙し、性質を説明できる。		有機化学ⅢB				総合薬学演習Ⅱ
2)	官能基の性質を利用した分離精製を実施できる。(技能)	化学系実習Ⅰ					総合薬学演習Ⅱ
	【②有機ハロゲン化合物】						
1)	有機ハロゲン化合物の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	有機化学ⅡA	基礎薬学演習				総合薬学演習Ⅱ
2)	求核置換反応の特徴について説明できる。	有機化学ⅡA	基礎薬学演習				総合薬学演習Ⅱ
3)	脱離反応の特徴について説明できる。	有機化学ⅡA	基礎薬学演習				総合薬学演習Ⅱ
	【③アルコール・フェノール・エーテル】						
1)	アルコール、フェノール類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	有機化学ⅡB					総合薬学演習Ⅱ
2)	エーテル類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	有機化学ⅡB					総合薬学演習Ⅱ
	【④アルデヒド・ケトン・カルボン酸・カルボン酸誘導体】						
1)	アルデヒド類およびケトン類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	有機化学ⅢA/ⅢB 基礎薬学演習					(選)薬理師への有機化学 総合薬学演習Ⅱ
2)	カルボン酸の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	有機化学ⅢA 基礎薬学演習					(選)薬理師への有機化学 総合薬学演習Ⅱ
3)	カルボン酸誘導体(酸ハロゲン化物、酸無水物、エステル、アミド)の基本的性質と反応を列挙し、説明できる。	有機化学ⅢA 化学系実習Ⅱ 基礎薬学演習					(選)薬理師への有機化学 総合薬学演習Ⅱ
	【⑤アミン】						
1)	アミン類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	有機化学ⅢA/ⅢB 化学系実習Ⅱ 基礎薬学演習					(選)薬理師への有機化学 総合薬学演習Ⅱ
	【⑥電子効果】						
1)	官能基が及ぼす電子効果について概説できる。	化学 有機化学ⅡB	有機化学ⅢB				総合薬学演習Ⅱ
	【⑦酸性・塩基性】						
1)	アルコール、フェノール、カルボン酸、炭素酸などの酸性度を比較して説明できる。	化学	基礎薬学演習				(選)薬理師への有機化学 総合薬学演習Ⅱ
2)	含窒素化合物の塩基性を比較して説明できる。	化学	基礎薬学演習				(選)薬理師への有機化学 総合薬学演習Ⅱ
(4)	化学物質の構造決定						
	【①核磁気共鳴(NMR)】						
1)	¹ Hおよび ¹³ C NMRスペクトルより得られる情報を概説できる。	有機化学ⅡB 化学系実習Ⅰ	有機化学ⅢA 総合薬学演習Ⅰ				総合薬学演習Ⅱ
2)	有機化合物中の代表的プロトンについて、おおよその化学シフト値を示すことができる。	有機化学ⅡB 化学系実習Ⅰ	有機化学ⅢA 総合薬学演習Ⅰ				総合薬学演習Ⅱ
3)	¹ H NMRの積分値の意味を説明できる。	有機化学ⅡB 化学系実習Ⅰ	有機化学ⅢA 総合薬学演習Ⅰ				総合薬学演習Ⅱ
4)	¹ H NMRシグナルが近接プロトンにより分裂(カップリング)する基本的な分裂構式を説明できる。	有機化学ⅡB 化学系実習Ⅰ	有機化学ⅢA 総合薬学演習Ⅰ				総合薬学演習Ⅱ
5)	代表的な化合物の部分構造を ¹ H NMRから決定できる。(技能)	化学系実習Ⅰ					総合薬学演習Ⅱ
	【②赤外線(IR)】						
1)	IRスペクトルより得られる情報を概説できる。	有機化学ⅡB 化学系実習Ⅰ	有機化学ⅢA				総合薬学演習Ⅱ
2)	IRスペクトル上の基本的な官能基の特性吸収を列挙し、帰属することができる。(知識・技能)	化学系実習Ⅰ					総合薬学演習Ⅱ
	【③質量分析】						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)							該当科目					
							1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) マススペクトルより得られる情報を概説できる。							有機化学ⅡB 化学系実習Ⅰ	有機化学ⅢA		総合薬学演習Ⅰ (選)構造解析学A	総合薬学演習Ⅱ (選)構造解析学A	総合薬学演習Ⅱ
2) 測定化合物に適したイオン化法を選択できる。(技能)							化学系実習Ⅰ			総合薬学演習Ⅰ	総合薬学演習Ⅱ (選)構造解析学A	総合薬学演習Ⅱ
3) ピークの種類(基準ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク)を説明できる。							有機化学ⅡB 化学系実習Ⅰ	有機化学ⅢA		総合薬学演習Ⅰ	総合薬学演習Ⅱ (選)構造解析学A	総合薬学演習Ⅱ
4) 代表的な化合物のマススペクトルを解析できる。(技能)							化学系実習Ⅰ			総合薬学演習Ⅰ	総合薬学演習Ⅱ (選)構造解析学A	総合薬学演習Ⅱ
【④総合演習】												
1) 代表的な機器分析法を用いて、代表的な化合物の構造決定ができる。(技能)							化学系実習Ⅰ			(選)構造解析学A	総合薬学演習Ⅱ	
(5) 無機化合物・錯体の構造と性質												
【①無機化合物・錯体】												
1) 代表的な典型元素と遷移元素を列挙できる。									生物有機化学			総合薬学演習Ⅱ
2) 代表的な無機酸化物、オキソ化合物の名称、構造、性質を列挙できる。									生物有機化学			総合薬学演習Ⅱ
3) 活性酸素と窒素酸化物の名称、構造、性質を列挙できる。									生物有機化学			総合薬学演習Ⅱ
4) 代表的な錯体の名称、構造、基本的な性質を説明できる。									生物有機化学			総合薬学演習Ⅱ
5) 医薬品として用いられる代表的な無機化合物、および錯体を列挙できる。									生物有機化学			総合薬学演習Ⅱ
C4 生体分子・医薬品の化学による理解												
(1) 医薬品の標的となる生体分子の構造と化学的性質												
【①医薬品の標的となる生体高分子の化学構造】												
1) 代表的な生体高分子を構成する小分子(アミノ酸、糖、脂質、ヌクレオチドなど)の構造に基づいた化学的性質を説明できる。									生物有機化学			総合薬学演習Ⅱ
2) 医薬品の標的となる生体高分子(タンパク質、核酸など)の立体構造とそれを規定する化学結合、相互作用について説明できる。									生物有機化学			総合薬学演習Ⅱ
【②生体内で機能する小分子】												
1) 細胞膜受容体および細胞内(核内)受容体の代表的な内因性リガンドの構造と性質について概説できる。									生物有機化学			総合薬学演習Ⅱ
2) 代表的な補酵素が酵素反応で果たす役割について、有機反応機構の観点から説明できる。									生物有機化学			総合薬学演習Ⅱ
3) 活性酸素、一酸化窒素の構造に基づく生体内反応を化学的に説明できる。								有機化学ⅢB	生物有機化学			総合薬学演習Ⅱ
4) 生体内に存在する代表的な金属イオンおよび錯体の機能を化学的に説明できる。									生物有機化学			総合薬学演習Ⅱ
(2) 生体反応の化学による理解												
【①生体内で機能するリン、硫黄化合物】												
1) リン化合物(リン酸誘導体など)および硫黄化合物(チオール、ジスルフィド、チオエステルなど)の構造と化学的性質を説明できる。							有機化学ⅡB	有機化学ⅢA	生物有機化学			総合薬学演習Ⅱ
2) リン化合物(リン酸誘導体など)および硫黄化合物(チオール、ジスルフィド、チオエステルなど)の生体内での機能を化学的に説明できる。									生物有機化学			総合薬学演習Ⅱ
【②酵素阻害剤と作用機構】												
1) 不可逆的酵素阻害剤の作用を酵素の反応機構に基づいて説明できる。									生物有機化学			総合薬学演習Ⅱ
2) 基質アナログが競合阻害剤となることを酵素の反応機構に基づいて説明できる。									生物有機化学			総合薬学演習Ⅱ
3) 遷移状態アナログが競合阻害剤となることを酵素の反応機構に基づいて説明できる。									生物有機化学			総合薬学演習Ⅱ
【③受容体のアゴニストおよびアンタゴニスト】												
1) 代表的な受容体のアゴニスト(作用薬、作動薬、刺激薬)とアンタゴニスト(拮抗薬、遮断薬)との相違点について、内因性リガンドの構造と比較して説明できる。									生物有機化学			総合薬学演習Ⅱ
2) 低分子内因性リガンド誘導体が医薬品として用いられている理由を説明できる。									生物有機化学			総合薬学演習Ⅱ
【④生体内で起こる有機反応】												
1) 代表的な生体分子(脂肪酸、コレステロールなど)の代謝反応を有機化学の観点から説明できる。									生物有機化学			総合薬学演習Ⅱ

	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
2) 異物代謝の反応 (発がん性物質の代謝的活性化など) を有機化学の観点から説明できる。			生物有機化学			総合薬学演習 II
(3) 医薬品の化学構造と性質、作用						
【①医薬品と生体分子の相互作用】						
1) 医薬品と生体分子との相互作用を化学的な観点 (結合親和性と自由エネルギー変化、電子効果、立体効果など) から説明できる。	有機化学 I			創薬化学		総合薬学演習 II
【②医薬品の化学構造に基づく性質】						
1) 医薬品の構造からその物理化学的性質 (酸性、塩基性、疎水性、親水性など) を説明できる。				創薬化学		総合薬学演習 II
2) プロドラッグなどの薬物動態を考慮した医薬品の化学構造について説明できる。				創薬化学		総合薬学演習 II
【③医薬品のコンポーネント】						
1) 代表的な医薬品のファーマコフォアについて概説できる。				創薬化学		総合薬学演習 II
2) パライオアイソスター (生物学的等価体) について、代表的な例を挙げて概説できる。				創薬化学		総合薬学演習 II
3) 医薬品に含まれる代表的な複素環を構造に基づいて分類し、医薬品コンポーネントとしての性質を説明できる。				創薬化学		総合薬学演習 II

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【④薬薬に作用する医薬品の構造と性質】						
1) スクレオンドおよび核酸塩基アナログを有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				創薬化学		総合薬学演習 II
2) フェニル酢酸、フェニルプロピオン酸構造などをもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				創薬化学		総合薬学演習 II
3) スルホンアミド構造をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				創薬化学		総合薬学演習 II
4) キノロン骨格をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				創薬化学		総合薬学演習 II
5) β-ラクタム構造をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				創薬化学		総合薬学演習 II
6) ペプチドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				創薬化学		総合薬学演習 II
【⑤受容体に作用する医薬品の構造と性質】						
1) カテコールアミン骨格を有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				創薬化学		総合薬学演習 II
2) アセチルコリンアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				創薬化学		総合薬学演習 II
3) ステロイドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				創薬化学		総合薬学演習 II
4) ペンシジアゼピン骨格およびバルビタール骨格を有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				創薬化学		総合薬学演習 II
5) オピオイドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				創薬化学		総合薬学演習 II
【⑥DNA に作用する医薬品の構造と性質】						
1) DNAと結合する医薬品（アルキル化剤、シスプラチン類）を列挙し、それらの化学構造と反応機構を説明できる。				創薬化学		総合薬学演習 II
2) DNAにインターカレートする医薬品を列挙し、それらの構造上の特徴を説明できる。				創薬化学		総合薬学演習 II
3) DNA鎖を切断する医薬品を列挙し、それらの構造上の特徴を説明できる。				創薬化学		総合薬学演習 II
【⑦イオンチャネルに作用する医薬品の構造と性質】						
1) イオンチャネルに作用する医薬品の代表的な基本構造（ジヒドロピリジンなど）の特徴を説明できる。				創薬化学		総合薬学演習 II
C5 自然が生み出す薬物						
(1) 薬になる動植物						
【①薬用植物】						
1) 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを挙げるができる。	天然資源 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 代表的な薬用植物を外郭形態から説明し、区別できる。（知識、技能）	天然資源 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 植物の主な内部形態について説明できる。	天然資源 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 法律によって取り扱いが規制されている植物（ケシ、アサ）の特徴を説明できる。	天然資源 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【②生薬の基原】						
1) 日本薬局方収載の代表的な生薬（植物、動物、菌類、菌類由来）を列挙し、その基原、薬用部位を説明できる。	天然資源 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【③生薬の用途】						
1) 日本薬局方収載の代表的な生薬（植物、動物、菌類、菌類由来）の薬効、成分、用途などを説明できる。	天然資源 I					総合薬学演習 II
2) 副作用や使用上の注意が必要な代表的な生薬を列挙し、説明できる。	天然資源 I					総合薬学演習 II
【④生薬の同定と品質評価】						
1) 生薬の同定と品質評価法について概説できる。	天然資源 I					総合薬学演習 II
2) 日本薬局方の生薬総則および生薬試験法について説明できる。	天然資源 I					総合薬学演習 II
3) 代表的な生薬を鑑別できる。（技能）	天然資源 I	化学系実習 II				総合薬学演習 II
4) 代表的な生薬の確認試験を説明できる。	天然資源 I	化学系実習 II				総合薬学演習 II

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
5)	代表的な生薬の純度試験を説明できる。	天然資源 I					総合薬学演習 II
(2) 薬の宝庫としての天然物							
【①生薬由来の生物活性物質の構造と作用】							
1)	生薬由来の代表的な生物活性物質を化学構造に基づいて分類し、それらの生合成経路を概説できる。	天然資源 I		天然資源 II		総合薬学演習 I	総合薬学演習 II
2)	脂質や糖質に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。	天然資源 I				総合薬学演習 I	総合薬学演習 II
3)	芳香族化合物に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。	天然資源 I				総合薬学演習 I	総合薬学演習 II
4)	テルペノイド、ステロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。	天然資源 I				総合薬学演習 I	総合薬学演習 II
5)	アルカロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。	天然資源 I		天然資源 II		総合薬学演習 I	総合薬学演習 II
【②微生物由来の生物活性物質の構造と作用】							
1)	微生物由来の生物活性物質を化学構造に基づいて分類できる。			天然資源 II		総合薬学演習 I	総合薬学演習 II
2)	微生物由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。			天然資源 II		総合薬学演習 I	総合薬学演習 II
【③天然生物活性物質の取扱い】							
1)	天然生物活性物質の代表的な抽出法、分離精製法を概説し、実施できる。(知識、技能)		化学系実習 II				総合薬学演習 II
【④天然生物活性物質の利用】							
1)	医薬品として使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。	天然資源 I		天然資源 II 生物有機化学			総合薬学演習 II
2)	天然生物活性物質を基に化学修飾等により開発された代表的な医薬品を列挙し、その用途、リード化合物を説明できる。			生物有機化学			総合薬学演習 II
3)	農薬や香料品などとして使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。	天然資源 I		天然資源 II			総合薬学演習 II
06 生命現象の基礎							
(1) 細胞の構造と機能							
【①細胞膜】							
1)	細胞膜を構成する代表的な生体成分を列挙し、その機能を分子レベルで説明できる。	機能形態学 II	細胞生物学				(選) 生物学特講 II 総合薬学演習 II
2)	エンドサイトーシスとエキソサイトーシスについて説明できる。	機能形態学 II	細胞生物学				(選) 生物学特講 II 総合薬学演習 II
【②細胞小器官】							
1)	細胞小器官(核、ミトコンドリア、小胞体、リソソーム、ゴルジ体、ペルオキシソームなど)やリソソームの構造と機能を説明できる。	機能形態学 II	細胞生物学				(選) 生物学特講 II 総合薬学演習 II
【③細胞骨格】							
1)	細胞骨格の構造と機能を説明できる。	機能形態学 II	細胞生物学				(選) 生物学特講 II 総合薬学演習 II
(2) 生命現象を担う分子							
【①脂質】							
1)	代表的な脂質の種類、構造、性質、役割を説明できる。	生化学 I	基礎薬学演習			総合薬学演習 I	総合薬学演習 II
【②糖質】							
1)	代表的な単糖、二糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。	生化学 I	基礎薬学演習			総合薬学演習 I	総合薬学演習 II
2)	代表的な多糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。	生化学 I	基礎薬学演習			総合薬学演習 I	総合薬学演習 II
【③アミノ酸】							
1)	アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。	生化学 I	細胞生物学 基礎薬学演習			総合薬学演習 I	総合薬学演習 II
【④タンパク質】							
1)	タンパク質の構造(一次、二次、三次、四次構造)と性質を説明できる。	生化学 I	細胞生物学 基礎薬学演習			総合薬学演習 I	総合薬学演習 II

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
【⑤ヌクレオチドと核酸】							
1) ヌクレオチドと核酸 (DNA、RNA) の種類、構造、性質を説明できる。		基礎薬学演習		総合薬学演習 I			総合薬学演習 II
【⑥ビタミン】							
1) 代表的なビタミンの種類、構造、性質、役割を説明できる。							総合薬学演習 II
【⑦微量元素】							
1) 代表的な必須微量元素の種類、役割を説明できる。							総合薬学演習 II
【⑧生体分子の定性、定量】							
1) 脂質、糖質、アミノ酸、タンパク質、もしくは核酸の定性または定量試験を実施できる。(技能)		生物系実習 I	生物系実習 II				総合薬学演習 II
(3) 生命活動を担うタンパク質							
【①タンパク質の構造と機能】							
1) 多様な機能をもつタンパク質 (酵素、受容体、シグナル分子、膜輸送体、運搬・輸送タンパク質、貯蔵タンパク質、構造タンパク質、接着タンパク質、防御タンパク質、調節タンパク質) を列挙し概説できる。		生化学 I	基礎薬学演習				総合薬学演習 II
【②タンパク質の成熟と分解】							
1) タンパク質の翻訳後の成熟過程 (細胞小器官間の輸送や翻訳後修飾) について説明できる。		生化学 I					総合薬学演習 II
2) タンパク質の細胞内での分解について説明できる。		生化学 I					総合薬学演習 II
【③酵素】							
1) 酵素反応の特性と反応速度論を説明できる。		生化学 I	基礎薬学演習				総合薬学演習 II
2) 酵素反応における補酵素、微量金属の役割を説明できる。		生化学 I	基礎薬学演習				総合薬学演習 II
3) 代表的な酵素活性調節機構を説明できる。		生化学 I					総合薬学演習 II
4) 酵素反応速度を測定し、解析できる。(技能)		生物系実習 I					総合薬学演習 II
【④酵素以外のタンパク質】							
1) 膜輸送体の種類、構造、機能を説明できる。		生化学 I					総合薬学演習 II
2) 血漿リポタンパク質の種類、構造、機能を説明できる。		生化学 I					総合薬学演習 II
(4) 生命情報を担う遺伝子							
【①概論】							
1) 遺伝情報の保存と発現の流れを説明できる。		細胞生物学 基礎薬学演習	分子生物学	総合薬学演習 I			(選) 生物学特講 II 総合薬学演習 II
2) DNA、遺伝子、染色体、ゲノムとは何かを説明できる。		細胞生物学 基礎薬学演習	分子生物学	総合薬学演習 I			(選) 生物学特講 II 総合薬学演習 II
【②遺伝情報を担う分子】							
1) 染色体の構造 (ヌクレオソーム、クロマチン、セントロメア、テロメアなど) を説明できる。		細胞生物学 基礎薬学演習	分子生物学	総合薬学演習 I			(選) 生物学特講 II 総合薬学演習 II
2) 遺伝子の構造 (プロモーター、エンハンサー、エキソン、イントロンなど) を説明できる。		細胞生物学 基礎薬学演習	分子生物学	総合薬学演習 I			(選) 生物学特講 II 総合薬学演習 II
3) RNA の種類 (mRNA、rRNA、tRNA など) と機能について説明できる。		細胞生物学 基礎薬学演習	分子生物学	総合薬学演習 I			(選) 生物学特講 II 総合薬学演習 II
【③遺伝子の複製】							
1) DNA の複製の過程について説明できる。		細胞生物学 基礎薬学演習	分子生物学	総合薬学演習 I			(選) 生物学特講 II 総合薬学演習 II
【④転写・翻訳の過程と調節】							
1) DNA から RNA への転写の過程について説明できる。		細胞生物学 基礎薬学演習	分子生物学	総合薬学演習 I			(選) 生物学特講 II 総合薬学演習 II
2) エピジェネティックな転写制御について説明できる。		細胞生物学 基礎薬学演習	分子生物学	総合薬学演習 I			(選) 生物学特講 II 総合薬学演習 II
3) 転写因子による転写制御について説明できる。		細胞生物学 基礎薬学演習	分子生物学	総合薬学演習 I			(選) 生物学特講 II 総合薬学演習 II

	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
4) RNA のプロセッシング (キャップ構造、スプライシング、snRNP、ポリA鎖など) について説明できる。		細胞生物学 基礎薬学演習	分子生物学	総合薬学演習 I		(選) 生物学特講 II 総合薬学演習 II
5) RNA からタンパク質への翻訳の過程について説明できる。		細胞生物学 基礎薬学演習	分子生物学	総合薬学演習 I		(選) 生物学特講 II 総合薬学演習 II

	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
【⑤遺伝子の変異・修復】						
1) DNA の変異と修復について説明できる。	細胞生物学	分子生物学				(選) 生物学特講 II 総合薬学演習 II
【⑥組換え DNA】						
1) 遺伝子工学技術 (遺伝子クローニング、cDNA クローニング、PCR、組換えタンパク質発現法など) を概説できる。		分子生物学				(選) 生物学特講 II 総合薬学演習 II
2) 遺伝子改変生物 (遺伝子導入・欠損動物、クローン動物、遺伝子組換え植物) について概説できる。		分子生物学				(選) 生物学特講 II 総合薬学演習 II
(5) 生体エネルギーと生命活動を支える代謝系						
【① 概論】						
1) エネルギー代謝の概要を説明できる。	生化学 II	基礎薬学演習		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【②ATP の産生と補償代謝】						
1) 解糖系及び乳酸の生成について説明できる。	生化学 II	基礎薬学演習		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) クエン酸回路 (TCA サイクル) について説明できる。	生化学 II	細胞生物学 基礎薬学演習		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 電子伝達系 (酸化リニン酸化) と ATP 合成酵素について説明できる。	生化学 II	細胞生物学 基礎薬学演習		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) グリコーゲンの代謝について説明できる。	生化学 II	基礎薬学演習		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 糖新生について説明できる。	生化学 II	基礎薬学演習		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【③脂質代謝】						
1) 脂肪酸の生合成と β 酸化について説明できる。	生化学 II	基礎薬学演習		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) コレステロールの生合成と代謝について説明できる。	生化学 II	基礎薬学演習		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【④脂質状態と脂質状態】						
1) 動脈硬化のエネルギー代謝 (ケトン体の利用など) について説明できる。	生化学 II	基礎薬学演習		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 余剰のエネルギーを蓄えるしくみを説明できる。	生化学 II	基礎薬学演習		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【⑤その他の代謝系】						
1) アミノ酸分子中の炭素および窒素の代謝 (尿素回路など) について説明できる。	生化学 II	基礎薬学演習		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) スクレオチドの生合成と分解について説明できる。	生化学 II	基礎薬学演習		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) ペントースリン酸回路について説明できる。	生化学 II			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(6) 細胞間コミュニケーションと細胞内情報伝達						
【① 概論】						
1) 細胞間コミュニケーションにおける情報伝達様式を説明できる。		細胞生物学				総合薬学演習 II
【②細胞内情報伝達】						
1) 細胞膜チャネル型受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。		細胞生物学				総合薬学演習 II
2) 細胞膜受容体から G タンパク系を介する細胞内情報伝達について説明できる。		細胞生物学				総合薬学演習 II
3) 細胞膜受容体タンパク質などのリン酸化を介する細胞内情報伝達について説明できる。		細胞生物学				総合薬学演習 II
4) 細胞内情報伝達におけるセカンドメッセンジャーについて説明できる。		細胞生物学				総合薬学演習 II
5) 細胞内 (核内) 受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。		細胞生物学				総合薬学演習 II
【③細胞間コミュニケーション】						
1) 細胞間の接着構造、主な細胞接着分子の種類と特徴を説明できる。		細胞生物学				総合薬学演習 II
2) 主な細胞外マトリックス分子の種類と特徴を説明できる。		細胞生物学				総合薬学演習 II
(7) 細胞の分裂と死						
【①細胞分裂】						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					
該当科目					
1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 細胞周期とその制御機構について説明できる。	細胞生物学				(選)生物学特講II 総合薬学演習II
2) 体細胞と生殖細胞の細胞分裂について説明できる。	細胞生物学				(選)生物学特講II 総合薬学演習II
【②細胞死】					
1) 細胞死 (アポトーシスとネクローシス) について説明できる。	細胞生物学				(選)生物学特講II 総合薬学演習II
【③がん細胞】					
1) 正常細胞とがん細胞の違いについて説明できる。	細胞生物学				(選)生物学特講II 総合薬学演習II
2) がん遺伝子とがん抑制遺伝子について概説できる。	細胞生物学				(選)生物学特講II 総合薬学演習II
G7 人体の成り立ちと生体機能の調節					
(1) 人体の成り立ち					
【①遺伝】					
1) 遺伝子と遺伝のしくみについて概説できる。			総合薬学演習I		総合薬学演習II
2) 遺伝子多型について概説できる。			総合薬学演習I		総合薬学演習II
3) 代表的な遺伝疾患を概説できる。			総合薬学演習I		総合薬学演習II
【②発生】					
1) 個体発生について概説できる。			総合薬学演習I		総合薬学演習II
2) 細胞の分化における幹細胞、前駆細胞の役割について概説できる。			総合薬学演習I		総合薬学演習II
【③器官系概論】					
1) 人体を構成する器官、器官系の名称、形態、体内での位置および機能を説明できる。			総合薬学演習I		総合薬学演習II
2) 組織、器官を構成する代表的な細胞の種類 (上皮、内皮、間葉系など) を列挙し、形態的および機能的特徴を説明できる。			総合薬学演習I		総合薬学演習II
3) 実験動物・人体模型・シミュレーターなどを用いて各種臓器の名称と位置を確認できる。(技能)	生物系実習II		総合薬学演習I		総合薬学演習II
4) 代表的な器官の組織や細胞を顕微鏡で観察できる。(技能)	生物系実習II		総合薬学演習I		総合薬学演習II
【④神経系】					
1) 中枢神経系について概説できる。			総合薬学演習I		総合薬学演習II
2) 末梢 (体性・自律) 神経系について概説できる。			総合薬学演習I		総合薬学演習II
【⑤骨格系・筋肉系】					
1) 骨、筋肉について概説できる。			総合薬学演習I		総合薬学演習II
2) 代表的な骨格筋および関節の名称を挙げ、位置を示すことができる。			総合薬学演習I		総合薬学演習II
【⑥皮膚】					
1) 皮膚について概説できる。			総合薬学演習I		総合薬学演習II
【⑦循環器系】					
1) 心臓について概説できる。			総合薬学演習I		総合薬学演習II
2) 血管系について概説できる。			総合薬学演習I		総合薬学演習II
3) リンパ管系について概説できる。			総合薬学演習I		総合薬学演習II
【⑧呼吸器系】					
1) 肺、気管支について概説できる。			総合薬学演習I		総合薬学演習II
【⑨消化器系】					
1) 胃、小腸、大腸などの消化管について概説できる。			総合薬学演習I		総合薬学演習II

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 肝臓、膵臓、胆嚢について概説できる。	機能形態学 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【⑩泌尿器系】						
1) 泌尿器系について概説できる。	機能形態学 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【⑪生殖系】						
1) 生殖系について概説できる。	機能形態学 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【⑫内分泌系】						
1) 内分泌系について概説できる。	機能形態学 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【⑬感覚系】						
1) 感覚系について概説できる。	機能形態学 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【⑭血液・造血系】						
1) 血液・造血系について概説できる。	機能形態学 I	免疫学		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(2) 生体機能の調節						
【①神経による調節機構】						
1) 神経細胞の興奮と伝導、シナプス伝達の調節機構について説明できる。	機能形態学 II			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 代表的な神経伝達物質を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。	機能形態学 II			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 神経系、感覚器を介するホメオスタシスの調節機構の代表例を列挙し、概説できる。	機能形態学 II			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 神経による筋収縮の調節機構について説明できる。	機能形態学 II			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【②ホルモン・内分泌系による調節機構】						
1) 代表的なホルモンを挙げ、その産生器官、生理活性および作用機構について概説できる。	機能形態学 II			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【③オートコイドによる調節機構】						
1) 代表的なオートコイドを挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。	生化学 II 機能形態学 II			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【④サイトカイン・増殖因子による調節機構】						
1) 代表的なサイトカイン、増殖因子を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。	機能形態学 II	免疫学		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【⑤血圧の調節機構】						
1) 血圧の調節機構について概説できる。	機能形態学 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【⑥血糖の調節機構】						
1) 血糖の調節機構について概説できる。	生化学 II 機能形態学 II			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【⑦体液の調節】						
1) 体液の調節機構について概説できる。	機能形態学 II			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 尿の生成機構、尿量の調節機構について概説できる。	機能形態学 II			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【⑧体温の調節】						
1) 体温の調節機構について概説できる。	機能形態学 I / II			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【⑨血液凝固・凝固系】						
1) 血液凝固・凝固系の機構について概説できる。	機能形態学 I			総合薬学演習 I 専門演習 II		総合薬学演習 II
【⑩性周期の調節】						
1) 性周期の調節機構について概説できる。	機能形態学 II			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
C8 生体防御と微生物						
(1) 身体を守る						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					
該当科目					
1年	2年	3年	4年	5年	6年
【① 生体防御反応】					
1) 異物の侵入に対する物理的、生理的、化学的バリアー、および補体の役割について説明できる。	免疫学 薬物治療 I 基礎薬学演習		総合薬学演習 I	(選) 応用免疫学	総合薬学演習 II
2) 免疫反応の特徴 (自己と非自己の識別、特異性、多様性、クローン性、記憶、寛容) を説明できる。	免疫学 薬物治療 I 基礎薬学演習		総合薬学演習 I	(選) 応用免疫学	総合薬学演習 II
3) 自然免疫と獲得免疫、および両者の関係を説明できる。	免疫学 薬物治療 I 基礎薬学演習		総合薬学演習 I	(選) 応用免疫学	総合薬学演習 II
4) 体液性免疫と細胞性免疫について説明できる。	免疫学 薬物治療 I 基礎薬学演習		総合薬学演習 I	(選) 応用免疫学	総合薬学演習 II
【②免疫を担当する組織・細胞】					
1) 免疫に関与する組織を列挙し、その役割を説明できる。	免疫学 基礎薬学演習		総合薬学演習 I	(選) 応用免疫学	総合薬学演習 II
2) 免疫担当細胞の種類と役割を説明できる。	免疫学 基礎薬学演習		総合薬学演習 I	(選) 応用免疫学	総合薬学演習 II
3) 免疫反応における主な細胞間ネットワークについて説明できる。	免疫学 基礎薬学演習		総合薬学演習 I	(選) 応用免疫学	総合薬学演習 II
【③分子レベルで見た免疫のしくみ】					
1) 自然免疫および獲得免疫における異物の認識を比較して説明できる。	免疫学 基礎薬学演習		総合薬学演習 I	(選) 応用免疫学	総合薬学演習 II
2) MHC 抗原の構造と機能および抗原提示の役割について説明できる。	免疫学 基礎薬学演習		総合薬学演習 I	(選) 応用免疫学	総合薬学演習 II
3) T 細胞と B 細胞による抗原認識の多様性 (遺伝子再構成) と活性化について説明できる。	免疫学 基礎薬学演習		総合薬学演習 I	(選) 応用免疫学	総合薬学演習 II
4) 抗体分子の基本構造、種類、役割を説明できる。	免疫学 基礎薬学演習		総合薬学演習 I	(選) 応用免疫学	総合薬学演習 II
5) 免疫系に関わる主なサイトカインを挙げ、その作用を概説できる。	免疫学 基礎薬学演習		総合薬学演習 I	(選) 応用免疫学	総合薬学演習 II
(2) 免疫系の制御とその破綻・免疫系の応用					
【① 免疫応答の制御と破綻】					
1) 炎症の一般的症状、担当細胞および反応機構について説明できる。	免疫学			(選) 応用免疫学	総合薬学演習 II
2) アレルギーを分類し、担当細胞および反応機構について説明できる。	免疫学 薬物治療 I			(選) 応用免疫学	総合薬学演習 II
3) 自己免疫疾患と免疫不全症候群について概説できる。	免疫学			(選) 応用免疫学	総合薬学演習 II
4) 臓器移植と免疫反応の関わり (拒絶反応、免疫抑制剤など) について説明できる。	免疫学 薬物治療 I			(選) 応用免疫学	総合薬学演習 II
5) 感染症と免疫応答との関わりについて説明できる。	免疫学			(選) 応用免疫学	総合薬学演習 II
6) 腫瘍排除に関与する免疫反応について説明できる。	免疫学			(選) 応用免疫学	総合薬学演習 II
【② 免疫反応の利用】					
1) ワクチンの原理と種類 (生ワクチン、不活化ワクチン、トキソイド、混合ワクチンなど) について説明できる。	免疫学			(選) 応用免疫学	総合薬学演習 II
2) モノクローナル抗体とポリクローナル抗体について説明できる。	免疫学			(選) 応用免疫学	総合薬学演習 II
3) 血清療法と抗体医薬について概説できる。	免疫学			(選) 応用免疫学	総合薬学演習 II
4) 抗原抗体反応を利用した検査方法 (ELISA 法、ウエスタンブロット法など) を実施できる。(技能)	免疫学 生物系実習 II			(選) 応用免疫学	総合薬学演習 II
(3) 微生物の基本					
【① 総論】					
1) 原核生物、真核生物およびウイルスの特徴を説明できる。	微生物学 基礎薬学演習		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【② 細菌】					
1) 細菌の分類や性質 (系統学的分類、グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌など) を説明できる。	微生物学		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 細菌の構造と増殖機構について説明できる。	微生物学		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 細菌の異化作用 (呼吸と発酵) および同化作用について説明できる。	微生物学		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 細菌の遺伝子伝達 (接合、形質転換) について説明できる。	微生物学		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II

	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
5) 薬剤耐性菌および薬剤耐性化機構について概説できる。		微生物学		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 代表的な細菌毒素について説明できる。		微生物学		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【③ ウイルス】						
1) ウイルスの構造、分類、および増殖機構について説明できる。		微生物学 基礎薬学演習		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【④ 真菌・原虫・蠕虫】						
1) 真菌の性状を概説できる。		微生物学		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 原虫および蠕虫の性状を概説できる。		微生物学		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【⑤ 消毒と滅菌】						
1) 滅菌、消毒および殺菌、静菌の概念を説明できる。		微生物学		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 主な滅菌法および消毒法について説明できる。		微生物学		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【⑥ 検出方法】						
1) グラム染色を実施できる。(技能)		生物系実習 II		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 無菌操作を実施できる。(技能)		生物系実習 II		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 代表的な細菌または真菌の分離培養、純培養を実施できる。(技能)		生物系実習 II		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(4) 病原体としての微生物						
【① 感染の成立と共生】						
1) 感染の成立 (感染源、感染経路、侵入門戸など) と共生 (腸内細菌など) について説明できる。		微生物学		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 日和見感染と院内感染について説明できる。		微生物学		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【② 代表的な病原体】						
1) DNA ウイルス (ヒトヘルペスウイルス、アデノウイルス、パピローマウイルス、B 型肝炎ウイルスなど) について概説できる。		微生物学		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) RNA ウイルス (ノロウイルス、ロタウイルス、ポリオウイルス、コクサッキーウイルス、エコーウイルス、ライノウイルス、A 型肝炎ウイルス、C 型肝炎ウイルス、インフルエンザウイルス、麻疹ウイルス、風疹ウイルス、日本脳炎ウイルス、狂犬病ウイルス、ムンプスウイルス、HIV、HTLV など) について概説できる。		微生物学		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) グラム陽性球菌 (ブドウ球菌、レンサ球菌など) およびグラム陽性桿菌 (破傷風菌、ガス壊疽菌、ボツリヌス菌、ジフテリア菌、炭疽菌、セレウス菌、デフィシル菌など) について概説できる。		微生物学		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) グラム陰性球菌 (淋菌、髄膜炎菌など) およびグラム陰性桿菌 (大腸菌、赤痢菌、サルモネラ菌、チフス菌、エルジン菌、クレブシエラ菌、コレラ菌、百日咳菌、腸炎ピブリオ、緑膿菌、レジオネラ、インフルエンザ菌など) について概説できる。		微生物学		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) グラム陰性らせん菌 (ヘリコバクター・ピロリ、カンピロバクター・ジェジュニ/コリなど) およびスピロヘータについて概説できる。		微生物学		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 抗酸菌 (結核菌、らい菌など) について概説できる。		微生物学		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアについて概説できる。		微生物学		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
8) 真菌 (アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ、ムコール、白黴菌など) について概説できる。		微生物学		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
9) 原虫 (マラリア原虫、トキソプラズマ、腔トリコモナス、クリプトスポリジウム、赤痢アメーバなど)、蠕虫 (回虫、鞭虫、アニサキス、エキソコックスなど) について概説できる。		微生物学		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
D 衛生薬学						
D1 健康						
(1) 社会・集団と健康						
【① 健康と疾病の概念】						
1) 健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。			衛生学 I	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【② 疫学統計】						

	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
1) 集団の健康と疾病の現状およびその影響要因を把握する上での人口統計の意義を概説できる。			衛生学 I	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 人口統計および傷病統計に関する指標について説明できる。			衛生学 I	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 人口動態 (死因別死亡率など) の変遷について説明できる。			衛生学 I	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【③疫学】						
1) 疾病の予防における疫学の役割を説明できる。			衛生学 I	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 疫学の三要因 (病因、環境要因、宿主要因) について説明できる。			衛生学 I	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 疫学の種類 (記述疫学、分析疫学など) とその方法について説明できる。			衛生学 I	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) リスク要因の評価として、オッズ比、相対危険度、寄与危険度および信頼区間について説明し、計算できる。(知識・技能)			衛生学 I	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(2) 疾病の予防						
【①疾病の予防とは】						
1) 疾病の予防について、一次、二次、三次予防という言葉を用いて説明できる。			衛生学 I	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 健康増進政策 (健康日本 21 など) について概説できる。			衛生学 I	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【②感染症とその予防】						
1) 現代における感染症 (日和見感染、院内感染、新興感染症、再興感染症など) の特徴について説明できる。			衛生学 I	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 感染症法における、感染症とその分類について説明できる。			衛生学 I	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 代表的な性感染症を列挙し、その予防対策について説明できる。			衛生学 I	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 予防接種の意義と方法について説明できる。			衛生学 I	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【③生活習慣病とその予防】						
1) 生活習慣病の種類とその動向について説明できる。			衛生学 I	総合薬学演習 I	(選) 栄養と保健衛生	総合薬学演習 II
2) 生活習慣病の代表的なリスク要因を列挙し、その予防法について説明できる。			衛生学 I	総合薬学演習 I	(選) 栄養と保健衛生	総合薬学演習 II
3) 食生活や喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて討議する。(態度)			衛生学 I	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【④母子保健】						
1) 新生児マススクリーニングの意義について説明し、代表的な検査項目を列挙できる。			衛生学 I	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 母子感染する代表的な疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。			衛生学 I	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【⑤労働衛生】						
1) 代表的な労働災害、職業性疾病について説明できる。			衛生学 I	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 労働衛生管理について説明できる。			衛生学 I	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(3) 栄養と健康						
【①栄養】						
1) 五大栄養素を列挙し、それぞれの役割について説明できる。	生化学 II		衛生学 I	総合薬学演習 I	(選) 栄養と保健衛生	総合薬学演習 II
2) 各栄養素の消化、吸収、代謝のプロセスを概説できる。	生化学 II		衛生学 I	総合薬学演習 I	(選) 栄養と保健衛生	総合薬学演習 II
3) 食品中の三大栄養素の栄養的な価値を説明できる。	生化学 II		衛生学 I	総合薬学演習 I	(選) 栄養と保健衛生	総合薬学演習 II
4) 五大栄養素以外の食品成分 (食物繊維、抗酸化物質など) の機能について説明できる。	生化学 II		衛生学 I	総合薬学演習 I	(選) 栄養と保健衛生	総合薬学演習 II
5) エネルギー代謝に関わる基礎代謝量、呼吸商、推定エネルギー必要量の意味を説明できる。	生化学 II		衛生学 I	総合薬学演習 I	(選) 栄養と保健衛生	総合薬学演習 II
6) 日本人の食事摂取基準について説明できる。	生化学 II		衛生学 I	総合薬学演習 I	(選) 栄養と保健衛生	総合薬学演習 II
7) 栄養素の過不足による主な疾病を列挙し、説明できる。	生化学 II		衛生学 I	総合薬学演習 I	(選) 栄養と保健衛生	総合薬学演習 II
8) 疾病治療における栄養の重要性を説明できる。	生化学 II		衛生学 I	総合薬学演習 I	(選) 栄養と保健衛生	総合薬学演習 II
【②食品機能と食品衛生】						

平成25年度改訂版・算学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 炭水化物・タンパク質が変質する機構について説明できる。			衛生学 I	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 油脂が変敗する機構を説明し、油脂の変質試験を実施できる。(知識・技能)			衛生学 I	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 食品の変質を防ぐ方法(保存法)を説明できる。			衛生学 I	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 食品成分由来の発がん性物質を列挙し、その生成機構を説明できる。			衛生学 I	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 代表的な食品添加物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。			衛生学 I	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 特別用途食品と保健機能食品について説明できる。			衛生学 I	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) 食品衛生に関する法的規制について説明できる。			衛生学 I	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II

	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
【③食中毒と食品汚染】						
1) 代表的な細菌性・ウイルス性食中毒を列挙し、それらの原因となる微生物の性質、症状、原因食品および予防方法について説明できる。			衛生学Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 食中毒の原因となる代表的な自然毒を列挙し、その原因物質、作用機構、症状の特徴を説明できる。			衛生学Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 化学物質(重金属、残留農薬など)やカビによる食品汚染の具体例を挙げ、ヒトの健康に及ぼす影響を説明できる。			衛生学Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
D2 環境						
(1) 化学物質・放射線の生体への影響						
【①化学物質の毒性】						
1) 代表的な有害化学物質の吸収、分布、代謝、排泄の基本的なプロセスについて説明できる。			衛生学Ⅱ			総合薬学演習Ⅱ
2) 肝臓、腎臓、神経などに特異的に毒性を示す代表的な化学物質を列挙できる。			衛生学Ⅱ			総合薬学演習Ⅱ
3) 重金属、POB、ダイオキシンなどの代表的な有害化学物質や農薬の急性毒性、慢性毒性の特徴について説明できる。			衛生学Ⅱ			総合薬学演習Ⅱ
4) 重金属や活性酸素による障害を防ぐための生体防御因子について具体例を挙げて説明できる。			衛生学Ⅱ			総合薬学演習Ⅱ
5) 薬物の乱用による健康への影響について説明し、討議する。(知識・態度)			衛生学Ⅱ			総合薬学演習Ⅱ
6) 代表的な中毒原因物質の解毒処置法を説明できる。			衛生学Ⅱ			総合薬学演習Ⅱ
7) 代表的な中毒原因物質(乱用薬物を含む)の試験法を列挙し、概説できる。			衛生学Ⅱ			総合薬学演習Ⅱ
【②化学物質の安全性評価と適正使用】						
1) 個々の化学物質の使用目的に鑑み、適正使用とリスクコミュニケーションについて討議する。(態度)			衛生学Ⅱ			総合薬学演習Ⅱ
2) 化学物質の毒性を評価するための主な試験法を列挙し、概説できる。			衛生学Ⅱ			総合薬学演習Ⅱ
3) 毒性試験の結果を評価するのに必要な量-反応関係、閾値、無毒性量 (NOEL) などについて概説できる。			衛生学Ⅱ			総合薬学演習Ⅱ
4) 化学物質の安全摂取量(1日許容摂取量など)について説明できる。			衛生学Ⅱ			総合薬学演習Ⅱ
5) 有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制(化審法、化管法など)を説明できる。			衛生学Ⅱ			総合薬学演習Ⅱ
【③化学物質による発がん】						
1) 発がん性物質などの代謝的活性化の機構を列挙し、その反応機構を説明できる。			衛生学Ⅱ			総合薬学演習Ⅱ
2) 遺伝毒性試験(Ames試験など)の原理を説明できる。			衛生学Ⅱ			総合薬学演習Ⅱ
3) 発がんに至る過程(イニシエーション、プロモーションなど)について概説できる。			衛生学Ⅱ			総合薬学演習Ⅱ
【④放射線の生体への影響】						
1) 電離放射線を列挙し、生体への影響を説明できる。				衛生学Ⅲ		(選)放射線応用学 総合薬学演習Ⅱ
2) 代表的な放射性核種(天然、人工)と生体との相互作用を説明できる。				衛生学Ⅲ		(選)放射線応用学 総合薬学演習Ⅱ
3) 電離放射線を防御する方法について概説できる。				衛生学Ⅲ		(選)放射線応用学 総合薬学演習Ⅱ
4) 非電離放射線(紫外線、赤外線など)を列挙し、生体への影響を説明できる。				衛生学Ⅲ		総合薬学演習Ⅱ
(2) 生活環境と健康						
【①地球環境と生態系】						
1) 地球規模の環境問題の成因、人に与える影響について説明できる。			(選)エコロジー論	衛生学Ⅲ 総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 生態系の構成を列挙し、その特徴と相互関係を説明できる。				衛生学Ⅲ 総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 化学物質の環境内動態(生物濃縮など)について例を挙げて説明できる。				衛生学Ⅲ 総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 地球環境の保全に関する国際的な取り組みについて説明できる。			(選)エコロジー論	衛生学Ⅲ 総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
5) 人が生態系の一員であることをふまえて環境問題を討議する。(態度)				(選)エコロジ―論	衛生学Ⅲ 総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ

	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
【②環境保全と法的規制】						
1) 典型七公害とその現状、および四大公害について説明できる。				衛生学Ⅱ 総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 環境基本法の理念を説明できる。				衛生学Ⅲ 総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 環境汚染(大気汚染、水質汚濁、土壌汚染など)を防止するための法規制について説明できる。				衛生学Ⅲ 総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【③水環境】						
1) 原水の種類を挙げ、特徴を説明できる。				衛生学Ⅱ 総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 水の浄化法、塩素処理について説明できる。	物理系実習Ⅱ			衛生学Ⅱ 総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 水道水の水質基準の主な項目を列挙し、測定できる。(知識・技能)	物理系実習Ⅱ			衛生学Ⅲ 総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 下水処理および排水処理の主な方法について説明できる。	物理系実習Ⅱ			衛生学Ⅱ 総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 水質汚濁の主な指標を列挙し、測定できる。(知識・技能)	物理系実習Ⅱ			衛生学Ⅲ 総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
6) 富栄養化の原因とそれによってもたらされる問題点を挙げ、対策を説明できる。			(選)エコロジー論	衛生学Ⅲ 総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【④大気環境】						
1) 主な大気汚染物質を列挙し、その推移と発生源、健康影響について説明できる。	物理系実習Ⅱ		(選)エコロジー論	衛生学Ⅱ 総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 主な大気汚染物質を測定できる。(技能)	物理系実習Ⅱ			衛生学Ⅲ 総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 大気汚染に影響する気象要因(逆転層など)を概説できる。				衛生学Ⅲ 総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【⑤室内環境】						
1) 室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定できる。(知識・技能)	物理系実習Ⅱ			衛生学Ⅱ 総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 室内環境と健康との関係について説明できる。	物理系実習Ⅱ		(選)エコロジー論	衛生学Ⅲ 総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【⑥毒薬物】						
1) 毒薬物の種類と処理方法を列挙できる。	物理系実習Ⅱ			衛生学Ⅲ 総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 毒薬物処理の問題点を列挙し、その対策を説明できる。	物理系実習Ⅱ		(選)エコロジー論	衛生学Ⅱ 総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) マニフェスト制度について説明できる。				衛生学Ⅲ 総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
E 医薬薬学						
E1 薬の作用と体の変化						
(1) 薬の作用						
【①薬の作用】						
1) 薬の用量と作用の関係を説明できる。	薬理学Ⅰ 生物系実習Ⅱ 生物系実習Ⅲ			総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ <small>(3)薬理学の基礎と呼吸器疾患</small>
2) アゴニスト(作用薬、作動薬、刺激薬)とアンタゴニスト(拮抗薬、遮断薬)について説明できる。	薬理学Ⅰ 生物系実習Ⅱ 生物系実習Ⅲ			総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ <small>(3)薬理学の基礎と呼吸器疾患</small>
3) 薬物が作用するしくみについて、受容体、酵素、イオンチャネルおよびトランスポーターを例に挙げて説明できる。	薬理学Ⅰ 生物系実習Ⅱ 生物系実習Ⅲ			総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ <small>(3)薬理学の基礎と呼吸器疾患</small>
4) 代表的な受容体を列挙し、刺激あるいは遮断された場合の生理反応を説明できる。	薬理学Ⅰ 生物系実習Ⅱ 生物系実習Ⅲ			総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ <small>(3)薬理学の基礎と呼吸器疾患</small>
5) 薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系を列挙し、活性化あるいは抑制された場合の生理反応を説明できる。(06(6)【②細胞内情報伝達】1.～5.参照)	薬理学Ⅰ 生物系実習Ⅱ 生物系実習Ⅲ			総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ <small>(3)薬理学の基礎と呼吸器疾患</small>

	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
6) 薬物の体内動態 (吸収、分布、代謝、排泄) と薬物動態の関わりについて説明できる。 (E4 (1) 【②吸収】、【④代謝】、【⑤排泄】参照)		薬動態 I 生物系実習 II 生物系実習 III		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) 薬物の運搬 (結合を含む)、用法、用量の変更が必要となる要因 (年齢、疾病、妊娠等) について具体例を挙げて説明できる。		生物系実習 II 生物系実習 III 薬動態 I 生物系実習 II 生物系実習 III		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
8) 薬理作用に由来する代表的な薬物相互作用を列挙し、その機序を説明できる。 (E4 (1) 【②吸収】5. 【⑤排泄】5. 参照)		生物系実習 II 生物系実習 III		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
9) 薬物依存性、耐性について具体例を挙げて説明できる。		生物系実習 II 生物系実習 III		疾患・有害事象の症候 総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【②動物実験】						
1) 動物実験における倫理について配慮できる。(態度)		生物系実習 II 生物系実習 III				総合薬学演習 II
2) 実験動物を適正に取り扱うことができる。(技能)		生物系実習 II 生物系実習 III				総合薬学演習 II
3) 実験動物での代表的な投与方法が実施できる。(技能)		生物系実習 II 生物系実習 III				総合薬学演習 II
【③日本薬局方】						
1) 日本薬局方収載の生物学的定量法の特徴を説明できる。						総合薬学演習 II
【②身体の病的変化を知る】						
【①症候】						
1) 以下の症候・病態について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を挙げ、患者情報をもとに疾患を推測できる。 ショック、高血圧、低血圧、発熱、けいれん、意識障害・失神、チアノーゼ、脱水、全身倦怠感、肥満・やせ、黄疸、発赤、貧血、出血傾向、リンパ腫腫脹、浮腫、心腔充満・動悸、胸水、胸痛、呼吸困難、咳・痰、嘔吐、めまい、頭痛、運動麻痺・不随意運動・筋力低下、腹痛、悪心・嘔吐、嚥下困難・障害、食欲不振、下痢・便秘、吐血・下血、腹部膨満(腹水を含む)、タンパク尿、血尿、尿量・尿色の異常、月経異常、関節痛、関節腫脹、腰背部痛、記憶障害、知覚異常(しびれを含む)、神経痛、視力障害、聴力障害				疾患・有害事象の症候		総合薬学演習 II
【②病態・臨床検査】						
1) 尿検査および糞便検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。						総合薬学演習 II
2) 血液検査、血液凝固機能検査および脳脊髄液検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。						総合薬学演習 II
3) 血液生化学検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。						総合薬学演習 II
4) 免疫学的検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。		免疫学			(選)応用免疫学	総合薬学演習 II
5) 動脈血ガス分析の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。						総合薬学演習 II
6) 代表的な生理機能検査(心機能、腎機能、肝機能、呼吸機能等)、病理組織検査および画像検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。						総合薬学演習 II
7) 代表的な微生物検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。						総合薬学演習 II
8) 代表的なフィジカルアセスメントの検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。						総合薬学演習 II
【③薬物治療の位置づけ】						
1) 代表的な疾患における薬物治療、食事療法、その他の非薬物治療(外科手術など)の位置づけを説明できる。		薬物治療 I	薬物治療 V			(選)専門薬剤師特論 III 総合薬学演習 II
2) 代表的な疾患における薬物治療の役割について、病態、薬効薬理、薬動態に基づいて討議する。 (知識・技能)		薬物治療 I		事前学習 I / II		(選)専門薬剤師特論 III 総合薬学演習 II
【④医薬品の安全性】						
1) 薬物の主作用と副作用、毒性との関連について説明できる。						総合薬学演習 II
2) 薬物の副作用と有害事象の違いについて説明できる。						総合薬学演習 II
3) 以下の障害を呈する代表的な副作用疾患について、推定される原因医薬品、身体所見、検査所見および対処方法を説明できる。 血液障害・電解質異常、肝障害、腎障害、消化器障害、循環器障害、精神障害、皮膚障害、呼吸器障害、薬物アレルギー(ショックを含む)、代謝障害、筋障害						総合薬学演習 II

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
4) 代表的薬害、薬物乱用について、健康リスクの観点から討議する。(態度)			生物系実習Ⅱ 生物系実習Ⅲ		疾患・有害事象の症候		総合薬学演習Ⅱ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					
該当科目					
1年	2年	3年	4年	5年	6年
E2 薬理・病態・薬物治療					
(1) 神経系の疾患と薬					
【①自律神経系に作用する薬】					
1) 交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。					
	薬理学 I		総合薬学演習 I		(選) 薬理学の基礎と呼吸器疾患 総合薬学演習 II
2) 副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。					
	薬理学 I		総合薬学演習 I		(選) 薬理学の基礎と呼吸器疾患 総合薬学演習 II
3) 神経節に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる。					
	薬理学 I		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 自律神経系に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)					
	生物系実習 II 生物系実習 III		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【②体性神経系に作用する薬・筋の疾患の薬、病態、治療】					
1) 知覚神経に作用する代表的な薬物(局所麻酔薬など)を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。					
	薬理学 I	薬物治療 V			総合薬学演習 II
2) 運動神経に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。					
	薬理学 I				総合薬学演習 II
3) 知覚神経、運動神経に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)					
	生物系実習 II 生物系実習 III				総合薬学演習 II
4) 以下の疾患について説明できる。 進行性筋ジストロフィー、Guillain-Barré(ギラン・バレー)症候群、重症筋無力症(重複)					
	薬理学 I				総合薬学演習 II
【③中枢神経系の疾患の薬、病態、治療】					
1) 全身麻酔薬、催眠薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。					
	薬理学 II	薬物治療 V	総合薬学演習 I		(選) 専門薬初師特論 III 総合薬学演習 II
2) 麻薬性鎮痛薬、非麻薬性鎮痛薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用(NH0三段階除痛ラダーを含む)を説明できる。					
	薬理学 II		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 中枢興奮薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。					
	薬理学 II		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 統合失調症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。					
	薬理学 II	薬物治療 IV	総合薬学演習 I		(選) 専門薬初師特論 III (選) 薬学特別演習 総合薬学演習 II
5) うつ病、躁うつ病(双極性障害)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。					
	薬理学 II	薬物治療 IV	総合薬学演習 I		(選) 薬学特別演習 総合薬学演習 II
6) 不安神経症(パニック障害と全般性不安障害)、心身症、不眠症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。					
	薬理学 II	薬物治療 IV	総合薬学演習 I		(選) 薬学特別演習 総合薬学演習 II
7) てんかんについて、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。					
	薬理学 II		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
8) 脳血管疾患(脳内出血、脳梗塞、脳血管性認知症等)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。					
	薬理学 II		総合薬学演習 I		(選) 薬学特別演習 総合薬学演習 II
9) Parkinson(パーキンソン)病について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。					
	薬理学 II		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
10) 認知症(Alzheimer(アルツハイマー)型認知症、脳血管性認知症等)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。					
	薬理学 II		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
11) 片頭痛について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)について説明できる。					
	薬理学 II		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
12) 中枢神経系に作用する薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)					
	薬理学 II 生物系実習 II 生物系実習 III		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
13) 中枢神経系疾患の社会生活への影響および薬物治療の重要性について討議する。(態度)					
	薬理学 II 生物系実習 II 生物系実習 III		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
14) 以下の疾患について説明できる。 脳炎・髄膜炎(重複)、多発性硬化症(重複)、筋萎縮性側索硬化症、Narcolepsy(ナルコレプシー)、薬物依存症、アルコール依存症					
	薬理学 II		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II

	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
【④化学構造と薬物】						総合薬学演習 II
1) 神経系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬物 (薬理・薬物動態) の関連を概説できる。						
2) 免疫・炎症・アレルギー-および骨・関節の疾患と薬						
【①抗炎症薬】						
1) 抗炎症薬 (ステロイド性および非ステロイド性) および解熱性鎮痛薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。		薬物治療 I	薬物治療 V			総合薬学演習 II
2) 抗炎症薬の作用機序に基づいて炎症について説明できる。		薬物治療 I	薬物治療 V			総合薬学演習 II
3) 創傷治癒の過程について説明できる。		薬理学 I 薬物治療 I				総合薬学演習 II
【②免疫・炎症・アレルギー疾患の薬、病態、治療】						
1) アレルギー治療薬 (抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬等) の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。		薬物治療 I			(選) 応用免疫学 総合薬学演習 II	(選) 薬学特別演習 総合薬学演習 II
2) 免疫抑制薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。		薬物治療 I			(選) 応用免疫学 総合薬学演習 II	(選) 薬学特別演習 総合薬学演習 II
3) 以下のアレルギー疾患について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、接触性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、花粉症、消化管アレルギー、気管支喘息 (重複)		薬物治療 I			(選) 応用免疫学 総合薬学演習 II	(選) 薬学特別演習 総合薬学演習 II
4) 以下の薬物アレルギーについて、原因薬物、病態 (病態生理、症状等) および対処法を説明できる。Stevens-Johnson (スティーブンス・ジョンソン) 症候群、中毒性表皮壊死症 (重症)、薬剤性過敏症候群、薬疹		薬物治療 I			(選) 応用免疫学 総合薬学演習 II	(選) 薬学特別演習 総合薬学演習 II
5) アナフィラキシスについて、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		薬物治療 I			(選) 応用免疫学 総合薬学演習 II	(選) 薬学特別演習 総合薬学演習 II
6) 以下の疾患について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。尋常性乾癬、水疱症、光線過敏症、ペーチェット病		薬物治療 I			(選) 応用免疫学 総合薬学演習 II	(選) 薬学特別演習 総合薬学演習 II
7) 以下の臓器特異的自己免疫疾患について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。バセドウ病 (重症) ・橋本病 (重症) ・悪性貧血 (重症) ・1型糖尿病 (重症) ・重症筋無力症 ・多発性硬化症、特発性血小板減少性紫斑病、自己免疫性溶血性貧血 (重症) ・シェーグレン症候群		薬物治療 I			(選) 応用免疫学 総合薬学演習 II	(選) 薬学特別演習 総合薬学演習 II
8) 以下の全身性自己免疫疾患について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。全身性エリテマトーデス、強皮症、多発性皮膚筋炎、関節リウマチ		薬物治療 I			(選) 応用免疫学 総合薬学演習 II	(選) 薬学特別演習 総合薬学演習 II
9) 臓器移植 (腎臓、肝臓、骨髄、臍帯血、輸血) について、拒絶反応および移植片対宿主病 (GVHD) の病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		薬物治療 I			(選) 応用免疫学 総合薬学演習 II	(選) 薬学特別演習 総合薬学演習 II
【③骨・関節・カルシウム代謝疾患の薬、病態、治療】						
1) 関節リウマチについて、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		薬物治療 I				(選) 薬理薬物の薬物治療 (放) 薬理薬物の薬理 総合薬学演習 II
2) 骨粗鬆症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			薬物治療 IV			総合薬学演習 II
3) 変形性関節症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			薬物治療 IV			総合薬学演習 II
4) カルシウム代謝の異常を伴う疾患 (副甲状腺機能亢進 (低下) 症、骨軟化症 (くる病を含む) 、慢性腎臓病に伴う高カルシウム血症) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			薬物治療 IV			総合薬学演習 II
【④化学構造と薬物】						
1) 免疫・炎症・アレルギー疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬物 (薬理・薬物動態) の関連を概説できる。		薬物治療 I			(選) 応用免疫学 総合薬学演習 II	総合薬学演習 II
(3) 循環器系・血液系・造血系・泌尿器系・生殖器系・生薬系の疾患と薬						
【①循環器系疾患の薬、病態、治療】						

	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<p>平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)</p> <p>1) 以下の不整脈および関連疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 不整脈の例示: 上室性期外収縮(PAC)、心室細動(AF)、発作性上室頻拍(PSVT)、WPW症候群、心室頻拍(VT)、心室細動(VF)、房室ブロック、QT延長症候群</p> <p>2) 急性および慢性心不全について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。</p> <p>3) 虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。</p> <p>4) 以下の高血圧症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 本態性高血圧症、二次性高血圧症(腎性高血圧症、腎血管性高血圧症を含む)</p> <p>5) 以下の疾患について概説できる。 閉塞性動脈硬化症(ASD)、心原性ショック、弁膜症、先天性心疾患</p> <p>6) 循環器系に作用する薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)</p>			薬物治療Ⅲ 総合薬学演習Ⅰ	総合薬学演習Ⅰ		(選)薬理講義・内分系系集中講義 (選)消化器、代謝系系集中講義 (選)薬学特別演習 総合薬学演習Ⅱ
<p>【②血液・造血系疾患の薬、病態、治療】</p> <p>1) 止血薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。</p> <p>2) 抗血栓薬、抗凝回薬および血栓溶解薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。</p> <p>3) 以下の貧血について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血(悪性貧血等)、再生不良性貧血、自己免疫性溶血性貧血(AIHA)、腎性貧血、鉄芽球性貧血</p> <p>4) 機能的血管内凝固症候群(DIC)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。</p> <p>5) 以下の疾患について治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 血友病、血栓性血小板減少性紫斑病(TTP)、白血球減少症、血栓塞栓症、白血病(重複)、悪性リンパ腫(重複) (E2 (7) 【⑧悪性腫瘍の薬、病態、治療】参照)</p>	生物系実習Ⅱ 生物系実習Ⅲ	薬物治療Ⅲ 総合薬学演習Ⅰ	薬物治療Ⅲ 総合薬学演習Ⅰ	薬物治療Ⅲ 総合薬学演習Ⅰ	(選)薬理講義・内分系系集中講義 (選)消化器、代謝系系集中講義 (選)薬学特別演習 総合薬学演習Ⅱ	
<p>【③泌尿器系、生殖器系疾患の薬、病態、薬物治療】</p> <p>1) 利尿薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。</p> <p>2) 急性および慢性腎不全について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。</p> <p>3) ネフローゼ症候群について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。</p> <p>4) 過活動膀胱および低活動膀胱について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。</p> <p>5) 以下の泌尿器系疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 慢性腎臓病(CKD)、糸球体腎炎(重複)、補腎性腎症(重複)、薬毒性腎症(重複)、腎盂腎炎(重複)、膀胱炎(重複)、尿路感染症(重複)、尿路結石</p> <p>6) 以下の生殖器系疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 前立腺肥大症、子宮内膜炎、子宮筋腫</p> <p>7) 妊娠・分娩・避妊に関連して用いられる薬物について、薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。</p>	薬物治療Ⅰ 薬物治療Ⅰ 薬物治療Ⅰ 薬物治療Ⅰ 薬物治療Ⅰ	薬物治療Ⅳ 薬物治療Ⅳ 薬物治療Ⅳ 薬物治療Ⅳ 薬物治療Ⅳ	薬物治療Ⅳ 薬物治療Ⅳ 薬物治療Ⅳ 薬物治療Ⅳ 薬物治療Ⅳ	薬物治療Ⅳ 薬物治療Ⅳ 薬物治療Ⅳ 薬物治療Ⅳ 薬物治療Ⅳ	薬物治療Ⅳ 薬物治療Ⅳ 薬物治療Ⅳ 薬物治療Ⅳ 薬物治療Ⅳ	(選)薬理講義・内分系系集中講義 (選)薬学特別演習 総合薬学演習Ⅱ (選)薬理講義・内分系系集中講義 (選)消化器、代謝系系集中講義 (選)薬学特別演習 総合薬学演習Ⅱ (選)薬理講義・内分系系集中講義 (選)消化器、代謝系系集中講義 (選)薬学特別演習 総合薬学演習Ⅱ (選)薬理講義・内分系系集中講義 (選)消化器、代謝系系集中講義 (選)薬学特別演習 総合薬学演習Ⅱ (選)薬理講義・内分系系集中講義 (選)消化器、代謝系系集中講義 (選)薬学特別演習 総合薬学演習Ⅱ

	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<p>平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)</p> <p>8) 以下の生殖系疾患について説明できる。 異常妊娠、異常分娩、不妊症</p>			薬物治療Ⅲ			総合薬学演習Ⅱ
<p>【④化学構造と薬効】</p> <p>1) 循環系・泌尿器系・生殖系疾患の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効 (薬理・薬物動態) の関連を概説できる。</p>			薬物治療Ⅳ			総合薬学演習Ⅱ

	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
(4) 呼吸器系・消化器系の疾患と薬						
【①呼吸器系疾患の薬、病態、治療】						
1) 気管支喘息について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬物治療Ⅲ	事前学習Ⅰ		(選)薬理作用の基礎と呼吸器疾患 総合薬学演習Ⅱ
2) 慢性閉塞性肺疾患および喫煙に関連する疾患(ニコチン依存症を含む)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬物治療Ⅲ			(選)薬理作用の基礎と呼吸器疾患 (選)薬理作用の基礎と呼吸器疾患 総合薬学演習Ⅱ
3) 間接性肺炎について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬物治療Ⅲ			(選)薬理作用の基礎と呼吸器疾患 総合薬学演習Ⅱ
4) 肺気腫、去痰薬、呼吸興奮薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。			薬物治療Ⅲ			(選)薬理作用の基礎と呼吸器疾患 総合薬学演習Ⅱ
【②消化器系疾患の薬、病態、治療】						
1) 以下の上消化器疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 胃食道逆流症(逆流性食道炎を含む)、消化性潰瘍、胃炎			薬物治療Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		(選)消化器系疾患 (選)薬学特別演習 総合薬学演習Ⅱ
2) 炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎、クローン病等)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)・および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬物治療Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		(選)消化器系疾患 (選)薬学特別演習 総合薬学演習Ⅱ
3) 肝疾患(肝炎、肝硬変(ウイルス性を含む)、薬剤性肝障害)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬物治療Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		(選)消化器系疾患 (選)薬学特別演習 総合薬学演習Ⅱ
4) 腫瘍について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬物治療Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		(選)消化器系疾患 (選)薬学特別演習 総合薬学演習Ⅱ
5) 胆道疾患(胆石症、胆道炎)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬物治療Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		(選)消化器系疾患 (選)薬学特別演習 総合薬学演習Ⅱ
6) 機能性消化管障害(過敏性腸症候群を含む)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)・および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬物治療Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		(選)消化器系疾患 (選)薬学特別演習 総合薬学演習Ⅱ
7) 便秘・下痢について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		生物系実習Ⅲ	薬物治療Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		(選)薬学特別演習 総合薬学演習Ⅱ
8) 悪心・嘔吐について、治療薬および関連薬物(催吐薬)の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬物治療Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		(選)薬学特別演習 総合薬学演習Ⅱ
9) 痛について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬物治療Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【③化学構造と薬効】						
1) 呼吸器系・消化器系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。			薬物治療Ⅱ			総合薬学演習Ⅱ
(5) 代謝系・内分泌系の疾患と薬						
【①代謝系疾患の薬、病態、治療】						
1) 糖尿病とその合併症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬物治療Ⅳ	総合薬学演習Ⅰ 事前学習Ⅰ		(選)消化器系疾患 (選)薬理作用の基礎と呼吸器疾患 (選)薬学特別演習 総合薬学演習Ⅱ
2) 脂質異常症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬物治療Ⅳ	総合薬学演習Ⅰ		(選)消化器系疾患 総合薬学演習Ⅱ
3) 高尿酸血症・痛風について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬物治療Ⅳ	総合薬学演習Ⅰ		(選)消化器系疾患 (選)薬学特別演習 総合薬学演習Ⅱ
【②内分泌系疾患の薬、病態、治療】						
1) 性ホルモン関連薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。			薬物治療Ⅳ			(選)薬理作用の基礎と呼吸器疾患 総合薬学演習Ⅱ

	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
2) Basedow (バセドウ) 病について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬物治療IV	事前学習I		(選)薬理関係・内分泌系集中講義 総合薬学演習II
3) 甲状腺炎(慢性(橋本病)、亜急性)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬物治療IV			(選)薬理関係・内分泌系集中講義 総合薬学演習II
4) 尿崩症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬物治療IV			(選)薬理関係・内分泌系集中講義 総合薬学演習II
5) 以下の疾患について説明できる。 先端巨大症、高プロラクチン血症、下垂体機能低下症、ADH不適合分泌症候群(SIADH)、副甲狀腺機能亢進症、低下症、Gushing(クッシング)症候群、アルドステロン症、褐色細胞腫、副腎不全(急性、慢性)、子宮内膜炎(重複)、アジソン病(重複)			薬物治療IV			(選)薬理関係・内分泌系集中講義 総合薬学演習II
【③化学構造と薬効】						
1) 代謝系・内分布系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。			薬物治療IV			(選)薬学特別演習 総合薬学演習II
(6) 感覚器・皮膚の疾患と薬						
【①眼疾患の薬、病態、治療】						
1) 緑内障について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学I				総合薬学演習II
2) 白内障について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学I				総合薬学演習II
3) 加齢性黄斑変性について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学I				総合薬学演習II
4) 以下の疾患について概説できる。 結膜炎(重複)、網膜炎、ぶどう膜炎、網膜色素変性症		薬理学I				総合薬学演習II
【②耳鼻咽喉疾患の薬、病態、治療】						
1) めまい(動揺病、Meniere(メニエール)病等)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学I				総合薬学演習II
2) 以下の疾患について概説できる。 アレルギー性鼻炎(重複)、花粉症(重複)、中耳炎(重複)、口内炎・咽頭炎・扁桃腺炎(重複)、喉頭蓋炎		薬理学I				総合薬学演習II
【③皮膚疾患の薬、病態、治療】						
1) アトピー性皮膚炎について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 (E2)(2) 【②免疫・炎症・アレルギーの薬、病態、治療】参照		薬理学I				(選)薬学特別演習 総合薬学演習II
2) 皮膚真菌症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 (E2)(7) 【⑤真菌感染症の薬、病態、治療】参照		薬理学I				(選)薬学特別演習 総合薬学演習II
3) 褥瘡について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学I				総合薬学演習II
4) 以下の疾患について概説できる。 尋麻疹(重複)、薬疹(重複)、水疱症(重複)、乾癬(重複)、接触性皮炎(重複)、光線過敏症(重複)		薬理学I				総合薬学演習II
【④化学構造と薬効】						
1) 感覚器・皮膚の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。		薬理学I				総合薬学演習II
(7) 病原微生物(感染症)・悪性新生物(がん)と薬						
【①抗菌薬】						
1) 以下の抗菌薬の薬理(薬理作用、機序、相互作用、相対作用、組織移行性)および臨床適用を説明できる。 β-ラクタム系、テトラサイクリン系、マクロライド系、アミノ配糖体(アミノグリコシド)系、キノロン系、グリコペプチド系、抗結核薬、サルファ剤(STI合剤を含む)、その他の抗菌薬			薬物治療II			(選)薬学特別演習 総合薬学演習II

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 細菌感染症に関係する代表的な生物学的製剤 (ワクチン等) を挙げ、その作用機序を説明できる。			薬物治療 II			(選) 薬学特別演習 総合薬学演習 II
【②抗菌薬の耐性】						
1) 主要な抗菌薬の耐性獲得機構および耐性菌出現への対応を説明できる。			薬物治療 II			総合薬学演習 II
【③細菌感染症の薬、病態、治療】						
1) 以下の呼吸器感染症について、病態 (病態生理、症状等)、感染経路と予防法および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 (上部気道炎 (かぜ症候群 (大腸菌感染症) を含む)、気管支炎、扁桃炎、細菌性肺炎、肺結核、レジオネラ感染症、百日咳、マイコプラズマ肺炎)			薬物治療 II		(選) 応用免疫学	(選) 薬学特別演習 総合薬学演習 II
2) 以下の消化器感染症について、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 (急性虫垂炎、胆嚢炎、胆管炎、病原性大腸菌感染症、食中毒、ヘリコバクター・ピロリ感染症、赤痢、コレラ、腸チフス、パラチフス、偽膜性大腸炎)			薬物治療 II		(選) 応用免疫学	(選) 薬学特別演習 総合薬学演習 II
3) 以下の感覚器感染症について、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 (副鼻腔炎、中耳炎、結膜炎)			薬物治療 II		(選) 応用免疫学	(選) 薬学特別演習 総合薬学演習 II
4) 以下の尿路感染症について、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 (腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎)			薬物治療 II		(選) 応用免疫学	(選) 薬学特別演習 総合薬学演習 II
5) 以下の性感染症について、病態 (病態生理、症状等)、予防法および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 (梅毒、淋病、クラミジア症等)			薬物治療 II		(選) 応用免疫学	(選) 薬学特別演習 総合薬学演習 II
6) 脳炎、髄膜炎について、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			薬物治療 II		(選) 応用免疫学	(選) 薬学特別演習 総合薬学演習 II
7) 以下の皮膚細菌感染症について、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 (伝染性膿痂疹、丹毒、癰、毛嚢炎、ハンセン病)			薬物治療 II		(選) 応用免疫学	(選) 薬学特別演習 総合薬学演習 II
8) 感染性心内膜炎、胸膜炎について、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			薬物治療 II		(選) 応用免疫学	(選) 薬学特別演習 総合薬学演習 II
9) 以下の薬剤耐性菌による院内感染について、感染経路と予防法、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 (MRSA、VRE、セラチア、緑膿菌等)			薬物治療 II		(選) 応用免疫学	(選) 薬学特別演習 総合薬学演習 II
10) 以下の全身性細菌感染症について、病態 (病態生理、症状等)、感染経路と予防法および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 (シフテリア、副症型A群β溶血性連鎖球菌感染症、新生児B群連鎖球菌感染症、破傷風、敗血症)			薬物治療 II		(選) 応用免疫学	(選) 薬学特別演習 総合薬学演習 II
【④ウイルス感染症およびアリオン病の薬、病態、治療】						
1) ヘルペスウイルス感染症 (単純ヘルペス、水痘・帯状疱疹) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、予防法および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			薬物治療 II		(選) 応用免疫学	(選) 薬学特別演習 総合薬学演習 II
2) サイトメガロウイルス感染症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			薬物治療 II		(選) 応用免疫学	(選) 薬学特別演習 総合薬学演習 II
3) インフルエンザについて、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、感染経路と予防法および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			薬物治療 II		(選) 応用免疫学	(選) 薬学特別演習 総合薬学演習 II
4) ウイルス性肝炎 (HAV、HBV、HCV) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、感染経路と予防法および病態 (病態生理、急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、肝細胞がん)、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。(重複)			薬物治療 II		(選) 応用免疫学	(選) 薬学特別演習 総合薬学演習 II
5) 後天性免疫不全症候群 (AIDS) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、感染経路と予防法および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。					(選) 応用免疫学	(選) 薬学特別演習 総合薬学演習 II

	該当科目				
	1年	2年	3年	4年	5年
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					
6) 以下のウイルス感染症(プリオン病を含む) について、感染経路と予防方法および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 伝染性紅斑(リンゴ病) 手足口病 伝染性単核球症、急性性髄膜炎、咽頭結膜熱、ウイルス性下咽症、麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、風邪症候群、Orutzfeldt-Jakob(クロイツフェルト-ヤコフ)病					(選)薬学特別演習 (選)薬学特別演習 総合薬学演習Ⅱ
【⑤真菌感染症の薬、病態、治療】					
1) 抗真菌薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。			薬物治療Ⅱ		(選)薬学特別演習 (選)薬学特別演習 総合薬学演習Ⅱ
2) 以下の真菌感染症について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 皮膚真菌症、カンジダ症、ニューモシスチス肺炎、肺炎アスペルギルス症、クリプトコッカス症			薬物治療Ⅱ		(選)薬学特別演習 (選)薬学特別演習 総合薬学演習Ⅱ
【⑥原虫・寄生虫感染症の薬、病態、治療】					
1) 以下の原虫感染症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 マラリア、トキソプラズマ症、トリコモナス症、アメーバ赤痢			薬物治療Ⅱ		(選)薬学特別演習 (選)薬学特別演習 総合薬学演習Ⅱ
2) 以下の寄生虫感染症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 回虫症、鞭虫症、アニサキス症			薬物治療Ⅱ		(選)薬学特別演習 (選)薬学特別演習 総合薬学演習Ⅱ
【⑦悪性腫瘍】					
1) 腫瘍の定義(良性腫瘍と悪性腫瘍の違い)を説明できる。			薬物治療Ⅴ		(選)薬学特別演習 (選)薬学特別演習 総合薬学演習Ⅱ
2) 悪性腫瘍について、以下の項目を概説できる。 組織学分類および病期分類、悪性腫瘍の検査(細胞診、組織診、画像診断、腫瘍マーカー(腫瘍関連の免疫遺伝子、遺伝子産物を含む))、悪性腫瘍の疫学(がん罹患の現状およびがん死亡の現状)、悪性腫瘍のリスクおよび予防要因			薬物治療Ⅴ		(選)薬学特別演習 (選)薬学特別演習 総合薬学演習Ⅱ
3) 悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置づけを概説できる。			薬物治療Ⅴ		(選)薬学特別演習 (選)薬学特別演習 総合薬学演習Ⅱ
【⑧悪性腫瘍の薬、病態、治療】					
1) 以下の悪性腫瘍薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用、相互作用、組織移行性) および臨床適用を説明できる。 アルキル化薬、代謝拮抗薬、抗腫瘍抗生物質、微小管阻害薬、トポイソメラーゼ阻害薬、抗腫瘍ホルモン関連薬、白金製剤、分子標的治療薬、その他の抗悪性腫瘍薬			薬物治療Ⅴ		(選)薬学特別演習 (選)薬学特別演習 総合薬学演習Ⅱ
2) 抗悪性腫瘍薬に対する耐性獲得機構を説明できる。			薬物治療Ⅴ		(選)薬学特別演習 (選)薬学特別演習 総合薬学演習Ⅱ
3) 抗悪性腫瘍薬の主な副作用(下痢、悪心・嘔吐、白血球減少、皮膚障害(手足症候群を含む)、血小板減少等)の軽減のための対処法を説明できる。			薬物治療Ⅴ		(選)薬学特別演習 (選)薬学特別演習 総合薬学演習Ⅱ
4) 代表的ながん化学療法剤のレジメン(FOLFOX等)について、構成薬物およびその役割、副作用、対象疾患を概説できる。			薬物治療Ⅴ		(選)薬学特別演習 (選)薬学特別演習 総合薬学演習Ⅱ
5) 以下の白血病について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 急性(慢性)骨髄性白血病、急性(慢性)リンパ性白血病、成人T細胞白血病(ATL)			薬物治療Ⅴ		(選)薬学特別演習 (選)薬学特別演習 総合薬学演習Ⅱ
6) 悪性リンパ腫および多発性骨髄腫について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬物治療Ⅴ		(選)薬学特別演習 (選)薬学特別演習 総合薬学演習Ⅱ
7) 骨肉腫について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬物治療Ⅴ		(選)薬学特別演習 (選)薬学特別演習 総合薬学演習Ⅱ
8) 以下の消化器系の悪性腫瘍について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 胃癌、食道癌、肝癌、大腸癌、胆嚢・胆管癌、膵癌			薬物治療Ⅴ		(選)薬学特別演習 (選)薬学特別演習 総合薬学演習Ⅱ
9) 肺癌について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬物治療Ⅴ		(選)薬学特別演習 (選)薬学特別演習 総合薬学演習Ⅱ
10) 以下の頭頸部および感覚器の悪性腫瘍について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 脳腫瘍、網膜芽細胞腫、喉頭、咽頭、口腔の悪性腫瘍			薬物治療Ⅴ		(選)薬学特別演習 (選)薬学特別演習 総合薬学演習Ⅱ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
11) 以下の生殖器の悪性腫瘍について、病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等)を説明できる。 前立腺癌、子宮癌、卵巣癌			薬物治療 V			(選)薬学特別演習 II 総合薬学演習 II
12) 腎・尿路系の悪性腫瘍 (腎癌、膀胱癌) について、病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等)を説明できる。			薬物治療 V			(選)薬学特別演習 II 総合薬学演習 II
13) 乳癌について、病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等)を説明できる。			薬物治療 V			(選)薬学特別演習 II 総合薬学演習 II
【9】がん終末期医療と緩和ケア						
1) がん終末期の病態 (病態生理、症状等)と治療を説明できる。			薬物治療 V			(選)専門薬剤師特論 I (選)薬学特別演習 II 総合薬学演習 II
2) がん性疼痛の病態 (病態生理、症状等)と薬物治療 (医薬品の選択等)を説明できる。			薬物治療 V			(選)専門薬剤師特論 I (選)薬学特別演習 II 総合薬学演習 II
【10】化学構造と薬効						
1) 病原微生物・悪性新生物が関わる疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効 (薬理・薬物動態)の関連を概説できる。			薬物治療 II/V			総合薬学演習 II
(8) バイオ・細胞医薬品とゲノム情報						
【10】組換え体医薬品						
1) 組換え体医薬品の特色と有用性を説明できる。				薬物治療の個別化・最適化	(選)応用免疫学	総合薬学演習 II
2) 代表的な組換え体医薬品を列挙できる。				薬物治療の個別化・最適化	(選)応用免疫学	総合薬学演習 II
3) 組換え体医薬品の安全性について概説できる。				薬物治療の個別化・最適化	(選)応用免疫学	総合薬学演習 II
【10】遺伝子治療						
1) 遺伝子治療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。(知識・態度)				薬物治療の個別化・最適化	(選)応用免疫学	総合薬学演習 II
【10】細胞、組織を利用した移植医療						
1) 移植医療の原理、方法と手順、現状およびゲノム情報の取り扱いに関する倫理的問題点を概説できる。(知識・態度)				薬物治療の個別化・最適化	(選)応用免疫学	総合薬学演習 II
2) 摘出および培養組織を用いた移植医療について説明できる。				薬物治療の個別化・最適化	(選)応用免疫学	総合薬学演習 II
3) 臍帯血、末梢血および骨髄由来する血液幹細胞を用いた移植医療について説明できる。				薬物治療の個別化・最適化	(選)応用免疫学	総合薬学演習 II
4) 胚性幹細胞 (ES細胞)、人工多能性幹細胞 (iPS細胞)を用いた細胞移植医療について概説できる。				薬物治療の個別化・最適化	(選)応用免疫学	総合薬学演習 II
(9) 要指導医薬品・一般用医薬品とセルフレイケーション						
1) 地域における疾病予防、健康維持増進、セルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を概説できる。				事前学習 II		総合薬学演習 II
2) 要指導医薬品および一般用医薬品 (リスクの程度に応じた区分 (第一類、第二類、第三類)も含む)について説明し、各分類に含まれる代表的な製剤を列挙できる。				事前学習 II		総合薬学演習 II
3) 代表的な症候について、関連する頻度の高い疾患、見逃してはいけない疾患を列挙できる。				薬学と社会 II 事前学習 II		総合薬学演習 II
4) 要指導医薬品・一般用医薬品の選択、受診勧奨の要否を判断するために必要な患者情報を収集できる。(技能)				事前学習 II		総合薬学演習 II
5) 以下の疾患・症候に対するセルフメディケーションに用いる要指導医薬品・一般用医薬品等に含まれる成分・作用・副作用を列挙できる。 発熱、痛み、かゆみ、消化器症状、呼吸器症状、アレルギー、細菌・真菌感染症、生活習慣病等				薬学と社会 II 事前学習 II		総合薬学演習 II
6) 主な養生法 (運動・食事療法、サプリメント、保健機能食品を含む)とその健康の保持・促進における意義を説明できる。				薬学と社会 II 事前学習 II		総合薬学演習 II
7) 要指導医薬品・一般用医薬品と医薬用医薬品、サプリメント、保健機能食品等との代表的な相互作用を説明できる。				薬学と社会 II 事前学習 II		総合薬学演習 II
8) 要指導医薬品・一般用医薬品等による治療効果と副作用を判定するための情報を収集し評価できる。(技能)				事前学習 II		総合薬学演習 II
(10) 医療の中の薬方薬						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【①漢方薬の基礎】						
1) 漢方の特徴について概説できる。	天然資源 I		天然資源 II			総合薬学演習 II
2) 以下の漢方の基本用語を説明できる。 陰陽、虚実、寒熱、表裏、気血水、証	天然資源 I					総合薬学演習 II
3) 配合生薬の組み合わせによる漢方薬の系統的な分類が説明できる。	天然資源 I					総合薬学演習 II
4) 漢方薬と西洋薬、民間薬、サプリメント、保健機能食品などとの相違について説明できる。	天然資源 I		天然資源 II			総合薬学演習 II
【②漢方薬の応用】						
1) 漢方医学における診断法、体質や病態の捉え方、治療法について概説できる。	天然資源 I		天然資源 II			総合薬学演習 II
2) 日本薬局方に収載される漢方薬の適応となる証、症状や疾患について例示して説明できる。			天然資源 II			総合薬学演習 II
3) 現代医療における漢方薬の役割について説明できる。			天然資源 II			総合薬学演習 II
【③漢方薬の注意点】						
1) 漢方薬の副作用と使用上の注意点を例示して説明できる。			天然資源 II			総合薬学演習 II
(11) 薬物治療の最適化						
【①総合演習】						
1) 代表的な疾患の症例について、患者情報および医薬品情報などの情報に基づいて薬物治療の最適化を討議する。(知識・態度)				事前学習 II		総合薬学演習 II
2) 過剰量の医薬品による副作用への対応(解毒薬を含む)を討議する。(知識・態度)				事前学習 II		総合薬学演習 II
3) 長期療養に付随する合併症を列挙し、その薬物治療について討議する。(知識・態度)				事前学習 II		総合薬学演習 II
E3 薬物治療に役立つ情報						
(1) 医薬品情報						
【①情報】						
1) 医薬品を使用したり取り扱っている職種を列挙し、その役割について概説できる。		患者・医薬品情報				総合薬学演習 II
2) 医薬品情報に関わっている職種を列挙し、その役割について概説できる。		患者・医薬品情報				総合薬学演習 II
3) 医薬品(後発医薬品等を含む)の開発過程で行われる試験(非臨床試験、臨床試験、安定性試験等)と得られる医薬品情報について概説できる。		患者・医薬品情報				(選)治験 総合薬学演習 II
4) 医薬品の市販後に行われる調査・試験と得られる医薬品情報について概説できる。		患者・医薬品情報				(選)治験 総合薬学演習 II
5) 医薬品情報に関係する代表的な法律・制度(「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」、GMP、GVP、GPS、RMP など)とレギュラトリーサイエンスについて概説できる。		患者・医薬品情報				(選)治験 総合薬学演習 II
【②情報源】						
1) 医薬品情報源の一次資料、二次資料、三次資料の分類について概説できる。		患者・医薬品情報				総合薬学演習 II
2) 医薬品情報源として代表的な二次資料、三次資料を列挙し、それらの特徴について説明できる。		患者・医薬品情報				総合薬学演習 II
3) 厚生労働省、医薬品医療機器総合機構、製薬企業などの発行する資料を列挙し、概説できる。		患者・医薬品情報				総合薬学演習 II
4) 医薬品添付文書(医療用、一般用)の法的位置づけについて説明できる。		患者・医薬品情報				総合薬学演習 II
5) 医薬品添付文書(医療用、一般用)の記載項目(警告、禁忌、効果・用量、用法・用量、使用上の注意など)を列挙し、それらの意味や記載すべき内容について説明できる。		患者・医薬品情報				総合薬学演習 II
6) 医薬品インタビューフォームの位置づけと医薬品添付文書との違いについて説明できる。		患者・医薬品情報				総合薬学演習 II
【③収集・評価・加工・提供・管理】						
1) 目的(効果効果、副作用、相互作用、薬剤鑑別、妊婦への投与、中毒など)に合った適切な情報源を選択し、必要な情報を収集、収集できる。(技能)		患者・医薬品情報				総合薬学演習 II
2) MedLINEなどの医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード、シソーラスの重要性を理解し、検索できる。(知識・技能)		患者・医薬品情報				総合薬学演習 II
3) 医薬品情報の信頼性、科学的妥当性などを評価する際に必要な基本的項目を列挙できる。		患者・医薬品情報				総合薬学演習 II

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4) 臨床試験などの原著論文および三次資料について医薬品情報の質を評価できる。(技能)		患者・医薬品情報				総合薬学演習Ⅱ
5) 医薬品情報をニーズに合わせて加工・提供し管理する際の方法と注意点(知的所有権、守秘義務など)について説明できる。		患者・医薬品情報				総合薬学演習Ⅱ
【④EBM (Evidence-based Medicine)】						
1) EBMの基本概念と実践のプロセスについて説明できる。		患者・医薬品情報		バイオスタティスティクス		総合薬学演習Ⅱ
2) 代表的な臨床研究方法(ランダム化比較試験、コホート研究、ケースコントロール研究など)の長所と短所を挙げ、それらのエビデンスレベルについて概説できる。		患者・医薬品情報		バイオスタティスティクス		総合薬学演習Ⅱ
3) 臨床研究論文の批判的吟味に必要な基本的項目を列挙し、内的妥当性(研究結果の正確度や再現性)と外的妥当性(研究結果の一般化の可能性)について概説できる。(E3 (1) 【③収集・評価・加工・提供・管理】参照)		患者・医薬品情報		バイオスタティスティクス		総合薬学演習Ⅱ
4) メタアナリシスの概念を理解し、結果を説明できる。		患者・医薬品情報		バイオスタティスティクス		総合薬学演習Ⅱ

	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
【⑤生物統計】						
1) 臨床研究における基本的な統計量 (平均値、中央値、標準偏差、標準誤差、信頼区間など) の意味と違いを説明できる。				ハイオスタティスティクス	(選)一般統計	総合薬学演習 II
2) 帰無仮説の概念および検定と推定の違いを説明できる。				ハイオスタティスティクス	(選)一般統計	総合薬学演習 II
3) 代表的な分布 (正規分布、t分布、二項分布、ポアソン分布、 χ^2 分布、F分布) について概説できる。				ハイオスタティスティクス	(選)一般統計	総合薬学演習 II
4) 主なパラメトリック検定とノンパラメトリック検定を列挙し、それらの使い分けを説明できる。				ハイオスタティスティクス	(選)一般統計	総合薬学演習 II
5) 二群間の差の検定 (t検定、 χ^2 検定など) を実施できる。(技能)				ハイオスタティスティクス	(選)一般統計	総合薬学演習 II
6) 主な回帰分析 (直線回帰、ロジスティック回帰など) と相関係数の検定について概説できる。				ハイオスタティスティクス	(選)一般統計	総合薬学演習 II
7) 基本的な生存時間解析法 (カプラン・マイヤー曲線など) について概説できる。				ハイオスタティスティクス	(選)一般統計	総合薬学演習 II
【⑥臨床研究デザインと解析】						
1) 臨床研究 (治療を含む) の代表的な手法 (介入研究、観察研究) を列挙し、それらの特徴を概説できる。				ハイオスタティスティクス		総合薬学演習 II
2) 臨床研究におけるバイアス・交絡について概説できる。				ハイオスタティスティクス		総合薬学演習 II
3) 観察研究での主な疫学研究デザイン (症例報告、症例集積、コホート研究、ケースコントロール研究、ネステッドケースコントロール研究、ケースコントロール研究など) について概説できる。				ハイオスタティスティクス		総合薬学演習 II
4) 副作用の因果関係を評価するための方法 (副作用判定アルゴリズムなど) について概説できる。				ハイオスタティスティクス		総合薬学演習 II
5) 優越性試験と非劣性試験の違いについて説明できる。				ハイオスタティスティクス		総合薬学演習 II
6) 介入研究の計画上の技法 (症例数設定、ランダム化、盲検化など) について概説できる。				ハイオスタティスティクス		総合薬学演習 II
7) 統計解析時の注意点について概説できる。				ハイオスタティスティクス		総合薬学演習 II
8) 介入研究の効果指標 (真のエンドポイントと代用のエンドポイント、主要エンドポイントと副次的エンドポイント) の違いを、例を挙げて説明できる。				ハイオスタティスティクス		総合薬学演習 II
9) 臨床研究の結果 (有効性、安全性) の主なパラメータ (相対リスク、絶対リスク減少、絶対リスク、絶対リスク減少、治療必要数、オッズ比、発生率、発生割合) を説明し、計算できる。(知識・技能)				ハイオスタティスティクス		総合薬学演習 II
【⑦医薬品の比較・評価】						
1) 病院や薬局において医薬品を採用・選択する際に検討すべき項目を列挙し、その意義を説明できる。		患者・医薬品情報		ハイオスタティスティクス		総合薬学演習 II
2) 医薬品情報にもとづいて、代表的な同種同効果の有効性や安全性について比較・評価できる。(技能)		患者・医薬品情報		ハイオスタティスティクス		総合薬学演習 II
3) 医薬品情報にもとづいて、先発医薬品と後発医薬品の品質、安全性、経済性などについて、比較・評価できる。(技能)		患者・医薬品情報		ハイオスタティスティクス		総合薬学演習 II
(2) 患者情報						
【⑧情報と情報源】						
1) 薬物治療に必要な患者基本情報を列挙できる。		患者・医薬品情報				総合薬学演習 II
2) 患者情報源の種類を列挙し、それぞれの違いを説明できる。		患者・医薬品情報				総合薬学演習 II
【⑨収集・評価・管理】						
1) 問題志向型システム (PUS) を説明できる。		患者・医薬品情報				総合薬学演習 II
2) SOAP形式などの患者情報の記録方法について説明できる。		患者・医薬品情報				総合薬学演習 II
3) 医薬品の効果や副作用を評価するために必要な患者情報について概説できる。		患者・医薬品情報				総合薬学演習 II
4) 患者情報の取扱いにおける守秘義務と管理の重要性を説明できる。(A (2)) 【③患者の権利】参照)		患者・医薬品情報				総合薬学演習 II
(3) 個別化医療						
【⑩遺伝的素因】						
1) 薬物の主作用および副作用に影響する代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。				薬物治療の個別化・最適化		総合薬学演習 II

	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
2) 薬物動態に影響する代表的な遺伝的薬因 (薬物代謝酵素・トランスポーターの遺伝子変異など) について、例を挙げて説明できる。				薬物治療の個別化・最適化		総合薬学演習 II
3) 遺伝的薬因を考慮した薬物治療について、例を挙げて説明できる。				薬物治療の個別化・最適化		総合薬学演習 II
【②年齢的要因】						
1) 低出生体重児、新生児、乳児、幼児、小児における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。				薬物治療の個別化・最適化		総合薬学演習 II
2) 高齢者における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。				薬物治療の個別化・最適化		総合薬学演習 II
【③臓器機能低下】						
1) 腎疾患・腎機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。				薬物治療の個別化・最適化		総合薬学演習 II
2) 肝疾患・肝機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。				薬物治療の個別化・最適化		総合薬学演習 II
3) 心臓疾患を伴った患者における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。				薬物治療の個別化・最適化		総合薬学演習 II
【④その他の要因】						
1) 薬物の効果に影響する生理的要因 (性差、閉経、日内変動など) を列挙できる。				薬物治療の個別化・最適化		総合薬学演習 II
2) 妊娠・授乳期における薬物動態と、生殖・妊娠・授乳期の薬物治療で注意すべき点を説明できる。				薬物治療の個別化・最適化		総合薬学演習 II
3) 栄養状態の異なる患者 (肥満、低アルブミン血症、脱水など) における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。				薬物治療の個別化・最適化		総合薬学演習 II
【⑤個別化医療の計画・立案】						
1) 個別の患者情報 (遺伝的薬因、年齢的要因、臓器機能など) と医薬品情報をもとに、薬物治療を計画・立案できる。(技能)				薬物治療の個別化・最適化		総合薬学演習 II
2) コンパニオン診断にもとづく薬物治療について、例を挙げて説明できる。				薬物治療の個別化・最適化		総合薬学演習 II
E4 薬の生体内運命						
(1) 薬物の体内動態						
【①生体膜透過】						
1) 薬物の生体膜透過における単純拡散、促進拡散および能動輸送の特徴を説明できる。	薬物動態 I			総合薬学演習 I		(選) 臨床を支える薬理学 総合薬学演習 II
2) 薬物の生体膜透過に関わるトランスポーターの例を挙げ、その特徴と薬物動態における役割を説明できる。	薬物動態 I			総合薬学演習 I		(選) 臨床を支える薬理学 総合薬学演習 II
【②吸収】						
1) 経口投与された薬物の吸収について説明できる。	薬物動態 I			総合薬学演習 I	(選) 実践薬理学	(選) 臨床を支える薬理学 総合薬学演習 II
2) 非経口的に投与される薬物の吸収について説明できる。	薬物動態 I			総合薬学演習 I		(選) 臨床を支える薬理学 総合薬学演習 II
3) 薬物の吸収に影響する因子 (薬物の物性、生理学的要因など) を列挙し、説明できる。	薬物動態 I			総合薬学演習 I		(選) 臨床を支える薬理学 総合薬学演習 II
4) 薬物の吸収過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。	薬物動態 I			総合薬学演習 I	(選) 実践薬理学	(選) 臨床を支える薬理学 総合薬学演習 II
5) 初回通過効果について説明できる。	薬物動態 I			総合薬学演習 I		(選) 臨床を支える薬理学 総合薬学演習 II
【③分布】						
1) 薬物が結合する代表的な血漿タンパク質を挙げ、タンパク結合の強い薬物を列挙できる。	薬物動態 I			総合薬学演習 I		(選) 臨床を支える薬理学 総合薬学演習 II
2) 薬物の組織移行性 (分布容積) と血漿タンパク結合ならびに組織結合との関係と、定量的に説明できる。	薬物動態 I			総合薬学演習 I	(選) 実践薬理学	(選) 臨床を支える薬理学 総合薬学演習 II
3) 薬物のタンパク結合および結合阻害の測定・解析方法を説明できる。	薬物動態 I			総合薬学演習 I		(選) 臨床を支える薬理学 総合薬学演習 II
4) 血液-組織間門の構造・機能と、薬物の胎児等への移行について説明できる。	薬物動態 I			総合薬学演習 I		(選) 臨床を支える薬理学 総合薬学演習 II
5) 薬物のリンパおよび乳汁中への移行について説明できる。	薬物動態 I			総合薬学演習 I		(選) 臨床を支える薬理学 総合薬学演習 II
6) 薬物の分布過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。	薬物動態 I			総合薬学演習 I	(選) 実践薬理学	(選) 臨床を支える薬理学 総合薬学演習 II

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					
該当科目					
1年	2年	3年	4年	5年	6年
【④代謝】					
1) 代表的な薬物代謝酵素を列挙し、その代謝反応が起こる組織ならびに細胞内小器官、反応様式について説明できる。	薬物動態 I		総合薬学演習 I	(選) 実践薬理学	(選) 臨床を交える薬理学 総合薬学演習 II
2) 薬物代謝の第 I 相反応 (酸化・還元・加水分解)、第 II 相反応 (抱合) について、例を挙げて説明できる。	薬物動態 I		総合薬学演習 I		(選) 臨床を交える薬理学 総合薬学演習 II
3) 代表的な薬物代謝酵素 (分子種) により代謝される薬物を列挙できる。	薬物動態 I		総合薬学演習 I		(選) 臨床を交える薬理学 総合薬学演習 II
4) プロドラッグと活性代謝物について、例を挙げて説明できる。	薬物動態 I		総合薬学演習 I		(選) 臨床を交える薬理学 総合薬学演習 II
5) 薬物代謝の阻害および誘導のメカニズムと、それらに関連して起こる相互作用について、例を挙げ、説明できる。	薬物動態 I		総合薬学演習 I	(選) 実践薬理学	(選) 臨床を交える薬理学 総合薬学演習 II
【⑤排泄】					
1) 薬物の尿中排泄機構について説明できる。	薬物動態 I		総合薬学演習 I	(選) 実践薬理学	(選) 臨床を交える薬理学 総合薬学演習 II
2) 腎クリアランスと、糸球体ろ過、分泌、再吸収の関係を定量的に説明できる。	薬物動態 I		総合薬学演習 I		(選) 臨床を交える薬理学 総合薬学演習 II
3) 代表的な腎排泄型薬物を列挙できる。	薬物動態 I		総合薬学演習 I		(選) 臨床を交える薬理学 総合薬学演習 II
4) 薬物の胆汁中排泄と腸肝循環について説明できる。	薬物動態 I		総合薬学演習 I		(選) 臨床を交える薬理学 総合薬学演習 II
5) 薬物の排泄過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。	薬物動態 I		総合薬学演習 I	(選) 実践薬理学	(選) 臨床を交える薬理学 総合薬学演習 II
(2) 薬物動態の解析					
【①薬物速度論】					
1) 線形コンパートメントモデルと、関連する薬物動態パラメータ (全身クリアランス、分布容積、消失半減期、生物学的利用能など) の概念を説明できる。		薬物動態 II	総合薬学演習 I	(選) 実践薬理学	(選) 臨床を交える薬理学 総合薬学演習 II
2) 線形 1-コンパートメントモデルに基づいた解析ができる (急速静注・経口投与 [単回および反復投与]・定速静注)。(知識、技能)		薬物動態 II	総合薬学演習 I	(選) 実践薬理学	(選) 臨床を交える薬理学 総合薬学演習 II
3) 体内動態が非線形性を示す薬物の例を挙げ、非線形モデルに基づいた解析ができる。(知識、技能)		薬物動態 II	総合薬学演習 I	(選) 実践薬理学	(選) 臨床を交える薬理学 総合薬学演習 II
4) モーメント解析の意味と、関連するパラメータの計算法について説明できる。		薬物動態 II	総合薬学演習 I		(選) 臨床を交える薬理学 総合薬学演習 II
5) 組織クリアランス (肝、腎) および固相クリアランスの意味と、それらの関係について、数式を使って説明できる。		薬物動態 II	総合薬学演習 I		(選) 臨床を交える薬理学 総合薬学演習 II
6) 薬物動態学-薬力学解析 (PK-PD解析) について概説できる。		薬物動態 II	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【②TDM (Therapeutic Drug Monitoring) と投与設計】					
1) 治療薬モニタリング (TDM) の意義を説明し、TDMが有効な薬物を列挙できる。		薬物動態 II	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) TDMを行う際の採血ポイント、試料の取り扱い、測定法について説明できる。		薬物動態 II	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 薬物動態パラメータを用いて患者ごとの薬物投与設計ができる。(知識、技能)		薬物動態 II	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) ポピュレーションファーマコキネティクス の概念と応用について概説できる。		薬物動態 II	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
E5 製剤化のサイエンス					
(1) 製剤の性質					
【①固形材料】					
1) 粉体の性質について説明できる。	物理系実習 I	製剤化のサイエンス I	総合薬学演習 I	(選) 実践薬理学	(選) 臨床を交える薬理学 総合薬学演習 II
2) 結晶 (安定形および準安定形) や非晶質、無水物や水和物の性質について説明できる。	物理系実習 I	製剤化のサイエンス I	総合薬学演習 I		(選) 臨床を交える薬理学 総合薬学演習 II
3) 固形材料の溶解現象 (溶解度、溶解平衡など) や溶解した物質の拡散と溶解速度について説明できる。 (C2) (2) 【②酸・塩基平衡】1. 及び 【②各種の化学平衡】2. 参照)	物理系実習 I	製剤化のサイエンス I	総合薬学演習 I		(選) 臨床を交える薬理学 総合薬学演習 II
4) 固形材料の溶解に影響を及ぼす因子 (pHや温度など) について説明できる。	物理系実習 I	製剤化のサイエンス I	総合薬学演習 I		(選) 臨床を交える薬理学 総合薬学演習 II

	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
5) 固形材料の溶解度や溶解速度を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。	物理系実習 I	物理系実習 II	製剤化のサイエンス I	総合薬学演習 I		(3) 臨床を支える薬理学 総合薬学演習 II
【②半固形・液状材料】						
1) 流動と変形 (レオロジー) について説明できる。			製剤化のサイエンス I	総合薬学演習 I	(選) 実践薬理学	総合薬学演習 II
2) 高分子の構造と高分子溶液の性質 (粘度など) について説明できる。			製剤化のサイエンス I	総合薬学演習 I	(選) 実践薬理学	総合薬学演習 II
【③分散系材料】						
1) 界面の性質 (界面張力、分配平衡、吸着など) や代表的な界面活性剤の種類と性質について説明できる。【②各種の化学平衡】4. 参照			製剤化のサイエンス I	総合薬学演習 I		(3) 臨床を支える薬理学 総合薬学演習 II
2) 代表的な分散系 (分子集合体、コロイド、乳剤、懸濁剤など) を列挙し、その性質について説明できる。			製剤化のサイエンス I	総合薬学演習 I		(3) 臨床を支える薬理学 総合薬学演習 II
3) 分散した粒子の安定性と分離現象 (沈降など) について説明できる。			製剤化のサイエンス I	総合薬学演習 I		(3) 臨床を支える薬理学 総合薬学演習 II
4) 分散安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。			製剤化のサイエンス I	総合薬学演習 I		(3) 臨床を支える薬理学 総合薬学演習 II
【④薬物及び製剤材料の物性】						
1) 製剤分野で汎用される高分子の構造を理解し、その物性について説明できる。			製剤化のサイエンス I	総合薬学演習 I	(選) 実践薬理学	総合薬学演習 II
2) 薬物の安定性 (反応速度、複合反応など) や安定性に影響を及ぼす因子 (pH、温度など) について説明できる。【①反応速度】1. ~7. 参照			製剤化のサイエンス I	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 薬物の安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。			製剤化のサイエンス I	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(2) 製剤設計						
【①代表的な製剤】						
1) 製剤化の概要と意義について説明できる。			製剤化のサイエンス I		(選) 実践薬理学	総合薬学演習 II
2) 経口投与する製剤の種類とその特性について説明できる。			製剤化のサイエンス I		(選) 実践薬理学	総合薬学演習 II
3) 粘膜に適用する製剤 (点眼剤、吸入剤など) の種類とその特性について説明できる。			製剤化のサイエンス II		(選) 実践薬理学	総合薬学演習 II
4) 注射により投与する製剤の種類とその特性について説明できる。			製剤化のサイエンス II		(選) 実践薬理学	総合薬学演習 II
5) 皮膚に適用する製剤の種類とその特性について説明できる。			製剤化のサイエンス II		(選) 実践薬理学	総合薬学演習 II
6) その他の製剤 (生薬関連製剤、透折に用いる製剤など) の種類と特性について説明できる。			製剤化のサイエンス II		(選) 実践薬理学	総合薬学演習 II
【②製剤化と製剤試験法】						
1) 代表的な医薬品添加物の種類・用途・性質について説明できる。			製剤化のサイエンス II			総合薬学演習 II
2) 製剤化の単位操作、汎用される製剤機械および代表的な製剤の具体的な製造工程について説明できる。			製剤化のサイエンス II			総合薬学演習 II
3) 汎用される容器、包装の種類や特徴について説明できる。			製剤化のサイエンス II			総合薬学演習 II
4) 製剤に関連する試験法を列挙し、説明できる。		物理系実習 II	製剤化のサイエンス II			総合薬学演習 II
【③生物学的同等性】						
1) 製剤の特性 (適用部位、製剤からの薬物の放出性など) を理解した上で、生物学的同等性について説明できる。			製剤化のサイエンス II			総合薬学演習 II
(3) DDS (Drug Delivery System : 薬物送達システム)						
【④DDS の必要性】						
1) DDS の概念と有用性について説明できる。			製剤化のサイエンス II			総合薬学演習 II
2) 代表的なDDS技術を列挙し、説明できる。【プロドラッグについては、E4(1) 【④代期】4. も参照】			製剤化のサイエンス II			総合薬学演習 II
【⑤コントロールリリース (放出制御)】						
1) コントロールリリースの概要と意義について説明できる。			製剤化のサイエンス II			総合薬学演習 II

	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
2) 投与部位ごとに、代表的なコントロールドリリース技術を列挙し、その特性について説明できる。			製剤化のサイエンスII			総合薬学演習II
3) コントロールドリリース技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。			製剤化のサイエンスII			総合薬学演習II
【③ターゲットング (継続的指向化)】						
1) ターゲティングの概要と意義について説明できる。			製剤化のサイエンスII			総合薬学演習II
2) 投与部位ごとに、代表的なターゲットング技術を列挙し、その特性について説明できる。			製剤化のサイエンスII			総合薬学演習II
3) ターゲティング技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。			製剤化のサイエンスII			総合薬学演習II
【④吸収改善】						
1) 吸収改善の概要と意義について説明できる。			製剤化のサイエンスII			総合薬学演習II
2) 投与部位ごとに、代表的な吸収改善技術を列挙し、その特性について説明できる。			製剤化のサイエンスII			総合薬学演習II
3) 吸収改善技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。			製剤化のサイエンスII			総合薬学演習II
F 薬学臨床 前：病院・薬局での薬務実習履修前に修得すべき事項						
(1) 薬学臨床の基礎						
【①早期臨床体験】 ※原則として2年次修了までに学習する事項	早期臨床体験学習	早期臨床体験学習				総合薬学演習II
1) 患者・生活者の視点に立って、様々な薬剤師の業務を見聞し、その体験から薬剤師業務の重要性について討議する。(知識・態度)	早期臨床体験学習	早期臨床体験学習				総合薬学演習II
2) 地域の保健・福祉を見聞した具体的な体験に基づきその重要性や課題を討議する。(知識・態度)						総合薬学演習II
3) 一次救命処置(心肺蘇生、外傷対応等)を説明し、シミュレーションを用いて実施できる。(知識・技能)						総合薬学演習II
【②臨床における心構え】 [A (1)、(2) 参照]						
1) 前) 医療の担い手が守るべき倫理規範や法令について討議する。(態度)				事前学習II		総合薬学演習II
2) 前) 患者・生活者中心の医療の視点から患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応ができる。(態度)				医療人としての薬剤師 事前学習II		総合薬学演習II
3) 前) 患者・生活者の健康の回復と維持、生活の質の向上に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を討議する。(態度)				事前学習II		総合薬学演習II
4) 医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守し、ふさわしい態度で行動する。(態度)						総合薬学演習II
5) 患者・生活者の基本的権利、自己決定権について配慮する。(態度)						総合薬学演習II
6) 薬学的管理を実施する際に、インフォームド・コンセントを得ることができる。(態度)						総合薬学演習II
7) 職務上知り得た情報について守秘義務を遵守する。(態度)				医療人としての薬剤師		総合薬学演習II
【③臨床実習の基礎】						
1) 前) 病院・薬局における薬剤師業務全体の流れを概説できる。			薬学と社会I			総合薬学演習II
2) 前) 病院・薬局で薬剤師が実践する薬学的管理の重要性について説明できる。			薬学と社会I			総合薬学演習II
3) 前) 病院薬剤師部門を構成する各セクションの業務を列挙し、その内容と関連を概説できる。			薬学と社会I			総合薬学演習II
4) 前) 病院に所属する医療スタッフの職種を列挙し、その業務内容を相互に関連づけて説明できる。			薬学と社会I			総合薬学演習II
5) 前) 薬剤師の関わる社会保障制度(医療、福祉、介護)の概略を説明できる。 [B (3) ①参照]						総合薬学演習II
6) 病院における薬剤師部門の位置づけと業務の流れについて他部門と関連付けて説明できる。						総合薬学演習II
7) 代表的な疾患の入院治療における適切な薬学的管理について説明できる。						総合薬学演習II
8) 入院から退院に至るまで入院患者の医療に継続して関与することができる。(態度)						総合薬学演習II
9) 急性期医療(救急医療・集中治療・外傷治療等)や術前術後医療における適切な薬学的管理について説明できる。						総合薬学演習II

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
10) 周産期医療や小児医療における適切な薬学的管理について説明できる。						総合薬学演習 II
11) 終末期医療や緩和ケアにおける適切な薬学的管理について説明できる。						(選) 専門薬剤師特論 I 総合薬学演習 II
12) 外来化学療法における適切な薬学的管理について説明できる。						総合薬学演習 II
13) 保険評価要件を薬剤師業務と関連付けて概説することができる。						総合薬学演習 II
14) 薬局における薬剤師業務の流れを相互に関連付けて説明できる。						総合薬学演習 II
15) 来局者の調剤に対して、処方せんの受付から薬剤の交付に至るまで継続して関わることができる。(知識・態度)						総合薬学演習 II

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					
該当科目					
1年	2年	3年	4年	5年	6年
(2) 処方せんに基づく調剤					
【①法令・規制等の理解と遵守】 [B (2)、(3) 参照]					
1) 前) 調剤業務に関わる事項 (処方せん、調剤録、疑義照会等) の意義や取り扱いの法的根拠に基づいて説明できる。					
2) 調剤業務に関わる法的文書 (処方せん、調剤録等) の適切な記載と保存・管理ができる。 (知識・技能)					
3) 法的根拠に基づき、一連の調剤業務を適正に実施する。(技能・態度)					
4) 保険薬局として必要な条件や設備等を具体的に関連付けて説明できる。					
【②処方せんと疑義照会】					
1) 前) 代表的な疾患に使用される医薬品について効能・効果、用法・用量、警告・禁忌・副作用、相互作用を列挙できる。					
2) 前) 処方オーダーダリングシステムおよび電子カルテについて概説できる。					
3) 前) 処方せんの様式と必要記載事項、記載方法について説明できる。					
4) 前) 処方せんの監査の意義、その必要性と注意点について説明できる。					
5) 前) 処方せんに監査し、不適切な処方せんについて、その理由が説明できる。					
6) 前) 処方せん等に基づき疑義照会ができる。(技能・態度)					
7) 処方せんの記載事項 (医薬品名、分量、用法・用量等) が適切であるか確認できる。 (知識・技能)					
8) 注射薬処方せんの記載事項 (医薬品名、分量、投与速度、投与ルート等) が適切であるか確認できる。(知識・技能)					
9) 処方せんの正しい記載方法を例示できる。(技能)					
10) 薬歴、診療録、患者の状態から処方処方が妥当であるか判断できる。(知識・技能)					
11) 薬歴、診療録、患者の状態から判断して適切に疑義照会ができる。(技能・態度)					
【③処方せんに基づく医薬品の調製】					
1) 前) 薬袋、薬札 (ラベル) に記載すべき事項を適切に記入できる。(技能)					
2) 前) 主な医薬品の成分 (一般名)、商標名、剤形、規格等を列挙できる。					
3) 前) 処方せんに従って、計数・計量調剤ができる。(技能)					
4) 前) 後発医薬品選択の手順を説明できる。					
5) 前) 代表的な注射剤・散剤・水剤等の配合変化のある組合せとその理由を説明できる。					
6) 前) 無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。(知識・技能)					
7) 前) 抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的手技を実施できる。 (技能)					
8) 前) 処方せんに基づき調剤された薬剤の監査ができる。(知識・技能)					
9) 主な医薬品の一般名・剤形・規格から該当する製品を選択できる。(技能)					
10) 適切な手順で後発医薬品を選択できる。(知識・技能)					

1年	該当科目				6年
	2年	3年	4年	5年	
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					
11) 処方せんに従って計数・計量調剤ができる。(技能)			医療人としての薬剤師 総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
12) 錠剤の粉砕、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる。(知識・技能)			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
13) 一回量(一包化)調剤の必要性を判断し、実施できる。(知識・技能)			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
14) 注射処方せんに従って注射薬調剤ができる。(技能)			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
15) 注射剤・散剤・水剤等の配合変化に関する回避方法を列挙できる。			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
16) 注射剤(高カロリー輸液等)の無菌的混合操作を実施できる。(技能)			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
17) 抗悪性腫瘍薬などの取扱いに於けるケミカルハザード回避の手法を実施できる。 (知識・技能)			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
18) 特別な注意を要する医薬品(劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬・抗悪性腫瘍薬等)の調剤と適切な 取扱いができる。(知識・技能)			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
19) 調製された薬剤に対して、監査が実施できる。(知識・技能)			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【④患者・来局者対応、服薬指導、患者教育】					
1) 前) 適切な態度で、患者・来局者と応対できる。(態度)			医療人としての薬剤師 総合薬学演習 I 事前学習 II		総合薬学演習 II
2) 前) 妊婦・授乳婦、小児、高齢者などへの応対や服薬指導において、配慮すべき事項を 具体的に列挙できる。			医療人としての薬剤師 総合薬学演習 I 事前学習 II		総合薬学演習 II
3) 前) 患者・来局者から、必要な情報(症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、 副作用歴等)を適切な手順で聞き取ることができる。(知識・態度)			医療人としての薬剤師 総合薬学演習 I 事前学習 II		総合薬学演習 II
4) 前) 患者・来局者に、主な医薬品の効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用、 保管方法等について適切に説明できる。(技能・態度)			医療人としての薬剤師 総合薬学演習 I 事前学習 II		総合薬学演習 II
5) 前) 代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。			医療人としての薬剤師 総合薬学演習 I 事前学習 II		総合薬学演習 II
6) 前) 患者・来局者に使用上の説明が必要な製剤(眼軟膏、坐剤、吸入剤、自己注射剤等)の取扱い 方法を説明できる。(技能・態度)			医療人としての薬剤師 総合薬学演習 I 事前学習 II		総合薬学演習 II
7) 前) 薬歴・診療録の基本的な記載事項とその意義・重要性について説明できる。			薬学と社会 II 医療人としての薬剤師 総合薬学演習 I 事前学習 II		総合薬学演習 II
8) 前) 代表的な疾患の症例についての患者対応の内容を適切に記録できる。(技能)			医療人としての薬剤師 総合薬学演習 I 事前学習 II		総合薬学演習 II
9) 患者・来局者に合わせて適切な応対ができる。(態度)			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
10) 患者・来局者から、必要な情報(症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、 副作用歴等)を適切な手順で聞き取ることができる。(知識・態度)			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
11) 医師の治療方針を理解した上で、患者への適切な服薬指導を実施する。(知識・態度)			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
12) 患者・来局者の病状や背景に配慮し、医薬品を安全かつ有効に使用するための服薬指導や 患者教育ができる。(知識・態度)			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
13) 妊婦・授乳婦、小児、高齢者等特別な配慮が必要な患者への服薬指導において、適切な応対 ができる。(知識・態度)			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
14) お薬手帳、健康手帳、患者向け説明書等を使用した服薬指導ができる。(態度)			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
15) 収集した患者情報を薬歴や診療録に適切に記録することができる。(知識・技能)			医療人としての薬剤師 総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【⑤医薬品の供給と管理】					
1) 前) 医薬品管理の意義と必要性について説明できる。			医療人としての薬剤師 総合薬学演習 I 事前学習 II		総合薬学演習 II
2) 前) 医薬品管理の流れを概説できる。			医療人としての薬剤師 総合薬学演習 I 事前学習 II		総合薬学演習 II

平 成 25 年 度 改 訂 版 ・ 薬 学 教 育 モ デ ル ・ コ ア カ リ キ ュ ラ ム (S B O s)	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
3) 前) 劇薬、毒薬、麻薬、向精神薬および覚醒剤原料等の管理と取り扱いについて説明できる。				医療人としての薬剤師 総合薬学演習Ⅰ 事前学習Ⅱ		(選) 専門薬剤師特論Ⅰ 総合薬学演習Ⅱ
4) 前) 特定生物由来製品の管理と取り扱いについて説明できる。				医療人としての薬剤師 総合薬学演習Ⅰ 事前学習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
5) 前) 代表的な放射性医薬品の種類と用途、保管管理方法を説明できる。				医療人としての薬剤師 総合薬学演習Ⅰ 事前学習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
6) 前) 院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。				総合薬学演習Ⅰ 事前学習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
7) 前) 薬局製剤・漢方製剤について概説できる。				総合薬学演習Ⅰ 事前学習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
8) 前) 医薬品の品質に影響を与える因子と保存条件を説明できる。				総合薬学演習Ⅰ 事前学習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
9) 医薬品の供給・保管・廃棄について適切に実施できる。(知識・技能)				総合薬学演習Ⅰ 事前学習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
10) 医薬品の適切な在庫管理を実施する。(知識・技能)				総合薬学演習Ⅰ 事前学習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
11) 医薬品の適正な採用と採用中止の流れについて説明できる。				総合薬学演習Ⅰ 事前学習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
12) 劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬および覚醒剤原料の適切な管理と取り扱いができる。(知識・技能)				総合薬学演習Ⅰ 事前学習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
13) 特定生物由来製品の適切な管理と取り扱いを体験する。(知識・技能)				総合薬学演習Ⅰ 事前学習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
【⑥安全管理】						
1) 前) 処方から服薬(投薬)までの過程で誤りを生じやすい事例を列挙できる。				医療人としての薬剤師 総合薬学演習Ⅰ 事前学習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
2) 前) 特にリスクの高い代表的な医薬品(抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等)の特徴と注意点を列挙できる。				医療人としての薬剤師 総合薬学演習Ⅰ 事前学習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
3) 前) 代表的なインジケント(ヒヤリハット)、アクシデント事例を解析し、その原因、リスクを回避するための具体的な薬と発生後の適切な対処法を討議する。(知識・態度)				医療人としての薬剤師 総合薬学演習Ⅰ 事前学習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
4) 前) 感染予防の基本的考え方とその方法が説明できる。				総合薬学演習Ⅰ 事前学習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
5) 前) 衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施できる。(技能)				総合薬学演習Ⅰ 事前学習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
6) 前) 代表的な消毒薬の用途、使用濃度および調製時の注意点を説明できる。				総合薬学演習Ⅰ 事前学習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
7) 前) 医薬品のリスクマネジメントプランを概説できる。				総合薬学演習Ⅰ 事前学習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
8) 特にリスクの高い代表的な医薬品(抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等)の安全管理を体験する。(知識・態度)				総合薬学演習Ⅰ 事前学習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
9) 調剤ミスを防止するために工夫されている事項を具体的に説明できる。				総合薬学演習Ⅰ 事前学習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
10) 施設内のインジケント(ヒヤリハット)、アクシデントの事例をもとに、リスクを回避するための具体的な薬と発生後の適切な対処法を提案することができる。(知識・態度)				総合薬学演習Ⅰ 事前学習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
11) 施設内の安全管理指針を遵守する。(態度)				総合薬学演習Ⅰ 事前学習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
12) 施設内で衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施する。(技能)				総合薬学演習Ⅰ 事前学習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
13) 臨床検体・感染性廃棄物を適切に取り扱うことができる。(技能・態度)				総合薬学演習Ⅰ 事前学習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
14) 院内での感染対策(予防、蔓延防止など)について具体的な提案ができる。(知識・態度)				総合薬学演習Ⅰ 事前学習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
(3) 薬物療法の実践						
【⑩患者情報の把握】						
1) 前) 基本的な医療用語、略語の意味を説明できる。				総合薬学演習Ⅰ 事前学習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ
2) 前) 患者および種々の情報源(診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等)から、薬物療法に必要な情報を収集できる。(技能・態度) 【E3(2)①参照】				総合薬学演習Ⅰ 事前学習Ⅱ		総合薬学演習Ⅱ

1年	該当科目			
	2年	3年	4年	5年
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)				
3) 前) 身体所見の観察・測定 (フィジカルアセスメント) の目的と得られた所見の薬学的管理への活用について説明できる。			総合薬学演習 I 事前学習 II	総合薬学演習 II
4) 前) 基本的な身体所見を観察・測定し、評価できる。(知識・技能)			総合薬学演習 I 事前学習 II	総合薬学演習 II
5) 基本的な医療用語、略語を適切に使用できる。(知識・態度)			総合薬学演習 I	総合薬学演習 II
6) 患者・来局者および種々の情報源 (診療録、薬歴、指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等) から、薬物療法に必要な情報を収集できる。(技能・態度)			総合薬学演習 I	総合薬学演習 II
7) 患者の身体所見を薬学的管理に活かすことができる。(技能・態度)			総合薬学演習 I	総合薬学演習 II
【②医薬品情報の収集と活用】 [E3 (1) 参照]				
1) 前) 薬物療法に必要な医薬品情報を収集・整理・加工できる。(知識・技能)			総合薬学演習 I 事前学習 II	総合薬学演習 II
2) 施設内において使用できる医薬品の情報源を把握し、利用することができる。(知識・技能)			総合薬学演習 I	総合薬学演習 II
3) 薬物療法に対する問い合わせに対し、根拠に基づいた報告書を作成できる。(知識・技能)			総合薬学演習 I	総合薬学演習 II
4) 医療スタッフおよび患者のニーズに合った医薬品情報提供を体験する。(知識・態度)			総合薬学演習 I	総合薬学演習 II
5) 安全で有効な薬物療法に必要な医薬品情報の評価、加工を体験する。(知識・技能)			総合薬学演習 I	総合薬学演習 II
6) 緊急安全性情報、不良品回収、製造中止などの緊急情報を施設内で適切に取扱うことができる。(知識・態度)			総合薬学演習 I	総合薬学演習 II
【③処方設計と薬物療法の実践 (処方設計と提案)】				
1) 前) 代表的な疾患に対して、疾患の重症度等に応じて科学的根拠に基づいた処方設計ができる。			総合薬学演習 I 事前学習 II	総合薬学演習 II
2) 前) 病態 (肝・腎障害など) や生理的特性 (妊婦・授乳婦、小児、高齢者など) 等を考慮し、薬剤の選択や用法・用量設定を立案できる。			総合薬学演習 I 事前学習 II	総合薬学演習 II
3) 前) 患者のアドヒアランスの評価方法、アドヒアランスが良くない原因とその対処法を説明できる。			総合薬学演習 I 事前学習 II	総合薬学演習 II
4) 前) 皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射・点滴等の基本的な手技を説明できる。			総合薬学演習 I 事前学習 II	総合薬学演習 II
5) 前) 代表的な輸液の種類と適応を説明できる。			総合薬学演習 I 事前学習 II	総合薬学演習 II
6) 前) 患者の栄養状態や体液量、電解質の過不足などが評価できる。			総合薬学演習 I 事前学習 II	総合薬学演習 II
7) 代表的な疾患の患者について、診断名、病態、科学的根拠等から薬物治療方針を確認できる。			総合薬学演習 I 事前学習 II	総合薬学演習 II
8) 治療ガイドライン等を確認し、科学的根拠に基づいた処方立案ができる。			総合薬学演習 I 事前学習 II	総合薬学演習 II
9) 患者の状態 (疾患、重症度、合併症、肝・腎機能や全身状態、遺伝子の特性、心理・希望等) や薬剤の特徴 (作用機序や製剤的性質等) に基づき、適切な処方提案ができる。(知識・態度)			総合薬学演習 I 事前学習 II	総合薬学演習 II
10) 処方設計の提案に際し、薬物投与プロトコルやクリニカルパスを活用できる。(知識・態度)			総合薬学演習 I 事前学習 II	総合薬学演習 II
11) 入院患者の持参薬について、継続・変更・中止の提案ができる。(知識・態度)			総合薬学演習 I 事前学習 II	総合薬学演習 II
12) アドヒアランス向上のために、処方変更、調剤や用法の工夫が提案できる。(知識・態度)			総合薬学演習 I 事前学習 II	総合薬学演習 II
13) 処方提案に際し、医薬品の経済性等を考慮して、適切な後発医薬品を選択できる。			総合薬学演習 I 事前学習 II	総合薬学演習 II
14) 処方提案に際し、薬剤の選択理由、投与量、投与方法、投与期間等について、医師や看護師等に判りやすく説明できる。(知識・態度)			総合薬学演習 I 事前学習 II	総合薬学演習 II
【④処方設計と薬物療法の実践 (薬物療法における効果と副作用の評価)】				
1) 前) 代表的な疾患に用いられる医薬品の効果、副作用に関してモニタリングすべき症状と検査所見等を具体的に説明できる。			総合薬学演習 I 事前学習 II	総合薬学演習 II
2) 前) 代表的な疾患における薬物療法の評価に必要な患者情報収集ができる。(知識・技能)			総合薬学演習 I 事前学習 II	総合薬学演習 II
3) 前) 代表的な疾患の症例における薬物治療上の問題点を挙示し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で記録できる。(知識・技能)			総合薬学演習 I 事前学習 II	総合薬学演習 II
4) 医薬品の効果と副作用をモニタリングするための検査項目とその実施を提案できる。(知識・態度)			総合薬学演習 I	総合薬学演習 II
5) 薬物血中濃度モニタリングが必要な医薬品が処方されている患者について、血中濃度測定の提案ができる。(知識・態度)			総合薬学演習 I	総合薬学演習 II

平 成 25 年 度 改 訂 版 ・ 薬 学 教 育 モ デ ル ・ コ ア カ リ キ ュ ラ ム (S B O s)	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
6) 薬物血中濃度の推移から薬物療法の効果および副作用について予測できる。(知識・技能)				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) 臨床検査値の変化と使用医薬品の関連性を説明できる。				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
8) 薬物治療の効果について、患者の症状や検査所見などから評価できる。				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
9) 副作用の発現について、患者の症状や検査所見などから評価できる。				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
10) 薬物治療の効果、副作用の発現、薬物血中濃度等に基づき、医師に対し、薬剤の種類、投与量、投与方法、投与期間等の変更を提案できる。(知識・態度)				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
11) 報告に必要な要素 (5W1H) に留意して、収集した患者情報を正確に記載できる。(技能)				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
12) 患者の薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で適切に記載する。(知識・技能)				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
13) 医薬品・医療機器等安全性情報報告用紙に、必要事項を記載できる。(知識・技能)				総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(4) チーム医療への参画 [A (4) 参照]						
【①医療機関におけるチーム医療】						
1) 前) チーム医療における薬剤師の役割と重要性について説明できる。			ファーマシューティカルコミュニケーション	事前学習 II		(選) 専門薬剤師特論 I / III 総合薬学演習 II
2) 前) 多様な医療チームの目的と構成、構成員の役割を説明できる。			ファーマシューティカルコミュニケーション	事前学習 II		(選) 専門薬剤師特論 I / III 総合薬学演習 II
3) 前) 病院と地域の医療連携の意義と具体的な方法 (連携クリニカルパス、退院時共同指導、病院・薬局連携、関連施設との連携等) を説明できる。				事前学習 II		(選) 専門薬剤師特論 I 総合薬学演習 II
4) 薬物療法上の問題点を解決するために、他の薬剤師および医師・看護師等の医療スタッフと連携できる。(態度)						(選) 専門薬剤師特論 III 総合薬学演習 II
5) 医師・看護師等の他職種と患者の状態 (病状、検査値、アレルギー歴、心理、生活環境等) 治療開始後の変化 (治療効果、副作用、心理状態、QOL等) の情報を共有する。(知識・態度)						総合薬学演習 II
6) 医療チームの一員として、医師・看護師等の医療スタッフと患者の治療目標と治療方針について討議 (カンファレンスや患者回診への参加等) する。(知識・態度)						(選) 専門薬剤師特論 III 総合薬学演習 II
7) 医師・看護師等の医療スタッフと連携・協力して、患者の最善の治療・ケア提案を体験する。(知識・態度)						(選) 専門薬剤師特論 III 総合薬学演習 II
8) 医師・看護師等の医療スタッフと連携して退院後の治療・ケアの計画を検討できる。(知識・態度)						総合薬学演習 II
9) 病院内の多様な医療チーム (ICU、NST、緩和ケアチーム、褥瘡チーム等) の活動に薬剤師の立場で参加できる。(知識・態度)						総合薬学演習 II
【②地域におけるチーム医療】						
1) 前) 地域の保健、医療、福祉に関わる職種とその連携体制 (地域包括ケア) およびその意義について説明できる。				薬学と社会 II 事前学習 II		(選) 専門薬剤師特論 I 総合薬学演習 II
2) 前) 地域における医療機関と薬局薬剤師の連携の重要性を討議する。(知識・態度)				薬学と社会 II 事前学習 II		総合薬学演習 II
3) 地域における医療機関と薬局薬剤師の連携を体験する。(知識・態度)						総合薬学演習 II
4) 地域医療を担う職種間で地域住民に関する情報共有を体験する。(技能・態度)						総合薬学演習 II
(5) 地域の保健・医療・福祉への参画 [B (4) 参照]						
【①在宅 (訪問) 医療・介護への参画】						
1) 前) 在宅医療・介護の目的、仕組み、支援の内容を具体的に説明できる。				薬学と社会 II 事前学習 II		(選) 専門薬剤師特論 I 総合薬学演習 II
2) 前) 在宅医療・介護を受ける患者の特色と背景を説明できる。				薬学と社会 II 事前学習 II		(選) 専門薬剤師特論 I 総合薬学演習 II
3) 前) 在宅医療・介護に関わる薬剤師の役割とその重要性について説明できる。				薬学と社会 II 事前学習 II		(選) 専門薬剤師特論 I 総合薬学演習 II
4) 在宅医療・介護に関する薬剤師の管理業務 (訪問薬剤師指導業務、居宅療養管理指導業務) を体験する。(知識・態度)						総合薬学演習 II

1年	該当科目			6年
	2年	3年	4年	
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)				
5) 地域における介護サービスや介護支援専門員等の活動と薬剤師との関わりを体験する。(知識・態度)				総合薬学演習 II
6) 在宅患者の病状(症状、疾患と重症度、栄養状態等)とその変化、生活環境等の情報収集と報告を体験する。(知識・態度)				総合薬学演習 II
【②地域保健(公衆衛生、学校薬剤師、啓発活動)への参画】				
1) 前) 地域保健における薬剤師の役割と代表的な活動(薬物乱用防止、自殺防止、感染予防、アンチドローピング活動等)について説明できる。			事前学習 II	総合薬学演習 II
2) 前) 公衆衛生に求められる具体的な感染防止対策を説明できる。			事前学習 II	総合薬学演習 II
3) 学校薬剤師の業務を体験する。(知識・技能)				総合薬学演習 II
4) 地域住民の衛生管理(消毒、食中毒の予防、日用品に含まれる化学物質の誤嚥誤飲の予防等)における薬剤師活動を体験する。(知識・技能)				総合薬学演習 II
【③プライマリケア、セルフメディケーションの実践】 [E2(9)参照]				
1) 前) 現在の医療システムの中のプライマリケア、セルフメディケーションの重要性を討議する。(態度)			事前学習 II	総合薬学演習 II
2) 前) 代表的な症候(頭痛・腹痛・発熱等)を示す来局者について、適切な情報収集と疾患の推測、適切な対応の選択ができる。(知識・態度)			事前学習 II	総合薬学演習 II
3) 前) 代表的な症候に対する薬局製剤(漢方製剤含む)、要指導医薬品・一般用医薬品の適切な取り扱いと説明ができる。(技能・態度)			事前学習 II	総合薬学演習 II
4) 前) 代表的な生活習慣の改善に対するアドバイスができる。(知識・態度)			事前学習 II	総合薬学演習 II
5) 薬局製剤(漢方製剤含む)、要指導医薬品・一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等をリスクに応じ適切に取り扱い、管理できる。(技能・態度)				総合薬学演習 II
6) 来局者から収集した情報や身体所見などに基づき、来局者の病状(疾患、重症度等)や体調を推測できる。(知識・態度)				総合薬学演習 II
7) 来局者に対して、病状に合わせた適切な対応(医師への受診勧奨、救急対応、要指導医薬品・一般用医薬品および検査薬などの推奨、生活指導等)を選択できる。(知識・態度)				総合薬学演習 II
8) 選択した薬局製剤(漢方製剤含む)、要指導医薬品・一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等の使用方法や注意点などを来局者に適切に判りやすく説明できる。(知識・態度)				総合薬学演習 II
9) 疾病の予防および健康管理についてのアドバイスを体験する。(知識・態度)				総合薬学演習 II
【④災害時医療と薬剤師】				
1) 前) 災害時医療について概説できる。			医療人としての薬剤師 事前学習 II	総合薬学演習 II
2) 災害時における地域の医薬品供給体制・医療救護体制について説明できる。			医療人としての薬剤師	総合薬学演習 II
3) 災害時における病院・薬局と薬剤師の役割について討議する。(態度)			医療人としての薬剤師	総合薬学演習 II
6 薬学研究				
(1) 薬学における研究の位置づけ				
1) 基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明できる。				医療薬学特別実習
2) 研究には自立性と独創性が求められていることを知る。				医療薬学特別実習
3) 現象を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。(知識・技能・態度)	研究入門 物理系実習 I 生物系実習 I	物理系実習 II 生物系実習 II		医療薬学特別実習
4) 新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。(態度)				医療薬学特別実習
(2) 研究に必要な法規範と倫理				
1) 自らが実施する研究に係る法令、指針について概説できる。	研究入門	研究倫理		
2) 研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。	研究入門	研究倫理		
3) 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。(態度) A-(2)-④-3再掲				総合薬学演習 II
(3) 研究の実践				

	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム(SBOs)						
1) 研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解、評価できる。(知識・技能)	研究入門 物理系実習 I 生物系実習 I	物理系実習 II 生物系実習 II			医療薬学特別実習	医療薬学特別実習
2) 課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、研究計画を立案する。(知識・技能)	研究入門 物理系実習 I 生物系実習 I	物理系実習 II 生物系実習 II			医療薬学特別実習	医療薬学特別実習
3) 研究計画に沿って、意欲的に研究を実施できる。(技能・態度)	研究入門 物理系実習 I 生物系実習 I	物理系実習 II 生物系実習 II			医療薬学特別実習	医療薬学特別実習
4) 研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。(知識・技能・態度)	研究入門 物理系実習 I 生物系実習 I	物理系実習 II 生物系実習 II			医療薬学特別実習	医療薬学特別実習
5) 研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答ができる。(知識・技能・態度)	研究入門 物理系実習 I 生物系実習 I	物理系実習 II 生物系実習 II			医療薬学特別実習	医療薬学特別実習
6) 研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。(技能)	研究入門 物理系実習 I 生物系実習 I	物理系実習 II 生物系実習 II			医療薬学特別実習	医療薬学特別実習

(基礎資料 3-1) 評価実施年度における学年別在籍状況

学年		1年	2年	3年	4年	5年	6年
入学年度の入学定員 ¹⁾		260	260	260	260	260	260
入学時の学生数 ²⁾	A	270	290	274	270	301	263
在籍学生数 ³⁾	B	281	296	260	264	287	297
過年度在籍者数 ⁴⁾	留年による者	9	18	9	14	4	37
	休学による者	2	0	2	0	0	0
編入学などによる在籍者数	E	0	0	0	1	1	4
ストレート在籍者数 ⁵⁾	F	270	278	249	249	282	256
ストレート在籍率 (%) ⁶⁾	F/A	100.0	95.9	90.9	92.2	93.7	97.3
過年度在籍率 (%) ⁷⁾	(C+D) / B	3.9	6.1	4.2	5.3	1.4	12.5

[注]

- 1) 各学年が入学した年度の入学者選抜で設定されていた入学定員を記入してください。
- 2) 当該学年が入学した時点での実入学者数を記入してください。
- 3) 評価実施年度の5月1日現在における各学年の在籍学生数を記入してください。
- 4) 過年度在籍者数を「留年による者」と「休学による者」に分けて記入してください。休学と留年が重複する学生は留年者に算入してください。
- 5) (在籍学生数) - [(過年度在籍者数) + (編入学などによる在籍者数)] を記入してください。 $F = B - (C+D+E)$ となります。
- 6) F/A の値を%で記入してください (小数点以下第1位まで表示)。
- 7) (C+D) / B の値を%で記入してください (小数点以下第1位まで表示)。

(基礎資料 3-2) 評価実施年度の直近5年間における6年制学科の学年別進級状況

		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
1年次	在籍者数 ¹⁾	304	272	280	299	281
	休学者数 ²⁾	2	0	1	2	3
	退学者数 ²⁾	5	4	5	4	7
	留年者数 ²⁾	0	6	8	9	3
	進級率(%) ³⁾	97.7%	96.3%	95.0%	95.0%	95.4%
2年次	在籍者数 ¹⁾	262	298	263	272	296
	休学者数 ²⁾	0	0	0	0	0
	退学者数 ²⁾	0	2	0	6	2
	留年者数 ²⁾	0	0	6	12	6
	進級率(%) ³⁾	100.0%	99.3%	97.7%	93.4%	97.3%
3年次	在籍者数 ¹⁾	275	264	296	262	260
	休学者数 ²⁾	0	0	1	2	1
	退学者数 ²⁾	3	2	0	0	2
	留年者数 ²⁾	1	0	5	4	7
	進級率(%) ³⁾	98.5%	99.2%	98.0%	97.7%	96.2%
4年次	在籍者数 ¹⁾	289	275	266	294	264
	休学者数 ²⁾	0	0	0	0	4
	退学者数 ²⁾	1	0	1	0	0
	留年者数 ²⁾	4	4	3	8	4
	進級率(%) ³⁾	98.3%	98.5%	98.5%	97.3%	97.0%
5年次	在籍者数 ¹⁾	283	287	272	271	287
	休学者数 ²⁾	1	0	1	0	1
	退学者数 ²⁾	0	0	0	0	1
	留年者数 ²⁾	2	1	8	1	6
	進級率(%) ³⁾	98.9%	99.7%	96.7%	99.6%	97.2%

1) 各年度の5月1日における各学年の在籍者数を記入してください。ただし、2023年度のデータは、草案提出時には空欄でかまいません。調書提出時に、その時点でのデータを記入して提出してください。

2) 各年度末に在学年から上級学年に進級出来なかった学生数を、休学、退学、留年に分けて記入してください。

3) 各年度の各学年について、{(在籍者数) - (休学者数 + 退学者数 + 留年者数)} / 在籍者数の値を%で記入してください(小数点以下第1位まで表示)。

(基礎資料 3-3) 評価実施年度の直近5年間に於ける学士課程修了(卒業)状況の実態

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
卒業判定時(年度末)の在籍学生数 ¹⁾	267	279	283	261	263
学士課程修了(卒業)者数 ¹⁾	253	260	263	232	244
卒業率(%) ²⁾	94.8%	93.2%	92.9%	88.9%	92.8%
卒業までに要した 在学期間別の 内訳 ³⁾	6年	245	255	230	238
	7年	7	4	4	2
	8年	0	0	1	0
	9年以上	1	1	3	0
入学時の学生数(実入学者数) ⁴⁾	278	286	284	273	263
ストレート卒業率(%) ⁵⁾	88.1%	89.2%	89.8%	84.2%	90.5%

- 1) 年度途中に卒業した学生(秋卒者など)の数は除いてください。
- 2) B/Aの値を%で記入してください(小数点以下第1位まで表示)。
- 3) Bの人数(編入学者があれば除く)の卒業までに要した³⁾在学期間別の内訳を記入してください。
- 4) 各年度の正規卒業学生が入学した年度の実入学者数(編入学者を除く)を記入してください。
- 5) C/Dの値を%で記入してください(小数点以下第1位まで表示)。

(基礎資料3-4) 直近6年間の定員充足状況と編入学者の動向

入学年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	平均値 ⁵⁾
入学定員	260	260	260	260	260	260	
実入学者数 ¹⁾	263	301	270	274	290	270	278
入学定員充足率(%) ²⁾ B/A	101.2%	115.8%	103.8%	105.4%	111.5%	103.8%	106.9%
編入学定員							
編入学者数 ³⁾ C+D+E	4	1	1	0	0	0	1
編入学した学年別の内数 ⁴⁾	2年次 C	4	1	1	0	0	1
	3年次 D	0	0	0	0	0	0
	4年次 E	0	0	0	0	0	0

1) 各年度の5月1日において1年次に在籍していた新入生数を記入してください。

2) 各年度のB/Aの値を%で記入してください(小数点以下第1位まで表示)。

3) 各年度に受け入れた編入学者(転学部、転学科などを含む)の合計数を記入してください。

4) 編入学者の受け入れ学年別の内数を記入してください。

5) 人数は整数(端数は四捨五入)で、入学定員充足率については%(小数点以下第1位まで表示)で記入してください。

(基礎資料4) 学生受入れ状況 (入学試験種類別)

学科名	入試の種類		2019年度入試 (2018年度実施)	2020年度入試 (2019年度実施)	2021年度入試 (2020年度実施)	2022年度入試 (2021年度実施)	2023年度入試 (2022年度実施)	2024年度入試 (2023年度実施)	募集定員数に対する 入学者数の比率 (6年間の平均)
薬学部	一般選抜A方式 (大学入学共通テ スト利用)	受験者数	842	767	728	752	890	667	91.7%
		合格者数	140	173	173	178	179	171	
		入学者数(A)	5	11	11	11	7	10	
		募集定員数(B)	10	10	10	10	10	10	
		充足率(A/B)(%)	50.0%	110.0%	110.0%	110.0%	70.0%	100.0%	
	一般選抜B方式 (個別試験)	受験者数	1,411	1,272	1,128	1,314	1,446	1,246	119.4%
		合格者数	345	328	405	366	434	413	
		入学者数(A)	171	123	134	144	137	151	
		募集定員数(B)	120	120	120	120	120	120	
		充足率(A/B)(%)	142.5%	102.5%	111.7%	120.0%	114.2%	125.8%	
	一般選抜S方式 (共通テスト・個 別試験併用)	受験者数	415	337	330	326	405	367	70.0%
		合格者数	95	107	105	107	105	98	
		入学者数(A)	16	26	20	20	29	15	
		募集定員数(B)	30	30	30	30	30	30	
		充足率(A/B)(%)	53.3%	86.7%	66.7%	66.7%	96.7%	50.0%	
	学校推薦型選抜A (専願)	受験者数	277	251	291	252	315	287	101.7%
		合格者数	83	81	82	81	80	81	
		入学者数(A)	83	81	82	81	80	81	
		募集定員数(B)	80	80	80	80	80	80	
		充足率(A/B)(%)	103.8%	101.3%	102.5%	101.3%	100.0%	101.3%	
	学校推薦型選抜B (併願可)	受験者数	295	233	273	320	311	304	126.7%
		合格者数	81	72	89	88	71	73	
		入学者数(A)	26	29	27	34	17	19	
		募集定員数(B)	20	20	20	20	20	20	
		充足率(A/B)(%)	130.0%	145.0%	135.0%	170.0%	85.0%	95.0%	
	学 科 計	受験者数	3,240	2,860	2,750	2,964	3,367	2,871	107.8%
		合格者数	744	761	854	820	869	836	
		入学者数(A)	301	270	274	290	270	276	
募集定員数(B)		260	260	260	260	260	260		
充足率(A/B)(%)		115.8%	103.8%	105.4%	111.5%	103.8%	106.2%		
編(転)入試験	受験者数								
	合格者数								
	入学者数(A)								
	募集定員数(B)								
	充足率(A/B)(%)								

- [注]
- 1 入試の種類は例示です。受審大学の実態に即した名称を記入してください。
 - 2 6年制課程が複数学科あるが入試は学部一括で行っている場合は、「学科名」欄に連記して「学科計」欄を「学部計」としてください。
 - 3 6年制課程が複数学科あり入試を学科別に行っている場合は、学科毎に欄を設けた上で、末尾に「学部合計」欄も設けてください。
 - 4 4年制学科を併設するが入試は学部一括で行っている場合は、「学科名」欄に4年制学科名も記入し、「学科計」欄を「学部計」とした上で、欄外に『(備考)〇年次進級時に6年制学科と4年制学科に分割する。なお、薬学科(6年制)の定員は△△△名である。』という「注」を記載してください。
 - 5 「入試の種類」が対象年度の間に変更されている場合は、すべての種類を記入した上で、対応のない年度の欄に斜線を入れてください。
 - 6 「入学者数(A)」には、各年度の5月1日に在籍した新入学者を構成する入試の種類ごとの入学者数を記入してください。
 - 7 「募集定員数(B)」には、各年度の募集要項に記載した人数を記入してください。
 - 8 充足率は募集定員に対する入学者の割合(A/B)を%で記入してください(小数点以下第1位まで表示)。ただし、募集定員が「若干名」の場合は「一」とします。

(基礎資料5) 教員・職員の数

表1. 大学設置基準(別表第1)の対象となる薬学科(6年制)の専任教員

教授	准教授	専任講師	助教	合計	基準数 ¹⁾
21名	12名	13名	12名	58名	34名
上記における臨床実務経験を有する者の内数					
教授	准教授	専任講師	助教	合計	必要数 ²⁾
2名	0名	5名	0名	7名	6名

1) 大学設置基準第13条別表第1のイ(表1)及び備考4に基づく数で、別表2の数は含めない。

2) 上記基準数の6分の1(大学設置基準第13条別表第1のイ備考10)に相当する数

表2. 薬学科(6年制)の教育研究に携わっている表1.以外の薬学部教員

助手 ¹⁾	兼任教員 ²⁾
1名	26名

1) 学校教育法第92条⑨による教員として大学設置基準第10条2の教育業務及び研究に携わる常勤者

2) 4年制学科を併設する薬学部で、薬学科の専門教育を担当する4年制学科の専任教員

表3. 演習、実習、実験などの補助に当たる教員以外の者

TA	SA	その他 ¹⁾	合計
25名	84名	13名	122名

自己点検・評価を実施した年度の実績を延べ人数ではなく正味の人数で記入

1) 実習などの補助を担当する臨時、契約職員など(無給は除く)

表4. 薬学部専任の職員¹⁾

事務職員	技能職員 ²⁾	その他 ³⁾	合計
38名	4名	1名	43名

1) 薬学部の業務を専門に行う職員(非常勤を含む。ただし非常勤数は()に内数で記入。複数学部の兼任は含まないこと。)

2) 薬用植物園や実験動物の管理、電気施設など保守管理に携わる職員

3) 司書、保健・看護職員など

(基礎資料6) 専任教員(基礎資料5の表1)の年齢構成

	教授	准教授	専任講師	助教	合計	比率(%)
70代	1名	0名	0名	0名	1名	1.7%
60代	6名	2名	1名	0名	9名	15.5%
50代	11名	5名	1名	3名	20名	34.5%
40代	3名	5名	10名	2名	20名	34.5%
30代	0名	0名	1名	7名	8名	13.8%
20代	0名	0名	0名	0名	0名	0.0%
合計	21名	12名	13名	12名	58名	

専任教員の定年年齢：(65歳)

(参考資料) 専任教員(基礎資料5の表1)の男女構成

	教授	准教授	専任講師	助教	合計	比率(%)
男性	18名	9名	11名	7名	45名	77.6%
女性	3名	3名	2名	5名	13名	22.4%

(基礎資料7) 教員の教育担当状況

表1. 薬学科(6年制)専任教員(基礎資料5の表1)が担当する授業科目と担当時間

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当たり授業時間 ⁵⁾	
薬学科	学長						薬学の心構え I	3.00	0.10	
							授業担当時間の合計			
薬学科	学長補佐									
							授業担当時間の合計			
薬学科	教授						天然資源 II	42.00	1.40	
							天然資源 I	6.00	0.20	
							化学系実習 I	◎	12.00	0.40
							化学系実習 II	◎	20.00	0.67
							薬学研究実践実習	◎	97.50	3.25
							授業担当時間の合計	177.50	5.92	
薬学科	教授						薬理学 II	42.00	1.40	
							薬物治療 V	15.00	0.50	
							緩和医療薬学	6.00	0.20	
							治療薬学特論 I	院	4.50	0.15
							生物系実習 III	◎	40.00	1.33
							薬学研究実践実習	◎	97.50	3.25
							授業担当時間の合計	205.00	6.83	
薬学科	教授(実務)						基礎薬学演習	1.50	0.50	
							実践実務の薬物治療	15.00	0.50	
							薬学研究実践実習	◎	97.50	3.25
							授業担当時間の合計	114.00	4.25	
薬学科	教授						薬物治療 II	21.00	0.70	
							薬物治療 I	3.00	1.00	
							薬物治療 V	3.00	0.10	
							薬学研究実践実習	◎	97.50	3.25
							病態解析学特論 I	院	3.00	0.10
							授業担当時間の合計	127.50	5.15	

薬学科	教授	機能形態学Ⅰ		42.00	1.40
		消化器・代謝系疾患集中講義		7.50	0.25
		薬学研究実践実習	◎	97.50	3.25
		生物系実習Ⅱ	◎	36.00	1.20
		授業担当時間の合計		183.00	6.10
薬学科	教授	有機化学Ⅰ		42.00	1.40
		有機化学ⅢB		42.00	1.40
		化学系実習Ⅱ	◎	36.00	1.20
		薬学研究実践実習	◎	97.50	3.25
		授業担当時間の合計		217.50	7.25
薬学科	教授	物理化学Ⅱ		21.00	0.70
		物理化学Ⅰ		42.00	1.40
		医薬品等に関わる規制調和と国際標準		18.00	0.60
		機能分子薬学特論Ⅰ	院	9.00	0.30
		物理系実習Ⅱ	◎	24.00	0.80
		薬学研究実践実習	◎	97.50	3.25
		授業担当時間の合計		211.50	7.05
		研究倫理		3.00	0.10
薬学科	教授	分子生物学		21.00	0.70
		疾患・有害事象の症候		21.00	0.70
		病態解析学特論Ⅰ	院	4.50	0.15
		生物系実習Ⅰ	◎	64.00	2.13
		生物系実習Ⅱ	◎	84.00	2.80
		研究入門	◎	32.00	1.07
		薬学研究実践実習	◎	97.50	3.25
		授業担当時間の合計		327.00	10.90
薬学科	教授	生化学Ⅰ		42.00	1.40
		生物学		3.00	0.10
		生化学Ⅱ		12.00	0.40
		C生活環境と科学		7.50	0.25
		基盤薬学特論Ⅲ	院	7.50	0.25
		生物系実習Ⅱ	◎	24.00	0.80
		薬学研究実践実習	◎	97.50	3.25
		授業担当時間の合計		193.50	6.45
薬学科	教授	製剤化のサイエンスⅠ		27.00	0.90
		製剤化のサイエンスⅡ		21.00	0.70
		物理系実習Ⅰ	◎	20.00	0.67
		薬学研究実践実習	◎	97.50	3.25
		授業担当時間の合計		165.50	5.52

薬学科	教授 (実務)	研究倫理		3.00	0.10
		医療人としての薬剤師		1.50	0.35
		事前学習Ⅰ(演習)		16.00	0.53
		事前学習Ⅱ(講義・演習)		24.00	0.80
		事前学習Ⅱ(実習)	◎	85.00	2.83
		薬学研究実践実習	◎	97.50	3.25
		授業担当時間の合計			227.00
薬学科	教授	薬物治療の個別化・最適化		9.00	0.30
		製剤化のサイエンスⅡ		21.00	0.70
		物理系実習Ⅱ	◎	24.00	0.80
		薬学研究実践実習	◎	97.50	3.25
		授業担当時間の合計			151.50
薬学科	教授	研究倫理		9.00	0.30
		疾患・有害事象の症候		21.00	0.70
		緩和医療薬学		3.00	0.10
		司法と薬学		3.00	0.10
		知覚・脳神経特論		7.50	0.25
		治療薬学特論Ⅰ	院	4.50	0.15
		生物系実習Ⅲ	◎	40.00	1.33
		薬学研究実践実習	◎	97.50	3.25
		授業担当時間の合計			185.50
薬学科	教授	薬物治療の個別化・最適化		12.00	0.40
		薬物治療Ⅳ		24.00	0.80
		事前学習Ⅰ(演習)		32.00	1.07
		薬学研究実践実習	◎	97.50	3.25
		授業担当時間の合計			165.50
薬学科	教授	薬物動態Ⅱ		42.00	1.40
		薬物動態Ⅰ		42.00	1.40
		実践薬剤学		9.00	0.30
		物理系実習Ⅱ	◎	24.00	0.80
		薬学研究実践実習	◎	97.50	3.25
		授業担当時間の合計			214.50
薬学科	教授	有機化学ⅢA		42.00	1.40
		有機化学ⅡB		42.00	1.40
		化学系実習Ⅰ	◎	32.00	1.07
		薬学研究実践実習	◎	97.50	3.25
		授業担当時間の合計			213.50
薬学科	教授	化学		42.00	1.40
		有機化学ⅡA		42.00	1.40
		化学系実習Ⅱ	◎	36.00	1.20
		薬学研究実践実習	◎	97.50	3.25
		授業担当時間の合計			217.50

薬学科	教授 (実務)	医療人としての薬剤師		1.50	0.35
		薬学の心構え I		3.00	0.10
		事前学習 I (演習)		16.00	0.53
		事前学習 II (講義・演習)		37.50	1.25
		事前学習 II (実習)	◎	119.00	3.97
		薬学研究実践実習	◎	97.50	3.25
		授業担当時間の合計		274.50	9.45
薬学科	教授	バイオスタティスティクス		15.00	0.50
		機能形態学 II		42.00	1.40
		循環器系・内分泌系集中講義		15.00	0.50
		生物系実習 II	◎	36.00	1.20
		薬学研究実践実習	◎	97.50	3.25
		授業担当時間の合計		205.50	6.85
薬学科	准教授	生物学		7.50	0.25
		生化学 II		3.00	1.00
		基盤薬学特論 III	院	3.00	0.10
		生物系実習 I	◎	20.00	0.67
		生物系実習 II	◎	4.00	0.13
		薬学研究実践実習	◎	97.50	3.25
		授業担当時間の合計		135.00	5.40
薬学科	准教授	衛生学 I		42.00	1.40
		食品学特論		18.00	0.60
		食生活と保健衛生		9.00	0.30
		環境保健学特論 I	院	6.00	0.20
		物理系実習 I	◎	12.00	0.40
		物理系実習 II	◎	12.00	0.40
		薬学研究実践実習	◎	97.50	3.25
		授業担当時間の合計		196.50	6.55
薬学科	准教授	薬物治療 II		21.00	0.70
		C 生活環境と科学		7.50	0.25
		免疫学		42.00	1.40
		応用免疫学		18.00	0.60
		環境保健学特論 II	院	9.00	0.30
		生物系実習 II	◎	24.00	0.80
		薬学研究実践実習	◎	97.50	3.25
		授業担当時間の合計		219.00	7.30
薬学科	准教授	基礎薬学演習		12.00	0.40
		基礎薬学演習		6.00	0.20
		薬剤師への有機化学		1.50	0.35
		薬学研究実践実習	◎	97.50	3.25
		授業担当時間の合計		117.00	4.20

薬学科	准教授	基礎薬学演習		12.00	0.40
		基礎薬学演習		6.00	0.20
		生物学特講 I		15.00	0.50
		薬学研究実践実習	◎	97.50	3.25
		授業担当時間の合計		130.50	4.35
薬学科	准教授	薬物治療 I		12.00	0.40
		薬物治療 V		18.00	0.60
		病態解析学特論 I	院	3.00	0.10
		薬学研究実践実習	◎	97.50	3.25
		授業担当時間の合計		130.50	4.35
薬学科	准教授	天然資源 I		3.00	0.10
		生物有機化学		42.00	1.40
		化学系実習 I	◎	24.00	0.80
		化学系実習 II	◎	24.00	0.80
		薬学研究実践実習	◎	97.50	3.25
		授業担当時間の合計		190.50	6.35
薬学科	准教授	医薬品開発と生産のながれ		42.00	1.40
		バイオスタティスティクス		9.00	0.30
		一般統計		18.00	0.60
		実践薬剤学		6.00	0.20
		物理系実習 I	◎	20.00	0.67
		薬学研究実践実習	◎	97.50	3.25
		授業担当時間の合計		192.50	6.42
		薬理学 I		42.00	1.40
薬学科	准教授	緩和医療薬学		6.00	0.20
		治療薬学特論 I	院	3.00	0.10
		生物系実習 III	◎	40.00	1.33
		薬学研究実践実習	◎	97.50	3.25
		授業担当時間の合計		188.50	6.28
		薬理学 I		42.00	1.40
薬学科	准教授	基礎薬学演習		6.00	0.20
		創薬と支える物理化学		7.50	0.25
		臨床を支える薬剤学		15.00	0.50
		薬学研究実践実習	◎	97.50	3.25
		授業担当時間の合計		138.00	4.60
		基礎薬学演習		12.00	0.40
薬学科	准教授	製剤化のサイエンス I		15.00	0.50
		研究倫理		3.00	0.10
		C生活環境と科学		7.50	0.25
		病態解析学特論 I	院	3.00	0.10
		物理系実習 I	◎	72.00	2.40
		物理系実習 II	◎	72.00	2.40
		研究入門	◎	32.00	1.07
		薬学研究実践実習	◎	97.50	3.25
		授業担当時間の合計		207.50	7.03
		基礎薬学演習		12.00	0.40

			授業担当時間の合計	302.00	10.07	
薬学科	准教授		臨床分析の基礎と応用	15.00	0.50	
			機能分子薬学特論 I	院	4.50	0.15
			物理系実習 II	◎	24.00	0.80
			薬学研究実践実習	◎	97.50	3.25
			授業担当時間の合計		141.00	4.70
薬学科	講師		研究倫理		3.00	0.10
			情報リテラシー		6.00	0.20
			ファーマシューティカルコミュニケーション		42.00	1.40
			事前学習 I (演習)		16.00	0.53
			事前学習 II (講義・演習)		66.00	2.20
			事前学習 II (実習)	◎	85.00	2.83
			薬学研究実践実習	◎	97.50	3.25
			授業担当時間の合計		315.50	10.52
薬学科	講師		創薬化学		15.00	0.50
			研究倫理		3.00	0.10
			病態解析学特論 I	院	1.50	0.05
			化学系実習 I	◎	84.00	2.80
			化学系実習 II	◎	84.00	2.80
			研究入門	◎	32.00	1.07
			薬学研究実践実習	◎	97.50	3.25
			授業担当時間の合計		317.00	10.57
薬学科	講師 (実務)		患者・医薬品情報		7.50	0.25
			バイオスタティスティクス		9.00	0.30
			レギュラトリーサイエンス概論		1.50	0.50
			事前学習 I (演習)		16.00	0.53
			事前学習 II (講義・演習)		67.50	2.25
			薬学研究実践実習	◎	97.50	3.25
			授業担当時間の合計		199.00	7.08
薬学科	講師 (実務)		薬学と社会 II		21.00	0.70
			情報リテラシー		6.00	0.20
			医療保険概論		9.00	0.30
			事前学習 I (演習)		16.00	0.53
			事前学習 II (講義・演習)		87.00	2.90
			事前学習 II (実習)	◎	85.00	2.83
			薬学研究実践実習	◎	97.50	3.25
			授業担当時間の合計		321.50	10.72
薬学科	講師 (実務)		研究倫理		3.00	0.10
			患者・医薬品情報		9.00	0.30
			薬学研究実践実習	◎	30.00	1.00
			授業担当時間の合計		42.00	1.40

薬学科	講師	天然資源 I		3.00	0.10
		構造解析学A		15.00	0.50
		構造解析学B		15.00	0.50
		化学系実習 I	◎	20.00	0.67
		化学系実習 II	◎	36.00	1.20
		薬学研究実践実習	◎	97.50	3.25
		授業担当時間の合計		186.50	6.22
薬学科	講師	薬物治療Ⅲ		9.00	0.30
		一般薬理学		18.00	0.60
		生物系実習 I	◎	64.00	2.13
		生物系実習 II	◎	84.00	2.80
		研究入門	◎	32.00	1.07
		薬学研究実践実習	◎	97.50	3.25
		授業担当時間の合計		304.50	10.15
薬学科	講師	微生物学		42.00	1.40
		環境保健学特論Ⅱ	院	9.00	0.30
		生物系実習 I	◎	24.00	0.80
		薬学研究実践実習	◎	97.50	3.25
授業担当時間の合計		172.50	5.75		
薬学科	講師	物理化学Ⅱ		21.00	0.70
		機能分子薬学特論Ⅰ	院	1.50	0.05
		物理系実習Ⅱ	◎	24.00	0.80
		薬学研究実践実習	◎	97.50	3.25
授業担当時間の合計		144.00	4.80		
薬学科	講師	衛生学Ⅱ		42.00	1.40
		衛生学特論		18.00	0.60
		環境衛生学		7.50	0.25
		環境保健学特論Ⅰ	院	4.50	0.15
		物理系実習Ⅰ	◎	12.00	0.40
		物理系実習Ⅱ	◎	12.00	0.40
		研究入門	◎	4.00	0.13
		薬学研究実践実習	◎	97.50	3.25
		授業担当時間の合計		197.50	6.58
薬学科	講師	衛生学Ⅲ		42.00	1.40
		臨床分析の基礎と応用		6.00	0.20
		栄養と保健衛生		18.00	0.60
		環境保健学特論Ⅰ	院	4.50	0.15
		物理系実習Ⅰ	◎	12.00	0.40
		物理系実習Ⅱ	◎	12.00	0.40
		研究入門	◎	4.00	0.13
		薬学研究実践実習	◎	97.50	3.25
		授業担当時間の合計		196.00	6.53

薬学科	講師 (実務)	患者・医薬品情報		4.50	0.15
		事前学習Ⅰ(演習)		16.00	0.53
		事前学習Ⅱ(講義・演習)		49.50	1.65
		事前学習Ⅱ(実習)	◎	85.00	2.83
		薬学研究実践実習	◎	97.50	3.25
授業担当時間の合計				252.50	8.42
薬学科	講師	物理系実習Ⅰ	◎	72.00	2.40
		物理系実習Ⅱ	◎	72.00	2.40
		研究入門	◎	32.00	1.07
		薬学研究実践実習	◎	97.50	3.25
		授業担当時間の合計			
薬学科	助教	生物系実習Ⅰ	◎	32.00	1.07
		生物系実習Ⅱ	◎	16.00	0.53
		研究入門	◎	4.00	0.13
		薬学研究実践実習	◎	97.50	3.25
		授業担当時間の合計			
薬学科	助教	化学系実習Ⅰ	◎	36.00	1.20
		化学系実習Ⅱ	◎	12.00	0.40
		研究入門	◎	4.00	0.13
		薬学研究実践実習	◎	97.50	3.25
		授業担当時間の合計			
薬学科	助教	生物系実習Ⅰ	◎	40.00	1.33
		生物系実習Ⅱ	◎	8.00	0.27
		研究入門	◎	8.00	0.27
		授業担当時間の合計			
薬学科	助教	生物系実習Ⅰ	◎	44.00	1.47
		生物系実習Ⅱ	◎	4.00	0.13
		研究入門	◎	8.00	0.27
		薬学研究実践実習	◎	97.50	3.25
		授業担当時間の合計			
薬学科	助教				
		授業担当時間の合計			
薬学科	助教	生物系実習Ⅰ	◎	64.00	2.13
		生物系実習Ⅱ	◎	84.00	2.80
		研究入門	◎	32.00	1.07
		薬学研究実践実習	◎	97.50	3.25
		授業担当時間の合計			

薬学科	助教	治療薬学特論 I	院	1.50	0.05
		生物系実習 I	◎	24.00	0.80
		生物系実習 II	◎	24.00	0.80
		生物系実習 III	◎	40.00	1.33
		研究入門	◎	8.00	0.27
		薬学研究実践実習	◎	97.50	3.25
		授業担当時間の合計		169.50	5.65
薬学科 (創薬科学科)	助教	医療ヘルスケアマネジメント・プラクティス I		15.00	0.50
		医療ヘルスケアマネジメント・プラクティス II		7.50	0.25
		事前学習 I (演習)		16.00	0.53
		事前学習 II (講義・演習)		22.50	0.75
		事前学習 II (実習)	◎	123.25	4.11
		薬学研究実践実習	◎	97.50	3.25
		授業担当時間の合計		281.75	9.39
薬学科	助教	基礎薬学演習		1.50	0.05
		薬剤師への有機化学		4.50	0.15
		薬学研究実践実習	◎	97.50	3.25
		授業担当時間の合計		103.50	3.45
薬学科	助教	治療薬学特論 I	院	1.50	0.05
		生物系実習 I	◎	24.00	0.80
		生物系実習 II	◎	24.00	0.80
		生物系実習 III	◎	40.00	1.33
		研究入門	◎	8.00	0.27
		薬学研究実践実習	◎	97.50	3.25
		授業担当時間の合計		195.00	6.50
薬学科	助教	化学系実習 I	◎	36.00	1.20
		化学系実習 II	◎	16.00	0.53
		研究入門	◎	4.00	0.13
		薬学研究実践実習	◎	97.50	3.25
授業担当時間の合計		153.50	5.12		
薬学科	助教	事前学習 I (演習)		32.00	1.07
		生物系実習 II	◎	48.00	1.60
		研究入門	◎	8.00	0.27
		薬学研究実践実習	◎	97.50	3.25
		授業担当時間の合計		185.50	6.18

(以下に同じ様式で記入欄を追加し、基礎資料7(専任教員の教育担当状況 例示)に従って記入してください。)

- 1) 2学科制薬学部で4年制学科の兼任教員となっている場合は(兼任学科名)を付記してください。
- 2) 臨床における実務経験を有する専任教員には、職名に(実務)と付記してください。
- 3) 「授業担当科目」には、「卒業研究」の指導を除く全ての授業担当科目(兼任学科・兼任学科の科目、大学院の授業科目も含む)を記入し、実習科目は科目名の右欄に◎を、大学院科目は「院」の字を記入してください。
- 4) 「授業時間」には、当該教員がその科目で行う延べ授業時間(実働時間)の時間数を、以下に従ってご記入ください(小数点以下2桁まで)。
※講義科目は時間割から計算される実際の時間数(1コマ90分の授業15回担当すれば、 $90 \times 15 \div 60 = 22.5$ 時間)を記入します。
※複数教員で分担している場合は授業回数を分担回数とし、履修者が多いため同一科目を反復開講している場合は授業時間数に反復回数を乗じます。
※実習科目では、同一科目を複数教員(例えば、教授1名と助教、助手2名)が担当していても、常時共同で指導している場合は分担担当としません。
- 5) 「年間で平均した週当たり授業時間」には、総授業時間を「30」(授業が実施される1年間の基準週数)で除した値を記入してください。
開講する週数が30週ではない大学でも、大学間の比較ができるよう「30」で除してください。
- 6) 基礎資料7に記載の氏名・年齢・性別・学位称号・現職就任年月日は、個人情報保護の観点から、公表時には黒塗りにして当機構WEBページに掲載いたします。
評価用の基礎資料とは別に、該当箇所(項目名以外)を黒塗りした基礎資料7を含む、基礎資料全体のPDFファイルをご提出ください。

(基礎資料7) 教員の教育担当状況 (続)

表2. 助手 (基礎資料5の表2) の教育担当状況

学科	職名	氏名	年齢	性別	学位	就任年月日	授業担当科目	総授業時間	年間で平均した週当り授業時間	
薬学科	助手						化学系実習 I	◎	84.00	2.80
							化学系実習 II	◎	84.00	2.80
							研究入門	◎	32.00	1.07
							薬学研究実践実習	◎	97.50	3.25

(以下に同じ様式で記入欄を追加し、(基礎資料7(続き) 例示)に従って記入してください。)

[注] 担当時間数などの記入については(基礎資料7)の表1の脚注に倣ってください。助手については、「授業担当時間の合計」の算出は不要です。

表3. 兼任教員 (基礎資料5の表2) が担当する薬学科 (6年制) の専門科目と担当時間

学科	職名	氏名	年齢	性別	学位	現職就任年月日	授業担当科目	総授業時間	年間で平均した週当り授業時間	
創薬科学科	教授						薬学研究実践実習	◎	67.50	2.25
創薬科学科	教授						物理学		42.00	1.40
							薬学人としての教養入門		3.00	0.10
							D素粒子と放射線医療		21.00	0.70
							実用数学A		15.00	0.50
							実用数学B		15.00	0.50
							物理系実習 I	◎	24.00	0.80
							物理系実習 II	◎	24.00	0.80
創薬科学科	教授						薬物治療III		12.00	0.40
							バイオスタティスティクス		9.00	0.30
							基礎演習VI		3.00	0.10
							薬物治療IV		18.00	0.60
							薬理学の基礎と呼吸器疾患		3.00	0.10
創薬科学科	教授						薬学研究実践実習	◎	97.50	3.25
創薬科学科	教授						薬学研究実践実習	◎	97.50	3.25
創薬科学科	教授						分析化学 I		3.00	1.00
							物理系実習 I	◎	12.00	0.40
							物理系実習 II	◎	12.00	0.40
							薬学研究実践実習	◎	97.50	3.25

創薬科学科	准教授	薬学人としての教養入門		3.00	0.10
		薬学の心構えⅡ		24.00	0.80
		A医療心理学		21.00	0.70
		B心理学ゼミナール		21.00	0.70
		C心の科学		21.00	0.70
		D人間の発達		21.00	0.70
		医療現場におけるヒューマンエラー		9.00	0.30
		薬学研究実践実習	◎	97.50	3.25
創薬科学科	准教授	創薬化学		27.00	0.90
		基礎演習Ⅵ		3.00	0.10
		医薬品製造学		18.00	0.60
		化学系実習Ⅰ	◎	48.00	1.60
		薬学研究実践実習	◎	97.50	3.25
創薬科学科	准教授	天然資源Ⅰ		27.00	0.90
		E有用植物の歴史と応用		21.00	0.70
		化学系実習Ⅰ	◎	20.00	0.67
		化学系実習Ⅱ	◎	28.00	0.93
		薬学研究実践実習	◎	97.50	3.25
創薬科学科	准教授	Aスポーツ実技		42.00	1.40
		B体育実技		42.00	1.40
		Cスポーツ科学		21.00	0.70
		Dスポーツセラピー		21.00	0.70
		E世界の統合医療とメディカルアロマセラピー		21.00	0.70
		基礎演習Ⅵ		3.00	0.10
		薬学研究実践実習	◎	97.50	3.25
創薬科学科	准教授	薬学人としての教養入門		6.00	0.20
		医療・薬学英語ⅠA		42.00	1.40
		医療・薬学英語ⅡA		42.00	1.40
		医療・薬学英語ⅠB		42.00	1.40
		医療・薬学英語ⅡB		42.00	1.40
		C教育学ゼミナール		21.00	0.70

創薬科学科	准教授	薬学の心構え I		6.00	0.20
		薬学人としての教養入門		6.00	0.20
		研究倫理		6.00	0.20
		C 法学ゼミナール		21.00	0.70
		D 法学概論		21.00	0.70
		E 世界の法と経済		21.00	0.70
		薬学と社会 I		42.00	1.40
		薬学と社会 II		21.00	0.70
		医療保険概論		6.00	0.20
		薬事と行政		18.00	0.60
		日本社会の医療と法		9.00	0.30
創薬科学科	准教授				
創薬科学科	准教授	臨床分析の基礎と応用		9.00	0.30
創薬科学科	准教授	放射線応用学		9.00	0.30
創薬科学科	准教授	生物学		7.50	0.25
創薬科学科	准教授	分析化学 I		12.00	0.40
		薬学研究実践実習	◎	97.50	3.25
創薬科学科	准教授	薬学人としての教養入門		3.00	0.10
		英語コミュニケーションA		42.00	1.40
		英語コミュニケーションB		42.00	1.40
		医療・薬学英語 II A		42.00	1.40
		医療・薬学英語 II B		42.00	1.40
		E 外国からみた日本		21.00	0.70
		アカデミック・ライティング		15.00	0.50
創薬科学科	准教授	分析化学 II		21.00	0.70
		臨床分析の基礎と応用		15.00	0.50
		物理系実習 I	◎	12.00	0.40
		物理系実習 II	◎	12.00	0.40
		研究入門	◎	4.00	0.13
		薬学研究実践実習	◎	97.50	3.25

創薬科学科	講師	数学		42.00	1.40
		情報科学と情報倫理		42.00	1.40
		薬学人としての教養入門		3.00	0.10
		情報科学演習		42.00	1.40
		情報リテラシー		36.00	1.20
		D線形理論の医療への応用		21.00	0.70
創薬科学科	講師	細胞生物学		42.00	1.40
		生物学特講Ⅱ		7.50	0.25
		生物系実習Ⅰ	◎	24.00	0.80
		薬学研究実践実習	◎	97.50	3.25
創薬科学科	講師	研究入門	◎	4.00	0.13
創薬科学科	講師				
創薬科学科	講師	研究入門	◎	4.00	0.13
創薬科学科	助教				
創薬科学科	助教	事前学習Ⅰ（演習）		20.00	0.67
		生物系実習Ⅰ	◎	28.00	0.93
		生物系実習Ⅱ	◎	20.00	0.67
		研究入門	◎	8.00	0.27
創薬科学科	助教	研究入門	◎	8.00	0.27
創薬科学科	助教				
創薬科学科	助教	研究入門	◎	8.00	0.27
創薬科学科	助教	薬学研究実践実習	◎	97.50	3.25
医薬品化学 研究所	講師	生物学		7.50	0.25
		生活環境と科学		7.50	0.25
		薬理学の基礎と呼吸器疾患		12.00	0.40
		生物系実習Ⅱ	◎	36.00	1.20
		薬学研究実践実習	◎	97.50	3.25

（以下に同じ様式で記入欄を追加し、（基礎資料7（続き 例示）に従って記入してください。）

[注] 担当時間数などの記入については（基礎資料7）の表1の脚注に倣ってください。兼任教員については、「授業担当時間の合計」の算出は不要です。

(基礎資料8) 卒業研究の学生配属状況および研究室の広さ

5年生の在籍学生数

287名

6年生の在籍学生数

268名(単位修得済である卒業延期者29名を除く)

	配属講座など	指導教員数	5年生 配属学生数	6年生 配属学生数	合計	卒業研究を実施する 研究室の面積 (m ²)
1	運動科学研究室	1	4	6	10	
2	衛生化学研究室	3	16	15	31	
3	基礎実習研究部門	7	16	14	30	
4	機能形態学研究室	2	16	18	34	
5	合成化学研究室	1	7	0	7	
6	実務教育研究部門	8	21	20	41	
7	植物学研究室	1	6	3	9	
8	心理学研究室	1	4	1	5	
9	生化学研究室	2	15	12	27	
10	生体分子有機化学研究室	2	1	4	5	
11	生薬学研究室	3	16	9	25	
12	製剤設計学研究室	2	7	5	12	
13	微生物学研究室	2	13	15	28	
14	病態生理学研究室	3	18	17	35	
15	分子生物学研究室	1	8	11	19	
16	分子薬剤学研究室	2	13	12	25	
17	薬学教育研究部門	6	10	15	25	
18	薬動学研究室	1	5	11	16	
19	薬品製造化学研究室	2	10	1	11	
20	薬品物理化学研究室	3	16	17	33	
21	薬品分析化学研究室	3	12	5	17	
22	薬物治療学研究室	2	16	18	34	
23	薬理学研究室	5	29	29	58	
24	疾患解析創薬学研究室	3	5	7	12	
25	生体分子薬理学研究室	3	0	1	1	
26	生物制御科学研究室	4	3	2	5	
	合計	73	287	268	555	

以下の研究室は学生の配属なし

機能分子創成化学研究室	2	0	0	0	
生命機能創成科学研究室	4	0	0	0	
物理学研究室	1	0	0	0	
英語研究室	1	0	0	0	
英語教育学研究室	1	0	0	0	
法学研究室	1	0	0	0	
情報科学研究室	1	0	0	0	
機器分析学研究室	2	0	0	0	
エピゲノム創薬研究室	5	0	0	0	
タンパク質分解創薬研究室	3	0	0	0	
ストレス回復研究室	1	0	0	0	
食品動態学研究室	1	0	0	0	
IR室	1	0	0	0	

- [注] 1 卒業研究を実施している学年にあわせ、欄を増減して作成してください。
 2 指導教員数には担当する教員(助手を含む)の数を記入してください。
 3 講座制をとっていない大学は、配属講座名を適宜変更して作成してください。
 4 隣接する複数の講座などで共有して使用する実験室などは、基礎資料11-2に記載してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	星薬科大学	講座名	エピゲノム創薬研究室
職名	教授	氏名	牛島 俊和
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2023年4月～現在	各教員の教育効果をアウトカムで測定する方法を導入する。例えば、担当科目の国試等での学生全体の正答率、担当学生の就職実績、受賞数など。
2	作成した教科書、教材、参考書	2022年7月	羊土社「論文図表を読む作法」生命科学・医学論文のためのFigure事典を作成した。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特になし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2023年5月 2023年8-9月	学内FD講習会参加した。 英語のカリキュラムの打合せに参加した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) A quantification method of somatic mutations in normal tissues and their accumulation in pediatric patients with chemotherapy.	共著	2022年8月	Proc Natl Acad Sci USA, 119: e2123241119
(論文) Mapping genomic and epigenomic evolution in cancer ecosystems.	共著	2021年9月	Science, 373: 1474-1479
(論文) TET repression and increased DNMT activity synergistically induce aberrant DNA methylation.	共著	2020年10月	J Clin Invest, 130: 5370-5379
(論文) Cancer cell niche factors secreted from cancer-associated fibroblast by loss of H3K27me3.	共著	2020年2月	Gut, 69: 243-251
(論文) Genetic and epigenetic alterations in normal tissues have differential impacts on cancer risk among tissues.	共著	2018年1月	Proc Natl Acad Sci USA, 115: 1328-1333
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Epigenetic Field with Epithelial and Stromal Cells Predicts Cancer Risk.		2023年5月	Gordon Research Conference
(演題名) Epigenetic Field for Precision Cancer Risk Diagnosis and Exploitation of Its Carry-over as Synthetic Lethal Target.		2023年7月	Singapore Gastric Cancer Consortium
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2009年～現在	Singapore Gastric Cancer Consortium科学アドバイザー		
2009年～現在	International Human Epigenome Consortium国際科学委員		
2013年～現在	Cancer Letters Associate Editor		
2021年～現在	科学技術振興機構 ムーンショット「疾患の超早期予測・予防」アドバイザー		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	星薬科大学	講座名	食品動態学研究室
職名	教授	氏名	杉山 清
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2023年4月～現在	ディプロマポリシー に掲げた教育目標達成度を評価するための、ルーブリック指標を作成し、この指標に基づき学部学生の目標達成度を評価し、教育の質の向上に努めた。
2	作成した教科書、教材、参考書		特になし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2023年9月30日	星薬科大学の教育方針に関する講演を、揺籃会にて行った。
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2023年12月 2023年3月～	学内FD講習会を企画し、実施した。 自己点検・評価報告書を作成した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Analysis of anti-obesity and anti-diabetic effects of acacia bark-derived proanthocyanidins in type 2 diabetes model KKAY mice	共著	2021年9月	Journal of Natural Medicines 75(4), pp. 893-90
(論文) Mechanistic analysis of bladder cancer suppression by brassicasterol in a rat model of N-butyl-N-(4-hydroxybutyl)nitrosamine-induced bladder cancer	共著	2021年8月	Traditional and Kampo Medicine 8(2), pp. 163-169
(論文) Maternal and fetal pharmacokinetic analysis of cannabidiol during pregnancy in mice	共著	2021年4月	Drug Metabolism and Disposition 49(4), pp. 337-343
(論文) Effect of astaxanthin on the expression and activity of aquaporin-3 in skin in an in-vitro study	共著	2020年9月	Life 10(9), 193, pp. 1-8
(論文) A mechanism by which ergosterol inhibits the promotion of bladder carcinogenesis in rats	共著	2020年7月	Biomedicines 8(7), 180
2. 学会発表(評価対象年度のみ)			学会名
特になし			
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
1990年～現在	和漢医薬学会 名誉会員		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	星薬科大学	講座名	薬理学研究室
職名	教授	氏名	成田 年
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2019年4月～現在	最新の基礎研究情報や臨床事情を講義の中で紹介している。臨床医に講義にゲスト参加してもらい、臨場感を持たせている。
2	作成した教科書、教材、参考書	2019年9月 2022年9月	「統合分子薬理学 Vol.1 脳機能障害の分子レベル治療」薬理学の講義用の教科書を作成した。 「統合分子薬理学 Vol.2 がんと緩和の分子レベル治療」薬物治療学の講義用の教科書を作成した。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2021年10月 2022年7月 2022年8月 2022年12月	第125回生涯教育研修セミナーにおいて慶應義塾大学医学部生涯教育研修の講演を行った。 日本緩和医療学会において緩和薬物療法認定薬剤師養成を目的とした教育講演を行った。 不眠治療を考える会において、医療従事者を対象とした日本医師会生涯教育講座を行った。 第277回薬剤師向け web において研修認定薬剤師養成を目的とした講演を行った。
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2019年2月 2021年2月 2022年3月 2022年8月	2019年度 FD ワークショップに参加した。 2020年度 FD ワークショップに参加した。 2021年度の FD 講演会に参加した。 2022年度の FD 講演会に参加した
II 研究活動			
1.	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)
	(論文) Cellular senescence leads to progressive cell death via the INK4a-RB pathway in naked mole-rats.	共著	2023年7月
	(論文) Elucidation of the mechanisms underlying tumor aggravation by the activation of stress-related neurons in the paraventricular nucleus of the hypothalamus.	共著	2023年2月
	(論文) Possible mechanism for improving the endogenous immune system through the blockade of peripheral μ -opioid receptors by treatment with naldemedine.	共著	2022年8月
	(論文) Tumor suppression and improvement in immune systems by specific activation of dopamine D1-receptor-expressing neurons in the nucleus accumbens.	共著	2022年2月
	(論文) Cell-specific overexpression of COMT in dopaminergic neurons of Parkinson's disease.	共著	2019年6月
	2. 学会発表(評価対象年度のみ)	発表年・月	学会名
	オピオイド受容体の多様性機能の分子理解: がん免疫に関わるオピオイドネットワーク	2023年5月	第16回日本緩和医療薬学会
	がん病態治療におけるCOX 活性制御の新たな意義とその理解, 第16回日本緩和医療薬学会	2023年5月	第16回日本緩和医療薬学会
	Opioid- and Dopamine-induced Immune Modulation	2023年7月	International Narcotics Research Conference 2023
	複合的な痛みが引き起こす全身症状の理解と免疫調節	2023年7月	日本ペインクリニック学会 第57回学術集会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2023年5月～現在	日本緩和医療薬学会 代表理事		
～現在	国際麻薬研究協議会(INRC) アジア・オセアニア諸国代表理事		
2014年～現在	日本疼痛学会 理事		
2022年11月～現在	日本神経精神薬理学会 理事		
2021年7月～現在	日本ペインクリニック学会 特任評議員		
2022年9月～現在	日本薬理学会 代議員		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
星薬科大学	講座名	薬理学研究室	教授 森 友久
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2018年-現在	講義では、臨床を念頭において副作用に関する実践的な内容を理論的に理解しやすい系統図に纏めて理解を深めさせた。
2 作成した教科書、教材、参考書		2020年3月1日 2022年3月1日	生体毒性情報学 生体毒性情報学 第2版
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2022年	学内FD講演会に参加した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) 生体毒性情報学 第2版	単著	2023年3月	京都廣川書店
(著書) アディクションサイエンス: 依存・嗜癖の科学	共著	2019年6月	朝倉書店
(論文) Characterization of the discriminative stimuli	共著	2022年2月	rmacol Biochem Behav 213:173314.
(論文) Synergistic effects of MDMA and ethanol on behavior: Possible effects of ethanol on dopamine D2-receptor-related signaling	共著	2021年7月	Addict Biol. e13000.
(論文) Enhancement of the rewarding effects of 3,4-methylenedioxymethamphetamine in orexin knockout mice	共著	2021年1月	Behav Brain Res396:112802.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 細胞内環境変化からモルヒネ離脱により嫌悪感を読み解く		2022年12月	日本薬理学会
(演題名) アルコール・アディクションで生死を分けているのは		2022年9月	日本アルコールアディクション医学会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2012年4月~2023年3月	日本緩和医療薬学会: 評議員・認定委員		
2015年9月 - 現在	Pmda 専門委員		
2015年9月 - 現在	Review Editor, Frontiers in Neuroscience		
2022年10月 - 現在	日本アルコールアディクション医学会・理事・学術委員長・編集委員・国際委員会委員		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 薬理学研究室	職名 准教授	氏名 葛巻直子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2019年4月～現在	薬理学Iを担当している。WebClassを活用して、講義資料の事前配布を行うと共に、当日は配布資料も準備した。知識の定着や思考力を強化するために、毎週講義内に復習の時間を設け、練習問題の課題を出した。授業評価も概ね良好であったが、新しく必要な情報を講義に導入できるような努めた。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2020年3月 2019年4月～現在	薬理学Iの教科書として使用している疾患薬理学(ネオメディカル)の改訂を行う。 全ての講義回について、講義資料を作成し、配布した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2019年8月	オープンキャンパスにて、多くの高校生を対象に、薬学への導入ならびに「薬理学」に触れることを目的として、ミニ講義を行った。	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2020年2月	「コロナ禍での教育経験を活かした来年度の教育方法の提案」という課題について、全学でFDワークショップを行い、司会を担当した。また、薬理学域の取りまとめを行なった。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Cancer aggravation due to persistent pain signals with the increased expression of pain-related mediators in sensory neurons of tumor-bearing mice.	共著	2023年2月	Mol Brain. 3;16(1):19.
(論文) Elucidation of the mechanisms underlying tumor aggravation by the activation of stress-related neurons in the paraventricular nucleus of the hypothalamus.	共著	2023年2月	Mol Brain. 2;16(1):18.
(論文) Possible mechanism for improving the endogenous immune system through the blockade of peripheral μ -opioid receptors by treatment with naldemedine.	共著	2022年11月	Br J Cancer. 127(8):1565-1574.
(論文) Histone modification of pain-related gene expression in spinal cord neurons under a persistent postsurgical pain-like state by electrocautery.	共著	2021年9月	Mol Brain. 20;14(1):146.
(論文) Cell-specific overexpression of COMT in dopaminergic neurons of Parkinson's disease	共著	2019年6月	Brain. 142(6):1675-1689.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 難治性および複合型疼痛の脳内分子機構の解明		2023年7月	日本ペインクリニック学会 第57回学術集会
(演題名) Analysis of intrasplenic immune cell transformation under chronic dermatitis with pruritus		2023年7月	International Narcotics Research Conference Annual Meeting 2023
(演題名) 内因性オピオイド鎮痛・免疫システム:痛みからの解放という新しい“がん治療”の選択		2023年5月	第16回日本緩和医療薬学会年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2019年4月～現在	日本緩和医療薬学会 認定試験員委員会委員(認定試験作成と実施)		
2019年4月～現在	がんサポーターブケア学会 痛み部会委員(高齢者がん医療Q6A一部執筆、Year in Reviewを担当)		
2019年4月～現在	日本神経精神薬理学会 学術評議員、先端研究推進基盤構築タスクフォース委員会委員(先端研究推進基盤講演会を担当・実施)		
2019年4月～現在	日本薬理学会 学術評議員		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	星薬科大学	講座名	薬理学研究室
職名	助教	氏名	濱田 祐輔
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2019年4月～現在	「生物系実習III」に関して、小グループ性の対面実習やリアルタイムオンラインによる双方向性の実技実習の指導・解説を行った。直接学生と意見交換を行うことで改善を行った。
2	作成した教科書、教材、参考書	2019年～現在(毎年)	「生物系実習III」 薬理系実習の実習教材の作成を行った(毎年作成)。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2019年～現在(毎年)	学内FD講演会に参加した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Repeated activation of Trpv1-positive sensory neurons facilitates tumor growth associated with changes in tumor-infiltrating immune cells.	共著	2023年3月	Biochem Biophys Res Commun. 648:36-43 (2023)
(論文) Cancer aggravation due to persistent pain signals with the increased expression of pain-related mediators in sensory neurons of tumor-bearing mice.	共著	2023年2月	Mol Brain. 16:19
(論文) Elucidation of the mechanisms underlying tumor aggravation by the activation of stress-related neurons in the paraventricular nucleus of the hypothalamus.	共著	2023年3月	Mol Brain. 16:18
(論文) Possible mechanism for improving the endogenous immune system through the blockade of peripheral μ -opioid receptors by treatment with naldemedine.	共著	2022年8月	Br J Cancer 127:1565-1574
(論文) Relief of neuropathic pain by cell-specific manipulation of nucleus accumbens dopamine D1- and D2-receptor-expressing neurons.	共著	2022年1月	Mol Brain 15:10
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Role of peripheral μ -opioid receptors in cancer immunity		2023年7月	The International Narcotics Research Conference (INRC) 2023
(演題名) オピオイドの生体機能への影響: 中枢・末梢 μ オピオイド受容体の包括的機能解析		2022年11月	BPCNP4学会合同年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2019年4月～現在	Society for Neuroscience (SfN) 会員		
2019年4月～現在	International Narcotics Research Conference (INRC) 会員		
2019年4月～現在	International Association for the Study of Pain (IASP) 会員		
2019年4月～現在	日本緩和医療薬学会 会員(2021年～現在:社員)		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 薬理学研究室	職名 助教	氏名 須田 雪明
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2019年4月～現在	実習やSGDのチューターとして学生教育を行なった。最新の研究から得られた知見を紹介し、学生の意欲を高める工夫をした。
2	作成した教科書、教材、参考書	なし	
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	なし	
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2019年2月 2021年2月 2022年3月 2022年8月	2019年度 FD ワークショップに参加した。 2020年度 FD ワークショップに参加した。 2021年度の FD 講演会に参加した。 2022年度の FD 講演会に参加した
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Elucidation of the mechanisms underlying tumor aggravation by the activation of stress-related neurons in the paraventricular nucleus of the hypothalamus.	共著	2023年2月	Mol Brain., 16:18
(論文) Possible mechanism for improving the endogenous immune system through the blockade of peripheral μ -opioid receptors by treatment with naldemedine.	共著	2022年8月	Br J Cancer., 127:1565-1574
(論文) Tumor suppression and improvement in immune systems by specific activation of dopamine D1-receptor-expressing neurons in the nucleus accumbens.	共著	2022年2月	Mol Brain., 15(1):17
(論文) Normal aging induces PD-1-enriched exhausted microglia and A1-like reactive astrocytes in the hypothalamus.	共著	2021年2月	Biochem Biophys Res Commun., 541:22-29
(論文) Cell-specific overexpression of COMT in dopaminergic neurons of Parkinson's disease.	共著	2019年6月	Brain., 142:1675-1686
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
がん病態下におけるうつ改善を目指したがん病態モデルにおける脳内セロトニン産生経路異常の解析		2023年5月	第16回日本緩和医療学会
がん病態における睡眠障害の改善をめざした視床下部ヒスタミン産生経路異常の解析		2023年5月	第16回日本緩和医療学会
がん病態における睡眠障害の改善をめざした視床下部ヒスタミン産生経路異常の解析		2023年5月	第16回日本緩和医療学会
痛みを伴った肺がん病態モデルにおける知覚神経-腫瘍免疫連関異常の解析		2023年5月	第16回日本緩和医療学会
Influence of pain signals with the facilitation of stress-responsive networks in tumor progression		2023年7月	International Narcotics Research Conference 2023
Role of peripheral μ -opioid receptors in cancer immunity		2023年7月	International Narcotics Research Conference 2023
Analysis of intra-splenic immune cell transformation under chronic dermatitis with pruritus		2023年7月	International Narcotics Research Conference 2023
持続的な疼痛シグナルが腫瘍浸潤免疫細胞に与える影響		2023年8月	第46回日本神経学会
側坐核におけるドパミン受容体発現神経の特異的調節による腫瘍移植下の遠心性免疫の変化		2023年8月	第46回日本神経学会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2021年～現在	日本薬理学会 学樹評議員		
～現在	日本神経科学学会 会員		
～現在	日本緩和医療学会 会員		
～現在	日本神経精神薬理学会 会員		
～現在	日本薬学会 会員		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 薬物治療学研究室	職名 教授	氏名 池田 弘子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2019年4月～現在	Webclassシステムを活用し、資料の事前配布を行った。学生が質問しやすいように講義の各回の終わりにメールアドレスを提示した。
2 作成した教科書、教材、参考書		2022年3月 2022年5月・ 2023年5月	「Principal Pharmacotherapy 改訂3版」を執筆した(分担)。 「事前学習 I (薬物治療演習)」の演習教材を作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2023年9月3日	日本アカデミック・ディテリング研究会 第2回学術大会において、薬学教育における薬物治療の演習とその意義について発表予定である。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2021年2月19日 2022年3月18日 2022年8月31日	2020年度FDワークショップに参加した 2021年度FD講習会に参加した 2022年度FD講習会に参加した
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の 名称
(論文) Dopaminergic mechanisms in the lateral hypothalamus regulate feeding behavior in association with neuropeptides	共著	2019年9月	Biochem Biophys Res Commun 519, 547-552
(論文) Central dopamine D2 receptors regulate plasma glucose levels in mice through autonomic nerves	共著	2020年12月	Sci Rep 10, 22347
(論文) Increase in neuropeptide Y activity impairs social behaviour in association with glutamatergic dysregulation in diabetic mice	共著	2021年2月	Brit J Pharmacol 178, 726-740
(論文) Increase in brain L-lactate enhances fear memory in diabetic mice: Involvement of glutamate neurons	共著	同 年6月	Brain Res 1767, 147560
(論文) Regulation of plasma glucose levels by central dopamine D2 receptors is impaired in type 1 but not type 2 diabetic mouse models	共著	2023年8月	Eur J Pharmacol 956, 175984
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Regulation of dopamine in the central nervous system on energy homeostasis		2023年8月1日	第46回日本神経科学大会
(演題名) 肥満や糖尿病による中枢神経機能変化		2023年9月8日	第53回日本神経精神薬理学会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2019年1月～2021年12月	日本肥満学会刊行編集委員		
2022年2月～2022年12月	第96回日本薬理学会年会プログラム委員		
2023年4月～現在	日本薬学会広報委員会委員		
2018年4月～2023年3月	厚生労働省薬剤師試験委員		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	星薬科大学	講座名	薬物治療学研究室
職名	助教	氏名	米持 奈央美
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2023年6月	4年次「薬物治療演習」WebClassシステムを活用して、資料を随時配布した。チームごとにガイドラインや教科書等から情報を収集させ、インターネット上で発表資料を作成させた。
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2023年5月	学内FD講演会に参加した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Regulation of plasma glucose levels by central dopamine D ₂ receptors is impaired in type 1 but not type 2 diabetic mouse models	共著	2023年10月	Eur J Pharmacol. 956:175984
(論文) Neuropeptide Y and glutamatergic mechanisms in the amygdala and ventral hippocampus differentially mediate impaired social behavior in diabetic mice	共著	2021年3月	Behav Brain Res. 405:113195
(論文) Increase in neuropeptide Y activity impairs social behaviour in association with glutamatergic dysregulation in diabetic mice	共著	2021年1月	Brit J Pharmacol. 178:726-740
(論文) Central dopamine D ₂ receptors regulate plasma glucose levels in mice through autonomic nerves	共著	2020年12月	Sci Rep. 10:22347
(論文) Dopaminergic mechanisms in the lateral hypothalamus regulate feeding behavior in association with neuropeptides	共著	2019年11月	Biochem Biophys Res Commun. 519:547-552
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 抗精神病薬による耐糖能異常の発現機序の解明: ドパミンD ₂ 受容体による血糖調節と代謝性疾患における変化		2023年9月	日本神経精神薬理学会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2014年～現在	日本薬学会会員		
2016年4月～現在	日本神経科学大会会員		
2016年8月～現在	日本肥満学会会員		
2022年4月～現在	日本薬理学会学術評議員		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 病態生理学研究室	職名 教授	氏名 武藤 章弘
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			最新の診療ガイドラインを反映した講義内容とし、実際の診療経験をもととした講義を心掛けている。該当するテキストのページを示し、WebClassで確認問題を付けた資料を配布した。
2 作成した教科書、教材、参考書		2022年3月 2021年6月	「Principal Pharmacotherapy改訂3版」 「臨床薬学テキスト 『血液・造血器／感染症／悪性腫瘍』」など、薬物治療講義の教科書、参考書の作成を行った。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2022/8/30 2023/5/17	コアカリキュラム、学生対応に関するFD講習参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Depletion of R270C Mutant p53 in Osteosarcoma Attenuates Cell Growth but Does	共著	2022年11月	Cells: 11(22)
(論文) MEK inhibition preferentially suppresses anchorage-independent growth in	共著	2021年12月	J Orthop Res: 39(12)
(論文) 月経関連症状緩和のための保健管理センターの取り組み 6年間の効用について	共著	2019年5月	CAMPUS HEALTH :56(2)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2017年4月～現在	全国大学保健管理協会評議員		
2017年4月～現在	大学保健管理協会関東甲信越地方部会幹事		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 病態生理学研究室	職名 准教授	氏名 清水孝恒
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2019年4月～現在	Webclassシステムを活用し、資料を事前配布した。知識の定着をはかるため、希望者には授業動画の視聴頂いた(コロナ禍)。授業評価アンケートを踏まえ、講義内容の改善を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書		①2020年 ②2022年	①「分子病態薬理学Ⅲ」悪性腫瘍講義の教材の改訂を行った。②「統合分子薬理学vol.2」悪性腫瘍講義のための新しい教科書を講義担当で作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2022年10月	秋のキャンパス見学会(学園祭)において、研究室紹介ポスターを作成し、高校生を対象とした薬学教育・研究について説明を行った。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2019年4月～現在	学内FD講習会・講演会に毎年参加した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) ROCK Inhibition Induces Terminal Adipocyte Differentiation and Suppresses	共著	2019/6月	Cancer Res:79:3088-99
(論文) The Inhibitor of Apoptosis Protein Livin Confers Resistance to Fas-Mediated	共著	2020/10月	Cancer Res:80:4439-50
(論文) MEK inhibition preferentially suppresses anchorage-independent growth in	共著	2021/3月	J Orthop Res. 39:2732-43
(論文) Depletion of R270C Mutant p53 in Osteosarcoma Attenuates Cell Growth but Does	共著	2022/11月	Cells 11:3614.
(論文) Cancer aggravation due to persistent pain signals with the increased expression of	共著	2023/2月	Mol Brain 16:19.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Nintedanib, the multi-tyrosine kinase inhibitor, suppresses osteosarcoma primary and metastatic growth in vivo		2023年9月	日本癌学会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2015年～	日本癌学会評議員		
2020年～	日本臨床分子形態学会評議員		
2022年10月～	日本専門医機構 内科専門医		
2021年2月～	Cells誌Guest Editor		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 病態生理学研究室	職名 助教	氏名 福地 由美
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2019年4月-現在	2017年-2022年度の卒論研究学生の実験ノート、研究室内外発表会資料、卒業論文関連（発表会資料、卒業論文要旨、卒業論文）のアーカイブを作成した。2023年度は作成中である。また、2022年度卒業の卒論研究学生に国家試験に対する助言を聞き、まとめたものを在学研究室員に伝えた。	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2019年4月-現在 2019年4月-2020年3月	学内のFD活動に参加した。 合同公開セミナー世話人：第43回研究科助手会・大学院自治会合同公開セミナーを開催(11/2)・参加した。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) Development of R270C Mutant p53 in Osteosarcoma Attenuates Cell Growth but Does	共著	2022年11月	Cells, 11(22): 3614 doi: 10.3390/cells11223614
(論文) MEK inhibition preferentially suppress anchorage-independent growth in osteosarcoma	共著	2021年12月	Journal of Orthopaedic Research, 39, 2732-2743
(論文) OGI regulates hematopoietic stem cell maintenance via PINK1-dependent mitophagy.	共著	2021年1月	Cell Reports, 34, https://doi.org/10.1016/j.celrep.2020.1
(論文) Establishment of a high-risk MDS/AML cell line YCU-AML1 and its xenograft model	共著	2020年9月	HemaSphere, 4(5): e469, http://dx.doi.org/10.1097/HS9.000000000
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
(演題名) Establishment of high-risk MDS/AML cell line and xenograft model harboring t(3;3) and monosomy 7		2020年10-11月 (WEB開催)	日本血液学会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
なし			
(日本血液学会会員)			

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 機能形態学研究室	職名 教授	氏名 小林 恒雄
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2005年6月～現在	知識の定着をはかるため、確認小テストを実施した。授業評価アンケートを踏まえ、講義内容の改善を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書		2012年～現在 2012年～現在	「機能形態学」機能形態学の教材の作成を行った。生物学実習IIの教材の作成を行った。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2022/12/21 2022. 8. 30	6年制薬学教育の内部質保証に関するシンポジウム 「薬学教育モデル・コア・カリキュラム」の改訂について
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Indoxyl sulfate decreases uridine adenosine tetraphosphate-induced contraction in rat renal artery.	共著	2022/12月	Pflugers Arch. 474(12):1285-1294.
(論文) Ginkgolide B caused the activation of the Akt/eNOS pathway through the antioxidant effect of SOD1 in the diabetic aorta	共著	2023/1月	Pflugers Arch. 475(4):453-463.
(論文) GLP-1 modulates insulin-induced relaxation response through β -arrestin2 regulation in diabetic mice aortas.	共著	2021/8月	Acta Physiol (Oxf). 231(3):e13573
(論文) Methylglyoxal augments uridine diphosphate-induced contraction via activation of p38 mitogen-activated protein kinase in rat carotid artery	共著	2021/8月	Eur J Pharmacol. 5:904:174155.
(論文) Endothelial dysfunction caused by circulating microparticles from diabetic mice is reduced by PD98059 through ERK and ICAM-1	共著	2021年12月	Eur J Pharmacol. 15:913:174630.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 糖尿病マウス血小板由来マイクロパーティクルによる血管内皮機能障害発症機序の解明		2023年3月	日本薬学会
(演題名) 糖尿病性血管機能障害におけるエサキセレンの効果の検討		2023年3月	日本薬学会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2010年4月～現在	日本平滑筋学会学術評議員		
2016年4月～現在	日本私立薬科大学協会薬剤師国家試験問題検討委員		
2017年4月～現在	日本薬学会代議員		
2021年3月～現在	日本薬理学会代議員		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	星薬科大学	講座名	機能形態学研究室
職名	講師	氏名	田口 久美子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2020年9月～現在	Webclassシステムを活用し、資料の事前配布を行った。知識の定着をはかるため、確認小テストを実施した。授業評価アンケートを踏まえ、講義内容の改善を行った。
2	作成した教科書、教材、参考書	2020年9月 2021年4月 2022年9月	「総合薬学演習I(機能形態学)」の教材作成を行った。 「生物学」「薬理学の基礎と呼吸器疾患」の教材作成を行った。 「生活環境と科学」の教材作成を行った。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2018年～現在	学内FD講演会に参加した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) ERK-containing microparticles from a diabetic mouse induce endothelial dysfunction.	共著	2019年6月	<i>J Endocrinol</i> ;241(3):221-233.
(論文) Plant polyphenols Morin and Quercetin rescue nitric oxide production in diabetic mouse aorta through distinct pathways.	共著	2020年6月	<i>Biomed Pharmacother</i> ;129:110463.
(論文) GLP-1 modulates insulin-induced relaxation response through β -arrestin2 regulation in diabetic mice aortas.	共著	2021年3月	<i>Acta Physiol (Oxf)</i> ;231(3):e13573.
(論文) Endothelial dysfunction caused by circulating microparticles from diabetic mice is reduced by PD98059 through ERK and ICAM-1.	共著	同 年12月	<i>Eur J Pharmacol</i> ;913:174630.
(論文) Ginkgolide B caused the activation of the Akt/eNOS pathway through the antioxidant effect of SOD1 in the diabetic aorta.	共著	2023年4月	<i>Pflugers Arch</i> ;475(4):453-463.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 糖尿病マウス胸部大動脈においてCarvedilol刺激はAkt/eNOS経路を活性化させる		2023年3月	日本薬学会
(演題名) 糖尿病時産生放出されるマイクロパーティクルによる血管内皮機能障害の発症機構		2023年8月	日本病態生理学会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2016年4月～現在	日本薬理学会学術評議員		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	星薬科大学	講座名	生薬学研究室
職名	教授	氏名	森田 博史
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫	2019年4月～現在	Webclassシステムを活用し、資料の事前配布を行った。知識の定着をはかるため、確認小テストを実施した。授業評価アンケートを踏まえ、講義内容の改善を行った。
2	作成した教科書、教材、参考書	2022年4月	パートナー 天然物化学
		2022年4月	パートナー 生薬学
		2022年4月	現代医療における漢方薬
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2020年4月	漢方薬・天然物化学の演習教材資料の作成を行った。
4	その他教育活動上特記すべき事項	2022年3月	学内FD講演会に参加した。
		2023年5月	カリキュラム検討委員会:新コアカリキュラムに関する対応を検討した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Computationally-Assisted Discovery and Structure Elucidation of Natural Products	共著	2019年6月	J. Nat. Med. 2019, 73, 687-695
(論文) Triterpenoids from <i>Walsura trichostemon</i>	共著	2021年6月	J. Nat. Med. 2021, 75, 415-422
(論文) Divaricamine A, A new Anti-Malarial Trimeric Monoterpenoid Indole Alkaloid from <i>Tabernaemontana divaricata</i>	共著	2021年6月	Tetrahedron Lett. 2021, 83, 153423
(論文) <i>Walsogynes H-0</i> from <i>Walsura chrysogyne</i>	共著	2022年6月	J. Nat. Med. 2022, 76, 94-101
(論文) <i>Ceramicines Q-T</i> from <i>Chisocheton ceramicus</i>	共著	2023年6月	J. Nat. Med. 2023, 77, 596-603
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Two New Bisindole Alkaloids from <i>Tabernaemontana macrocarpa</i> Jack		2020年9月	日本薬学会関東支部例会
(演題名) ニチニチソウより単離した <i>isovincathicine</i> の細胞増殖阻害活性		2022年9月	日本生薬学会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2020年4月～2021年3月	日本生薬学会 副会長		
2021年4月～2022年3月	日本生薬学会 会長		
2019年4月～2022年3月	生薬学会誌 副編集委員長		
2022年4月～現在	生薬学会誌 編集委員長		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	星薬科大学	講座名	生薬学研究室
職名	教授	氏名	金田 利夫
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2019年4月～現在	Webclassシステムを活用し、資料の事前配布を行った。
2	作成した教科書、教材、参考書	2023/4/1～	「生物有機化学」の教材作成を行った。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2022年10月	森村学園において、高校生を対象とした生薬学の模擬講義を行った。
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2023年5月 2023年5月～	学内FD講演会を開催・参加した。 基礎実習委員会副委員長として、現行と新カリキュラムにおける実習の改善に取り組んでいる。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Calofolic Acid-A from Calophyllum scriblitifolium Bark Has Vasorelaxant Activity via Indirect PKA Activation Caused by PI-3 Kinase Inhibition in Rat Vascular Smooth Muscle Cells	共著	2022/9月	J Nat Pro:85:2192-2198
(論文) "Cycloartane triterpenoid (23R, 24E)-23-acetoxymangiferonic acid inhibited proliferation and migration in B16-F10 melanoma via MITF downregulation caused by inhibition of both β -catenin and c-Raf-MEK1-ERK signaling axis.	共著	2019/1月	J Nat Med:73:47-58
(論文) Cyclolinopeptide F, a cyclic peptide from flaxseed inhibited RANKL-induced osteoclastogenesis via downregulation of RANK expression	共著	2019/6月	J Nat Med:73:504-512
(論文) Antimalarial ceramicines Q-T from Chisocheton ceramicus	共著	2023/6月	J Nat Med:77:596-603
(論文) Isovincathicine from Catharanthus roseus induce apoptosis in A549 cells	共著	2023/月	J Nat Med:77: Accepted: 31 July 2023
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Cassiarin Aのメラニン産生促進とPDE阻害作用		2023年9月	日本生薬学会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2011年4月～現在	日本生薬学会編集委員		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	星薬科大学	講座名	生薬学研究室
		職名	講師
		氏名	平澤 祐介
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2019年4月～現在	Webclassシステムを活用し、資料の事前配布を行った。知識の定着をはかるため、確認小テストを実施した。試験の成績が芳しくない学生に補講を行った。
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項		なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Cryptadine C, a new C27N3-type Lycopodium alkaloid from <i>Lycopodium cryptomerinum</i>	共著	2023年5月	J. Nat. Med. 2023, 77, 610.
Cliniatines A-C, new Amaryllidaceae alkaloids from <i>Clivia miniata</i> , inhibiting	共著	2022年9月	J. Nat. Med. 2023, 76, 171.
Divaricamine A, a new anti-malarial trimeric monoterpene indole alkaloid from	共著	2021年10月	Tetrahedron Lett. 2021, 83, 153423
Complanadine F, a novel dimeric alkaloid from <i>Lycopodium complanatum</i>	共著	2021年1月	J. Nat. Med. 2021, 75, 403.
New vasorelaxant indole alkaloids, taberniacins A and B, from <i>Tabernaemontana</i>	共著	2019年3月	J. Nat. Med. 2019, 73, 627.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
キョウテクトウ科植物を素材とした多量体インドールアルカロイドの探索		2021年9月	日本生薬学会第67回年会
ニチニチソウから単離した新規三量体vincarostine Aの構造解析		2021年9月	日本生薬学会第67回年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2020年1月～2021年9月	日本生薬学会第67回年会準備委員		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 微生物学研究室	職名 准教授	氏名 築地 信
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2019年4月～現在	学生からの質疑やコメントを講義後やオフィスアワーを通じて受け付けている。それらと授業評価アンケートの結果を参考にし、講義を常に改善している。学生自身の復讐のために講義内容の資料PDFを配布している。
2 作成した教科書、教材、参考書		2021年3月 2022年11月	スタンダード免疫学 第5版 第3刷発行 丸善出版 免疫学の基礎 第5版 東京化学同人
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2023年7月	高校生を対象とした薬学への導入目的の講演を行なった。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2023年5月	FD講習会に参加した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Stereoisomer-Specific Induction of G2/M Phase Arrest and Apoptosis by 9-(E,Z)-Hydroxyoctadecadienoic Acid in Mouse Lymphoma Cells.	共著	2019年6月	Biol. Pharm. Bull., 42(6): 937-943, 2019. IF=2.264
(論文) Selective Cytotoxicity of Staphylococcal α -Hemolysin (α -Toxin) against Human Leukocyte Populations.	共著	2019年6月	Biol. Pharm. Bull., 42(6): 982-988, 2019. IF=2.264
(論文) Proenkephalin+ regulatory T cells expanded by ultraviolet B exposure maintain skin homeostasis with a healing function.	共著	2020年8月	Proc. Natl. Acad. Sci. U. S. A., 117(34): 20696-20705, 2020. IF=12.779
(論文) rs1944919 on chromosome 11q23.1 and its effector genes COLCA1/COLCA2 confer susceptibility to primary biliary cholangitis.	共著	2021年2月	Sci. Rep., 11(1): 4557, 2021. IF=4.997
(論文) Characterization of novel antibodies that recognize sialylated keratan sulfate and lacto-N-fucopentaose I on human induced pluripotent cells: comparison with existing antibodies.	共著	2022年11月	Glycobiology., 33(2): 150-164, 2023. IF=5.954
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Effects of High Sodium Chloride Concentration Conditions on the Macrophage-like Cell Line RAW 264.7 Cells		2023年5月	JSICR/MMGB 2023 Joint Symposium
(演題名) SARS-CoV-2に対する抗体の可変部遺伝子レパトア解析		2023年7月	Pharmaco-Hematologyシンポジウム
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2019年1月～現在	日本免疫学会 評議員		
2020年4月～現在	日本生化学会 代議員		
2021年2月～現在	日本薬学会 代議員		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	星薬科大学	講座名	微生物学研究室
職名	講師	氏名	奥 輝明
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2019年4月～現在	講義各回の初めに前回講義の復習などを行い、理解度の向上を目指した。また、低学年より国家試験の問題に多く触れてもらうことで、目標やモチベーションの維持を図った。関連する別科目との連携を取った。
2	作成した教科書、教材、参考書	2022年9月 2020年4月	「総合薬学演習Ⅱ」のオンデマンド教材の作成 「微生物学」のオンデマンド教材の作成
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2022年2月 2021年2月	FD委員：シラバスチェック FD委員：学内FDワークショップでの発表
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) 単球活性化試験法による新規発熱性物質試験法の開発	共著	2022年12月	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス, vol. 53, No. 5
(論文) COLON facilitates the growth of triple-negative breast cancer via FAK/Src activation	共著	2022年7月	Breast Cancer Res Treat, 194(2):243-256.
(論文) Sulfated Hyaluronan Binds to Heparanase and Blocks Its Enzymatic and Cellular Actions in Carcinoma Cells	共著	2022年5月	Int J Mol Sci, 23(9):5055.
(論文) Immunomodulatory Activity of an Aqueous Extract of Mycelium of an Endophytic-Like Fungus, <i>Ustilago esculenta</i>	共著	2021年6月	BPB Reports, 4(4):98-102
(論文) Coronin-1 is phosphorylated at Thr-412 by protein kinase C α in human phagocytic cells	共著	2021年6月	Biochem Biophys Rep, 27:101041.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 分泌型ルシフェラーゼを利用した単球活性化試験法の開発		2023年11月	第96回 日本生化学会大会
(演題名) ヒト乳がん細胞MDA-MB-231に対するモノクローナル抗体を用いた抗体依存性細胞貪食活性の解析		2023年7月	第23回 Pharmacology-Hematologyシンポジウム
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2021年4月～2023年3月	日本薬学会機関誌「ファルマシア」トピックス小委員		
2019年4月～現在	日本薬学会会員		
2019年4月～現在	日本生化学会会員		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 生化学研究室	職名 教授	氏名 東 伸昭
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2019年4月～現在	webclassシステムを活用し、資料を事前配布した。知識の定着をはかるため、確認用の演習問題の解説を講義前後に行った。講義内容の改善に努めた。
2 作成した教科書、教材、参考書		2022年11月 2023年3月	「免疫学の基礎」(東京化学同人) 「薬と生命を学ぶ人のための基礎生化学」(化学同人)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2023年4月	文部科学省「6年制薬学教育の内部質保証に関するワークショップ」における討議で司会を担当した。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2022年9月～現在	カリキュラム検討委員会(委員長): 新コアカリキュラムに関する対応を検討した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Chondroitin sulfate E blocks enzymatic	共著	2019年9月	Biochem. Biophys. Res. Commun., 520(1):152-158
(著書) Heparanase is involved in leukocyte mig	共著	2020年4月	Adv. Exp. Med. Biol., 1221:435-444
(著書) アトピー性皮膚炎とヘパラーゼ	共著	2020年4月	アレルギーの臨床 40(6):515-518
(著書) Mast Cell-derived Granular Complex	単著	2021年3月	Trends in Glycoscience and Glycotechnology
(論文) Sulfated Hyaluronan Binds to Heparanase	共著	2022年4月	Int. J. Mol. Sci., 23(9):5055
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Sulfated carbohydrates regulate biological actions of heparanase		2022年7月	日本がん転移学会
(演題名) 硫酸化ヒアルロン酸はヘパラーゼの酵素活性と生物作用を抑制する		2022年9月	日本糖質学会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2006年7月～現在	日本がん転移学会 評議員		
2017年7月～現在	日本糖質学会 評議員		
2019年4月～2022年3月	Biological and Pharmaceutical Bulletin, Editor		
2023年4月～現在	第109回薬剤師国家試験 試験委員		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 生化学研究室	職名 准教授	氏名 高橋 勝彦
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2021年9月～現在	Webclassシステムを活用し、講義プリントの事前配布を行った。知識の定着をはかるため、講義開始直後に確認テストを実施した。授業評価アンケートを踏まえ、講義内容の改善を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書		2023年3月	薬と生命を学ぶ人のための基礎生化学（化学同人）
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2022年8月 2022年12月	FD 「薬学教育モデル・コア・カリキュラム」の改訂について FD 「6年制薬学教育の内部質保証に関するシンポジウム（薬学教育評価機構主催）」
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(著書) Is Induction of Hypomethylation with Ivosidenib and 5-Azacytidine Curative Regimen against IDH1-Mutated Acute Myeloid Leukemia?	単著	2023年12月	Anticancer Agents Med Chem. 23(8):864-866.
(論文) Chondroitin sulfate E blocks enzymatic action of heparanase and heparanase-induced cellular responses.	共著	2019年11月	Biochem. Biophys. Res. Commun. Vol.520 p152-158.
(論文) Expression of p57KIP2 reduces growth and invasion, and induces syncytialization in a human placental choriocarcinoma cell line, BeWo.	共著	2021年1月	Placenta, Vol.104, p168-178.
(論文) Sulfated Hyaluronan Binds to Heparanase and Blocks Its Enzymatic and Cellular Actions in Carcinoma Cells.	共著	2022年5月	Int. J. Mol. Sci, 23(9):5055.
(論文) p57Kip2 is an essential regulator of vitamin D receptor-dependent mechanisms	共著	2023年2月	PLoS ONE, Vol 18(2):e0276838.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
(演題名) 麹菌発酵由来多糖類（麹多糖）による非アルコール性脂肪肝進行の抑制		2021年3月	日本薬学会
(演題名) グルタミン輸送体阻害剤が成熟化脂肪細胞に及ぼす影響		2022年3月	日本薬学会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2015年4月～現在	ヒアルロン酸機能性研究会 評議員		
2018年3月～現在	日本薬学会 地区委員		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 衛生化学研究室	職名 准教授	氏名 山崎 正博
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2022年4月～現在	オンラインと対面講義を併用するために、Web classを活用している。特に、成績不振者にはやり直し可能なオンラインテストを受講させて授業振り返りのための自主学習をさせている。
2 作成した教科書、教材、参考書		2020～2021年3月 2022年4月～8月	「My衛生薬学(第2版)」編集・執筆 「クエスチョンバンク薬剤師」執筆
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2022年7月	オープンキャンパスにて、高校生とその保護者を対象に模擬講義を実施した。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2018～2021年 2018～2023年 2022年1月	大学入試問題作成WG(生物)の委員長を務める。 毎年学内FD活動に参加している。 他学(昭和大学)OSCEの外部評価員を務める。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) My衛生薬学(第2版)	共著	2021年3月	M3 Education
(論文) High-Fat-Diet Suppressed Ketone Body Utilization for Lipogenic Pathway in Brown Adipose Tissues	共著	2023年4月	Metabolites, vol. 13, No. 4: 519
(論文) Effects of antibacterial agents on cancerous cell proliferation	共著	2023年4月	Biol. Pharm. Bull., Vol. 46, No. 5: 661-671
(論文) A splicing factor phosphorylated by protein kinase A is increased in HL60 cells treated with retinoic acid	共著	2022年1月	Biochim. Biophys. Acta - Mol. Cell Res., Vol. 1869, No. 1: 119142
(論文) Browning Effect of Brominated Flame Retardant, TBBP-A, on Undifferentiated Adipocytes	共著	2021年2月	BPB report, Vol. 4, No. 1: 41-46
(論文) Isolation and characterization of human acetoacetyl-CoA synthetase splice variants	共著	2020年6月	Gene Reports, Vol. 19: 100665
(論文) Transcriptional regulation of acetoacetyl-CoA synthetase by Sp1 in neuroblastoma cells	共著	2018年1月	Biochem. Biophys. Res. Commun., Vol. 495, No. 1: 652-658
(論文) Prospective cohort study for identification of underlying genetic causes in neonatal encephalopathy using whole-exome sequencing	共著	2018年8月	Genet. Med., Vol. 20, No. 5: 486-494
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 高脂肪食が褐色脂肪組織の脂質・ケトン体利用経路に与える影響の検討		2023年3月	日本薬学会年会
(演題名) 臭化難燃剤(TBBP-A)が培養脂肪細胞の褐色化に与える影響の検討		2022年12月	日本分子生物学会年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2022年4月～現在	日本薬学会 学術誌編集委員(セクション:D)		
2022年4月～現在	日本薬学会144年会 広報委員		
2020年4月～2022年3月	日本人事試験研究センター 試験委員		
・・・	日本薬学会会員※		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 衛生化学	職名 講師	氏名 今井正彦
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2020年4月～ 現在	新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、濃厚接触者等への授業の同時遠隔配信をZoomを利用して行った。
2 作成した教科書、教材、参考書		2021年3月	My衛生薬学第2版 衛生学I、衛生学II、衛生学III、環境衛生学等の講義に使用
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2022年12月 2022年8月	FD講演会「6年制薬学教育の内部質保証」 FD講演会「薬学モデルコアカリキュラム」の改訂について
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Effects of antibacterial agents on cancerous cell proliferation.	共著	2023年5月	Biol. Pharm. Bull., 46(5), 661-671
(論文) High-Fat-Diet Suppressed Ketone Body Utilization for Lipogenic Pathway in Brown Adipose Tissues.	共著	2023年4月	Metabolites, 13(4), 519
(論文) Examination of aminophenol-containing compounds designed as antiproliferative agents and potential atypical retinoids.	共著	2023年3月	Bioorg. Med. Chem., 82, 117214
(論文) Vitamin A in health care: Suppression of growth and induction of differentiation in cancer cells by vitamin A and its derivatives and their mechanisms of action.	共著	2022年2月	Pharmacol Ther., 230, 107942
(論文) A splicing factor phosphorylated by protein kinase A is increased in HL60 cells treated with retinoic acid.	共著	2022年1月	Biochim. Biophys. Acta Mol. Cell Res., 1869(1), 119142
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) ビタミンA処理による乳がん細胞に対する増殖抑制機構の解析		2023年9月	日本レチノイド研究会
(演題名) 神経芽腫に対するFenretinide誘導体の抗腫瘍作用		2023年3月	日本薬学会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2019年6月～現在	特定非営利活動法人品川村 副理事長		
2019年4月～現在	日本レチノイド研究会幹事		
2017年4月～現在	Bioorg. Med. Chem. Lett.論文審査員		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	星薬科大学	講座名	衛生化学研究室
職名	講師	氏名	長谷川 晋也
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2019年10月～現在	講義資料はWebClassにて事前配布した。該当する範囲の国家試験の代表的な問題をピックアップして、資料にまとめた。また、講義中にWebClassを使用して確認小テストを実施した。Google Formsを使用して匿名のコメント・質問を受け付け、講義に対する要望や質問に対応、講義内容やスライドの改善、フォローアップを実施した。
2	作成した教科書、教材、参考書	2021年3月	「My衛生薬学（第2版）」
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2019年8月 2020年2月 2020年4月～ 2022年9月 2020年4月～現在 2022年3月 2022年9月～現在	FD講演会参加 FDワークショップ参加 カリキュラム検討委員会：薬学系人材養成の在り方に関する検討 薬学教育委員会 FD講演会参加 カリキュラム対応WG：新コアカリキュラムの検討。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) Effects of Post-administration of β -Carotene on Diet-induced Atopic Dermatitis in Hairless Mice.	共著	2019年8月	J Oleo Sci. 68(8):793-802
(論文) Isolation and characterization of human acetoacetyl-CoA synthetase splice variants	共著	2020年4月	Gene Reports 19:100665
(論文) A splicing factor phosphorylated by protein kinase A is increased in HL60 cells treated with retinoic acid	共著	2022年1月	Biochim Biophys Acta Mol Cell Res., 1869 (1), 119142
(論文) Vitamin A in health care: Suppression of growth and induction of differentiation in cancer cells by vitamin A and its derivatives and their mechanisms of action	共著	同 年2月	Pharmacol Ther., 230:107942
(論文) High-Fat-Diet Suppressed Ketone Body Utilization for Lipogenic Pathway in Brown Adipose Tissues	共著	2023年4月	Metabolites 13(4):519
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
(演題名) 脳におけるアセトアセチル CoA 合成酵素の役割		2022年8月	日本薬学会・衛生部会
(演題名) ケトン体代謝酵素欠損マウスの脳における遺伝子発現の網羅的解析		2023年3月	日本薬学会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2019年4月～2020年3月	RCSI国際交流対応WG		
2021年11月～2023年7月	高大連携模擬講義		
2022年～現在	放射薬学教科担当教員会議		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	星薬科大学	講座名	分子薬剤学研究室
職名	教授	氏名	服部 喜之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2021年4月～現在	Webclassシステムを活用し、資料の事前配布を行った。パワーポイントで図や動画を使いながら、理解しやすい講義を心がけた。
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2022年10月～現在	学生支援部長：学内での学生の活動や講義に関する対応を行った。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Efficient mRNA delivery with mRNA lipoplexes prepared using a modified ethanol injection method	共著	2023年4月	Pharmaceutics, 15(4), 1141
Effect of PEG anchor in PEGylation of Torate-modified cationic liposomes with PEG-derivatives on systemic siRNA delivery into the tumor	共著	2023年1月	Journal of Drug Targeting, 31, 74-88
In vitro and in vivo transfections using siRNA lipoplexes prepared by mixing siRNAs with a lipid-ethanol solution	共著	2022年9月	Journal of Drug Delivery Science and Technology, 75, 103635
Optimal combination of cationic lipid and phospholipid in cationic liposomes for gene knockdown in breast cancer cells and mouse lungs using siRNA lipoplexes	共著	2022年8月	Molecular Medicine Reports, 26(2): 253
Effects of sterol derivatives in cationic liposomes on biodistribution and gene knockdown in the lungs of mice systemically injected with siRNA lipoplexe	共著	2021年8月	Molecular Medicine Reports, 24(2): 598
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
脂質エタノール溶液とmRNA溶液の混合のみにより調製したmRNAリポプレックス投与後の培養細胞に対するタンパク質発現効果の検討		2022年5月	日本薬剤学会
脂質エタノール溶液とmRNA溶液の混合のみにより調製したmRNAリポプレックス投与後のin vitro およびin vivoでのタンパク質発現効果の検討		2023年7月	日本DDS学会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2018年4月～現在	日本薬剤学会, 代議員		
2023年2月～現在	日本薬学会関東支部 幹事		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	星薬科大学	講座名	分子薬剤学研究室
職名	助教	氏名	川野 久美
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		学内FD講演会に参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Preparation of liposomes co-encapsulating doxorubicin and mifepristone for treating multidrug-resistant cancer.	共著	2023年8月	<i>Journal of Drug Delivery Science and Technology</i> , 85, 104605
(論文) Effect of PEG anchor in PEGylation of folate-modified cationic liposomes with PEG-derivatives on systemic siRNA delivery into the tumor.	共著	2023年1月	<i>J. Drug Target.</i> 31(1), 74-88
(論文) Preparation of chondroitin sulfate-glycyl-prednisolone conjugate nanogel and its efficacy in rats with ulcerative colitis.	共著	2019年7月	<i>Biol. Pharm. Bull.</i> 42(7), 1155-1163
(論文) Optimized combination of cationic lipids and neutral helper lipids in cationic liposomes for siRNA delivery into the lung by intravenous injection of siRNA lipoplexes.	共著	2019年8月	<i>Journal of Drug Delivery Science and Technology</i> , 52, 1042-1050
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) ソラフェニブ/ドキシソルビシン共封入リポソームの調製法の検討		2023年9月	第67回日本薬学会関東支部大会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2018年4月~2022年3月	日本薬剤学会学会誌「薬剤学」編集委員		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 薬品物理化学研究室	職名 教授	氏名 米持 悦生
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2019年4月～現在	Webclassシステムを活用し、試料の事前配布を行った。知識の定着をはかるため確認テストを実施した。授業評価アンケートを踏まえ、講義内容の改善を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書		2023年8月	教科書 レファレンス物理化学の改定を行った
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) 製剤設計・製造技術 Basic & Frontier	共著	2023年5月	じほう
(著書) 凍結乾燥技術～よくあるトラブル対策、設備設計/スケールアップ対応、凍結乾燥例と工程管理	共著	2023年3月	情報機構
(論文) Ready-to-Use-Type Lyophilized Lipid Nanoparticle Formulation for the Postencapsulation of Messenger RNA	共著	2023年3月	ACS Nano, 17(3), 2588-2601 (2023)
(論文) Characterization of co-amorphous carvedilol-maleic acid system prepared by solvent evaporation	共著	2023年3月	Pharm. Dev. Tech., 28(3-4), 309-317 (2023)
(論文) Physicochemical Properties and Transdermal Absorption of a Flurbiprofen and Lidocaine Complex in the Non-Crystalline Form	共著	2023年1月	Pharmaceutics, 15(2), 318 (2023)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Correlation of binding affinities between isothermal titration calorimetry(ITC) and fragment molecular orbital(FMO) method of estrogen receptor(ER) beta with diarylpropionitrile(DPN) derivatives		2023年8月	26th International Conference on Chemical Thermodynamics
(演題名) 固体分散体制剤の吸湿挙動評価への in Silico シミュレーションの適用		2023年3月	日本薬学会第143年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2022年4月～現在	厚生労働省 薬剤師試験委員		
2023年4月～現在	(公社)日本薬学会副会頭		
2022年5月～現在	(公社)日本薬剤学会理事		
2021年6月～現在	(一社)製剤機械技術学会会長		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 薬品物理化学研究室	職名 准教授	氏名 山下 雄史
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2023年5月	「機能分子薬学特論 I」 資料の事前配布を行った。知識の定着をはかるため、確認小テストを実施した。 物理化学I、臨床分析の基礎と応用
2 作成した教科書、教材、参考書		2023年7月 2023年7月	「機能分子薬学特論 I」 教材・小テストの作成の作成を行った 生体分子系のVRシステムを導入
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2023年7月	情報企画室から、「生成AIの利用に関する案内」をホームページに掲載
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2023年4月～現在 2023年7月	大学入試WGの活動 情報企画室にて、「生成AIの利用に関する案内」の取りまとめ
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Deformation of microtubules regulates translocation dynamics of kinesin.	共著	2021年10月	Sci. Adv. 7, eabf2211
(論文) Pathological Complete Remission of Relapsed Tumor by Photo-Activating Antibody-Mimetic Drug Conjugate Treatment.	共著	2022年9月	Cancer Sci. 113, 4350-4362
(論文) Modification and Validation of the DREIDING Force Field for Molecular Liquid Simulations. (DREIDING-UT)	共著	2021年12月	J. Chem. Inf. Model. 7, eabf2211
(論文) Molecular Dynamics Simulation of the Antigen-Antibody: Complex Formation Process between Hen Egg-White Lysozyme and HyHEL-10.	共著	2022年9月	Bull. Chem. Soc. Jpn. 95, 1611-1619
(論文) Influence of lipid bilayer on the GPCR structure: Comparison of all-atom lipid force fields.	共著	2021年11月	Bull. Chem. Soc. Jpn. 94, 2569-2574
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Computer Simulation of the Heterogeneous Systems: A Multi-Scale Analysis of Epoxy Resin		2023年9月	ICNAAM2023(招待講演)
(演題名) Role of tubulin C terminal tail on the mechanical pr		2023年10月	日本生物物理学会年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2023年4月～現在	日本生物物理学会サブリーダー		
2020年10月～現在	VR 環境オープンソース化検討委員会委員(分子ロボット研究所)		
2020年9月～現在	抗体協議会メンバー(東大先端研を中心とした新型コロナウイルス感染症に関する専門家会議)		
2022年9月～現在	コンソース社技術顧問		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 薬品物理化学研究室	職名 講師	氏名 古石誉之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2020年4月 ～現在	WebClassを活用して、資料の事前配布を行った またそのシステムを用い、小テストの実施し、復習を促すようにした。 毎回の講義動画を録画し、テスト前にフォローアップとして再度見直すようにした。
2 作成した教科書、教材、参考書		2019年4月	物理化学Ⅱ 講義資料の作成を行った。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特に無し
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			特に無し
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書)安全性の高い生体適合性イオン液体、イオン液体の実用展開へ向けた最新動向(監修:大内幸雄)	共著	2022年8月	株式会社シーエムシー出版, pp. 291-298
(論文) Optimization and advantages of molded tablets using trehalose as a binder	共著	2023年4月	Chem. Pharm. Bull., 71(6): 416-423
(論文) Characterization of co-amorphous carvedilol-maleic acid system prepared by solvent evaporation	共著	2023年3月	Pharm. Dev. Tech., 28(3-4), 309-317
(論文) Promoting Activity of Terpenes on Skin Permeation of Famotidine	共著	2023年2月	Chem. Pharm. Bull., 71(2) 111-119
(論文) Physicochemical properties and transdermal absorption of a flurbiprofen and lidocaine complex in the non-crystalline form	共著	2023年2月	Pharmaceutics, 15(2) 318
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) クエン酸/アルギニンからなるイオン液体の特性と薬物可溶化能		2023年5月	日本薬剤学会
(演題名) Moisture activate of granulation (MADG) 法と二軸造粒機を併用した打錠用顆粒製造の検討		2023年3月	日本薬学会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2020年4月～2022年3月	日本薬学会ファルマシアトピックス小委員会 委員		
2022年4月～現在	日本薬剤学会 「薬剤学」投稿論文審査委員会 委員		
2022年4月～現在	日本薬剤学会 「薬剤学」編集委員会 副委員長		
2022年4月～現在	日本薬剤学会 出版委員会 委員		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 製剤設計学	職名 教授	氏名 小幡誉子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2019年4月～現在	Webclassシステムを利用し、資料の事前配布を行い、講義に活用している。
2 作成した教科書、教材、参考書		2020年3月	「製剤化のサイエンス」(ネオメディカル)の分担執筆を行い、現在まで重版しながら講義に使用している。また、「物理薬剤学・製剤学」(南山堂)を分担執筆。出版した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2019年4月～現在	基幹教育演習を担当し、低学年から専門科目に興味を持てるような導入教育を行った。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2021年4月～ 2023年3月	英語の入試問題作成を担当し、本学の入学者に対する英語レベルの向上に努めた
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書)次世代マイクロニードルの開発と応用	共著	2022年12月	シーエムシー出版
(著書)マイクロニードルの製造と応用展開	共著	2023年8月	シーエムシー出版
(論文) Distribution of Domains Formed by Lateral Packing of Intercellular Lipid in the Stratum Corneum	共著	2023年1月	Chem. Pharm. Bull., 71, 31-40 (2023)
(論文) Promoting Activity of Terpenes on Skin Permeation of Famotidine	共著	2023年2月	Chem. Pharm. Bull., 71, 111-119 (2023)
(論文) Effects and Mode of Action of Oleic Acid and Tween 80 on Skin Permeation of Disulfiram	共著	2023年4月	Chem. Pharm. Bull., 71, 298-298 (2023)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Effect of molecular chirality of ceramide to barrier function of stratum corneum		2023年5月	FIRST INTERNATIONAL SOCIETIES FOR INVESTIGATIVE DERMATOLOGY MEETING
Elucidation of optical activity of ceramides in lipid dynamics of stratum corneum		2023年8月	Gordon Research Conference
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2018年4月～2023年3月	薬剤師国家試験委員		
2020年4月～現在	医薬品医療機器総合機構 外用剤に係る生物学的同等性試験ガイドライン検討研究会議構成員		
2020年4月～2023年3月	日本薬学会 Chemical and Pharmaceutical Bulletin編集委員		
2021年4月～2023年3月	日本学術振興会 科学研究費委員会専門委員		
2021年6月～現在	日本香粧品学会理事		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	星薬科大学	講座名	製剤設計学研究室
職名	准教授	氏名	池内 由里
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2019年4月～現在	Webclassシステムを活用し、講義スライドを事前に配布し、予習をするように指導した。講義終了時に復習問題を提示し、次回の講義開始時に解説を行った
2	作成した教科書、教材、参考書	2019年9月	グローバル医薬品開発論【第2版】 「医薬品開発と生産のながれ」の教科書として作成した。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2019年9月	第5回健康医療コーディネーターステップアップコース研修会において、「薬の使い方」について講演した。
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2022年4月～現在	薬学共用試験(CBT・OSCE)に運営委員として携わり、円滑な試験実施に貢献した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Effect of diluents on active pharmaceutical ingredient loss until patients ingest powder formulation.	共著	2023年	Pharmazie, 78: 93-99 (2023) in press
(論文) Mechanism for improving the dissolution rate of poorly soluble acidic drugs using poly- γ -glutamic acid and the formulation of poly- γ -glutamic acid-coated particles to improve dissolution rate.	共著	2022年9月	J Drug Deliv Sci Technol, 75, 103705 (2022)
(論文) Development of morin-loaded nanoemulsions containing various polymers; role of polymers in formulation properties and bioavailability.	共著	2020年7月	AAPS PharmSciTech, 21, 150 (2020)
(論文) Formulation Development of Mucoadhesive Microparticle-Laden Gels for Oral Mucositis: An In Vitro and In Vivo Study.	共著	2020年7月	Pharmaceutics, 12(7), 603 (2020)
(論文) Development of microparticles coated with poly- γ -glutamic acid to improve oral absorption of a poorly water-soluble drug.	共著	2019年9月	Pharm Dev Technol, 24, 992-1001 (2019)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 難溶性薬物の製剤化におけるポリ- γ -グルタミン酸の有用性		2023年5月	日本薬剤学会第38年会
(演題名) 皮膚角層の微細構造に及ぼす非イオン性界面活性剤の影響		2023年9月	第67回日本薬学会関東支部大会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2013年4月～現在	日本健康医療学会理事		
2013年4月～現在	日本健康医療学会雑誌編集委員		
2020年1月～現在	日本医療薬学会 医療薬学指導薬剤師、医療薬学専門薬剤師		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 薬品分析化学研究室	職名 教授	氏名 穂山浩
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2021年4月～現在	Webclassシステムを活用し、資料の事前配布を行った。知識の定着をはかるため、確認小テストを実施した。授業評価アンケートを踏まえ、アクティブラーニング等の導入を行い、講義内容の改善を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書		2023年6月	「よくわかる薬学機器分析」薬品分析化学の教材を作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2022年10月	日本食品化学学会特別シンポジウムにおいて、現在の薬学教育の問題点に関して教育講演を行った。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2023年5月 2023年6月	学内FD講演会に参加した。カリキュラム検討委員会：創薬科学科の新コアカリキュラムの作成に検討した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Development of a simple and reliable LC-MS/MS method to simultaneously detect walnut and almond as specified in food allergen labelling regulations in processed foods	共著	2023	Current Research in Food Science, 6; 100444.
Simultaneous determination of glyphosate, glufosinate, and their metabolites in honey using liquid chromatography-tandem mass spectrometry and solid-phase extraction	共著	2023	Anal. Sci., 39; 1023-1031.
Suzuki Y., Kondo M., Akiyama H., Ogra Y., Presence of nano-sized mercury-containing particles in seafoods, and an estimate of dietary exposure,	共著	2022	Environ. Pollut., 307; 119555.
Detection and Thresholds of the Japanese Food Allergy Labeling System,	共著	2021	Food Safety, 9, 101-116.
Development of a simple and reliable high-performance liquid chromatography-tandem mass spectrometry approach to simultaneously detect grains specified in food allergen labeling regulation on processed food commodities	共著	2021	J. Chromatogr. A., 1639:461877
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
過硫酸化コンドロイチン硫酸の新規合成法(第1報)		2023年3月	日本薬学会
加糖餡中のシアン化合物の分析法の開発		2022年5月	日本食品化学学会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2016年6月～現在	薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会 農薬・動物用医薬品部会委員(部会長)		
2013年5月～2023年5月	公益社団法人日本食品衛生学会学会常任理事		
2021年1月～現在	日本食品化学学会編集委員長		
2011年4月～現在	公益社団法人日本薬学会レギュラトリーサイエンス部会常任世話人		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 薬品分析化学研究室	職名 准教授	氏名 岩崎 雄介
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2019年4月～現在	Webclassシステムを活用し、講義資料の事前配布を行った。講義を繰り返し視聴できるように、講義動画を作製し、必要に応じて公開した。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2021年3月	「4年制薬学教育における「学外体験学習（長期インターンシップ）」による社会人基礎力養成の試み」日本薬学会第141年会で連名者として参加した。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2019年4月～現在	毎年学内で開催されるFD講演会に参加した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) Effects of fish meat-derived peptide and dipeptides on dexamethasone-induced fatigue in mice.	共著	2019年12月	J. Food Nutr. Res.: 7: 821-826
(論文) Separation Technique of Enantiomers	単著	2020年11月	Anal. Sci.: 36: 1295
(論文) Generation of Reactive Oxygen and Nitrogen Species by Interaction of Food Ingredients	共著	2021年10月	Bunseki Kagaku: 70: 573-581
(論文) Copper-Induced Interactions of Caffeic Acid and Sinapic Acid to Generate New Compounds in Artificial Biological Fluid	共著	2022年6月	Antioxidants: 11(7): 1307
(論文) Determination of neurotransmitters in mouse brain using miniaturized and tableted QuEChERS for the sample preparation	共著	2022年8月	J. Pharm. Biomed. Anal.: 217: 114809
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
(演題名) Chiral determination of amino acids using FDLA derivatives on LC/MS/MS		2019年12月	HPLC 2019
(演題名) 酸化ストレスを評価するための生体内バイオマーカーの分析		2022年9月	医用マスペクトル学会年会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2019年4月～2022年3月	日本分析化学会 関東支部 常任幹事		
2020年4月～2022年3月	Analytical Sciences編集委員		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	星薬科大学	講座名	薬品分析化学研究室
職名	准教授	氏名	伊藤 里恵
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2019年4月～ 現在	WebClassシステムを活用し(2021～)、資料の事前配布を行った。SlidoおよびGoogleFormを活用して、一人の学生の質問を他の学生も共有できるシステムを構築した。授業評価アンケートを踏まえ、講義内容の改善を行った。
2	作成した教科書、教材、参考書	2023年12月	クエスチョンバンク薬剤師
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2019年4月～ 2019年6月 2023年9月	毎年最低1回はFD講習に参加した。 「薬学への招待2019」で、高校生を対象に模擬実験を行った。 「薬学への招待2023」で、高校生を対象に模擬実験を行った。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書) 食事由来 AGEs は炎症を増悪させる外的要因である	共著	2023年5月	日食化誌, 30(1), (2023) 54-67
(著書) Simultaneous determination of glyphosate, glufosinate, and their metabolites in honey using liquid chromatography-tandem mass spectrometry and solid-phase extraction	共著	2023年7月	Anal. Sci., 39, (2023) 1023-1031
(著書) Development of a simple and reliable LC-MS/MS method to simultaneously detect walnut and almond as specified in food allergen labelling regulations in processed foods	共著	2023年1月	Curr. Res. Food Sci., 6, (2023) 100444
(著書) Residual Analysis of Aflatoxin M1 in Cheese by HPLC Coupled with Solid Phase Dispersive Extraction and Solid-Phase Fluorescence Derivatization Method, and Its Accuracy Management for Method Validation	共著	2023年6月	Chromatography, 44, (2023) 77-82
(著書) Determination of Cyanide and Cyanoglycosides in Sweetened Bean Paste by HPLC with Fluorescence Detection	共著	2023年7月	Biol. Pharm. Bull., 46, (2023) 1024-1026
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 紫外線照射による食品中アフラトキシンの分解		2023年9月	第9回次世代を担う若手のためのレギュラトリーサイエンスフォーラム
(演題名) コゴミ茶およびコハゼ茶の抗酸化および抗糖化活性		2023年3月	日本薬学会第143年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2021年～現在	日本食品化学会誌 編集事務局		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	星薬科大学	講座名	薬動学研究室
		職名	教授
		氏名	落合 和
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2019年4月～現在	Webclassシステムを活用し、講義資料および演習問題の事前配布を行った。授業評価アンケートを踏まえ、講義内容の改善を行った。
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Age prediction by methylation analysis of small amounts of DNA using locked nucleic acids.	共著	2023年1月	J Forensic Sci. 68(1):267-274.
Mouse Cyp2c expression and zonation structure in the liver begins in the early neonatal stage.	共著	2022年8月	Biopharm Drug Dispos. 43(4):130-139.
Maternal and Fetal Pharmacokinetic Analysis of Cannabidiol during Pregnancy in Mice.	共著	2021年4月	Drug Metab Dispos. 49(4):337-343.
Analysis of anti-obesity and anti-diabetic effects of acacia bark-derived proanthocyanidins in type 2 diabetes model	共著	2021年7月	J Nat Med. 75(4):893-906.
Changes in the Expression of Aquaporin-3 in the Gastrointestinal Tract Affect Drug Absorption.	共著	2019年3月	Int J Mol Sci 28; 20(7):1559.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
カンナビジオールの母体及び胎仔内動態の解析と神経発生への影響 II		2023年4月	日本ヘンプ協会
The influence of drug administration during pregnancy evaluated from the pharmacokinetic analysis of embryo.		2019年12月	日本薬物動態学会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2022年7月～現在	日本毒性学会評議員		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	星薬科大学	講座名	薬品製造化学研究室
		職名	教授
		氏名	杉田和幸
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2021年4月	学生の有機化学の理解度を高めるため、演習問題を多く取り扱うこととし、講義中に十分解説した。その結果、試験での成績が大幅に上昇した。
2	作成した教科書、教材、参考書	2023年4月	有機化学Iにて使用する化学構造の資料を作成し、web経由で配布した。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2023年7月	学内において、高校生を対象とした研究を紹介するポスターを共同で作成した。
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2023年5月 2022年12月 2022年3月	FD講習会に出席した。 FD講習会動画を視聴した。 FD講習会にzoomにて出席した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Total synthesis of (+)-ent-vetiverianine A via Lewis acid-mediated cyclization	共著	2022年12月	Org. Chem. Front. 9, 6849-6852.
(論文) Total Synthesis of (-)-Lamellodysidine A via an Intramolecular Diels-Alder Reaction	共著	2022年1月	Org. Lett. 24, 921-923.
(論文) Total Synthesis of Cochlearol B via Intramolecular [2+2] Photocycloaddition	共著	2021年11月	Angew. Chem. Int. Ed. 60, 24484-24487.
(論文) Total syntheses of (±)-penicibilaenes A and B via intramolecular aldol condensation	共著	2021年10月	Org. Chem. Front. 8, 6063-6066.
(論文) Diastereoselective Total Syntheses of (±)-Caseabalansin A and (±)-18-Epicaseabalansin A via Intramolecular Robinson-type Annulation	共著	2019年6月	Chem. Asian J. 14, 2077-2081.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 保護基を用いないboscartin類の網羅的全合成		2023年9月	第65回天然有機化合物討論会
(演題名) 分子内Diels-Alder反応を鍵反応とした(-)-Lamellodysidine Aの全合成		2023年7月	第122回有機合成シンポジウム
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2023年4月～現在	日本薬学会化学系薬学部会 役員		
2013年2月～現在	日本薬学会 代議員		
2013年2月～2023年3月	日本薬学会	日本薬学会 学術誌編集委員	
2018年4月～2021年3月	日本薬学会	日本薬学会 学術誌編集委員	

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	星薬科大学	講座名	薬品製造化学研究室
職名	助教	氏名	加茂 翔伍
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	～現在 2022年4月～現在	卒論研究指導(実験指導、資料作成・プレゼン指導、ラボ内有機化学講義・問題演習) 創薬科学特論III(有機合成で用いられる諸反応の解説に加え、最新の全合成論文をとりあげ、実用・応用例を紹介・解説)
2	作成した教科書、教材、参考書	～現在	研究室での勉強会・講義に使用する練習問題の作成など
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2022年8月 2023年1月	FD講習会に参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Total syntheses of dendrotoxin-derived meroterpenoids, (-)-oregonensin A, (-)-chizhine E, (-)-aplanatumol U, and (-)-ent-fornicin A	共著	2022年11月	Org. Biomol. Chem., 2022, 20, 9138-9141.
(論文) Protecting-Group-Free Total Synthesis of (-)-Boscartin A in 3 steps from (-)-Boscartin F via Wharton Reaction	共著	2022年11月	European Journal of Organic Chemistry 2022 (47), e202201366.
(論文) Total Synthesis of (-)-Lamellodysidine A via an Intramolecular Diels-Alder Reaction	共著	2022年1月	Organic Letters 24, 921-923.
(論文) Scalable Birch reduction with lithium and ethylenediamine in tetrahydrofuran	共著	2021年11月	Science 374 (6568), 741-746.
(論文) Total Synthesis of Cochlearol B via Intramolecular [2+2] Photocycloaddition	共著	2021年9月	Angew. Chem. Int. Ed. 60 (46), 24484-24487.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
保護基を用いないboscartin類の全合成		2023年5月	第21回 次世代を担う有機化学シンポジウム
分子内 Diels-Alder 反応を鍵反応とした (-)-Lamellodysidine A の全合成		2023年7月	第122回 有機合成シンポジウム
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2015年～現在	日本農芸化学会 会員		
2016年～現在	日本薬学会 会員		
～現在	有機合成化学協会 会員		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 機能分子創成化学研究室	職名 教授	氏名 眞鍋 史乃
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2020年10月から現在	Webclass システムを活用し、資料の事前配布を行った。反応機構によっては、動画を活用し、知識の習得が容易になる工夫を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書		2020年4月から現在	糖化学の教科書を作成中。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2023年7月	オープンキャンパスにて、高校生を対象とした模擬授業を行った。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2023年5月	実習委員会委員長として、基礎学生実習の内容の改良を行っている。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Chromatographic analysis of N-glycan profile on therapeutic antibodies using Fc γ RIIIa affinity column chromatography	共著	2023年4月	ACS Omega;8(18):16513-8
(論文) Tumor targeting of 211At-labeled antibody under sodium ascorbate protection against radiolysis	共著	2022年12月	Mol Pharm;20(2):1156-67
(論文) Radioimmunotherapy with an 211At-labeled anti-tissue factor antibody protected by sodium ascorbate	共著	2021年5月	Cancer Sci;112(5):1975-86
(論文) Antitumor effect of humanized anti-tissue factor antibody-drug conjugate in peritoneal disseminated pancreatic cancer	共著	2021年1月	Oncol Rep;45(1):329-36
(論文) Characterization of antibody products obtained through enzymatic and non-enzymatic glycosylation reactions with a glycan oxazoline and preparation of homogeneous antibody-drug conjugate via Fc N-glycan	共著	2019年5月	Bioconj Chem;30(5):1343-55
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Expanding Glycoscience from Organic Chemistry (招待)		2023年9月	International Symposium for the 80th Anniversary of the Tohoku Branch of the Chemical Society Japan
(演題名) 有機合成化学の矜持で生体高分子を修飾する(招待)		2023年9月	有機合成化学協会「ニューモダリティと有機合成化学」
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2018年10月～現在	日本学術会議 連携会員		
2019年1月～現在	日本DDS学会 編集委員		
2020年4月～現在	文部科学省 科学技術・学術政策研究所 科学技術予測センター専門委員		
2021年	科学研究費委員会 専門委員		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	星薬科大学	講座名	生体分子有機化学
		職名	教授
		氏名	叶 直樹
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2019年4月～現在	授業内容の定着を図るため、授業中での動画を用いた説明や内容チェックテストを実施した。また、学習効果を高めるため、座学と化学実習の内容のリンクとすり合わせを行った。
2	作成した教科書、教材、参考書	2021/4/1～現在	「有機化学ⅡB, ⅢA」 オンライン講義に即したpptファイル教材の作成を行った。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2019年度～現在	学内FD委員会委員：学内FD講演会やFDイベントを開催・参加した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) 多能性幹分子としての天然由来ポリエンマクロラクタム：その化学と生物活性、および人工多能性幹分子創製へ向けた試み	単著	2022年9月	有機合成化学協会誌 2022, 80(9), 817-830.
(論文) Design, Synthesis, and Evaluation of Trivalent PROTACs Having a Functionalization Site with Controlled Orientation	共著	2021年8月	Bioconjugate Chem. 2022, 33(1), 142-151.
(論文) Toward the Creation of Induced Pluripotent Small (iPS) Molecules: Establishment of a Modular Synthetic Strategy to the Heronamide C-type Polyene Macrolactams and Their Conformational and Reactivity Analysis	共著	2021年11月	J. Org. Chem. 2021, 86(23), 16231-16248.
(論文) Design, Synthesis and Antifungal Activity of 16,17-Dihydroheronamide C and ent-Heronamide C	共著	2021年11月	J. Org. Chem. 2021, 86(23), 16249-16258.
(論文) Synthetic access to gem-difluoropropargyl vinyl ethers and their application to propargyl Claisen rearrangement	共著	2020年12月	J. Org. Chem. 2021, 86(2), 1911-1924.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 標的タンパク質分解誘導剤と人工多能性幹分子創製への取り組み		2022年9月	第66回日本薬学会関東支部大会 有機化学系シンポジウム「薬学の未来を拓く有機化学」
(演題名) ポリエンマクロラクタム系天然物を基盤としたiPS分子(人工多能性幹分子)の合成		2022年6月	第55回天然物化学談話会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2011年4月～現在	フロンティア生命化学研究会(日本化学会分科会)理事		
2019年4月～現在	文部科学省 科学技術・学術政策研究所 科学技術予測センター専門調査委員		
2021年4月～2023年3月	沖縄科学技術振興センター研究プロジェクト推進委員会委員		
2022年4月～現在	公益財団法人薬学研究奨励財団 選考委員		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 生体分子有機化学研究室	職名 助教	氏名 横江弘雅
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2011年～現在 2018年～2021年	化学系実習：学生の知識・技能の定着を確認しながら、能動的に行動できるよう指導した 化学・有機化学講義：一方向のこうぎにならないよう、常に問いかけ考えさせる工夫を行った
2 作成した教科書、教材、参考書		2018年～2021年	化学講義用テキスト
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2023年5月17日 2022年8月30日 2022年3月8日	FD講演会に参加した FD講演会に参加した FD講演会に参加した
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Cis-Selective Double Spirocyclization via Dearomatization and Isomerization under Thermodynamic Control	共著	2023年1月	J. Org. Chem. 2023, 88, 1803-1814
(論文) Design, Synthesis, and Evaluation of Trivalent PROTACs Having a Functionalization Site with Controlled Orientation	共著	2022年12月	Bioconjugate Chem. 2022, 33, 142-151
(論文) Inhibitory effect of a novel thiazolinedione derivative on hepatitis B virus entry	共著	2021年10月	Antivir. Res. 2021, 194, 105165
(論文) Rapid access to dispirocyclic scaffolds enabled by diastereoselective intramolecular double functionalization of benzene rings	共著	2020年12月	Chem. Asian J. 2020, 15, 4271-4274
(論文) Enantioselective synthesis of (+)-penostatin E	共著	2014年7月	J. Org. Chem. 2014, 79, 7512-7519
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
脱芳香族化を伴うジアステレオ選択的な連続スピロ環化反応の開発		2021年8月	有機合成化学協会
ジアステレオ選択的なジアザスピロ環化合物の迅速合成法の開発		2021年3月	日本薬学会第141年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	星薬科大学	講座名	薬学教育研究部門
		職名	教授
		氏名	浅井 和範
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫	2019年4月～	Web Classシステムを使用して、授業資料の事前配布を行うとともに、同システムにて授業に関する情報を適宜提供した。
2	作成した教科書、教材、参考書	2019年4月～	「実践実務の薬物治療」「薬学特別演習」の授業教材の作成を行った。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2023年8月	日本薬学教育学会において「科目間連携を意識づける薬学基礎科目演習講義の実践と「深い処理方略」使用促進効果の検証」について発表した（共著）。
4	その他教育活動上特記すべき事項	2023年度	病院・薬局実務実習関東地区調整機構の指導薬剤師養成小委員会の協力委員として、関東各地区で開催されるワークショップのタスクフォースや講習会の演者を務めた。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）薬学生の認知的方略の使用と卒業試験成績との関連性に関する調査	共著	2023年	薬学教育
（論文）必須問題の学習到達度から見える薬剤師国家試験の学習戦略	共著	2022年4月	薬学教育
（論文）院内製剤塩化アルミニウム液の保存安定性～処方にもホウ砂やエタノールを添加すべきか～	共著	2020年5月	医療薬学
（論文）薬学部6年生教育への改変型 Team-based Learning の導入とその成績向上効果の検証	共著	2019年	薬学教育
（論文）Evaluation of the Water Content and Skin Permeability of Active Pharmaceutical Ingredients in Ketoprofen Poultice Formulations Removed from Their Airtight Containers and Left at Room Temperature	共著	2019年	Biol. Pharm. Bull
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）後発テープ剤の選択指針－医療用後発テープ剤の使用感と関連する製剤特性の評価－		2023年9月	日本薬剤師会
（演題名）科目間連携を意識づける薬学基礎科目演習講義の実践と「深い処理方略」使用促進効果の検証		2023年8月	日本薬学教育学会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2019年6月～現在	東京都薬剤師会理事		
～現在	日本口腔ケア学会評議員		
2023年4月～現在	日本医療薬学会医療薬学指導薬剤師		
2023年4月～現在	日本医療薬学会医療薬学専門薬剤師		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 薬学教育研究部	職名 教授	氏名 松本貴之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2013年4月～ 現在	学生からの授業アンケートの結果を参考に、 教育方法を常に見直している。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			学内FD講演会に参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Ginkgolide B caused the activation of the Akt/eNOS pathway through the antioxidant effect of SOD1 in the diabetic aorta.	共著	2023年4月	Pflugers Arch. 475(4):453-463.
(論文) Effect of Nonsteroidal Mineralocorticoid Receptor Blocker Esaxerenone on Vasoreactivity to an Endothelial Stimulator in Superior Mesenteric Arteries of Type 2 Diabetic Goto-Kakizaki Rat	共著	2022年12月	Biol Pharm Bull. 45(12):1825-1831
(論文) Indoxyl sulfate decreases uridine adenosine tetraphosphate-induced contraction in rat renal artery.	共著	2022年12月	Pflugers Arch. 474(12):1285-1294.
(論文) Methylglyoxal impairs ATP- and UTP-induced relaxation in the rat carotid arteries.	共著	2022年10月	Eur J Pharmacol. 933:175259.
(論文) Mechanisms underlying the methylglyoxal-induced enhancement of uridine diphosphate-mediated contraction in rat	共著	2022年10月	J Pharmacol Sci. 150(2):100-109.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Streptozotocin-induced diabetic rat femoral arteryにおける uridine diphosphate 誘発収縮反応		2023年6月	第148回日本薬理学会関東部会
(演題名) 自然発症高血圧ラット上腸間膜動脈におけるウリジン三リン酸誘発弛緩反応と内皮由来因子の関わり		2023年6月	第148回日本薬理学会関東部会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2009年4月～現在	日本薬理学会学術評議員		
2011年9月～現在	Fellow of the American Heart Association		
2021年8月～現在	日本平滑筋学会評議員		
2021年10月～現在	Associate Editor, Frontiers in Pharmacology (Cardiovascular and Smooth muscle Pharmacology)		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 薬学教育研究部門	職名 准教授	氏名 久保 元
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2019年4月	WebClassを用い事前に資料を配布した。 WebClassを用い、小試験を実施した。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2022年8月 2023年9月 共著	「基礎薬学演習問題集」を作成した。 「基礎薬学演習問題集」を改訂した。 「有機化学Q&A」を作成した	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2023年5月 2023年7月	CBT問題作成委員会 問題作成をしている 薬学教育委員会で卒業試験作成	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
薬学生の認知的方略の使用と卒業試験成績との関連性に関する調査	共著	2022年	薬学教育(doi10.24489/jjphe.2022-044)
薬学部6年生教育への改良型Team-based learningの導入とその成績効果の検証	共著	2019年	薬学教育 3, 117-124, 2019
必須問題の学習到達度から見える薬剤師国家試験の学習戦略	共著	2020年	薬学教育4(jiphe.2020-012)
院内製剤塩化アルミニウム液の保存安定性処方にホウ砂やエタノールを添加すべきか	共著	2020年	医療薬学46(4)215-221 2020
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
科目間連携を意識づける薬学基礎科目演習講義の実践と「深い処理方略」使用促進効果の検証		2023年8月	日本薬学教育学会
薬学部1~3年生を対象とした「薬剤師国家試験体験会」による学習意欲の向上効果		2022年8月	日本薬学教育学会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
1984年12月~現在	日本薬学会会員		
2010年~現在	CBTモニター員		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 薬学教育研究部門	職名 准教授	氏名 大野修司
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2022年9月～現在	低学年(2年生)の基礎学力向上のため、基礎薬学演習を開始した。生物科目を担当し、プレテスト、意識アンケート、個人フォローアップ等を導入して、学生の学習意欲の向上に努めている。
2 作成した教科書、教材、参考書		2022年3月～現在	基礎薬学演習講義の自己学習用に物化生領域のCBT形式問題集を発行した。また、2023年度用に改訂して発行した。講義用教科書の執筆中。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		毎年	卒業試験問題の作問および編集を行っている。さらに、数学入試問題の作問を行っている。学生個人単位での国家試験受験に関する学習指導やアドバイスのための面談を年間を通して行っている。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
薬学生の認知的方略の使用と卒業試験成績との関連性に関する調査	共著	2023年	薬学教育 vol.7
院内製剤塩化アルミニウム液の保存安定性～処方にもホウ砂やエタノールを添加すべきか～	共著	2020年4月	医療薬学 vol.46
必須問題の学習到達度から見える薬剤師国家試験の学習戦略	共著	2020年	薬学教育 vol.4
薬学部6年生教育への改変型Team-based learningの導入とその成績向上効果の検証	共著	2019年	薬学教育 vol.3
Evaluation of the Water Content and Skin Permeability of Active Pharmaceutical Ingredients in Ketoprofen Poulitice Formulations Removed from Their Airtight Containers and Left at Room Temperature.	共著	2019年	Biol. Pharm. Bull., vol.42
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
科目間連携を意識づける薬学基礎科目演習講義の実践と「深い処理方略」使用促進効果の検証		2023年8月	日本薬学教育学会
小児のための苦味マスキングを目的としたデキサメタゾン錠粉砕物の自転公転型ミキサーによる顆粒化		2023年3月	日本薬学会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
		なし	

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	星薬科大学	講座名	薬学教育研究部門
職名	准教授	氏名	山内 理恵
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		物理・薬剤系の知識を科目横断的に統合する講義を行った。講義後の理解度を確認する演習プリントと解答解説書を提供し、自己学習を促した。オフィスアワー（放課後）には、個人指導（補講）や学習相談を年間100件以上対応している。
2	作成した教科書、教材、参考書	2023年7月	「2023年度 基礎薬学演習 物理化学生物 問題集」を作成した。1~2年次に学ぶ基礎薬学科目に対し知識の再確認と統合を行い、理解力と応用力形成につなげることを目的としている。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2022年8月	第7回薬学教育学会大会にて、シンポジウム「社会の荒波を生き抜くために求められる薬学教育—現場から薬学部に向けた熱い声—」を主催した。
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2023年5月	2023年度・学内FD講習会（第1回）「指導教員制を通して学生の問題点を早期発見するコツ・対応方法」において「悩みを抱える学生の理解と支援」について講演した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書)有機化学から逃げ出したいみんなのための 有機化学 Q&A Vol.1 電子の動き (矢印の書き方から反応の基本まで・・・)	共著	2022年3月	京都廣川書店
(著書)薬物動態学 標準問題演習 (第2版)	共著	2021年3月	京都廣川書店
(総説)半固形(皮膚適用)製剤の試験法: 薬物放出・皮膚透過の試験法、及び粘着力試験法	単著	2023年2月	製剤機械技術学会誌 32(1) 91-100
(論文)薬学生の認知的方略の使用と卒業試験成績との関連性に関する調査	共著	2023年	薬学教育 第7巻
(論文)必須問題の学習到達度から見える薬剤師国家試験の学習戦略	共著	2020年	薬学教育 第4巻
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 科日間連携を意識づける薬学基礎科目演習講義の実践と「深い処理方略」使用促進効果の検証		2023年8月	第8回 日本薬学教育学会大会
(演題名) 小児のための苦味マスキングを目的としたデキサメタゾン錠粉砕物の自転公転型ミキサーによる顆粒化		2023年3月	日本薬学会 第143年会
III 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
なし			

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 薬学教育研究部門	職名 助教	氏名 井上 信宏
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2019年4月～現在 2022年4月～現在	アクティブラーニング形式で演習を実施した。 コマごとにオンラインで小試験を実施し、知識の整理とアウトプットを促した。
2 作成した教科書、教材、参考書		2019年4月～現在	「薬学特別演習」の演習教材の作成を行った。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2023年8月	第8回日本薬学教育学会大会において、2年次学生を対象とした教育実践に関する発表を行った。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) 薬学部6年生教育への改変型Team-based Learningの導入とその成績向上効果の検証	共著	2019年6月	薬学教育. 3. 117-124 (2019)
(論文) 必須問題の学習到達度から見える薬剤師国家試験の学習戦略	共著	2020年12月	薬学教育. 4. 127-135 (2020)
(論文) Effect of Crude Drug Extracts on Trypacidin Production in <i>Aspergillus fumigatus</i>	共著	2022年9月	Advances in Microbiology. 12(9). 541-554 (2022)
(論文) 薬学生の認知的方略の使用と卒業試験成績との関連性に関する調査	共著	2023年1月	薬学教育. 7. DOI: 10.24489/jjphe.2022-044 (2023)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 科目間連携を意識づける薬学基礎科目演習講義の実践と「深い処理方略」使用促進効果の検証		2023年8月	日本薬学教育学会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
	日本薬学会会員		
	日本薬学教育学会会員		
	日本教育工学会会員		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 実務教育研究部門	職名 教授	氏名 町田昌明
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2019年4月～現在	Webclassシステムを使用し、新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、対面実習とオンラインでの講義・演習を実施した。
2 作成した教科書、教材、参考書		2019年4月～現在	「実務実習事前学習」実習帳 事前学習の講義・実習・演習の教材を作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2019年1月	新コアカリキュラムに対応する実務実習について、薬局・病院指導薬剤師に対して教育講演を行った。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2022年1月～現在	月1～2回程度病院で研修を行い最新の医療情報全般についてブラッシュアップし教育に反映させている。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Causes of anxiety among teachers giving face-to-face lessons after the reopening of schools during the COVID-19 pandemic: a cross-sectional study	共著	2021年	BMC public health
(論文) 医薬品副作用データベースを用いた味覚障害を起こす医薬品の検出	共著	2021年6月	日本地域薬局薬学会誌
(論文) Evaluation of Taste of Enteral Nutrient Ice Cream and Search for Factors Affecting the Taste	共著	2020年	Journal of Food & Nutritional Disorders
(論文) 細菌性髄膜炎治療におけるセフトリアキソンの先発品と後発品の治療学的同等性を検討する後ろ向き観察研究	共著	2020年8月	薬理と治療
(論文) Survey of Pharmacists' Knowledge, Attitudes, and Practices (KAP) concerning COVID-19 Infection Control after Being Involved in Vaccine Preparation: A Cross-Sectional Study	共著	2022年	International Journal of Environmental Research and Public Health
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
高齢2型糖尿病患者の服薬コンプライアンスに関連する因子の調査		2022年7月	日本地域薬局薬学会
COVID-19パンデミック禍で対面授業を再開した後に小中学校教師が抱いた不安要因の検索		2021年6月	日本地域薬局薬学会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2019年4月～現在	日本地域薬局薬学会理事		
2019年4月～現在	日本地域薬局薬学会誌編集委員		
2019年4月～現在	日本薬学会関東支部幹事		
2021年7月	第24回日本地域薬局薬学会 大会長		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 実務教育研究部門	職名 教授	氏名 佐野 元彦
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2020年5月～現在 2023年9月、10月	Webclassシステムを活用し、資料の事前配布を行った。知識の定着を図るため、小テストを実施した。コミュニケーション実習では、現役薬剤師が患者役となり、臨場感のある実習を行った。グローバル化に対応した国際感覚や語学力を育むため、海外学術交流を企画実行した。
2 作成した教科書、教材、参考書		2020年5月～現在	早期臨床体験学習、海外アドバンスト、事前学習 I、事前学習 II の教材を作成。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2023年7月 2023年8月	第24回埼玉老年・泌尿器科研究会で医師や看護師を対象に高齢者の下部尿路障害など老年症候群とがん患者の機能評価について講演した。 4大学院がんチーム医療WSでファシリテーターをした。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2023年4月～現在 2023年7月11日	埼玉医科大学総合医療センターでFD研修。 令和5年度埼玉県「がん教育総合支援事業」がん教育推進連絡協議会の委員として会議参加。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Protocol for the ASTRO study (SSOP-01): a multicenter prospective cohort study investigating adverse events based on electronic patient-reported outcomes in patients with breast cancer after adjuvant	共著	2023年	BMJ open in press
(論文) Fatigue in patients with cancer receiving outpatient chemotherapy: a prospective two-center study	共著	2023年2月	Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences 9(7) 1-7
(論文) Impact of lenvatinib-induced proteinuria and renal dysfunction in patients with thyroid cancer.	共著	2023年	Frontiers in oncology 13 1154771-1154771
(論文) Cancer Chemotherapy-associated Pigmentation of the Oral Mucosa.	共著	2023年	In vivo (Athens, Greece) 37(4) 1880-1885
(論文) Inhibition of Neurotoxicity/Anticancer Activity of Bortezomib by Caffeic Acid and Chlorogenic Acid	共著	2022年2月	Anticancer Research 42(2) 781-790
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 仮) がん症例の伝わる書き方と注意すべき点		2023年11月	第33回日本医療薬学会年会
(演題名) 仮) がん治療関連口腔内色素沈着調査		2024年3月	第144回日本薬学会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2017年4月～現在	日本医療薬学会 代議員		
2016年4月～現在	日本緩和医療薬学会 学会評議員		
2018年4月～現在	日本がん薬剤学会 理事		
2022年4月～現在	特定非営利活動法人 がん医療研修機構 副理事長		
2021年5月8日	第8回 がん専門薬剤師全体会議 実行委員長		
2022年5月8日	第14回 日本がん薬剤学会学術大会 大会長		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	星薬科大学	講座名	実務教育研究部門
職名	講師	氏名	白水俊介
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2019年4月～現在	授業アンケートを参考に、随時講義内容の改善を行った。また、2020年度以降はWeb講義が取り入れられるようになり、Webclassシステムを利用し、資料の事前配布、レポートの電子媒体での提出、動画配信等を行った。
2	作成した教科書、教材、参考書	2019年4月～現在	ファーマシューティカルコミュニケーション、情報リテラシー、研究倫理等の内容更新、Web講義に向けた動画作成。事前学習での糖尿病PBLのZoomを利用したオンライン型PBLの構築等を行った。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2022年8月	日本薬学教育学会にて、「薬学生の死生観醸成を目的とした新規プログラムの構築と評価」に関して共同発表者として関与した。
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2019年4月～ 2020年3月、 2023年1月～現在	医療現場での最新の情報を得るために病院での研修(FD)を行っている。得られたことを4年次の事前学習に取り入れたり、薬学演習の問題作成等にも活用している。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) 含糖酸化鉄製剤の希釈時における安定性に関する検討	共著	2020年1月	医療薬学 46巻 1号 1P～6P
(論文) 事前学習の学習・教育到達度に関する評価および薬局実務実習におけるシミュレーションとしての「基礎的臨床能力試験」導入の試み	共著	2020年11月	日本地域薬局薬学会誌 8巻2号89P～98P
(論文) 医薬品副作用データベースを用いた味覚障害を起こす医薬品の検出	共著	2021年6月	日本地域薬局薬学会誌 9巻1号13P～20P
(論文) Causes of anxiety among teachers giving face-to-face lessons after the reopening of schools during the COVID-19 pandemic: a cross-sectional study	共著	2021年6月	BMC public health 21巻1号1050P-1050P
(論文) Survey of Pharmacists' Knowledge, Attitudes, and Practices (KAP) concerning COVID-19 Infection Control after Being Involved in Vaccine Preparation: A Cross-Sectional Study	共著	2022年7月	International journal of environmental research and public health
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2022年11月～現在	関東地区調整機構大学小委員会委員		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 実務教育研究部門	職名 講師	氏名 湧井 宣行
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2021年4月～現在	Zoomを使用してオンライン統計解析演習を実施しました。解析プログラムはチャットを通じてリアルタイムで送信し、双方向のコミュニケーションを効果的に取り入れました。さらに、授業評価アンケートを基に、講義内容を改良しています。
2 作成した教科書、教材、参考書		2022年8月	本学では独自の事前実習を行っています。そのため、固定の教科書を作成するのではなく、更新が容易な資料集を毎年新たに作成し、これを学生教育に活用しています。この資料集の内容は、薬局や病院の薬剤師からのフィードバックを毎年取り入れ、現場の声を直接反映した最新情報を提供するように努力しています。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2023年2月	日本臨床腫瘍薬学会において、薬剤師400名を対象に、臨床研究の意義と展望に関する教育講演を実施しました。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2014年4月～現在	毎週土曜日に調剤薬局で薬剤師としての業務を経験し、そこで得た知識を常に更新しています。この実務経験を通して得られた情報を、学生の教育に積極的に取り入れています。さらに、品川区の学校薬剤師としての役割も担っており、その経験も学生指導に生かしています。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Relieving psychological stress and improving sleep quality by bergamot essential oil use before bedtime and upon awakening: A randomized crossover trial.	共著	in press	Complementary Therapies in Medicine
(論文) Effectiveness of Displaying Traffic Light Food Labels on the Front of Food Packages in Japanese University Students: A Randomized Controlled Trial.	共著	2023年1月	International journal of environmental research and public health 20(3)
(論文) Psychological and Physical Changes Caused by COVID-19 Pandemic in Elementary and Junior High School Teachers: A Cross-Sectional Study.	共著	2022年6月	International Journal of Environmental Research and Public Health 19(13) 7568-7568
(論文) Factors Associated With Medication Compliance in Elderly Patients With Type 2 Diabetes Mellitus: A Cross-Sectional Study.	共著	2022年1月	Frontiers in Public Health 9 771593-771593
(論文) Causes of anxiety among teachers giving face-to-face lessons after the reopening of schools during the COVID-19 pandemic: a cross-sectional study.	共著	2021年6月	BMC public health 21(1) 1050-1050
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 高齢2型糖尿病患者の服薬コンプライアンスに関連する因子の調査		2022年6月	日本地域薬局薬学会
(演題名) COVID-19パンデミック禍で対面授業を再開した後に小中学校教師が抱いた不安要因の探索 横断的研究		2021年6月	日本地域薬局薬学会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2023年6月～現在	品川区薬剤師会 理事		
2021年10月～現在	日本地域薬局薬学会 理事		
2019年4月～2023年3月	日本臨床腫瘍薬学会 評議員		
2015年12月～現在	品川区教育委員会 校区協働委員会 委員		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 実務教育研究部門	職名 講師	氏名 山村 美保
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2016年4月～現在	薬学共有試験「OSCE」の対策・運営 学生に対するOSCE対策トレーニングおよび直前 実習を担当している。	
	2019年4月～現在	薬学科4年生「実務実習事前学習」において、外 部講師（大手チェーン薬局の教育研修指導薬剤 師）と共に「薬局薬剤師によるトリアージ・一 般用医薬品販売の実践」。演習の立案から実施 している。	
	2019年4月～現在	5年次実務実習開始1週間前に「実務実習直前講 習会」を導入している。	
	2019年4月～現在	5年次実務実習終了後の報告会の実施している。 4年生の学生も参加させることで、実務実習への モチベーションへつなげると同時に学会発表・ 学術大会のシミュレーションにもなっている。	
	2019年4月～現在	薬局実務実習に「処方解析」を導入している。 「積極的に自ら課題や問題点を抽出し、解決策 を見出す姿勢」を身に着けさせ、さらに「能動 的な自己学習習慣を身につけた学生の育成」を 目的とする。	
	2019年度	①「薬学と社会Ⅱ」の授業評価において「3.6点 /4点」の評価 ②アドバンスト講義「医療保険概論」の授業評 価において「3.8点/4点」の評価	
	2020年度	①「薬学と社会Ⅱ」の授業評価において「3.6点 /4点」の評価 ②アドバンスト講義「医療保険概論」の授業評 価において「3.8点/4点」の評価	
2 作成した教科書、教材、参考書	2019年4月～現在	4年次「薬学と社会Ⅱ」各講義時にオリジナルの 講義資料を作成し活用している。（令和2、3年 度は各動画90分にて配信）また、セルフメディ ケーションや介護については外部の講師による 動画も組み入れている。	
	2019年4月～現在	「アドバンスト講義：医療保険概論」の講義資 料および動画の作成している。 オリジナルの講義資料を作成し活用している。医 療保険に関する制度について外部講師による動 画も併用し、最新の医療保険（病院・薬局の診 療・調剤報酬）について解説している。	
	2019年4月～現在	「実務実習事前学習」の講義・演習の実習書、 「処方解析」小冊子の作成し、講義・演習の運 営責任者をしている。	
	2020年9月～現在	調剤手技（散剤・水剤・軟膏・無菌操作）の動 画を実務実習事前学習に導入	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2016年4月～現在	薬学科4年次のOSCE実施に参加する評価者および 模擬患者養成講習会の講師を務めている。評価 者講習会（2日/年間）、模擬患者（SP）養成講 習会（4回/年間）	
	2016年4月～現在	「平成30年度教育方法等改善に係る調査・研 究」に採択を受けた「指導薬剤師の教育意識改 善のためのpcc-OSCEの有用性に関する実証研究 の実施。	
	2019年3月	品川区薬剤師会との連携により「健康フェア」 を実施し、「血糖値・HbA1cの測定」 および「健康・薬に関する相談」を担当。	
	2019年10月	星薬科大学における大学祭において、来校者対 象に「医薬分業・かかりつけ薬剤師の役割・セ ルフメディケーション」に関する講演を行っ た。	
	2019年11月	高大連携活動における高校生を対象とし、校内 のモデル薬局にて「調剤体験（散剤・水剤）」の 講義・演習を実施した。	
	2021年7月～現在	高大連携活動における高校生を対象とした出張 講義（模擬授業・演習）を行っている。	

4 その他教育活動上特記すべき事項	2016年4月～現在	4年次OSCEにおける第2領域の責任者として、実習の企画・運営、OSCE当日のステーション責任者として活動	
	2019年4月～2021年3月	高校大学連携委員会 委員 高校までの教育と大学教育との連続性を向上させることを目的に、高校生を対象とした出張講義、薬学への招待として一日体験入学などの高大連携事業を担当	
	2020年4月～2021年3月	FD委員会 委員 個々の教員の教育内容や方法の改善及び向上のために、学生による授業評価アンケートの実施、教員相互の授業参観の実施、授業方法についての研究会の開催、新任教員のための研修会の開催などの企画・運営	
	2016年4月～2023年4月	FDとしてヤマグチ薬局哲学堂にて調剤業務全般を担当している。 65日/年	
	2021年7月	大学と地域薬剤師会との協働による新型コロナワクチン調製技術研修会における講師として参加した。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) 事前学習の学習・教育到達度に関する評価および薬局実務実習におけるシミュレーションとしての「基礎的臨床能力試験」導入の試み	共著	2020年12月	日本地域薬局薬学会誌 8(2) 89-98
(論文) 医薬品副作用データベースを用いた味覚障害を起こす医薬品の検出	共著	2021年6月	日本地域薬局薬学会誌 9(1) 13-20
(論文) Causes of anxiety among teachers giving face-to-face lessons after the reopening of schools during the COVID-19 pandemic: a cross-sectional study.	共著	2021年6月	BMC public health 21(1) 1050-1050
(論文) Survey of Pharmacists' Knowledge, Attitudes, and Practices (KAP) concerning COVID-19 Infection Control after Being Involved in Vaccine Preparation: A Cross-Sectional Study.	共著	2022年7月	International journal of environmental research and public health 19巻 15号
(論文) Effectiveness of Displaying Traffic Light Food Labels on the Front of Food Packages in Japanese University Students: A Randomized Controlled Trial.	共著	2023年1月	International journal of environmental research and public health 20巻 3号
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
副作用報告ができる薬剤師輩出を目指して(第2報) AE報告書記載からみえた今後の課題		2019年3月	(公社) 日本薬学会
副作用報告ができる薬剤師輩出を目指して(第1報) 薬学4年生の現状と新規AE実習導入による効果		2019年3月	(公社) 日本薬学会
大学と地域薬剤師会との協働による新型コロナワクチン調製技術研修会の実施～品川モデルの構築と評価～		2022年3月	第142回 日本薬学会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったものの数件)			
2014年4月～現在	東京都薬剤師会 会員		
2014年4月～現在	日本薬剤師会 会員		
2022年10月～現在	日本薬学教育学会 会員		
2022年4月～現在	日本地域薬局薬学会 会員		
2021年7月	品川区医師会、品川区薬剤師会による新型コロナワクチンの地域接種会場におけるワクチンの希釈作業を実施した。		
2021年7月～2021年9月	新宿区薬剤師会主催 新型コロナワクチン 地域接種におけるワクチン(コミュニティ筋射)管理業務(20日間)を行った。		
2021年7月～2022年3月	東京都医師会、東京都薬剤師会、東京都歯科医師会、東京都看護協会の4団体東京都医師会による「東京ワクチンチーム」に参加し、新型コロナワクチン(COVID-19ワクチンモデルナ筋注)分注業務を担当した。		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 実務教育研究部門	職名 講師	氏名 鳥越 一宏
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2020年4月 2019年4月～ 2023年3月	コロナ禍における WEB を活用したスモールグループディスカッション (SGD) 実施体制の構築 文部科学省 多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材 (がんプロフェッショナル)」養成プランにおける大学院生向け教育資料の共同作成
2 作成した教科書、教材、参考書		2015年4月～ 毎年改訂 2022年9月	「患者情報」 「統合分子薬理学 Vol. 2」
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2021年6月 2023年9月	新型コロナワクチン調製研修会の運営 東京都委託事業 地域包括ケアシステムにおける薬局・薬剤師の機能強化事業への参画(無菌操作)
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2022/7/1～現在	実務家教員研修：日本赤十字社医療センター薬剤部にて原則週1回、臨床研修に参加している。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Current Status of Adverse Events Related with Opioid Analgesics in Japan: Assessment Based on Japanese Adverse Drug Event Report Database.	共著	2019年9月	Biological & pharmaceutical bulletin 42(5) 801-806
(論文) 事前学習の学習・教育到達度に関する評価および薬局実務実習におけるシミュレーションとしての「基礎的臨床能力試験」導入の試み	共著	2020年12月	日本地域薬局薬学会誌8(2) 89-98
(論文) 妊産婦による薬剤師への相談のしやすさと妊産婦としての自己申告に関する調査	共著	2022年4月	日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会誌20(1) 16-29
(著書) がんの痛み治療テキスト：トータルマネジメントをめざす!	共著	2023年3月	南江堂
(論文) 薬剤師への相談ニーズから見た妊産婦特性と薬局使用経験との関連性評価	共著	2023年4月	日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会誌21(1) 6-13
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
2023年度 なし			
III 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2017年2月～現在	日本緩和医療薬学会 評議員		
2020年2月12、13日	ダイヤモンドプリンセス号 乗船者に対する服薬支援活動		
2020年7月～2022年6月	日本臨床腫瘍薬学会 認定制度委員会 筆記試験小委員会 委員長		
2022年3月～現在	日本臨床腫瘍薬学会 代議員		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	星薬科大学	講座名	実務教育研究部門
		職名	講師
		氏名	平出 誠
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2020年4月～現在	zoom等を活用し、オンラインにて学生同士のディスカッション講義を実施した。知識の定着をはかるため、確認テストを実施し、授業評価アンケートを踏まえ、実習内容の改善を行った。
2	作成した教科書、教材、参考書	2022年4月 2022年10月	「患者・医薬品情報」講義の教材作成を行った。 「事前学習実習書」臨床教育の演習・実習教材の作成を行った。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	なし	
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2023年1月～現在	病院にてFD研修を実施している。(1回/週程度)
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Drug interactions between tyrosine kinase inhibitors (gefitinib and erlotinib) and warfarin: Assessment of international normalized ratio elevation characteristics and in vitro CYP2C9 activity.	単著	2019年10月	J Oncol Pharm Pract, 25 (7), 1599-1607.
(論文) Identification of risk factors for venous thromboembolism and evaluation of Khorana venous thromboembolism risk assessment in Japanese lung cancer patients.	単著	2020年1月	J Cardiol, 75 (1), 110-114.
(論文) Association between immune-related adverse events and clinical outcome following Nivolumab treatment in patients with metastatic renal cell carcinoma.	共著	2020年9月	In Vivo, 34, 2647-2652.
(論文) Safety evaluation of fixed-dose nivolumab in patients with gastric cancer.	共著	2022年6月	Health Sci. Rep. 5: e673.
(論文) Association between pazopanib exposure and safety in Japanese patients with renal cell carcinoma or soft tissue sarcoma.	共著	2023年1月	Sci. Rep. 6: 13(1): 2099.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) ハンズフリー機能による通話が抗ヒスタミン薬内服患者の自動車運転に及ぼす影響 ―薬工連携による医療安全へのアプローチ―		2023年10月	日本薬局学会
(演題名) トリプルネガティブ乳がん肝転移モデルを利用した同一個体内の複数肝転移結節に対する抗腫瘍薬感受性の評価		2023年11月	日本医療薬学会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2020年4月～現在	日本腫瘍循環器学会 保険委員		
2021年4月～2022年3月	日本臨床腫瘍薬学会 認定制度委員会 試験作成委員		
2021年4月～2022年3月	品川区薬剤師会 新型コロナウイルスワクチン調製研修会 講師		
2021年4月～2022年6月	日本がん薬剤学会 学術大会実行委員		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 実務教育研究部門	職名 助教	氏名 相良 篤信
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2019年4月～現在	講義内で学生が取り組む演習毎に授業アンケートを実施し、学生の理解度・ニーズを踏まえ、随時講義内容の改善を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書		2019年4月～現在	「ファーマシューティカルコミュニケーション」 標記講義の教材作成を行った。特に、薬学生の死生観を醸成させるプログラムを構築した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2022年8月	日本薬学教育学会にて、「薬学生の死生観醸成を目的とした新規プログラムの構築と評価」に関する発表を行った。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2020年4月	コロナ禍における早期臨床体験学習にあたり、オンラインSGDの環境を整備し、プログラム構築・SGD運営の中心的役割を果たした。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Relationship between Low Pretreatment Geriatric Nutritional Risk Index and Poor Tolerability of Azacitidine in Patients with Myelodysplastic Syndromes.	共著	2021年3月	Ann Nutr Metab. 76 (6): 405-412.
(論文) COL8A1 facilitates the growth of triple-negative breast cancer via FAK/Src activation.	共著	2022年5月	Breast Cancer Res Treat. 194 (2) 243-256
(論文) COL8A1 enhances the invasion/metastasis in MDA-MB-231 cells via the induction of IL1B and MMP1 expression.	共著	2022年12月	Biochem. Biophys. Res. Commun 642 145-153
(論文) Impact of lenvatinib-induced proteinuria and renal dysfunction in patients with thyroid cancer	共著	2023年3月	Front Oncol. 13:1154771.
(論文) Evaluation of the relationship between pregnant/postpartum women's characteristics and pharmacy use experience in terms of consultation needs with pharmacists	共著	2023年4月	Journal of Pharmaceutical Communication 21(1) 6-13
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) ハンズフリー機能による通話が第2世代抗ヒスタミン薬服用者の自動車運転に及ぼす影響 一薬工連携による医療安全へのアプローチ		2023年10月	日本薬局学会
(演題名) トリプルネガティブ乳がん肝転移モデルを利用した同一個体内の複数肝転移結節に対する抗腫瘍薬感受性の評価		2023年11月	日本医療薬学会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2020年4月～現在	POS薬剤研究会 幹事		
	日本薬学会会員、日本医療薬学会会員		
	日本緩和医療薬学会会員、日本薬学教育学会会員、日本薬局学会会員		
	日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会会員		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	星薬科大学	講座名	基礎実習研究部門
職名	教授	氏名	輪千 浩史
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2018年4月～現在	Webclassシステムを活用し、資料の事前配布を行った。知識の定着をはかるため、slidoを用いてアクティブラーニングを実施した。授業評価アンケートを踏まえ、講義内容の改善を行った。
2	作成した教科書、教材、参考書	2013年 2014年	疾患から考える臨床検査値 京都廣川書店 薬学のための分子生物学 廣川書店
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2019年7月 2019年8月	薬学への招待2019 夢ナビ 模擬講義
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2019年1月 2021年2月 2023年8月、11月	第9回評価者研修会 FDワークショップ「オンライン時代における著作権への配慮」、「コロナ禍での教育経験を活かした来年度の教育方法の提案」 日本薬学教育委員会主催 ワークショップ スタッフ参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Formulation of three-compound xyloglucan-based gel for malodorous fungating tumors.	共著	2018年	Journal of Japanese Society of Pharmaceutical Oncology, 8, 10-19
(論文) Protein Kinase C and ERK 1/2 are stimulated by Lactoferrin to enhance proliferation and migration in keratinocytes.	共著	2020年	Pharmacometrics, 98 (5/6), 69-76
(論文) IsoChichibabin desmosine-13C3, 15N1 synthesis and quantitative LC-MS/MS analysis of desmosine and isodesmosine in human skin.	共著	2021年	Bioorganic & Medicinal Chemistry, 52, 116519-116524
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
SLPI による Elastin 線維分解抑制機構の解析		2023年6月	日本結合組織学会
細胞外マトリックスの変化に伴う Elastin 線維の形成過程の解析		2023年6月	日本結合組織学会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2018年4月～現在	日本結合組織学会 評議員		
2018年4月～現在	エラスチン・関連分子研究会 理事長		
2018年4月～現在	財団法人日本リディアオリリー協会 指定課題研究助成金審査委員		
2022年4月～現在	横浜市消防団第一分団10班 班長		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	星薬科大学	講座名	基礎実習研究部門
職名	准教授	氏名	笹津 備尚
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2019年～現在	Zoomを活用し、講義内で外部講師との討論や学生にSGDを実施した。実習内容や手技を盛り込んだ動画コンテンツの作成およびWebClassを介して発信し、知識と手技の定着の向上を図った。Webを活用した試験を実施をした。授業評価アンケートを踏まえ、講義内容の改善を行った。
2	作成した教科書、教材、参考書	2019年～現在	「物理系実習Ⅰ・Ⅱ」 1、2で行う実習において物理系実習の実習書の作成を行った。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2023年3月	日本薬学会第143年会において「実習成績に基づくチーム編成が実習パフォーマンスに与える影響」という演題で発表した。
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2020年～2021年 2022年～現在	カリキュラム検討委員会：新コアカリキュラムに関する対応を検討した。 カリキュラム対応WG：現行カリキュラムおよび新コアカリキュラムに関する対応を検討した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) 臨床腫瘍薬学第1版	共著	2019年3月	じほう
(著書) 臨床腫瘍薬学第2版	共著	2022年9月	じほう
(論文) Novel Xyloglucan Sheet for the Treatment of Deep Wounds: Preparation, Physicochemical Characteristics, and in Vivo Healing Effects,	共著	2019年5月	Biol Pharm Bull., 42
(論文) テノホビルジソプロキシルフマル酸塩/エムトリシタピン配合錠の苦味に対する検討	共著	2023年2月	日本エイズ学会誌
(論文) ヨウ素製剤および基剤・機能性添加剤の吸水作用に関する検討	共著	in press	日本褥瘡学会会誌
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
基剤が褥瘡治療にもたらす効果		2020年10月	日本褥瘡学会会誌
基剤の特徴から考える褥瘡治療のすすめ		2021年9月	日本褥瘡学会会誌
新規内視鏡用創傷治療製剤の開発		2022年3月	日本薬学会
外用薬の主薬・基剤・添加物の基礎知識		2022年6月	皮膚褥瘡外用薬学会
外用薬の基礎と選択のポイント		2023年8月	日本病院薬剤師会 関東ブロック学術大会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2010年4月 - 2022年3月	日本臨床腫瘍薬学会 理事		
2012年4月 - 2022年3月	日本臨床腫瘍薬学会 会員委員会		
2012年4月 - 現在	東京都病院薬剤師会, 委員		
2014年 - 現在	外用療法研究会, 世話人		
2015年5月 - 現在	日本褥瘡学会, 評議員		
2017年3月-現在	日本臨床腫瘍薬学会 代議員選任管理会幹事長		
2021年3月-2022年6月	皮膚褥瘡外用薬学会 第4回皮膚褥瘡外用薬学会学術集会実行委員長		
2022年4月-現在	日本臨床腫瘍薬学会、財務委員会副委員長		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	星薬科大学	講座名	基礎実習研究部門
職名	講師	氏名	芝崎真裕
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2020年4月～現在	Webclassシステムを活用し、資料の事前配布を行った。授業評価アンケートを踏まえ、講義内容の改善を行った。
2	作成した教科書、教材、参考書	2022年4月	「薬物治療演習I」 薬物治療演習Iの演習教材の作成を行った。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2022年8月30日 2023年1月14日	「薬学教育モデル・コア・カリキュラム」の改訂 6年制薬学教育の内部質保証に関するシンポジウム
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Synergistic effects of MDMA and ethanol on behavior: Possible effects of ethanol on dopamine D ₂ -receptor-related signaling	共著	2021年6月	Addiction Biology, 26、 e13000
(論文) Increase in neuropeptide Y activity impairs social behaviour in association with glutamatergic dysregulation in diabetic mice	共著	2021年2月	British Journal of Pharmacology, 178、726
(著書) 緩和医療薬学改訂第2版	共著	2023年4月	日本緩和医療薬学会
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 薬理学の立場からのアディクション研究		2020年11月	アルコール・薬物依存関連 学会合同学術総会
(演題名) Ethanolによる血糖値の変化		2023年3月	日本薬学会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2018年4月～現在	日本緩和医療薬学会 試験委員会		
2018年4月～現在	日本薬理学会 評議員		
2018年4月～現在	日本神経精神薬理学会 評議員		
2018年4月～現在	日本薬学会会員		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 基礎実習研究部門	職名 講師	氏名 高橋 万紀
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2019年4月～現在	Webclassで資料の配布し、知識の定着を目的に過去に行った定期試験の問題を公開した。
2 作成した教科書、教材、参考書		2018年3月 2020年～現在	「スパイラル・ラーニング有機化学」の作成 「基礎実習Ⅰ」「基礎実習Ⅱ」の作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2023年3月	実習に関する研究の発表
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2018年 2019年	ベストレクチャー賞：4年連続受賞（有機化学Ⅰ） ベストレクチャー賞：5年連続受賞（有機化学Ⅰ）
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) Antimicrobial agent isolated from <i>Coptidis rhizome</i> extract incubated with <i>Rhodococcus</i> sp. strain BD7100	共著	2019年2月	The journal of Antibiotics, 72, 71-78, 2019.
(論文) In vitro and in vivo characterization of anti-malarial acylphenoxazine derivatives prepared from basic blue 3	共著	2019年7月	Malaria Journal, 18, 237-248, 2019.
(論文) The formal synthesis of (+)-15-deoxy- $\Delta^{12,14}$ -prostaglandin J ₂ by utilizing SmI ₂ -promoted intramolecular coupling of bromoalkynes and α, β -unsaturated esters	共著	2020年5月	Tetrahedron, 76, 131148-131156, 2020.
(論文) Inhibitory effect of a novel thiazolidinedione derivative on hepatitis B virus entry,	共著	2021年10月	Antiviral Research, 194, 105165, 2021
(論文) Design, Synthesis, and Evaluation of Trivalent PROTACs Having a Functionalization Site with Controlled Orientation	共著	2022年1月	Bioconjugate chemistry, 33, 142-151 (2022).
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
実習成績に基づくチーム編成が実習パフォーマンスに与える影響		2023年3月	日本薬学会
加齢に伴う細胞外環境の変化は弾性繊維の形成に影響を与える		2023年3月	日本薬学会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2018年4月～現在	CBT問題管理委員		
2018年4月～現在	星薬科大学学生協理事会理事		
	日本薬学会会員※		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	星薬科大学	講座名	基礎実習研究部門
職名	講師	氏名	酒井(牛久保)裕子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2022年4月～現在	Webclassシステムを活用した実習関連資料の事前配布、実習手技動画の配信を行い、学生の実習内容の理解・習得の向上に努めた
2	作成した教科書、教材、参考書	2022年4月～現在	「研究入門・基礎実習Ⅰ」実習書 「基礎実習Ⅱ」実習書 基礎実習の実習書の作成を行った
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2023年3月27日	日本薬学会第143年会にて「実習成績に基づくチーム編成が実習パフォーマンスに与える影響」についての発表を行った。
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		OSCE WG委員：OSCE実施に関する事項について検討した
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
タブレット端末による解剖動画の視聴を併用した生物系解剖実習の実践報告	共著	2023	薬学教育第7巻
Metformin Protects against NMDA-Induced Retinal Injury through the MEK/ERK Signaling Pathway in Rats	共著	2021	Int J Mol Sci. 22(9)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
実習成績に基づくチーム編成が実習パフォーマンスに与える影響		2023年3月	日本薬学会第143年会
加齢に伴う細胞外環境の変化は弾性線維の形成に影響を与える		2023年3月	日本薬学会第143年会
マクロゴール軟膏+吸水クリームとテラジアパスタ+リフラップ軟膏における吸水特性		2023年9月	第25回日本褥瘡学会学術集会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	星薬科大学	講座名	基礎実習研究部門
		職名	助教
		氏名	楠 欣己
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2020/4/1 2021/4/1	実習による技能定着の程度を評価するための 実技試験を導入 実習技能に関する動画を作成・配信
2	作成した教科書、教材、参考書	2019/4/1	実習帳の改編(毎年、内容を更新)
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2023/3/27	日本薬学会第143年会にて、 基礎実習で収集した学生への教育効果について ポスター発表(共同発表者)
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2022/8/30 2022/12/21 2023/5/16	学内FD講習会受講 学内FD講習会受講 学内FD講習会受講 2022年度以前も毎年FD講習会受講
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Analysis of agents to mask the bitterness of Tenofovir Disoproxil Fumarate /Emtricitabine.	共著	2023年1月	J. AIDS Res., 25, 42-46
(論文) Protein Kinase C and ERK1/2 are Stimulated by Lactoferrin to Enhance Proliferation and Migration in Keratinocytes.	共著	2020年7月	Pharmacometrics, 98 (5) 69-76
(論文) Anti-Hypertensive Effects of Acacia Polyphenol in Spontaneously Hypertensive Rats	共著	2018年3月	Int J Mol Sci., 19 (3) 700
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) SLPIによるElastin線維分解抑制機構の解析		2023年6月	第55回 日本結合組織学会 学術大会
(演題名) 加齢に伴う細胞外環境の変化は 弾性線維の形成に影響を与える		2023年3月	日本薬学会第143年会
(演題名) トロポエラスチンのオルタナティブプライシングの 加齢による変化の解析		2022年3月	日本薬学会第142年会
(演題名) トロポエラスチンのオルタナティブプライシングの 経年齢的な発現解析		2021年12月	エラスチン・関連分子研究会 第6回学術大会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
	日本薬学会会員		
	日本結合組織学会会員		
	エラスチン・関連分子研究会会員		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 基礎実習研究部門	職名 助手	氏名 板橋 武史
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2020年11月～	基礎実習において、技能試験の実施した。 理解度を高めるためWebclass上に実習用実験ビデオを公開した。
2 作成した教科書、教材、参考書			基礎実習実習帳(化学)作成 実習用実験ビデオを製作
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2023年8月	FD講演会参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) テノヒビルジソプロキシルフマル酸塩/エムトリシタピン配合錠の苦味に対するマスキング剤の検討	共著	2023年2月	日本エイズ学会誌 25(1)
(論文) 蛋白質キナーゼCとERK1/2は、ケラチノサイトにおける増殖と移動を増強するラクトフェリンにより刺激される	共著	2020年7月	応用薬理 98(5-6)
(論文) ラクトフェリンによる表皮角化細胞の増殖および遊走促進効果	共著	2019年4月	ミルクサイエンス 68(1)
(論文) ラカンカ抽出物の経口投与による実験的糖尿病マウスの創傷治癒促進効果	共著	2019年7月	Pharmacometrics 95(5/6)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 実習成績に基づくチーム編成が実習パフォーマンスに与える影響		2023年3月	日本薬学会
(演題名) 加齢に伴う細胞外環境の変化は弾性線維の形成に影響を与える		2023年3月	日本薬学会
(演題名) 結合組織成長因子(CTGF)はエラスチン線維の形成を促進する		2022年3月	日本薬学会
(演題名) トロポエラスチンのオルタナティブスプライシングの加齢による変化の解析		2022年3月	日本薬学会
(演題名) 新規内視鏡用創傷治療剤の開発		2022年3月	日本薬学会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 IR室	職名 助教	氏名 工藤早苗
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2019年4月～現在	研究入門、基礎実習Ⅰ、基礎実習Ⅱの生物系の実習に参加し学生の指導を行っている。	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・ 号数)等の名称
なし			
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2019年～現在	日本薬学会会員		
2019年～現在	日本薬学教育学会会員		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 疾患解析創薬学研究室	職名 教授	氏名 加藤 良規
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2019年4月～現在	座学で学んだ知識を実務と結び付けさせるために、「応用製剤学」では製薬系の工場見学を、「分子イメージング」では国立がんセンター中央病院放射線科の見学を行っている（コロナ禍時を除く）。
2 作成した教科書、教材、参考書			「統合分子薬理学 Vol. 2 がんと緩和の分子レベル治療」
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2019/8/23 2020/4/1	FD委員：学内FD講演会の調整・司会をした。 カリキュラム検討委員会委員長：医療薬学特別実習を再編（薬学研究実践実習を導入）した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) Clinical significance of blood endocan level in breast cancer patients.	共著	2023年6月	Showa Univ J Med Sci; 35:98-102.
(論文) COL8A1 facilitates the growth of triple-negative breast cancer via FAK/Src activation.	共著	2022年7月	Breast Cancer Res Treat; 194:243-256.
(著書) 統合分子薬理学 Vol. 2 がんと緩和の分子レベル治療	共著	2022年9月	京都廣川書店
(著書) がん治療を支える分子イメージング	単著	2021年	星薬科大学紀要; 63:1-12
(論文) Quantification and tracking of genetically engineered dendritic cells for studying immunotherapy.	共著	2018年2月	Magn Reson Med; 79:1010-1019.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
(演題名) ESM1 gene expression and DNA methylation in breast cancer patients analyzed by The Cancer Genome Atlas		2023年6月	2nd JCA-AACR Precision Cancer Med. Int. Conference
(演題名) ヒト乳がん細胞MDA-MB-231に対するモノクローナル抗体を用いた抗体依存性細胞貪食活性の解析		2023年7月	Pharmaco-Hematology シンポジウム
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2020年4月～2023年3月	ファルマシア委員（日本薬学会）		
2023年4月～現在	ファルマシアアドバイザー（日本薬学会）		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	星薬科大学	講座名	疾患解析創薬学 研究室
職名	講師	氏名	里 史明
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2014年 4月～現在	WrbcClassを活用し、予習用に資料を事前配布、復習用に希望があれば動画配信を行った。また、講義内容の理解度の確認のため、演習問題を作成し、配布した。
2 作成した教科書、教材、参考書		2020年 4月 2021年 6月 2023年 4月	「細胞生物学」オンデマンド教材の作成を行った。 生涯教育用「基礎からわかるPCR検査の原理」オンデマンド教材の作成 「細胞生物学」演習問題の作成を行った。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			該当なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Impact of lenvatinib-induced proteinuria and renal dysfunction in patients with thyroid cancer	共著	2023年5月	Frontiers in Oncology vol.13
(論文) COL8A1 enhances the invasion/metastasis in MDA-MB-231 cells via the induction of IL1B and MMP1 expression	共著	2022年12月	Biomedical and Biophysical Research Communications vol.642
(論文) Downregulation of Sparc-like protein 1 during cisplatin-induced inhibition of myogenic differentiation of C2C12 myoblasts	共著	2022年8月	Biochemical Pharmacology vol.204
(論文) COL8A1 facilitates the growth of triple-negative breast cancer via FAK/Src activation	共著	2022年4月	Breast Cancer Research and Treatment vol.194
(論文) Anti-skin aging activities of Sideritis scardica and three flavonoids with an uncommon 8-hydroxyl moiety	共著	2022年4月	Natural Product Communications vol.17 No.5
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) COL8A1は、MMP-1発現を促進し、MDA-MB-231細胞の浸潤・転移を促進する		2022年6月	日本結合組織学会
(演題名) COL8A1は、トリプルネガティブ乳がんの浸潤・転移を促進する		2021年6月	日本結合組織学会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2001年5月～現在	日本結合組織学会会員		
2001年11月～現在	日本分子生物学学会会員		
2016年12月～現在	日本薬学会会員		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 疾患解析学研究室	職名 助教	氏名 大塚 まき
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2021年10月～現在	Webclassシステムを活用し授業事前に資料配布を行った。知識の定着をはかるため毎授業に穴埋め質問を行い、中間テストとスモールグループディスカッションを実施した。授業評価アンケートを踏まえ、講義内容の改善を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書		2021年10月～現在	「毒性学」の資料作成を行った。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2021年4月～現在	学外体験学習実施委員：学生の実習企業先に面談訪問を行った。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Epigenetic regulator UHRF1 suppressively orchestrates pro-inflammatory gene expression in rheumatoid arthritis.	共著	2022年4月	J Clin Investig. 132(11):e150533.
(論文) Development of a new in vitro assay system for evaluating the effects of chemicals on DNA methylation.	共著	2021年12月	J Toxicol Sci. 46(2):83-90.
(論文) Decreased lamin B1 levels affect gene positioning and expression in postmitotic neurons.	共著	2021年12月	Neurosci Res. 173:22-33.
(論文) Effects of human adipose tissue-derived and umbilical cord tissue-derived mesenchymal stem cells in a dextran sulfate sodium-induced mouse model.	共著	2019年11月	Biores Open Access. 8(1):185-199.
(論文) Link between the causative genes of holoprosencephaly: Zic2 directly regulates Tgif1 expression.	共著	2018年2月	Sci Rep. 8(1):2140.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
創薬評価に向けた化学物質の新規 <i>in vitro</i> DNAメチル化影響レポーターシステムの開発		2021年3月	第14回日本エピジェネティクス研究会年会
Development of a new in vitro reporter system for the effects of chemical substances on DNA methylation for drug discovery evaluation,		2021年9月	第80回日本癌学会学術総会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2018年10月～現在	日本毒性学会 基礎教育小委員会		
2021年9月～現在	日本毒性学会 トキシコロジー改定準備委員会		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 生体分子薬理学研究室	職名 准教授	氏名 酒井 寛泰
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2019年4月～現在	毎回の授業において、知識の定着をはかるため、授業前に確認テストを提示し、要点を説明した。Webclassシステムを活用し、資料の事前配布を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書		2023年4月	緩和医療薬学改訂第2版(南江堂)執筆(分担)
		2020年3月	疾患薬理学(ネオメディカル)執筆(分担)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2023年3月	FD 講習会への参加
		2023年7月	創薬科学科カリキュラムWGメンバー
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Platinum-based anticancer drugs-induced downregulation of myosin heavy chain isoforms in skeletal muscle of mouse.	共著	2023年7月	J Pharmacol Sci.152:167-177.
Downregulation of Sparc-like protein 1 during cisplatin-induced inhibition of myogenic differentiation of C2C12 myoblasts.	共著	2022年10月	Biochem Pharmacol. 204:115234.
Eicosapentaenoic acid suppresses cisplatin-induced muscle atrophy by attenuating the up-regulated gene expression of ubiquitin.	共著	2022年5月	J Nutr Biochem. 103:108953.
Exogenous insulin-like growth factor 1 attenuates cisplatin-induced muscle atrophy in mice.	共著	2021年12月	J Cachexia Sarcopenia Muscle. 12:1570-1581.
Upregulation of ubiquitinated proteins and their degradation pathway in muscle atrophy induced by cisplatin in mice	共著	2020年9月	Toxicol Appl Pharmacol. 15:403:115165.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Effect of cisplatin on the expressions of myosin heavy chain isoforms in skeletal muscle of mouse.		2022年11月	第96回日本薬理学会年会/第43回日本臨床薬理学会学術総会
シスプラチン誘発マウス筋萎縮時のPGC-1 α アイソフォーム遺伝子の発現変化		2023年3月	日本薬学会第143年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2005年～現在	日本薬理学会 評議員		
2016年～現在	日本緩和医療薬学会 社員		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 生体分子薬理学研究室	職名 講師	氏名 五十嵐 信智
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2019年4月～現在	Webclassシステムを活用し、資料の事前配布を行った。知識の定着をはかるため、確認テストを実施した。授業評価アンケートを踏まえ、講義内容の改善を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書		2019年4月～現在	「創薬系実習Ⅱ」の実習帳の作成を行った。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2022年7月	高大連携の一環として、高校への出張講義を行った。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2022/8/30 2023/1/14 2023/3/16	FD講習会 FD/SD講習会 FD講習会
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Effect of Chimpi, dried citrus peel, on aquaporin-3 expression in HaCaT human epidermal keratinocytes	共著	2023	Molecular Biology Reports, 49, 10175-10171
(論文) Effect of partially hydrolyzed guar gum on the expression of aquaporin-3 in the colon	共著	2023	Food Science & Nutrition, 11, 1127-1133
(論文) Eicosapentaenoic acid suppresses cisplatin-induced muscle atrophy by attenuating the up-regulated gene expression of ubiquitin	共著	2023	Journal of Nutritional Biochemistry, 103, 108953
(論文) Increased 20S proteasome expression and the effect of bortezomib during cisplatin-induced muscle atrophy	共著	2023	Biological and Pharmaceutical Bulletin, 45, 910-918
(論文) Downregulation of Sparc-like protein 1 during cisplatin-induced inhibition of myogenic differentiation of C2C12 myoblasts	共著	2023	Biochemical Pharmacology, 204, 115234
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) SGLT2阻害薬イブラグリフロジンによる皮膚障害発症メカニズムの解析		2023年5月	日本糖尿病学会
(演題名) 乳酸菌発酵物「ホエイ」によるメラニン産生抑制作用機序の解析		2023年6月	日本皮膚科学会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2018年4月～現在	和漢医薬学会 代議員		
2019年4月～現在	Journal of Natural Medicines 編集委員		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	星薬科大学	講座名	生体分子薬理学研究室
職名	講師	氏名	今 理紗子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2019年～現在	講義内容の復習のため、Webclassシステムを活用した確認テストを行った。また、学習した内容を実際に活用できるように「OTC医薬品の使い分けと販売」などをテーマとして、グループワークとシュミレーションを実施した。
2	作成した教科書、教材、参考書	2019年～現在	「創薬系実習Ⅳ」の演習教材の作成を行った。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2021年3月	「日本薬学会第141年会での発表」 【4年制薬学教育における「学外体験学習（長期インターンシップ）」による社会人基礎力養成の試み】というタイトルで学会発表に寄与した。
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2020年4月 ～2022年3月	「2020年度入学生の学年担任」 コロナ禍による制限のもと、学生の勉学状況、精神状態について細やかに対応できるよう、定期的にオンライン交流会や個別面談を実施した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(査読あり論文) Changes in the expression of aquaporin-3 in the gastrointestinal tract affect drug absorption	共著	2019年3月	Int. J. Mol. Sci., 20(7):1559
(査読あり論文) Effect of Astaxanthin in the expression and activity of aquaporin-3 in skin in an in-vitro study	共著	2020年9月	Life (basal), 10(9):193
(査読あり論文) Effect of Chinpi, dried citrus peel, on aquaporin-3 expression in HaCaT human epidermal keratinocytes	共著	2022年11月	Mol. Biol. Rep., 49(11):10175-10181
(査読あり論文) Effect of partially hydrolyzed guar gum on the expression of aquaporin-3 in the colon	共著(筆頭)	2022年11月	Food Sci. Nutr., 11(2):1127-1133(journal cover image採択)
(査読あり論文) Green tea extract prevents CPT-11-induced diarrhea by regulating the gut microbiota	共著(筆頭)	2023年4月	Sci. Rep., 13(1):6537
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
大腸アクアポリンの発現に及ぼす腸内細菌の影響		2022年3月25-28日	日本薬学会第142年会
イリノテカン誘発性下痢に対するチャノキ抽出物の効果(優秀発表賞受賞)		2022年9月11日	日本生薬学会第68回年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2020年4月～現在	日本学術振興会 R021 食と未病マーカー委員会 学界委員		
2021年4月～現在	和漢医薬学会 次世代を担う若手研究者の会 世話人		
2021年9月～現在	和漢医薬学会 代議員		
2022年11月	日本薬学会 教育委員会主催「学位取得者のキャリアデザインワークショップ」参加		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 生命機能創成科学研究室	職名 准教授	氏名 田村 英紀
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2019年4月～現在	オンラインチャット機能を活用し、学生との相互理解を得ながらの双方向性授業を行った。学生の研究意欲を刺激するために、パソコンを用いた仮想実験を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2023年7月	第66回日本神経化学会大会若手研究者育成セミナーにおいて、若手研究者を対象とした研究およびキャリアプランに対する教育講演を行った。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Cell-specific overexpression of COMT in dopaminergic neurons of Parkinson's disease.	共著	2019年6月	Brain, 142, 6, 1675-1689.
(論文) Regional and temporal regulation and role of somatostatin receptor subtypes in the mouse brain following systemic kainate-induced acute seizures.	共著	2019年12月	Neurosci Res., 149, 38-49.
(論文) Relief of neuropathic pain by cell-specific manipulation of nucleus accumbens dopamine D1- and D2-receptor-expressing	共著	2022年1月	Mol Brain, 15:10, 1-13.
(論文) Tumor suppression and improvement in immune systems by specific activation of dopamine D1-receptor-expressing neurons in the nucleus accumbens.	共著	2022年2月	Mol Brain, 15:17, 1-13.
(論文) Elucidation of the mechanisms underlying tumor aggravation by the activation of stress-related neurons in the paraventricular nucleus of the hypothalamus.	共著	2023年2月	Mol Brain, 16:18, 1-11.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 興奮性神経細胞におけるペリニューロナルネットの情動記憶制御機構		2019年3月	第124回日本解剖学会総会
(演題名) 幼少期の社会的孤立に伴う認知および情動障害に対する大豆ペプチドの“緩和効果”		2019年6月	第13回日本緩和医療薬学会年会
(演題名) KLK8 signaling under physiological conditions and its upregulation in Alzheimer's disease		2020年2月	第18回光科学技術で拓く脳精神科学平和探求研究会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2019年4月～現在	日本神経化学会 評議員		
2019年4月～現在	日本神経科学学会 会員		
2019年4月～現在	北米神経科学学会 会員		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	星薬科大学	講座名	生物制御科学
		職名	教授
		氏名	細江 智夫
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2023年4-7月 2023年9月- 2024年1月	課題により知識の定着を図った
2	作成した教科書、教材、参考書	2023年4-7月 2023年9月- 2024年1月	教科書(クライン有機化学I II)をもとに、講義用スライド作成。3日前にを事前配布して予習を促した。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Ergot alkaloids in sclerotia collected in Japan: synthetic profiles and induction of apoptosis by Clavine-type compounds	共著	2023年1月	J. Nat. Med., 77, 306-314
In search of lost ergots: phylogenetic re-evaluation of Claviceps species in Japan and their biogeographic patterns revealed	共著	2023年7月	Studies in Mycology, 106, 1-39
Secalonic Acid and Benzoic Acid Analogues Exhibiting Cytotoxicity against Cancer Cells Isolated from Claviceps yanagawaensis.	共著	2022年12月	Advances in Microbiology. 12(12) 649-670
Effect of Crude Drug Extracts on Trypacidin Production in Aspergillus fumigatus.	共著	2022年9月	Advances in Microbiology. 12(9) 541-554
Production of Ergot Alkaloids by the Japanese Isolate Claviceps purpurea var. agropyri on Rice Medium	共著	2022年4月	Advances in Microbiology 12(4) 254-269
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2020年4月~2023年3月	日本薬学会薬学教育委員会		
2021年4月~現在	日本菌学会受賞者および論文選考委員、「日本菌学会報」編集委員		
2022年4月~2023年3月	大学基準協会 大学評価分科会委員		
2022年4月~2024年3月	薬学教育評価機構 評価実施委員		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 生物制御科学研究室	職名 助教	氏名 武田 尚
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2019年4月～現在	Webclassシステムを活用し、講義内容の動画作製や資料の事前配布を行った。知識の定着をはかるため、毎回復習小テストを実施した。
2 作成した教科書、教材、参考書		2019年4月～現在	創薬科学科実習Iを行うためのテキスト、参考書、参考動画を作製した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Production of Ergot Alkaloids by the Japanese Isolate <i>Claviceps purpurea</i> var. <i>agropyri</i> on Rice Medium.	共著	2022年1月	Advances in Microbiology ;12:254-269
(論文) Secalonic Acid and Benzoic Acid Analogues Exhibiting Cyto toxicity against Cancer Cells Isolated from <i>Claviceps yanagawaensis</i> .	共著	2022年1月	Advances in Microbiology ;12:254-269
(論文) Effect of Crude Drug Extracts on Trypacidin Production in <i>Aspergillus fumigatus</i> .	共著	2022年3月	Advances in Microbiology ;12, 541-554.
(論文) Identification of a multi-component berberine 11-hydroxylase from <i>Burkholderia</i> sp. strain CJ1	共著	2020年3月	Biosci. Biotech. Biochem. ;84:1274-1284
(論文) Characterization of <i>Burkholderia</i> sp. strain CJ1, a newly isolated berberine-degrading bacterium from rhizosphere of <i>Coptis</i>	共著	2022年1月	Biosci. Biotech. Biochem. ;84(9):1-4.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
なし			

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 生物制御科学研究室	職名 助教	氏名 堀内 正子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2020年～現在	Zoomを利用した卒論ディスカッション、Googleドライブを利用した、レポート提出等により、コロナ禍や実務実習中の学生にも対応する工夫をした。
2 作成した教科書、教材、参考書		2018年	「学校薬剤師」、「スポーツファーマシスト」に関する卒論用資料教材を作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2012年～現在	「くすりの飲み方」、「喫煙・飲酒薬物乱用防止」について、地域貢献の一環で学校薬剤師として品川区の小学校・中学校で実験を導入した授業を行った。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2023年5月 2010年～現在 2012年～現在	学内FD講演会に参加した。 アドバンス特別講義、ならびに卒業生を含む薬剤師向けのための講座に関する企画運営、ならびに動画コンテンツの作成を行った。 卒論生に対して、学校薬剤師に関する実施研修指導を、区内小学校・中学校で実施した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Survey of pregnant/postpartum women's ease of consultation with pharmacists and self-reporting their pregnant/postpartum status	共著	2022年4月	Journal of the Pharmaceutical Communication Society of Japan
Quest for a potent antimalarial drug lead: Synthesis and evaluation of 6,7-dimethoxyquinazoline-2,4-diamines.	共著	2021年3月	Bioorganic & medicinal chemistry
体育系大学生を対象としたサプリメント摂取およびアンチ・ドーピングに対する意識調査	共著	2021年12月	医療薬学
体育系大学生を対象とした薬剤師の職能向上に関する調査研究~アンチ・ドーピングの意識向上に向けて	共著	2021年1月	社会薬学
In vitro and in vivo characterization of anti-malarial acylphenoxazine derivatives prepared from basic blue 3	共著	2019年	Malaria Journal
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
保健室の常備薬と児童の持参薬に関する実態と課題への検討 ~東京都の小学校5校へのインタビュー~		2023年3月	日本薬学会
小学生を対象としたアクティブ薬育 ~実験「薬をジュースで飲んでも良いか?」の適切な条件の検討について~		2023年3月	日本薬学会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2023年4月～現在	東京都薬物乱用指導委員 啓発活動(品川地区 年10回前後)		
2018年～現在	認定薬剤師認証研修機関協議会 研修委員(年に1~2回の講座を企画運営)		
2013年～現在	スポーツファーマシストとしてドーピング防止啓発活動		
2012年～現在	東京都品川区学校薬剤師として、教室環境検査など(年に約12回)		
2020~2021	薬剤師認定制度認証機構 記念誌編集委員(12回程度)		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧				
大学名	講座名	生物制御科学研究室	職名	氏名 若菜 大悟
I 教育活動				
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2019年4月～	Zoomのアンケート機能を活用し講義への能動的な参加を促した。Webclassにより講義資料を配布した。	
2 作成した教科書、教材、参考書		2021年6月	「創薬系実習I」 実習用の教材を作製した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			学内FD講演会に参加した	
II 研究活動				
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	
(論文) Effect of Crude Drug Extracts on Trypacidin Production in <i>Aspergillus fumigatus</i>	共著	2022年9月	Advances in Microbiology 12: 541-545	
(論文) Production of Ergot Alkaloids by the Japanese Isolate <i>Claviceps purpurea</i> var. <i>agropyri</i> on Rice Medium	共著	2022年4月	Advances in Microbiology 12: 254-269	
(論文) Identification of a multi-component berberine 11-hydroxylase from <i>Burkholderia</i> sp. strain CJ1	共著	2020年6月	Biosci. Biotechnol. Biochem. 84: 1274-1284	
(論文) Production of an emericellin and its analogues as fungal biological responses for Shimbu-to extract	共著	2018年1月	J. Nat. Med. 72: 357-363	
(論文) Effect of Shakuyaku-kanzo-to and other crude drug components of Kampo medicines on sterigmatocystin production by <i>Emericella nidulans</i>	共著	2018年1月	JSM Mycotoxins 68: 19-25	
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名	
(演題名) 菌類による生薬成分の変化に関する検討		2022年8月	日本薬学会レギュラトリーサイエンス部会	
(演題名) <i>Mollisia</i> sp. FC-1873 株が産生するイソクマリン類の細胞分裂促進作用		2022年9月	日本薬学会関東支部	
(演題名) コオロギパウダーの菌類培養用培地としての可能性		2023年3月	日本薬学会	
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)				
		なし		
...				
...				

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 物理学研究室	職名 教授	氏名 中川 弘一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2019年4月～現在	「物理学」講義では、WebClassシステムを活用し、資料の事前配布を行った。さらに、WebClassシステムを用いて、知識の定着をはかるための小テストを実施した。 「実用数学A・B」では、WebClassシステムを活用し、資料の事前配布を行い、事前の確認小テストを実施した。 「素粒子と放射線医療」講義では、WebClassシステムを活用し、資料の事前配布を行った。講義後の知識定着をはかるため、記述式の課題レポート提出を実施した。 また、各教科において、授業評価アンケートを踏まえ、講義内容の改善を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書		2019年4月～現在	「物理学」講義では、「物理学講義ノート1～14」「課題1～13」「課題1～13解答・解説」 「実用数学A・B」講義では、「思い出しておこう重要ポイント1～9」「課題1～9」「課題1～9解答・解説」 「素粒子と放射線医療」講義では、「素粒子と放射線医療講義資料1～14」「課題1～9」「課題1～9解答・解説」
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2021年3月28日	日本薬学会141回年会において、題目「4年制薬学教育における「学外体験学習（長期インターンシップ）」による社会人基礎力養成の試み」で共同発表
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2022年8月30日 2022年12月 2023年3月16日	2022年度星薬科大学FD講演会参加 6年制薬学教育の内部質保証に関するシンポジウム（薬学教育評価機構主催）動画視聴 第4回創薬科学科主催教育研究セミナー参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(著書) 薬学系学生のための 微分積分	共著	2021年3月	共立出版
(論文) 熱場ダイナミクスにおける拡張された量子距離について	単著	2021年	素粒子論研究・電子版
(論文) de Sitter 空間における Rindler ウェッジ間のエンタングルメント	単著	2020年	星薬科大学一般教育論集
(論文) Dp-ブレーン上のボソンの開弦の量子エンタングルメントについて	単著	2019年	星薬科大学一般教育論集
(論文) Study on the Entanglement of Non-Equilibrium Finite-Spin Systems Based on Thermo-Field Dynamics	単著	2018年	Hoshi Journal of General Education
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
(演題名) 4年制薬学教育における「学外体験学習（長期インターンシップ）」による社会人基礎力養成の試み		2021年3月	日本薬学会141回年会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
なし			

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	星薬科大学	講座名	英語教育学研究室
職名	准教授	氏名	吉澤(渡邊) 小百合
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2019年4月～現在	Webclassシステムを活用して資料の配布を行ったり、メールやZoomで質問に対応した。知識の定着をはかるため、適宜小テストを実施した。授業評価アンケートをふまえて講義内容を改善した。
2	作成した教科書、教材、参考書	2019年1月20日 2021年2月12日	コアカリに基づいた薬学英語の教材を作成した。病院薬剤部や薬局で有用な英語会話の教材を作成した。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2021年3月	日本薬学会年会において本学の学外体験学習についての発表を共同で行った。
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2019年～現在	創薬科学科の長期学外体験学習の企画や運営者の一人として学生の指導にあたり、インターシップ先の企業を訪問して様々な対応を行った。英語と教養科目のシラバスチェックを担当し英語と教養科目のシラバスチェックを担当した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) English for Student Pharmacists [薬学生のための英語2]	共著	2019年1月	成美堂
(著書) English Conversation for Student Pharmacists [薬学生のための英語会話]	共著	2021年2月	東京化学同人
(論文) The increasing importance of English proficiency for pharmacy school graduates in Japan	共著	2019年12月	Hoshi Journal of General Education, 37
(論文) The increasing importance of English proficiency for pharmacy school graduates in Japan	共著	2020年12月	Hoshi Journal of General Education, 38
(論文) 日本における特定の才能を見出すための取り組みや教育支援についての一考察	単著	2021年12月	星薬科大学一般教育論集, 39
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 4年制薬学教育における「学外体験学習(長期インターシップ)」による社会人基礎力養成の試み		2021年3月	日本薬学会141回年会
(演題名) 社会・経済のグローバル化における英語教育-英作文評価手法の提案		2018年10月	社会・経済システム学会第37回大会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2008年4月～現在	IEEE Professional Communication Society(米国) 会員		
2008年4月～現在	大学英語教育学会, 日本医学英語教育学会, 日本教材学会, 人工知能学会, 日本認知科学会, 日本薬学英語研究会, 日本英語教育学会 会員		
...			
...			

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 法学研究室	職名 准教授	氏名 山本 弘
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2019年4月～現在	社会と薬学との連結のため、ほとんどすべての担当科目で薬学や医療、ヘルスケアに関する時事問題を新聞記事を用いて講義した。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) 薬学と社会—薬事関連法・制度—〔改訂第2版〕	共著	2022年3月	南江堂
(論文等) 2019年の歴史学界—回顧と展望— 日本 中世：院政・鎌倉期の政治・法制	単著	2020年5月	史学雑誌 129(5)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
4年制薬学教育における「学外体験学習(長期インターンシップ)」による社会人基礎力養成の試み		2021年3月	日本薬学会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2011年4月～現在	薬剤師国家試験問題検討委員会(一般社団法人 日本私立薬科大学協会)		
2011年4月～現在	薬学と社会教科担当教員会議(一般社団法人 薬学教育協議会)		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 情報科学研究室	職名 講師	氏名 香川博隆
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		～現在	出席率が上がるよう授業形態を工夫した。
2 作成した教科書、教材、参考書		～現在	ほとんどの担当科目について、テキストを自作した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		薬学会2021年会	学外体験学習について
4 その他教育活動上特記すべき事項		～現在	おおむね学内FD講演会に参加した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Mechanical Analysis on the Characteristic π Electron Distribution in Penta- and Heptafulvenes	共著	2021年	星薬科大学一般教育論集 9-27
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 4年制薬学教育における「学外体験学習(長期インターンシップ)」による社会人基礎力養成の試み		2021年3月	日本薬学会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	星薬科大学	講座名	英語研究室
職名	準教授	氏名	島崎 治子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2021年4月～現在	Webclassシステムを活用し、参考資料の配布と確認小テストの定期的な実施を行なった。授業評価アンケートを踏まえ、学生間の自由英語対話を増やす等、講義内容の改善を図った。
2	作成した教科書、教材、参考書	2021年4月～現在	「アカデミック・ライティング」の授業では、各回毎の受講学生の学術的関心と英語運用能力に応じた独自教材を作成した。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2022/8/10	第13回教科開発学研究会（於静岡大学）において、教育学研究科大学院生を対象に、薬学生の薬学英語の語彙知識育成のための教育実践について発表を行なった。
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		特になし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(著書)「英語1スピーキング」	共著	2020年3月	岐阜大学教育推進・学生支援機構 English Center
(著書)「英語2リスニング」	共著	2020年3月	岐阜大学教育推進・学生支援機構 English Center
(著書)「英語3リーディング」	共著	2020年3月	岐阜大学教育推進・学生支援機構 English Center
(著書)「英語4ライティング」	共著	2020年3月	岐阜大学教育推進・学生支援機構 English Center
(論文) SRA教材が英語読解力に与える効果の検証.	単著	2020年12月	岐阜大学教育推進学生支援機構年報, 6, 53-64.
(論文) イングリッシュ・センター教員による遠隔英語授業.	単著	2022年2月	岐阜大学教育推進学生支援機構年報, 7, 67-78.
(論文) 薬学生の英語語彙知識の調査.	共著	2022年8月	教科開発学研究会発表論文集 13, 12-17.
(論文) Japanese Pharmacy Students' Knowledge of EMP Vocabulary: An Analysis of Its Breadth, Characteristics, and Difficulty Order.	共著	2023年3月	教科開発学論集, 11, 43-52.
(論文) Verification of the Effectiveness of Collaborative L2 Reading Comprehension by Japanese Pharmacy Students.	共著	2023年6月	Modern Journal of Studies in English Language Teaching and Literature, 5(1), 122-143.
(論文) Japanese Pharmacy Students' Perceptions of Collaborative Reading.	単著	2023年10月	Journal of Medical English Education, 22(3). In Press.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
(演題名) 全学共通教育英語プログラムにおける統一カリキュラムの功罪		2019年6月	中部地区英語教育学会
(演題名) インタラクティブな遠隔英語授業に必要な要素とは		2021年3月	JACET中部支部
(演題名) SRA教材が英文読解と制限時間内読書に与える効果の検証		2021年3月	日本第二言語習得学会
(演題名) Japanese pharmacy students' EMP knowledge and skills: An interim report		2022年7月	日本医学英語教育学会
(演題名) 薬学生の英語語彙知識の調査		2022年8月	教科開発学研究会
(演題名) An Investigation of Japanese Pharmacy Students' L2 Collaborative Reading Comprehension.		2023年3月	Hawaii International Conference on English Language and Literature Studies (ハワイ国際英語英文学会)
(演題名) Japanese Pharmacy Students' Perceptions of Collaborative Reading.		2023年7月	日本医学英語教育学会
(演題名) The Investigation of the Processes How L2 Learners Read Collaboratively.		2023年8月	全国英語教育学会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2019年4月～現在に至る	実用英語技能検定二次試験面接委員		
2019年4月～現在に至る	TEAP面接委員 (Test of English for Academic Purposes)		
2022年4月～現在に至る	日本医学英語教育学会員		
2023年5月～現在に至る	Modern Journal of Studies in English Language Teaching and Literature Peer Review Board (査読委員)		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 機器分析学研究室	職名 准教授	氏名 廣瀬 農
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2020年4月～ 現在	各種アプリケーションを活用し、コロナ禍でも継続可能なオンライン/ハイブリッド講義を実践。学生が孤独感を抱かないよう、質問・アンケートはオンラインツールで可視化・共有している。また、ピアレビューを組み込んだオンデマンド・アクティブラーニングも実施している。
2 作成した教科書、教材、参考書		2020年4月～ 現在	「基礎分析化学」「臨床分析の基礎と応用」「分子イメージング」「放射線応用学」等において、計算機シミュレーションや、機器測定の様子を撮影した動画等の独自作成素材を含む、講義用の教材を作成・配布。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2020年4月～ 2022年3月 2023年4月～	コロナ禍に対応するためのオンライン講義システム立ち上げに参画した。また、このシステムを機能させるため、ヘルプデスクの一員として活動した。 教科担当教員会議の新コアカリ対応実習事例収集に参画。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Starch-dependent sodium accumulation in the leaves of <i>Vigna riukiensis</i>	共著	2023年5月	Journal of Plant Research 136(5) 705-714
(論文) Visualization of phosphorus re-translocation and phosphate transporter expression profiles in a shortened annual cycle system of poplar	共著	2022年3月	Plant, Cell & Environment 45(6) 1749-1764
(論文) Diversity of Na ⁺ allocation in salt-tolerant species of the genus <i>Vigna</i>	共著	2022年8月	Breeding Science 72(4) 326-331
(論文) Annual Reduction of Transfer Factor of Radiocesium from Soil to Rice Cultivated in a KCl Fertilized Paddy Field from 2015 to 2019	共著	2021年2月	RADIOISOTOPES 70(2) 63-72
(論文) Radiocesium transfer rates among pigs fed haylage contaminated with low levels of cesium at two differentiation stages.	共著	2020年9月	PLoS one 15(9) e0237977
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 32P及び33Pを用いた樹木の季節的なリン転流経路の可視化		2022年7月	アイソトープ・放射線研究発表会
(演題名) 植物体内イオンの可視化に向けたRIイメージング装置の開発		2020年2月	応用物理学会春期学術講演会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2019年4月～現在	日本アイソトープ協会		
2019年4月～現在	日本土壌肥料学会		
2021年10月～現在	日本薬学会		
2022年4月～現在	放射薬学教科担当教員会議(2023年度世話人)		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	星薬科大学	講座名	分子生物学研究室
職名	教授	氏名	千葉義彦
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2019年4月～現在	Webclassシステムを活用し、資料の事前配布を行った。授業評価アンケートを踏まえ、講義内容の改善を行った。
2	作成した教科書、教材、参考書	2019年4月～現在	教科書「詳解・薬理学」「医療統計学」等、講義資料「薬物治療学III」「薬物治療学IV」「バイオスタティスティクス」等の作成を行った。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2023年5月17日	学内FD講演会に参加した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) クエスチョン・バンク薬剤師	共著	2023年6月	株式会社メディックメディア
(論文) A lncRNA MALAT1 is a positive regulator of RhoA protein expression in bronchial smooth muscle cells.	共著	2023年	Life Sci. 2023;313:121289.
(論文) Hyperresponsiveness to Extracellular Acidification-Mediated Contraction in Isolated Bronchial Smooth Muscles of Murine Experimental Asthma.	共著	2022年	Lung. 2022;200:591-599.
(論文) Down-regulation of miR-140-3p is a cause of up-regulation of RhoA protein in bronchial smooth muscle of murine experimental asthma.	共著	2021年	Am J Respir Cell Mol Biol. 64, 138-140, 2021.
(論文) Attenuation of Relaxing Response Induced by Pituitary Adenylate Cyclase-Activating Polypeptide in Bronchial Smooth Muscle of Experimental Asthma.	共著	2020年	Am J Physiol Lung Cell Mol Physiol. 319, L786-L793, 2020.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 低酸素暴露気管支平滑筋細胞におけるleptin産生の亢進		2023年8月	日本平滑筋学会
(演題名) Effects of dexamethasone on nasal allergic response and hyperresponsiveness induced by Japanese cedar pollen in mice		2022年12月	日本薬理学会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
1996年4月～現在	日本薬理学会学術評議員		
2012年1月～現在	American Physiological Society, Editorial Board of Am. J. Physiol. Lung Cell. Mol. Physiol.		
2018年1月～現在	Editorial Board of Int. J. Mol. Sci.		
2022年4月～現在	日本薬学会第144年会組織委員、会場運営委員会委員長		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	星薬科大学	講座名	心理学研究室
		職名	准教授
		氏名	川崎勝義
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2014年10月～現在 2014年10月～現在 2020年 4月～現在	橋本メソッドを「心の科学」授業に応用したアクティブラーニング授業を開発 「3歳児神話」について、3人ごとのグループで「分析」「証拠固め」「意見づくり」を行い、最終授業で賛否について討論するアクティブラーニング授業を開発 心理学近隣分野の論文の序を学生が各自取りあげ、この論理構造を分析して説明を発表するアクティブラーニング授業を開発
2	作成した教科書、教材、参考書	2019年6月	教育心理学をきわめる10のチカラ[改訂版] 第7章「的確な評価のできるチカラ」執筆
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2023年3月14日	星薬科大学創薬科学科のFD活動の一環として行われた第4回 創薬科学科主催 教育研究セミナーにて「星薬科大学におけるアクティブラーニングの必要性と実際」と題する講演を行った。
4	その他教育活動上特記すべき事項	2022年3月 2022年8月	FD講演会を企画及び参加 FD講演会を企画及び参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) 動物心理学入門	共著	2023年7月	有斐閣
(著書) 教育心理学をきわめる10のチカラ[改訂版] (第7章「的確な評価のできるチカラ」)	共著	2019年6月	福村出版
(論文) 絵本画像視聴時における幼児の視線一キャラブレーションフリー視線計測装置を用いた測定—川崎勝義, 伊田菜々花, 永田道子, 小山高正 星薬科大学一般教育論集 40 1-14 星薬科大学 (査読あり)	共著	2022年12月	星薬科大学一般教育論集
(論文) 対比効果と扁桃体	単著	2019年12月	星薬科大学一般教育論集
(論文) 完了行動における負の対比効果とラット扁桃体の役割	単著	2019年10月	筑波大学学位(博士)論文
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Effects of inter-component interval on anticipatory contrasts in instrumental behavior in rats		2023年10月	日本動物心理学会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2012年～現在	小中学校 薬物乱暴防止授業「薬は薬らしくあなたはなたらしく」実施		
2013年4月～現在	日本心理学会代議員		
2021年11月	公認心理師(国家資格)取得		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	星薬科大学	講座名	合成化学研究室
職名	准教授	氏名	山内 貴靖
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2020年4月～現在	Webclassシステムを活用して補足資料の事前配布を行った。知識の定着を図るため確認小テストを実施した。授業評価アンケートを踏まえて講義内容を改善した。
2	作成した教科書、教材、参考書	2020年5月	創薬化学及び医薬品製造学の資料を作成した。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2020年3月	日本薬学会第140年会にて「薬学専門教育における反転授業導入のための予備的調査」という演題にて発表を行った。
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2021年4月 2016年4月～ 2019年3月	FD委員として学内FD活動を行った。 カリキュラム検討委員として5, 6年生のアドバンス講義の構築を行った。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Synthesis, In Silico Study, Antibacterial and Antifungal Activities of N-phenylbenzamides	共著	2023年2月	Int. J. Mol. Sci. 2023, 24, 2745.
Possible mechanism for improving the endogenous immune system through the blockade of peripheral ν -opioid receptors by treatment with naldemedine	共著	2022年8月	Br. J. Cancer, 127, 2022, 1565-1574.
Further investigation of the rapid-onset and short-duration action of the G protein-biased μ -ligand oliceridine	共著	2021年1月	Biochem. Biophys. Res. Commun. 534, 2021, 988-994.
Transition Metal-free Cycloaddition of N-Boc-N-propargylenamines	共著	2020年5月	Heterocycles, 100(5), 2020, 719-746.
Transition-Metal-Free Synthesis of Pyridine Derivatives by Thermal Cyclization of N-Propargyl Enamines	共著	2020年4月	Synthesis, 52, 2020, 1113-1121.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Developing new reactions toward green chemistry in pharmaceutical science		2018年8月	IGSCPS 2018
微生物変換による代謝経路の解明を目指したベンジルイソキノリンの		2023年3月	日本薬学会第143年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2007年4月～現在	星薬科大学生生活協同組合理事		
2018年4月～現在	星薬科大学同窓会役員		
2018年4月～現在	星薬科大学同窓会企画委員		
1991年3月～現在	日本薬学会会員		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	星薬科大学	講座名	植物学研究室
		職名	准教授
		氏名	須藤 浩
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2019年4月～	Webclassシステムを活用し、講義資料の事前配布を行った。また、同システムを利用して、定期試験前には模擬試験を実施した。作成にあたっては、授業評価結果の反映に努めた。
2	作成した教科書、教材、参考書	2019年4月～	生薬を勉強しやすくするための教材データを作成すると共に刻み生薬を配布し、各学生に「生薬単語帳」を作成させた。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2020年3月	日本薬学会において、「薬学専門教育における反転学習導入のための予備的調査」のタイトルで、本学における反転学習に関する取り組みについて紹介した。
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2022, 12, 21	FD講演会に参加した(講演動画視聴)。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Spatial metabolomics using imaging mass spectrometry to identify the localization of asparaptine A in <i>Asparagus officinalis</i> .	共著	2021年/9月	Plant biotechnology (Tokyo, Japan) 38(3) 311-315
(論文) Allylic Hydroxylation Activity Is a Source of Saponin Chemodiversity in the Genus <i>Glycyrrhiza</i>	共著	2021年/5月	Plant and Cell Physiology 62(2) 262-271
(論文) Metabolomics with 15N Labeling for Characterizing Missing Monoterpene Indole Alkaloids in Plants	共著	2020年/4月	Toxicol Sci. 45(2) 337-47.
(論文) Reducing the sulfur-containing metabolite asparaptine in <i>Asparagus calluses</i> and a suspension cell line	共著	2019年/12月	Analytical Chemistry 92(8) 5670-5675
(論文) Molecular Basis of C-30 Product Regioselectivity of Legume Oxidases Involved in High-Value Triterpenoid Biosynthesis	共著	2019年/11月	Plant Biotechnology 36(4) 265-267
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) カンゾウ植物でのグリチルリチン生産性を決める分子の根拠		2021年9月	イソプレノイド研究会例会
(演題名) β -アミリン11-オキシダーゼ活性の進化は <i>Glycyrrhiza</i> 種におけるサポニンの化学多様性の基礎をなす		2020年4月	日本農芸化学会大会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2018年4月～現在	CBT問題管理委員会委員		
2011年4月～現在	品川区共催「薬草見学会」の企画運営		

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 星薬科大学	講座名 運動科学研究室	職名 准教授	氏名 竹ノ谷 文子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2019年4月～現在	講義用の資料配布を行った。授業アンケートの評価を見直し講義内容を改善した。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2021年12月	シラバス検討委員会の依頼によりシラバスチェックを行った。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書) アロマセラピー標準テキスト 基礎・実技編	共著	2022年8月	丸善出版
(論文) Towards identification of bioactive compounds in cold vacuum extracted double cherry blossom (Gosen-Sakura) leaves. Plant Signal Behav.	共著	2019年7月	Plant Signal Behav. 14(10):e1644594.
(論文) Effect of PACAP on sweat secretion by immortalized human sweat gland cells.	共著	2021年12月	Peptides. 146:170647.
(論文) Molecular Mechanism for PACAP 38-Induced Neurite Outgrowth in PC12 Cells.	共著	2021年8月	Neural Plast. 7:2021:2522454.
(論文) Molecular and Physiological Functions of PACAP in Sweat Secretion.	共著	2023年2月	Int J Mol Sci. 26;24(5):4572.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 精油暴露による動物とヒトへの生理作用 ～アロマセラピーと運動を併用した新規運動療法を目指して～		2022年3月	日本薬学会学会
(演題名) スポーツアロマセラピーの現状と今後の課題 スポーツアロマの発展を目指して		2022年12月	日本アロマセラピー学会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2023年6月～現在	日本アロマセラピー学会 副理事長		
2018年6月～現在	日本アロマセラピー学会常任 理事		
2018年6月～2020年5月	日本アロマセラピー学会 監事		
2015年4月～現在	日本糖尿病・肥満動物学会 評議員		

(基礎資料10) 学生の健康管理

表1. 評価対象年度の定期健康診断受診率 (2023年6月20日現在)

学年	在学者数	受診者数	受診率 (%)
1年	302	298	98.7%
2年	327	325	99.4%
3年	288	282	97.9%
4年	284	280	98.6%
5年	287	285	99.3%
6年	297	295	99.3%

表2. 評価対象年度の5年生の実務実習前の抗体検査の実施状況

検査対象抗体	抗体価が十分高かった学生数 (2023年12月現在5年生)	抗体価が不十分なためワクチン 接種をした学生数 ¹⁾
風疹	197	
麻疹	74	
水痘	269	
ムンプス	163	
B型肝炎	108	

[注] 1) 4年次12月末までに、ワクチン接種した学生数(確認できた人数)を記入してください。確認できない場合は、左欄のみ記入してください。

(基礎資料11-1) 薬学科の教育に使用する施設の状況

施設 ¹⁾	座席数	室数	収容人員合計	備考
大講義室	201~	1	336	可動機、無線LAN設備
中講義室	101~200	11	1870	可動機、無線LAN設備
小講義室	~100	7	499	可動機、無線LAN設備
演習室	20~30	18	454	可動機
パソコン室	84, 88	2	172	CBTにも使用
モデル薬局	3	3		
調剤実習室、無菌製剤室、注射室	3	3		
臨床実習室	7	7		
医療薬学実習室	2	2		
一般実習室	6	6		
学生自習室	30~90	4	141	薬学科6年生と創薬科学科4年生が利用
自習室等 ³⁾				
薬用植物園	<p>※以下の概要を任意の様式で記載してください。</p> <p>① 設置場所：(薬学部キャンパス内)</p> <p>② 施設の構成と規模：約3000㎡の広さがあり、樹木園、水生植物園、標本園、野草園、温室などに区分けされ、栽培している植物種の数：薬用を中心とした有用植物約800種が栽培している。</p> <p>③ 栽培している植物種：よく知られた民間薬や漢方薬、あるいは医薬品の原料となる重要な植物が見学できます。なかには有毒植物や染料、繊維、油糧、食用などに供する植物も栽培されています。温室内には熱帯産の薬用植物が集められていますが、時にはスパイス原料やトロピカルフルーツをつけた植物を目にするものもあり、これらの植物にはいすれもラベルがつけられており、植物名や薬効、成分などが紹介されています。</p>			

- [注] 1) 総合大学では薬学部の教育で使用している講義室、演習室、実習室などを対象にしてください。
- 2) 講義室・演習室には収容人数による適当な区分を、例示を参考に設けて、同じ区分での座席数の範囲を示してください。また、固定席が可変席か、その他特記すべき施設なども、例示を参考にして備考欄に記入してください。コンピュータ演習室の座席数は学生が使用する端末数としてください(教卓にあるものを除く)。
- 3) 学生が自習などの目的で自由に利用できる開放スペースがあれば記載してください。

(基礎資料11-2) 卒業研究などに使用する施設

表 1. 講座・研究室の施設

施設名 ^{1),2)}	面積 ³⁾	収容人員 ⁴⁾	室数 ⁵⁾	備 考
教員個室 (教授室大)	39.65m ²	1人	1	
教員個室 (教授室中)	21.60~ 26.83m ²	1人	18	
教員個室 (教授室小)	~15.60m ²	1人	3	個室は原則教授・准教授のみ、講師以下は原則研究室・スタッフ室にデスクがある。
教員個室 (准教授室大)	29.38m ²	1人	1	
教員個室 (准教授室中)	21.60m ²	1人	2	
教員個室 (准教授室小)	~11.25m ²	1人	13	
実験室・研究室 (大)	101~m ²	人	6	4研究室共用
実験室・研究室 (中)	51~100m ²	人	19	
実験室・研究室 (小)	~50m ²	人	100	4研究室共用
セミナー室	44.64m ²	30人	18	
共用機器室 (大)	96.00m ²	人	1	
共用機器室 (中)	37.05m ²	人	1	
共用機器室 (小)	24.00m ² ~	人	5	

1) 単独の講座・研究室などが占有する卒業研究で使用する学生用研究室は、(基礎資料11-1)と重複してかまいません。

2) 複数の講座・研究室が(隣接する2~3講座で共用)占有する施設があれば、記載してください。

3) 実験室・研究室に広さが異なるものがある場合は、「大・小」、「大・中・小」のように大きめに区分してください。

4) 同じ区分の部屋で面積に若干の違いがある場合、面積には平均値を記入してください。

5) 1室当たりの収容人数を記入してください。同じ区分の部屋で若干の違いがある場合は平均値を記入してください。

6) 薬学科の卒業研究を担当する講座・研究室が占有する部屋の合計数を記入してください。(ひとつの講座・研究室当たりの数ではありません。)

表 2. 学部で共用する実験施設

施設の区分 ^{1),2)}	室数	施設の内容
共同利用施設	12	生体分子解析室、液体クロマトグラフィ質量分析室、粉末X線回折室、核磁気共鳴室、ガスクロマトグラフ、質量分析室、X線構造解析装置、実験室(熱分析装置、共焦点レーザー走査型顕微鏡)
実験動物施設	17	マウス飼育室(9室)、ラット飼育室(9室)、小型サル飼育室(1室)、フェレット飼育室(1室)、モルモット飼育室(1室)、ウサギ飼育室(1室)、P2室(1室)

1) 例示のように、大まかな用途による区分を設け、各区分に含まれる室数と施設の内容を例示のように列記してください。(面積などは不要です。)

2) 例示以外の実験施設(例えば、培養室など)があれば追加してください。

(基礎資料12) 学生閲覧室等の規模

図書室(館)の名称	学生閲覧室 座席数(A)	学生収容 定員数(B) ¹⁾	収容定員に対する 座席数の割合(%) $A/B * 100$	その他の 自習室の名称	その他の 自習室の座席数	その他の 自習室の整備状況 ²⁾	備考 ³⁾
図書館	214	1,707	12.5%	ラーニングコモモンズ	130	情報端末: 16	学部: 1,640 大学院: 67
計							

1) 「学生収容定員数(B)」欄には、当該施設を利用している全ての学部・大学院学生等を合計した学生収容定員数を記入してください。

2) 「その他の自習室の整備状況」欄には、情報処理端末をいくつ設置しているかを記入してください。

3) 「備考」欄には、「学生収容定員(B)」の内訳を、学部・大学院等ごとに記入してください。

4) 例示の中央図書館は、薬学部の利用がなければ(キャンパスが異なるなど)、右の欄を空欄にしてください。

(基礎資料13) 図書、資料の所蔵数および受け入れ状況

図書館の名称	図書の冊数		定期刊行物の種類		視聴覚資料の 所蔵数 (点数) ²⁾	電子ジャー ナルのタイ トル数 ³⁾	過去3年間の図書受け入れ状況			備 考
	図書の全冊数	開架図書の 冊数(内) ¹⁾	内国書	外国書			2020年度	2021年度	2022年度	
図書館	131,528	72,463	712	632	307	3,265	1,108	1,030	1,302	
計	131,528	72,463	712	632	307	3,265	1,108	1,030	1,302	

[注] 雑誌等ですでに製本済みのものは図書の冊数に加えても結構です。

- 1) 開架図書の冊数(内)は、図書の全冊数のうち何冊かを記入してください。
- 2) 視聴覚資料には、マイクロフィルム、マイクロフィッシュ、カセットテープ、ビデオテープ、CD・LD・DVD、スライド、映画フィルム、CD-ROM等を含め、所蔵数については、タイトル数を記入してください。
- 3) 電子ジャーナルが中央図書館で集中管理されている場合は、中央図書館にのみ数値を記入し、備考欄にその旨を注記してください。